財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第380集

下原遺跡 II

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第12集

2007

国　土　交　通　省
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第389集

下 原 遺 跡 II

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第12集

2007

国　土　交　通　省
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

下原遺跡　遠景（東側上空から撮影。吾妻川を挟んで、対岸が横壁中村遺跡）

下原遺跡　天明泥流畑全景（Ⅰ面の東側部分、上が西）

下原遺跡　天明泥流畑全景（Ⅰ面の西側部分、上が西）

下原遺跡　近世～中世畑全景（Ⅱ面、上が東）

序

この工事に関連した埋蔵文化財の発掘調査は、八ッ場ダム水源地域対策事務所の委託を受けた財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が担当し、平成15年及び16年に実施されました。その結果、天明三年（1783）の泥流により埋没した畑などの遺構をはじめとして、縄文時代から中・近世にかけての資料が検出されました。

特徴的な遺構・遺物としては、長野原町内でも比較的古い段階である弥生時代の土器が上げられます。また、長野原町内で２例目である古墳時代の竪穴住居は、周辺から出土する石製模造品である臼玉の存在と共に、巨石祭祀のあり方を考える上で重要な資料でもあります。平安時代では多数の灰釉陶器と共に、墨書土器も出土しており、当時のこの地域の特殊性を考える上で重要でもあります。

この埋蔵文化財の発掘調査の成果が出版される機会に、これまでお世話になった国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会文化課、長野原町教育委員会には深甚の謝意を表し、本報告書の出版が地域の歴史理解の一助になることを願い報告書の序といたします。

平成19年３月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長　高橋　勇夫

例　言

1．本書は2003・2004(平成15・16）年度の八ッ場ダム建設工事に伴う下原（しもはら）遺跡の発掘調査報告書である。

2．下原遺跡での今回の発掘調査の範囲は、群馬県吾妻郡長野原町大字林字下原甲612番地他である。（ぐんまけん・あがつまぐん・ながのはらまち・おおあざはやし・あざしもはら：Ｓｈｉｍｏｈａｒａ，Ｈａｙａｓｈｉ，Ｎａｇａｎｏｈａｒａ-ｍａｃｈｉ，Ａｇａｔｓｕｍａ-ｇｕｎ，Ｇｕｎｍａ-ｋｅｎ）
本遺跡の名称は、『長野原町の遺跡－町内詳細分布調査報告書－』長野原町教育委員会1990　に基づく。

3．発掘調査は、国土交通省関東地方整備局からの委託により、財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。本遺跡の発掘調査時の組織体制は次の通りである。

期　　間　2003（平成15）年９月１日～12月31日、2004（平成16）年４月１日～年10月31日
管理・指導　理事長小野字三郎、住谷永市、神保侑史、萩原利通、矢崎俊夫、水田　稔、巾　隆之、佐藤明人
事務担当　植原恒夫、丸岡道雄、竹内　宏、高橋房雄、須田朋子、吉田有光、野口富太郎、富澤よねこ、栗原幸代、矢崎知恵子、佐藤聖行、阿久澤玄洋、田中賢一、今井もと子、内山佳子、若田　誠、佐藤美佐子、本岡久美子、北原かおり、狩野真子
調査担当　麻生敏隆、杉山秀宏、石川雅俊、佐藤亨彦、山川剛史

4．発掘資料の整理および報告書の作成は、国土交通省関東地方整備局からの委託により、財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理・報告書の作成期間・体制は次の通りである。

期　　間　2004(平成16)年９月１日～2005(平成17)年３月31日、2006(平成18)年１月１日～３月31日
管理・指導　理事長小野字三郎(平成16)、理事長高橋勇夫(平成17)、住谷永市、木村裕紀、神保侑史、津金沢吉茂、矢崎俊夫、巾　隆之、佐藤明人
事務担当　高橋房雄、竹内　宏、今泉大作、須田朋子、吉田有光、野口富太郎、富澤よねこ、栗原幸代、佐藤聖行、阿久澤玄洋、今井もと子、内山佳子、若田　誠、佐藤美佐子、本岡久美子、北原かおり、狩野真子
編　　集　麻生敏隆
本文執筆　関　俊明（第２章第２節、第４章第１節）、神谷佳明（第４章第４節・遺物観察表）、５章－委託（文頭に表記）以外、麻生敏隆
遺構写真　麻生敏隆、杉山秀宏、石川雅俊、佐藤亨彦、山川剛史
遺物写真　佐藤元彦
遺物観察　麻生敏隆、大西雅広、神谷佳明、高島英之　保存処理　関　邦一、土橋まり子、小材浩一、森田智子、津久井桂一
資料整理　片所アサ子、川津えみ子、篠原信子、篠原みつ子、篠原了子、野口幸子、樋田すみ子、丸山里美、安ヵ川京美、山本冨美枝
委託測量　株式会社　測研
分　　析　第５章の各節本文頭に記載

5．石材同定にあたっては飯島静男氏（群馬地質研究会）にご教示を得た。

6．出土遺物および遺構・遺物の図面・写真類は、一括して群馬県埋蔵文化財センターが保管している。

7．本遺跡に関して、本報告以前にその概要が収録・公表されたのは下記の書籍である。
年報23　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2005
年報24　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2006

8．本遺跡の発掘調査にあたっては、六合村・嬬恋村・中之条町・長野原町・東吾妻町を住の多くの作業員さんにご協力いただいた。

9．発掘調査および本書の作成にあたり、下記の諸氏よりご協力・ご助言を得た。記して感謝の意を表したい。（敬称略）
国土交通省八ッ場ダム工事事務所　群馬県教育委員会　長野原町教育委員会　白石光男　富田孝彦

凡　例

1．本書で使用した国家座標は、日本測地系によるものである。本調査ではその数値をそのままグリッドとして使用した。
2．本書における遺構番号は算用数字で、調査時に付されたものをそのまま使用した。
3．遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。縮尺の異なるものが併載される場合は、それぞれにスケールを付すか、遺物番号に縮尺率を併記した。
遺構図　竪穴住居１：60　住居竈１：30　土坑１：40　溝断面図１：50　その他
遺物図　縄文土器１：２　弥生土器１：３　土師器・須恵器１：４　縄文石器・石製品１：１、１：２、１：３　鉄器１：２
4．遺物番号は本文・挿図・表・写真図版と一致する。
5．面積は、住居の周縁をプラニメーター（タニタ　プラニックス７）を用いて３回測定し、その平均値を記した。
6．挿図中の方位は調査時に使用したグリッドの準拠したものであるが、本文中の軸方向記載で用いた方位には、真北を用いた補正を行っている。
7．計測値には次の略語を使用した。「口径」→「口縁部径」、「胴径」→「胴部最大径」、「底径」→「底部径」、「高さ」→「器高」
8．坏は、その形状からａ類とｂ類に区分した。
9．胎土の表記には次の略語を使用した。
A：緻密な胎土で、赤色味の強い焼き上がりとなることを特徴としている。石英の細片、バミス、赤褐色の鉱物粒が少量混じる１～２㎜大の岩片を含む。６住-８のような坏類に多いが、６住-22のような壺にも見られる。この胎土の土器はいずれも丁寧な作りである。
A’はA同様の胎土で焼き上がりが黄橙色味をおびる土器である。
B：素地や混入物はAに近いが、やや砂質で、器面が若干ザラザラしている。６住-10を代表とする。
C：ややボソボソした素地で軽量。焼きしまりに欠ける素地だが、外見や混入物はAに近い。３住-１を代表とする。
10．暗文状ヘラ磨きについては以下の通りの略記号を使用している。
Ⅰ種　一本一本丁寧に、ほぼ等間隔で施している。
Ⅰ’は一本一本が雑なため、Ⅱ種との中間的な仕上がりとなっている。
Ⅱ種　雑に施して、交叉するような部分も見られるが、数本単位のまとまりが観察できる。４住-１を代表とする。

11．遺物の重量の計測にあたっては、10ｇまでは0.1ｇ単位、6000ｇまでは１ｇ単位、20㎏までは50ｇ単位、20㎏以上は100ｇ単位の秤を使用して計測した。
12．各地図について、使用した原図類の名称については、その都度記載している。

目　次

口絵
序
例言
凡例
目次（文章・挿図・表・写真）
第１章　調査の方法と経過 …… 1
　第１節　発掘調査に至る経緯 …… 1
　第２節　発掘調査の方法 …… 2
　第３節　発掘調査の経過 …… 3
　第４節　整理の方法と経過 …… 4
第２章　遺跡の環境 …… 6
　第１節　地理 …… 6
　第２節　地形と地質 …… 7
　第３節　歴史 …… 8
　第４節　基本土層 …… 12
第３章　遺跡の概要 …… 13
　第１節　検出された遺構・遺物 …… 13
　第２節　近世 …… 14
　　畑・平坦面・水田・道
　　・ヤックラ・石垣・溝
　第３節　中世 …… 53
　　井戸・土坑・集石・ピット・焼土
　第４節　平安時代 …… 100
　　竪穴住居・竪穴遺構・焼土
　第５節　古墳時代 …… 112
　　竪穴住居
　第６節　弥生時代 …… 127
　　集石・遺物集中
　第７節　縄文時代の遺構と遺物 …… 142
第４章　まとめ …… 143
　第１節　天明３年泥流面 …… 143
　第２節　土地利用の変遷 …… 144
　第３節　遺物 …… 146
　第４節　下原遺跡出土の灰釉陶器 …… 147
　第５節　墨書土器 …… 149
　第６節　臼玉 …… 150
　第７節　金属製品 …… 152
　第８節　竪穴住居の埋没 …… 154
　第９節　浅間山と赤岩 …… 155
第５章　下原遺跡における自然科学分析 …… 157
　第１節　下原遺跡のテフラ …… 157
　第２節　下原遺跡における植物珪酸体分析 …… 160
　第３節　下原遺跡48区１号竪穴住居出土炭化材の樹種同定 …… 167
　第４節　下原遺跡出土人骨 …… 173
遺構番号変更表 …… 177
遺物観察表 …… 184
写真図版
奥付

図

第１図　下原遺跡位置図（「長野原町都市計画図」を使用）
第２図　下原遺跡グリット設定図
第３図　下原遺跡位置図（「長野原町都市計画図」を使用）
第４図　下原遺跡位置図（国土地理院５万分の１地図『草津』使用）
第５図　長野原町の河岸段丘分布図
第６図　周辺遺跡位置図（国土地理院２万５千分の１地図『長野原』使用）
第７図　基本土層図
第８図－①　天明三年（1783）検出遺構全体図（１面）〔付図〕
第８図－②　天明三年（1783）検出遺構全体図（１面）〔付図〕
第９図　S5-1・2号畑、S6-1・2・3号畑〔付図〕
第10図　S7号畑、S9号畑S10号畑、S11号畑、S13号畑〔付図〕
第11図　S8-1・2・3・4・5号畑〔付図〕
第12図　S12-1・2・3・4・5・6・7号畑〔付図〕
第13図　S14号畑、S15号畑、S16号畑〔付図〕
第14図　S17-1・2・3・4・5・6・7・8・9・10号畑〔付図〕
第15図　S18-1・2号畑、S22号畑〔付図〕
第16図　S19-1・2号畑、S20-1・2号畑〔付図〕
第17図　S21号畑、S23号畑、S24号畑〔付図〕
第18図　S5、S6、S8、S12号平坦面
第19図　S12、S17号平坦面
第20図　S17、S20号平坦面
第21図　S1号水田　畦畔芯材
第22図　S1号水田　杭1～15、20～22
第23図　1、5、6号道
第24図　7、8、9号道
第25図　8、9号ヤックラ
第26図　11、12号ヤックラ
第27図　10号ヤックラ
第28図　14、15号ヤックラ
第29図　11号石垣〔付図〕
第30図　12、13号石垣
第31図　14号石垣
第32図　15号石垣
第33図　16号石垣
第34図　16号石垣
第35図　17、18号石垣
第36図　19、20、21号石垣
第37図　19、20、21号石垣
第38図　22、23号石垣
第39図　24、25号石垣
第40図　24、25号石垣
第41図　区　6、7、8、9、10、11、12号溝
第42図　区　13、14号溝
第43図　15号溝
第44図　15号溝
第45図　遺物　近世　石製品、木製品①（下駄、鋤）
第46図　遺物　近世　木製品②（杭）
第47図　遺物　近世　木製品③（杭）
第48図　遺物　近世　木製品④（杭）
第49図　遺物　近世　木製品⑤（杭）
第50図　遺物　近世　木製品⑥（杭）
第51図　中近世全体図（２面）〔付図〕
第52図　中世全体図（３面）〔付図〕
第53図　46区　1号畑
第54図　46区　1号畑BCD断面
第55図　46区　2号畑
第56図　46区　3号畑
第57図　47区　1号畑
第58図　47区　2号畑
第59図　46区　1号井戸
第60図　46区　58・59・60・61・62・63号土坑
第61図　46区　63・64・65・66号土坑
第62図　47区　67号土坑　46区　68・69・70号土坑
第63図　46区　71・72・73・74号土坑
第64図　46区　75・76号土坑
第65図　46区　76・77・78号土坑
第66図　46区　79・81号土坑
第67図　47区　2・80号土坑

第68図　47区　1号土坑
第69図　47区　53・54・55・56・57号土坑
第70図　48区　1号土坑
第71図　46区　1号集石
第72図　46区　2・3・4号集石
第73図　46区　5・6・7号集石
第74図　46区　8・9・10号集石
第75図　46区　11・12・13号集石
第76図　46区　14・15・16号集石
第77図　46区　17・18号集石
第78図　47区　1号集石
第79図　47区　2号集石
第80図　47区　3・4・5・6号集石
第81図　47区　7号集石
第82図　47区　8・9・13号集石
第83図　47区　10・11号集石
第84図　47区　12号集石
第85図　48区　1号集石
第86図　48区　2号集石
第87図　48区　3号集石
第88図　47区　1号溝
第89図　47区　2、3、4、5、6、7、8号溝
第90図　47区　8号溝
第91図　46区　1・3・4・5・6・7号ピット
第92図　47区　1・2号焼土
第93図　47区　3・4号焼土
第94図　46区　5号焼土
第95図　46区　6・7号焼土
第96図　遺物　中近世　陶磁器①
第97図　遺物　中近世　陶磁器②、金属製品①
第98図　遺物　中近世　金属製品②
第99図　遺物　中近世　石製品
第100図　平安・古墳・弥生時代遺構全体図（4面）〔付図〕
第101図　48区1号竪穴住居
第102図　48区1号竪穴住居カマド
第103図　48区1号竪穴住居カマド
第104図　48区1号竪穴住居
第105図　遺物　48区1号竪穴住居
第106図　46区1号竪穴住居
第107図　46区1号竪穴住居カマド
第108図　46区1号竪穴住居①
第109図　46区1号竪穴住居②
第110図　46区　1・2・3号竪穴遺溝　26号土坑焼土
第111図　遺物分布図（1）〔付図〕
第112図　遺物分布図（2）〔付図〕
第113図　47区1号竪穴住居
第114図　47区1号竪穴住居
第115図　47区1号竪穴住居
第116図　47区1号竪穴住居断面
第117図　47区1号竪穴住居カマド
第118図　47区1号竪穴住居カマド
第119図　47区1号竪穴住居カマド
第120図　47区1号竪穴住居カマド掘り方
第121図　遺物　47区1号竪穴住居①
第122図　遺物　47区1号竪穴住居②
第123図　遺物　灰釉陶器
第124図　遺物　土師器、墨書土器
第125図　遺物　須恵器
第126図　遺物　羽釜、白玉
第127図　弥生土器接合分布図　1～10
第128図　弥生土器接合分布図　11～20
第129図　弥生土器接合分布図　21～30
第130図　弥生土器接合分布図　31～35、37～40
第131図　弥生土器接合分布図　41～50
第132図　弥生土器接合分布図　51・52、54～57
第133図　弥生土器接合分布図　36、53、86、110、117、130
第134図　遺物　弥生土器①
第135図　遺物　弥生土器②
第136図　遺物　弥生土器③
第137図　遺物　弥生土器④
第138図　遺物　弥生土器⑤
第139図　遺物　弥生土器⑥
第140図　遺物　弥生土器⑦
第141図　単位面積確定畑

下原遺跡　写真図版

下原遺跡　写真図版

口絵カラー
遺跡遠景（東側上空から）
天明三年面（上空から）
中近世面（上空から）
古代面（上空から）

1　天明泥流下畑全景（S18～S23：上空から）
2　天明泥流下畑全景（S5・S8：上空から）
3　天明泥流下畑全景（S6・S7・S9：上空から）
4　天明泥流下畑全景（S10～17：上空から）
5　S5-1号畑全景（西から）
6　S5-2号畑全景（東から）
7　S6-1・2・3号畑全景（東から）
8　S7号畑全景（南から）
9　S8-1号畑全景（南から）
10　S8-1・4号畑水田（南から）
11　S8-2・3号畑全景（東から）
12　S8-5号畑全景（東から）
13　S9号畑全景（南から）
14　S10号畑全景（南から）
15　S11号畑全景（東から）
16　S12-1・2号畑全景（南から）
17　S12-1・2号畑全景（北から）
18　S12-3号畑全景（南から）
19　S12-4・5・6・7号畑全景（北から）
20　S13号畑全景（南から）
21　S14号畑全景（南から）
22　S15号畑全景（西から）
23　S16号畑全景（南から）
24　S17-1・2・3・4号畑全景（北から）
25　S17-5・6・7・8号畑全景（北から）
26　S17-9・10号畑全景（北から）
27　S18～24号畑全景（南西から）
28　S18-1号畑全景（西から）
29　S18-2号畑全景（北東から）
30　S19-1号畑全景（東から）
31　S19-2号畑全景（東から）
32　S20-1号畑全景（南から）
33　S20-2号畑全景（南から）
34　S21号畑全景（東から）
35　S22号畑全景（北東から）
36　S23号畑全景（東から）
37　S23号畑全景（東から）
38　S24号畑全景（北東から）
39　S5-1号平坦面セクション（南西から）
40　S5-1号平坦面全景（南西から）
41　S5-2号平坦面セクション（西から）
42　S5-2号平坦面全景（南から）
43　S6-1号平坦面全景（南から）
44　S6-2号平坦面全景（南から）
45　S6-3号平坦面全景（東から）
46　S8-1号平坦面全景（南から）
47　S12-1号平坦面全景（南から）
48　S12-2号平坦面全景（南から）
49　S12-3号平坦面全景（南から）
50　S12-5号平坦面全景（南から）
51　S12-6号平坦面全景（南から）
52　S17-1号平坦面全景（南から）
53　S17-2号平坦面全景（南から）
54　S17-3号平坦面全景（南から）
55　S17-5号平坦面全景（南から）
56　S17-6号平坦面全景（南から）
57　S17-7号平坦面全景（南から）
58　S17-8号平坦面全景（南から）
59　S17-8号平坦面木製品出土状況（南から）
60　S17-9号平坦面全景（南から）
61　S17-10号平坦面全景（南から）
62　S20-1号平坦面全景（東から）
63　S20-2号平坦面全景（東から）
64　S20-3号平坦面全景（東から）
65　S1号水田全景（南から）
66　S1号水田全景（北東から）
67　S1号水田炭化材出土状況（西から）
68　S1号水田畦畔芯材出土状況全景（西から）
69　S1号水田畦畔材出土状況（南東から）
70　S1号水田畦畔セクション（南から）
71　S1号水田下駄出土状況（南東から）
72　S1号水田杭列出土状況（東から）
73　S1号杭列　杭3・4・5セクション（南から）
74　8号ヤックラ全景（南から）
75　9号ヤックラセクション（西から）
76　9号ヤックラ全景（南から）
77　10号ヤックラ全景（西から）
78　10号ヤックラ全景（南から）
79　10号ヤックラ全景（南から）
80　11号ヤックラ全景（南から）
81　11号ヤックラ擦り込み全景（南から）
82　12号ヤックラ全景（南から）
83　12号ヤックラセクション（西から）
84　12号ヤックラ全景（南から）
85　12号ヤックラ擦り込み全景（南から）
86　13号ヤックラセクション（南から）
87　13号ヤックラ全景（西から）
88　14号ヤックラ部分（南から）
89　14号ヤックラ全景（西から）
90　15号ヤックラセクション（西から）
91　15号ヤックラ全景（北から）
92　16号ヤックラセクション（南から）
93　16号ヤックラ全景（南から）
94　16号ヤックラ擦り込み全景（南から）
95　仮称　14-2号ヤックラセクション（西から）
96　仮称　16-2号ヤックラセクション（西から）
97　仮称　14-3号ヤックラ全景（南西から）
98　仮称　5-1号ヤックラ全景（南から）
99　1号道全景（西から）
100　1号道全景（西から）
101　1号道全景（東から）
102　1号道全景（東から）
103　4号道全景（南東から）
104　5号道セクション（北から）
105　5号道全景（北から）
106　6号道セクションCライン（南から）
107　6号道全景（北から）
108　7号道セクション（南から）
109　7号道全景（南から）
110　8号道セクション（南から）
111　8号道全景（南から）
112　11号石垣全景（南から）
113　11号石垣裏込め検出状況（西から）
114　12-13号石垣セクション（西から）
115　12-13号石垣部分（南から）
116　14号石垣全景（南東から）
117　15号石垣全景（南から）
118　16号石垣セクション（南から）
119　16号石垣全景（南から）
120　17号石垣全景（西から）
121　17号石垣裏込め検出状況（南から）
122　18号石垣全景（西から）
123　19号石垣セクション（南から）
124　19号石垣全景（東から）
125　20号石垣全景（南から）
126　21号石垣全景（西から）
127　22号石垣全景（東から）
128　23号石垣全景（東から）
129　24号石垣セクション（南から）
130　24号石垣全景（西から）
131　25号石垣セクション（西から）
132　仮称　S15-1号石垣全景（南から）
133　仮称　S5-2号石垣全景（南から）
134　仮称　S17号現代石垣セクション（南から）
135　7・8・10・11号溝全景（南から）
136　7・8号溝全景（北西から）
137　11号溝全景（南から）
138　9・10号溝全景（南から）
139　12号溝全景（南から）
140　12号溝セクション（西から）
141　14号溝全景（南から）
142　15号溝全景（南から）
143　仮称　S1-1号溝全景（南から）
144　仮称　S3-1号溝全景（東から）
145　仮称　S3-1号溝全景（西から）
146　仮称　S4-3号溝全景（西から）
147　仮称　S4-3号溝全景（南から）
148　仮称　S8-1号溝全景（南から）
149　古銭出土状況（南から）
150　発掘調査範囲全景（上空から：中央に発掘調査事務所、右斜め下に下田の観音堂の森）

151　中近世面全景（上空から；2・3面）
152　中近世畑全景（47区1・2号畑；上空から）
153　中近世畑全景（46区2・3号畑；上空から）

154　46区2号畑全景（北から）
155　46区3号畑全景（南西から）
156　47区3号畑セクション（南から）
157　47区3号畑全景（南から）
158　47号1号溝全景（南から）
159　47区2号溝セクション（南から）
160　47区3号溝セクション（南から）
161　47区2号溝全景（南から）
162　47区3号溝全景（南から）
163　47区4号溝セクション（南から）
164　47区5号溝セクション（南から）
165　47区7号溝セクション（南から）
166　47区4～7号溝全景（南から）
167　47区8号溝セクション（北から）
168　47区8号溝全景（南から）
169　46区1号井戸セクション（東から）
170　46区1号井戸全景（東から）
171　46区53号土坑セクション（南から）
172　46区53号土坑全景（南から）
173　46区54号土坑セクション（南から）
174　46区54号土坑全景（南から）
175　46区55号土坑全景（南から）
176　46区55・56号土坑セクション（南から）
177　46区56号土坑全景（南から）
178　46区57号土坑セクション（南から）
179　46区57号土坑全景（南から）
180　46区58号土坑セクション（南から）
181　46区58号土坑全景（南から）
182　46区59号土坑セクション（南から）
183　46区59号土坑全景（南から）
184　46区60号土坑セクション（南から）
185　46区60号土坑全景（南から）
186　46区61号土坑セクション（西から）
187　46区61号土坑全景（西から）
188　46区62号土坑セクション（南西から）
189　46区62号土坑全景（南から）
190　46区63号土坑セクション（南から）
191　46区63号土坑全景（南から）
192　46区64号土坑セクション（南から）
193　46区64号土坑全景（南から）
194　46区65号土坑セクション（東から）
195　46区65号土坑全景（東から）
196　46区66号土坑セクション（南から）
197　46区66号土坑全景（南から）
198　46区67号土坑セクション（南から）
199　46区67号土坑全景（南から）
200　46区68号土坑セクション（南から）
201　46区68号土坑全景（南から）
202　46区69号土坑セクション（南から）
203　46区69号土坑全景（南から）
204　46区70号土坑セクション（南から）
205　46区70号土坑全景（南から）
206　46区71号土坑セクション（南西から）
207　46区71号土坑全景（南から）
208　46区72号土坑セクション（南から）
209　46区72号土坑全景（南西から）
210　46区73号土坑セクション（東から）
211　46区73号土坑全景（南から）
212　46区74号土坑セクション（南から）
213　46区74号土坑全景（南から）
214　46区75号土坑セクション（西から）
215　46区75号土坑人骨出土状況（西から）
216　46区76号土坑遺物出土状況（西から）
217　46区77号土坑セクション（南から）
218　46区77号土坑全景（南から）
219　46区78号土坑セクション（南から）
220　46区79号土坑セクション（東から）
221　46区80号土坑セクション（南から）
222　46区80号土坑全景（南から）
223　46区81号土坑セクション（南から）
224　46区81号土坑全景（南から）
225　47区1号土坑セクション（西から）
226　47区1号土坑全景（西から）
227　48区1号土坑セクション（南から）
228　48区1号土坑全景（東から）
229　48区1号土坑全景（南から）
230　46区1号集石検出状況（南から）
231　46区1号集石全景（北から）
232　46区1号集石セクション（南から）
233　46区2号集石検出状況（南から）
234　46区2号集石セクション（南から）
235　46区2号集石全景（南から）
236　46区3号集石検出状況（南から）
237　46区3号集石セクション（西から）
238　46区3号集石全景（南から）
239　46区4号集石検出状況（南から）
240　46区4号集石セクション（南から）
241　46区4号集石全景（南から）
242　46区5号集石検出状況（南から）
243　46区5号集石セクション（南から）
244　46区5号集石全景（南から）
245　46区6号集石検出状況（南から）
246　46区6号集石セクション（南から）
247　46区6号集石全景（南から）
248　46区7号集石検出状況（南から）
249　46区7号集石セクション（南から）
250　46区7号集石全景（南から）
251　46区8号集石検出状況（南から）
252　46区8号集石セクション（南から）
253　46区8号集石全景（南から）
254　46区9号集石検出状況（南から）
255　46区9号集石全景（南から）
256　46区10号集石検出状況（南から）
257　46区10号集石セクション（南から）
258　46区10号集石全景（南から）
259　46区11号集石検出状況（南西から）
260　46区12号集石検出状況（南から）
261　46区12号集石セクション（東から）
262　46区12号集石全景（東から）
263　46区13号集石検出状況（西から）
264　46区14号集石検出状況（南から）
265　46区14号集石セクション（南から）
266　46区14号集石全景（南から）
267　46区15号集石検出状況（南から）
268　46区15号集石セクション（南から）
269　46区15号集石全景（南から）
270　46区16号集石検出状況（南から）
271　46区16号集石セクション（西から）
272　46区16号集石全景（南西から）
273　46区17号集石セクション（南西から）
274　46区17号集石全景（南西から）
275　46区18号集石検出状況（南から）
276　46区18号集石セクション（南から）
277　47区2号集石検出状況（南から）
278　47区2号集石セクション（西から）
279　47区3号集石全景（南から）
280　47区4号集石全景（南から）
281　47区5号集石全景（南から）
282　47区5号集石セクション（西から）
283　47区6号集石全景（南から）
284　47区6号集石セクション（西から）
285　47区7号集石検出状況（南から）
286　47区7号集石セクション（北から）
287　47区7号集石全景（南から）
288　47区8号集石全景（南から）
289　47区8号集石セクション（南から）
290　47区8号集石全景（南から）
291　47区9号集石検出状況（南から）
292　47区9号集石セクション（南から）
293　47区10号集石検出状況（南から）
294　47区10号集石セクション（南から）
295　47区10号集石全景（南から）
296　47区11号集石検出状況（南から）
297　47区11号集石セクション（南から）
298　47区11号集石全景（南から）
299　47区12号集石検出状況（南から）
300　47区12号集石セクション（南から）
301　47区12号集石全景（南から）
302　47区13号集石セクション（南から）
303　47区13号集石全景（南から）
304　48区1号集石検出状況（東から）
305　48区1号集石セクション（西から）
306　48区2号集石セクション（西から）
307　46区1・2号ピットセクション（南から）
308　46区1・2号ピット全景（南から）
309　46区3号ピットセクション（南から）
310　46区3号ピット全景（南から）
311　46区4号ピットセクション（南から）
312　46区4号ピット全景（南から）
313　46区5号ピットセクション（南から）
314　46区5号ピット全景（南から）
315　46区6号ピットセクション（南西から）
316　46区6号ピット全景（南西から）
317　46区7号ピット全景（南から）
318　46区5号幾土セクション（南から）
319　46区5号幾土全景（南から）
320　46区6号幾土（南から）
321　46区6号幾土全景（南から）
322　46区7号幾土セクション（南東から）
323　46区7号幾土全景（南東から）
324　47区1号幾土セクション（東から）

325　47区１号焼土全景（南から）
326　47区２号焼土検出状況（北から）
327　47区２号焼土セクション（北西から）
328　47区２号焼土全景（北西から）
329　47区３号焼土検出状況（東から）
330　47区３号焼土セクション（南から）
331　47区３号焼土全景（東から）
332　47区４号焼土検出状況（南から）
333　47区４号焼土セクション（南から）
334　47区４号焼土全景（東から）
335　46区１号竪穴住居セクション（西から）
336　46区１号竪穴住居全景（北西から）
337　46区１号竪穴住居遺物出土状況（北から）
338　46区１号竪穴住居掘り方全景（北西から）
339　46区１号竪穴住居カマド全景（北西から）
340　46区１号竪穴住居カマド掘り方全景（西から）
341　46区１号竪穴住居貯蔵穴掘り方全景（北から）
342　48区１号竪穴住居セクション（南から）
343　48区１号竪穴住居遺物出土状況（西から）
344　48区１号竪穴住居全景（南から）
345　48区１号竪穴住居掘り方全景（南から）
346　48区１号竪穴住居カマド全景（南から）
347　48区１号竪穴住居カマド全景（南から）
348　48区１号竪穴住居カマド掘り方全景（南から）
349　48区１号竪穴住居土坑セクション（南から）
350　48区１号竪穴住居土坑全景（南から）
351　46区竪穴遺構群全景（南から）
352　46区竪穴遺構群掘り方全景（南から）
353　46区古代面（４面）遺物出土状況（西から）
354　47区古代面（４面）遺物出土状況（東から）
355　47区１号竪穴住居セクション（南から）
356　47区１号竪穴住居セクション（南から）
357　47区１号竪穴住居全景（西から）
358　47区１号竪穴住居掘り方全景（西から）
359　47区１号竪穴住居カマド全景（西から）
360　47区１号竪穴住居カマド遺物出土状況（西から）
361　47区１号竪穴住居カマド掘り方セクション（西から）
362　47区１号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状況（西から）
363　47区１号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状況（西から）
364　47区１号竪穴住居貯蔵穴掘り方全景（西から）
365　47区１号竪穴住居遺物出土状況（南東から）
366　47区１号竪穴住居１号柱穴セクション（西から）
367　47区１号竪穴住居２号柱穴セクション（西から）
368　47区１号竪穴住居２号柱穴全景（西から）
369　47区１号竪穴住居３号柱穴セクション（西から）
370　47区１号竪穴住居３号柱穴全景（西から）
371　47区１号竪穴住居４号柱穴セクション（西から）
372　47区１号竪穴住居４号柱穴全景（西から）
373　47区１号竪穴住居５号柱穴セクション（西から）
374　47区１号竪穴住居５号柱穴全景（西から）
375　47区古代面（４・５面）遺物出土状況（西から）
376　47区古代面（４・５面）遺物出土状況（東から）
377　47区１号配石全景（北から：４面）
378　弥生時代遺物出土状況（北から：６面）
379　天明泥流下畑調査風景（西から：S６-１号畑付近）
380　天明泥流下畑調査風景（西から：S６-１号円形平坦面）
381　中世人骨調査風景（植崎氏による取り上げ記録作業）
382　中近世墓調査風景（南東から：48区北側）
383　平安時代竪穴住居調査風景（南東から：48区１号）
384　古代面（４・５面）調査風景（北東から：46区南側）
385　古墳時代竪穴住居調査風景（南東から：47区１号）
386　重機による埋め戻し作業風景（西から：46-47区）
遺物

報告書抄録

書名ふりがな	しもはら いせき に
書名	下原遺跡 Ⅱ
副書名	八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	12
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	389
編著者名	麻生敏隆
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20061130
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	しもはらいせき
遺跡名	下原遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまぐんながのはらまちおおあざはやしあざしもはら
遺跡所在地	群馬県吾妻郡長野原町大字林字下原
市町村コード	10424
遺跡番号	204
北緯（日本測地系）	363220
東経（日本測地系）	1384030
北緯（世界測地系）	363231
東経（世界測地系）	1383978
調査期間	20020401-20031031
調査面積	15494
調査原因	八ッ場ダム建設工事
種別	集落／その他
主な時代	縄文／弥生／古墳／平安／中・近世
遺跡概要	集落－古墳－竪穴住居１、平安－竪穴住居２-竪穴遺構３／その他－縄文－遺物、弥生－土器集中、古墳-土器集中、中近世－畑、井戸、墓、土坑、ヤックラ、石垣、溝、道など
特記事項	古墳時代の祭祀、平安時代の焼失住居・墨書土器、中近世の景観復元

第１章　調査の方法と経過

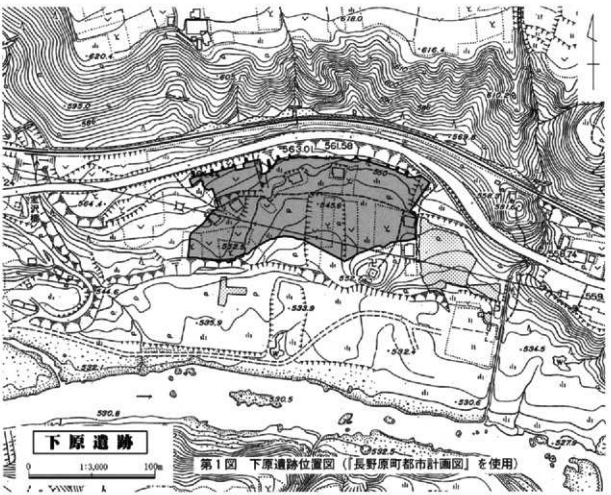
第１節　発掘調査に至る経緯

八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、建設省関東地方建設局と群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、吾妻町教育委員会が、その取扱いについて協議を重ね、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長が1994（平成６）年３月18日に「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」を締結した。

同年４月１日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長により発掘調査受託契約が、同日に群馬県教育委員会教育長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長により発掘調査受委託契約を締結し、八ッ場ダム進入路関連遺跡を調査箇所とする八ッ場ダム埋蔵文化財発掘調査が開始された。

その後、1999（平成11）年４月１日に調査実施機関である財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長と関東地方建設局長が「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書」を締結し、それ以降は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査実施機関となり、2005（平成17）年４月１日期間変更の協定書変更がなされた。

下原遺跡は吾妻郡長野原町林にあり、弥生時代・中世・近世を中心とする周知の埋蔵文化財包蔵地である。



第１図　下原遺跡位置図（「長野原町都市計画図」を使用）

群馬県文化財システム　http://www2.wagamachi-guide.com/gunma/

今回の発掘調査は下田土処理場整備工事に伴う約12,000㎡が当初は対象であったが、開始時期の関係で2003（平成15）年度と2004（平成16）年の２年次に分割して実施した。各年度の期間、面積は平成15年度が９月から12月までの４ヶ月間に9,650㎡と、平成16年度が４月から10月までの７ヶ月間の5,844㎡である。なお、各年次の調査範囲は２図のとおりである。

なお、2001（平成13）年１月から建設省関東地方建設局は国土交通省関東地方整備局に、2002（平成14）年４月から群馬県教育委員会文化財保護課は群馬県教育委員会文化課にそれぞれ改編・改称された。

第２節　発掘調査の方法

1994(平成６)年度から始まった八ッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査においては遺跡名称の略号、調査区(グリッド)の設定については「八ッ場ダム関係埋蔵文化財発掘調査方法」に基づき実施されてきた。本報告でもこれに準じ必要箇所について記載することとする。

発掘調査における遺跡番号は八ッ場ダム建設にかかわる長野原町の大字５地区(１．川原畑、２．川原湯、３．横壁、４．林、５．長野原)ごとに番号を付与し、八ッ場ダム建設に伴う略称「YD」の後ろに続けた。略称、地区番号の後ろにはファイフォン(-)を記入し、その後ろに各地区内に所在する遺跡に対して発掘調査順に通し番号を付与して遺跡略称とした。

調査区(グリッド)については、八ッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財対象地域内を国家座標(2002年４月改正以前の日本測地系)の日本平面直角座標Ⅸ系を使用し、吾妻郡吾妻町(現東吾妻町)大柏木の東部付近を基点(X＝58000.00、Y＝－97000.00)とした。

この基点から国家座標に準じて西・北方向に座標を設定した。八ッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財対象地域

第２図　下原遺跡グリット設定図

内は基点から西へ10km、北へ6kmの広範囲に所在することから1km四方の大区画(地区と呼称)を西へ10区画、北へ6区画の計60区画を設定した。

この大区画の内部を100m四方の中区画(区と呼称)に区分し、東南角から南列を西に1区、2区、10区とし、次の列を11区～20区のように100区まで設定した。

この中区画の内部は4m四方の625個の小区画に細分した。この細分した区画は東南を基点に西へはA～Yまでのアルファベット、北へは1～25までの数字を付与して各区画を区分した。すなわち、下原遺跡の所在する27地区47区の基点となる小区画は27地区47区A-1と呼称されることになる。

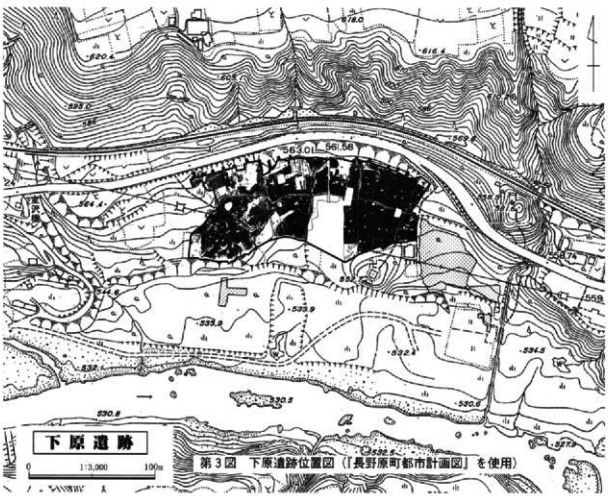
この小区画を基にして遺構図測量、遺物取り上げ、旧石器時代等の試掘調査を実施するときの基準として使用した。

第3節　発掘調査の経過

下原遺跡では表土掘削を西から開始し、その排出土についてはまずは残りの場所に、その後は発掘調査が終了した場所を随時撒き場にした。また、発掘調査は基本的に以下の調査方法で行われた。

1．掘削機(バックホー)による基本土層の第Ⅰ層の表土及び第Ⅱ層の暗褐色土層の掘削を行う。

2．第Ⅲ層のAs-A層下面の人手による遺構確認作業を行い、畑等を検出、個々の調査を行う。(Ⅰ面)



第3図　下原遺跡位置図(「長野原町都市計画図」を使用)

３．遺構調査終了後、再び掘削機(バックホー)による基本土層Ⅳ層と第Ⅴ層の掘削を行う。
４．第Ⅵ層上面の人手による遺構確認作業を行う。畑や土坑等を検出、個々の調査を行う。(Ⅱ面)
５．遺構調査終了後、再び掘削機(バックホー)による基本土層の第Ⅵ層と第Ⅶ層の掘削を行う。
６．第Ⅶ層上面の人手による遺構確認作業を行う。墓や土坑等を検出、個々の調査を行う。(Ⅲ・Ⅳ面)
７．遺構調査終了後、さらに再び掘削機(バックホー)による基本土層の第Ⅶ層の掘削を行う。
８．第Ⅷ層上面の人手による遺構確認作業を行う。竪穴住居等を検出、個々の調査を行う。(Ⅴ面)
９．遺構調査終了後、47区を中心に基本土層の第Ⅸ層と第Ⅹ層上面までの人手による遺構確認作業を行う。遺物集中部分等を検出、個々の調査を行う。(Ⅵ面)

検出した遺構については平面、土層観察断面等の測量、写真撮影による記録を作成した。遺跡全体図や遺構個別図の測量は多くを委託したが、簡便なものは掘削作業員によって作図を行った。また、遺跡全体図や広範囲におよぶ遺構図については航空写真撮影による測量にて対応した。

遺跡全景や遺構個別写真等の記録写真の撮影には中型と小型カメラを併用して、基本的に６×7版白黒と35㎜の白黒（モノクロ）フィルムと、35㎜のカラースライド（リバーサル）で行い、遺構全景の撮影にはモニタリングカメラ、ローリングタワーを場合によって併用し、各段階での全体写真の撮影にはラジコンヘリ及び高所作業車を使用して、上空からの航空写真や高所からの俯瞰写真を撮影した。

すべての作業の終了を経て、埋め戻し作業を行い、工事側への遺跡の引き渡しをした。

第４節　整理の方法と経過

下原遺跡の整理作業は、2004（平成16）年の10月に遺跡での発掘調査が終了した時点の同年の11月から2005（平成17）年３月までの５ヶ月間が第１次の整理作業期間とされ、その後の空白期間を経て、年度を越えた2006（平成18）年の１月から３月までの３ヶ月間の合計８ヶ月である。

これらの整理作業にあたっては、八ッ場ダム調査事務所雇用の整理作業員ではなく、冬期整理期間中こうした整理期間中での整理担当者の交代という事態が生じたため、作業にあたってはその内容と工程について詳細な引継を行うという異例の事態となった。

まず、土器や石器・石製品などの遺物については、外部発注による洗浄・注記などの基礎整理を既に行っていたために、洗浄・注記の有無の確認、取り上げ番号などのチェックなどを行った。

次に、遺構別・層位別・地点別の分類・区分けの後に接合・復元作業を開始し、実測個体の選び出しと実測・トレース作業を行ったが、暗文の土師器や甕類などについてはCCDカメラとテレビを組み合わせたシステムによる素図作成を行い、版下図版を作成した。その際に、デジタルカメラの撮影による写真への補足書き込みも実施した。

さらに、図面類については原図全体の確認・台帳化と、使用原図の選び出しと鉛筆によるトレース素図とトレース図作成を実施した。また、出土した遺物の図面上での位置の確認などを行った。そして、仕上がりの確認とともに、レイアウトの作成、遺構や遺物、それに関連する資料の図版作成を行った。

写真関係では、現場で撮影した35ミリと６×７の個々の白黒写真と35ミリスライドについては、出土状態など写真の種類などの確認、記録カード・台帳化を行った。特に、スライドは保存用と活用用の２種類への振り分け編集作業を実施し、報告書刊行後の利用に備える準備をした。

遺物は選び出し個体の写真撮影から行った。これらの作業がほぼ終了した時点で、レイアウトの作成、遺

物・遺構・写真図版の作成を開始した。

同時に、報文原稿については整理担当者を中心に執筆したが、一部については発掘調査担当者や各時代・各遺構・遺物を専門分野とする職員らの助言・協力を得た。自然科学分析などについては、それぞれの専門の研究者による各分析結果の内容を第5章として巻末に収録した。

これらの作業をすべて行い、報告書作成の作業が終了し、印刷工程を経て刊行となった。

こうした整理作業にあたっては、測量した遺構図および撮影した写真は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団資料管理マニュアルに従って基礎整理を実施した。

また、出土した遺物は土器と石器については洗浄・注記を行い、今回の整理作業まで八ッ場ダム調査事務所で保管した。

なお、金属器・金属製品については整理作業時に図の作成、写真撮影が可能な状態になるように保存処理を行い本部にて保管した。

本遺跡の整理作業の問題点としては、まず遺物の洗浄の際に鉄製品や遺物への漆などの付着物の有無を充分に確認・選別しておく必要がある。また注記に際して注記箇所の指定の問題がある。

次に、整理作業経験が少ない派遣の作業員を使うために、従来の熟練した作業が期待出来ないことや、整理期間が2回に分かれた上に、その間が9ヶ月もあったことから、作業員自体も1回目と2回目がほとんど異なる体制となったことである。そのため、継続性も熟練性も不足したままで終始した。

第２章　遺跡の環境

第１節　地理

吾妻郡長野原町は群馬県の西部、長野県との県境に位置する浅間山の北東に位置する。

東は吾妻郡吾妻町、北は同郡六合（くに）村、北西は同郡草津町、西は同郡嬬恋（つまごい）村、南は長野県軽井沢町、南東は倉渕（くらぶち）村にそれぞれ接する。

周囲は標高1,000m～1,800m級の山々が連なり、南東部の倉渕村との境に鼻曲（はなまがり：標高1,655m）と浅間隠（あさまがくし：標高1,756.7m）、東の吾妻町との境に高間（たかま：標高1,341.7m）、西部に浅間隠（あさまがくし：標高1,756.7m）・菅峰（すがみね：標高1,473.5m）・高間（たかま：標高1,341.7m）・笹（ささとや：標高1,756.7m）、北部に吾嬬（かづま：標高1,181.5m）・薬師（やくし：標高974.4m）等の山々である。

河川は長野県境に位置する鳥居峠（とりいとうげ：1,362m）付近から流れ出す吾妻川が東流し、それに万座川や白砂川、それに熊川等の小河川が南流、あるいは北流して、それぞれ吾妻川に合流する。

主な集落は吾妻川の河岸段丘上にある。吾妻川の谷は長野原地区付近ではその幅がやや広く、河岸に何段かの河岸段丘が発達しているが、川原湯地区より東では基盤の第三紀層を刻み込んで吾妻渓谷を形成している。

本遺跡の所在する林地区は、周囲を山々に囲まれた東西に細長い地形を呈し、浅間隠山の北東麓から流れ出す温川が左右両岸に段丘が形成されているものの、山間地特有の河川の蛇行により右岸側のみが幅が狭くなっており、一部では渓谷を作り出している。本遺跡が立地する段丘は最下位面で関東ロームがほとんど堆積していないことから、その形成時期は完新世の時期と考えられる。

この緩やかな傾斜の段丘やその上位の丘陵上に縄文時代から平安時代にかけての遺跡がいくつも存在しており、現在でも住宅地や水田、畑として利用されている。

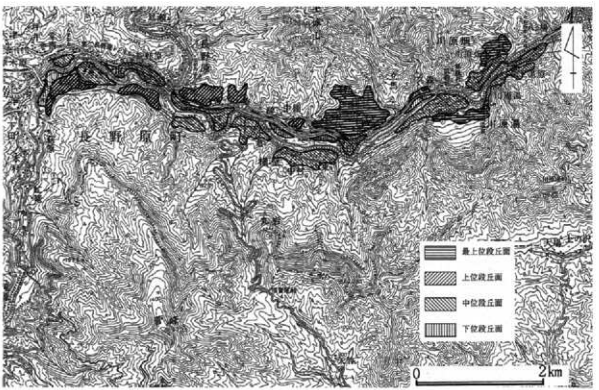
参考文献
長野原町誌編纂委員会編 1976　『長野原町誌』上

第４図　下原遺跡位置図（国土地理院５万分の１地図『草津』使用）

第２節　地形と地質

長野原町の地形・地質に大きな影響を与えたのは浅間火山である。町域の北西部、長野県境に位置し、黒斑・仏岩・前掛山・釜山の４つの火山体で構成される標高2,568mの成層火山である。約23,000～24,000年前の黒斑火山の噴火では、岩屑流と「応桑泥流」と呼ばれる泥流が発生している。この泥流堆積物は、当時の河床を数十mの厚さで埋めている。この堆積物によって吾妻川の浸食が進み、その両岸に最上位と上位の段丘面が形成されている。浅間山は、この後も多くの火山堆積物を堆積させているが、特に町域では浅間－草津黄色軽石（As-YPk、10,500～11,500年前）の堆積が顕著である。また、1783（天明３）年の前掛山の噴火により発生した泥流は下位段丘や中位段丘を数m～数十mの厚さで覆っている。

平地は吾妻川に沿って僅かに分布しており、階段状の河岸段丘の上位にある。ここはこの地区の主な居住区であり、農業生産の中心にもなっている。この段丘は、吾妻川からの比高の差を基準に下位段丘・中位段丘・上位段丘・最上位段丘の４つに分類されている。各段丘面の現在の吾妻川からの平均的な比高は、下位段丘で約10～15m、中位段丘で約30m、上位段丘で約60～65m、最上位段丘で約80～90mとなっている。このうち、上位・最上位の段丘面は約23,000～24,000年前に噴出した応桑泥流堆積物を基盤とし、その上に重なる関東ローム層中には、約11,000年前に噴出したと考えられるAs-YPkが最上位面で約２m堆積している。林地域では、集落の大部分が存在する林地区がこのなかの最上位段丘面に、中棚地区が上位段丘面に、下田地区が中位段丘面に、下原遺跡の位置する下原地区が下位段丘面にそれぞれ相当する。



第５図　長野原町の河岸段丘分布図

第３節　歴史

この地域の歴史については、既に長野原町教育委員会の富田氏によって詳細な記述がなされており、それを参考に主として林地区を中心に記述することとするが、各時代の主要な遺跡については周辺地区をも含めて説明することとする。

長野原町教育委員会が1987（昭和62）年から３ヵ年にわたり実施した遺跡分布調査において、183箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認された。これに石造物などの指定文化財や名勝・天然記念物などを含めると文化財総数は199を数える。1994（平成６）年以降に八ッ場ダム建設に係わる発掘調査の進展に伴い包蔵地はさらに増えている。

旧石器時代　現在までにこの時期の遺跡は確認されていない。ただし、遺構外ながら柳沢城跡で細石器文化に伴うと考えられる珪質頁岩の削器が１点出土している。

縄文時代　縄文時代になると遺跡数は増大する。この時期の遺跡の主なものとして石畑遺跡、坪井遺跡、長畝Ⅱ遺跡、暮坪遺跡、立馬Ⅱ遺跡、横壁中村遺跡、長野原一本松遺跡、西久保Ⅰ遺跡、幸神遺跡、勘場木遺跡、向原遺跡、滝原Ⅲ遺跡等があげられる。草創期の遺跡として表裏縄文土器が出土した石畑岩除遺跡が著名であるが、横壁勝沼遺跡からも表採ながら草創期の槍先形尖頭器が出土している。早期は楡木Ⅱ遺跡で初頭の撚糸文期の30軒、前期では坪井遺跡で初頭の花積下層式期の１軒、暮坪遺跡で前期前葉の二ツ木式期の２軒、前期中葉～後葉が楡木Ⅱ遺跡で10軒、中期は立馬Ⅱ遺跡で初頭から前半の五領ヶ台式～阿玉台式の９軒、楡木Ⅱ遺跡で前半の２軒、幸神遺跡で完形の阿玉台式土器を埋設した土坑１基が検出されている。中期後半が最も多く横壁中村遺跡と長野原一本松遺跡では共に250軒以上の大規模な集落を形成していたことが判明している。この他に坪井遺跡の19軒、幸神遺跡２軒、勘場木遺跡、長畝Ⅱ遺跡２軒が検出されている。後期に至っても横壁中村遺跡と長野原一本松遺跡でも引き続き集落が形成されており、他に向原遺跡で５軒検出されている。晩期は川原湯勝沼遺跡で２個の土器を埋甕した土坑が検出され、再葬墓の可能性が指摘されている。

弥生時代　この時期の遺跡は極めて希薄であり、前期は横壁中村遺跡で樫王式の甕を埋設した土坑が検出され、再葬墓の可能性が指摘され、楡木Ⅲ遺跡で土器が集中して出土している。中期後半は立馬Ⅰ遺跡で土器棺墓がⅠ基、立馬Ⅰ遺跡で２軒、後期の樽式は二社平遺跡で破片が多数出土している。

古墳時代　1938（昭和13）年に編纂された『上毛古墳綜覧』によれば、長野原町には２基の古墳が存在するとされており、大津の鉄塚と与喜屋の五輪塚が該当するが、現在までに発掘調査によって確認されたものはひとつも無く、現時点では東吾妻町の岩島地区が西限である。集落関係では林宮原Ⅱ遺跡でⅠ軒、本遺跡での１軒が２例目であり、極端に少ないことから古墳が構築される土台がなかった可能性が高いと言えよう。

奈良・平安時代　10世紀ごろに編集された『和名類聚抄（わみょうるいじゅうしょう）』によれば、古代律令制での吾妻（阿加豆末：あがつま）郡は、大田郷（おおた、吾妻町太田地区から吾妻川上流の三島までの右岸一帯）、伊参郷（いさ、中之条町から原町にかけての吾妻川左岸一帯）、長田郷（ながた：中之条町北東部から高山村にかけての名久田川流域）の三つの郷に区分され、その郡衙（役所）は原町の大宮嶽鼓神社周辺と考えられているが、近年の発掘調査からは疑問視されてきている。一方、長野原町のある西吾妻地区には郷が存在しないとされている。確かに奈良時代の遺構・遺物は極めて希薄で、分布調査でも僅かに確認されているのみである。

だが、平安時代になると遺跡数は増加する。主な遺跡としては長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡、林宮原

遺跡6軒、向原遺跡、坪井遺跡、花畑遺跡2軒、楡木Ⅱ遺跡が挙げられる。各遺跡での竪穴住居の検出数は数軒と少ないものの、楡木Ⅱ遺跡では9世紀後半から10世紀前半にかけての竪穴住居が約30軒とまとまって検出されており、「三家」や「長」と書かれた墨書土器の存在から、郷に近い形態の集落の存在が推定される。

また、瓦塔の破片が発見されており、町重要文化財に指定となっているが、詳細な出土地は不明である。

中世　この時期の資料は城館跡などが中心であったが、近年の発掘調査により遺跡が増えつつある。主な遺跡としては、柳沢城跡、横壁中村遺跡、二反沢遺跡、下原遺跡等が挙げられる。下原遺跡では中世の畑跡や建物跡が検出されている。二反沢遺跡からは中世の区画跡の他、羽口、鉄滓、椀状滓等の製鉄関連遺物が検出されている。

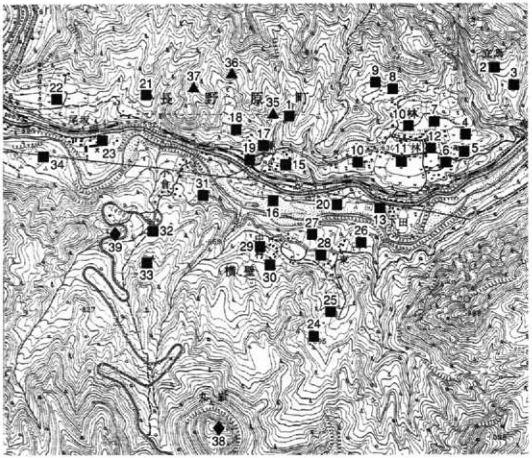
近世　近世の遺跡の大部分が、1783（天明3）年の浅間山の噴火に伴い噴出した浅間A軽石と泥流堆積物で埋没したものである。主な遺跡としては、東宮遺跡、石畑遺跡、川原湯勝沼遺跡、横壁中村遺跡、下田遺跡、中棚Ⅱ遺跡、久々戸遺跡、尾坂遺跡等が挙げられる。特に、久々戸遺跡の6次調査では、江戸時代の街道である「草津道」が検出されている。小林屋敷遺跡からは地区の豪農であった小林家の屋敷の一部が検出されており、文献との照合もなされている。

また、1742（寛保2）年の洪水の際に生じた土砂崩れにより埋没したと考えられる畑跡も検出されており、さらに古い時期の洪水の存在も推定される。

行政区画では、林村から（明治22）年の1町6村による町村合併により現在の長野原町となった。

参考文献

(概説書・図録類)
尾崎喜左雄監修 1987　『日本歴史地名大系10　群馬県の地名』　平凡社
日本地名大辞典編纂委員会編 1988　『日本地名大辞典』10　群馬県　角川書店
中之条町歴史民俗資料館 2003　『常設展示解説図録』
(県町村史誌)
群馬県 1938　『上毛古墳綜覧』　群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告第5号
長野原町誌編纂委員会編 1976　『長野原町誌』上
群馬県史編さん委員会編 1990　『群馬県史』通史編 1
群馬県史編さん委員会編 1981　『群馬県史』資料編 3
(発掘調査報告書)
群馬県教育委員会編 1988　群馬県の中世城館跡
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002　長野原一本松遺跡
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002　八ッ場ダム発掘調査集成
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003　久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004　久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005　川原湯勝沼遺跡（2）
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006　立馬Ⅱ遺跡
長野原町教育委員会 1996　向原遺跡
長野原町教育委員会 2000　坪井遺跡Ⅱ
長野原町教育委員会 2001　幕坪遺跡
長野原町教育委員会 2004　林宮原Ⅱ遺跡
長野原町教育委員会 2005　小林屋敷遺跡



番号	遺跡名	町登録番号			
1	二反沢	52	21	幸神	62
2	立馬Ⅰ	37	22	長野原一本松	63
3	立馬Ⅱ	213	23	尾坂	201
4	東原Ⅰ	38	24	上野Ⅰ	21
5	東原Ⅱ	39	25	上野Ⅱ	22
6	東原Ⅲ	40	26	横壁勝沼	23
7	上原Ⅰ	41	27	横壁中村	24
8	上原Ⅱ	42	28	山根Ⅰ	26
9	上原Ⅲ	43	29	山根Ⅱ	29
10	上原Ⅳ	44	30	山根Ⅲ	30
11	林中原Ⅰ	45	31	西久保Ⅰ	31
12	林中原Ⅱ	46	32	西久保Ⅱ	32
13	下田	47	33	西久保Ⅲ	33
14	林宮原	48	34	久々戸	200
15	中棚Ⅰ	49	35	滝沢観音岩除	55
16	中棚Ⅱ	203	36	蜂ッ沢岩除	56
17	楡木Ⅰ	50	37	御嶽山岩除	57
18	楡木Ⅱ（本遺跡）	51	38	丸岩城跡	34
19	楡木Ⅲ	202	39	柳沢城跡	35
20	下原	204			

第６図　周辺遺跡位置図（国土地理院２万５千分の１地図『長野原』使用）

表1　調査遺跡一覧　■該当年度調査　◆本書報告　●該当時期遺構　○該当時期遺物のみ　★天明三年遺構　☆天明三年堆積検出

所在大字	YD番号	遺跡名	町台帳	調査年度（試掘を含む）											時代							備考
				6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世	現代	
川原畑	YD1－01	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	YD1－02	南荒遺跡	208		■		■													★			第2集で報告。
	YD1－03	石畑遺跡	210			■	■	■							●	●				★		第2集で報告。
	YD1－04	三平1遺跡	3					■						■	●							平成10年第2集で報告。
	YD1－05	二社平遺跡	209			■														☆		第2集で報告。
	YD1－06	三平2遺跡	4											■	●				●			
川原瀬	YD2－01	川原瀬遺跡第2遺跡	206				■						◆	◆	●		●	●		★		平成3年第2集、平成15・16年本書で報告。
	YD2－02	西ノ上遺跡	212									■								★		第4集で報告。
横堤	YD3－01	横堤第四遺跡	23	■	■										●			●		●		第2集で報告。
	YD3－02	西久保1遺跡	31	■			■	■		■					●							第2集で報告。
	YD3－03	横堤中村遺跡	24			■	■	■	■	■	■	■	■	■	●	●		●	●	●★		第3集で平成元年度まで、第5集で2002～03年報告。
	YD3－04	山根2遺跡	29				■	■			■				●					●		平成9、10年第2集で報告。
林	YD4－01	下田遺跡	47	■	■										●					★		第2集で報告。
	YD4－02	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		－	－	－	－	－
	YD4－03	上原1遺跡	41				■								●							第2集で報告。
	YD4－04	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		－	－	－	－	－
	YD4－05	花畑遺跡	205				■	■	■	■					●			●				第2集で報告。
	YD4－06	横木2遺跡	202					■							○	○						第2集で報告。
	YD4－07	中根2遺跡	203						■	■	■		■							●★		平成11～13年第3集、平成15年第4集で報告。
	YD4－08	下酒遺跡	204							■	■		■	■			●	●	●	●★		平成12・13年第3集で報告。
	YD4－09	横木3遺跡	51					■	■	■				■	●			●		●★		
	YD4－10	二反河遺跡	52							■									●	●★		
	YD4－11	立馬1遺跡	37									■	■		●	●		●	●	●★		
	YD4－12	立馬2遺跡	213									■			●			●				
	YD4－13	上原M遺跡	44											■	●							
	YD4－14	林中原1遺跡	45											■							●	
	YD4－15	林中原2遺跡	46											■							●	
	YD4－16	上原3遺跡	42											■							●	
	YD4－17	林の前第遺跡	59		■			■							●							第2集で報告。
長野原	YD5－01	長野原一本松遺跡	63	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	●			●	●	●		第1集で平成6～8年報告。
	YD5－02	滝原遺跡	201	■	■				■											★		第2集で報告。
	YD5－03	久々戸遺跡	200	（■）			■	■	■					■						★		平成2年度（第240集）で、平成8～11年第2集で、平成15年第4集で報告。
	YD5－04	本陣遺跡	62			■	■					■			●			●	●	●		
吾妻町分		上畑B									■	■			●			●		●		
		上畑遺跡									■	■	■		●	●		●	●	●★		
		上畑A											■								●	第4集で報告。
		唐石A									■				●					●		
		松谷前遺跡				■														☆		
		三島大沢				■															●	
		大柏木上の沢				■															●	

第４節　基本土層

本遺跡の基本土層は、基本的には『久々戸遺跡・中棚遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』2003に準拠するが、同一の遺跡内でも場所によって若干の違いがある。

第Ⅰ層　表土。現在の耕作土である。

第Ⅱ層　暗褐色土（天明３年泥流堆積物）　アグルチネート岩片を僅かに含むが、河床を起源と考える亜円礫（最大径30㎝）を多く含むことがこの調査区で見られる1783（天明３）年泥流堆積物の特徴である。畑などに残された南東から北西に向かう溝状の傷が多く見られるが、遺構面を傷つけたと考えられる大きさ（最大径30㎝以上）の礫はこの土層中にはほとんど見られない。

第Ⅲ層　浅間Ａ軽石（As-A）１～２㎜大の発泡の良い白色軽石。少量ではあるが20㎜大の同質の軽石を含む。現時点では、降下日時の違いによるユニット分けは出来ないため、詳細な降下日時は不明である。本遺跡ではプライマリーな状態で１～２㎝程度の堆積である。

第Ⅳ層　泥流下畑の耕作土であり、３層に細分される。

第Ⅳa層　暗褐色土　畑耕作土。やや色調明るく、灰色味を帯びる。全体的に赤色の鉄分凝集層が混じる。締まりはやや弱く、粘性ややある。Ⅴ層を基層とし礫が除去されている。Ⅴ層に比べて色調明るい。

第Ⅳb層　暗褐色土　Ⅳa層よりも色調暗く、赤色の鉄分凝集層が混ざらず均質である。Ⅳa層同様、Ⅴ層起源と考えられる。

第Ⅴ層　土砂崩れ堆積層であり、３層に細分される。1742（寛保２）年の洪水による可能性がある。

第Ⅴa層　不均質に１～５㎝大の亜角礫を含み、やや締まり強い。土砂崩れ層と考えられる。全体に礫やや多く含む。

第Ⅴb層　Ⅴa層に比べて礫多い（30㎝大の礫含む）。

第Ⅴc層　Ⅴa層もⅤb層とも様相は異なるが、土砂崩れに伴う粗粒砂層や５～10㎝大の小粒礫層を中心とする。

第Ⅵ層　黒褐色土　締まり弱く、黒色味強い。５～10㎝大の亜角礫を含む場合もあるが、畑部分にはほとんど含まれない（礫は除去され、土坑・ヤックラ等に埋められたと考えられる）。

第Ⅶ層　土砂崩れ堆積層であり、２層に細分され、下面は畑である。近世から中世にかけての時期か。

第Ⅶa層　暗褐色土　Ⅵ層に含まれるものと同様な亜角礫を中心とした層。土砂崩れ層と判断する。

第Ⅶb層　暗褐色土　Ⅶa層とは様相が異なる粗粒砂層。畑を埋没させている。

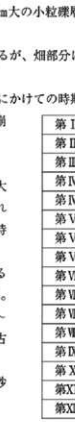
第Ⅷ層　灰褐色土　やや黒色味の強い灰質の土層で、耕作土である。下位に1128（大治３）年に浅間山から噴出した浅間粕川テフラ（As-Kk）が部分的に層状で検出される。この火山灰は色調が青灰色で、分布範囲が浅間山からやや北東軸である。堆積時期は中世から古代末にかけての土層であり、上面が中世の確認面である。

第Ⅸ層　黒褐色土　Ⅰ～Ⅸ層の中で最も色調暗く黒色味が強い。部分的に径の異なる亜角礫も含むが一様ではない。全体的に締まりは弱い。上面が平安時代の確認面である。

第Ⅹ層　暗黄褐色土　くすんだ色調のロームの二次堆積土。不均質で部分的に２～３㎝厚の砂層を含む場合がある。部分的には20～50㎝大の亜角礫を含む。上面が古墳時代の確認面である。

第Ⅺ層　黄褐色土　締まりは弱い。白色軽石（As-YPk）を少量含む。細粒の河床砂土を多く含む。弥生時代・縄文時代の遺物を含む。

第Ⅻ層　明黄褐色土　締まりはない。細粒の均質な河床砂土である。



第７図　基本土層図

第3章　遺跡の概要

第1節　検出された遺構・遺物

本遺跡からは、近世、中世、平安時代、古墳時代、弥生時代、縄文時代の遺構・遺物が出土している。これは前回の発掘調査と同様の時代構成であるが、内容の細部では異なる点も多少ある。

以下、それぞれの時代について概要を述べることとする。

まず、近世では1783（天明3）年の浅間山の大噴火とそれに伴う厚さ2m以上の泥流により、吾妻川の両岸一帯は岩や泥に覆われる壊滅的な被害を受けた。その結果、畑・水田・溝・道・石垣の跡、それに耕作に邪魔な石をまとめて片づけた「ヤックラ」などが検出された。

次に、天明の泥流よりも下位に少なくとも2枚の洪水層があり、それぞれの下面に畑の跡が検出された。上位の畑は南北方向のサク（畝間）のみが確認されたが、下位の畑については南北方向と東西方向の2つのサクに区画されており、さらにその下にやや向きが異なる南北方向のサクが確認されることから、さらに2つの時期の畑があることが分かった。つまり、合計で3時期もの畑が存在することが分かった。浅間－箱川テフラよりも上位であることから、近世から中世にかけての時期と推定される。

中世の遺構としては、集石と呼ぶ遺構があり、東西、あるいは南北方向の細長い長方形の穴が多数検出された。大小様々な大きさの角のある形の石が詰め込まれており、おそらくは畑を耕す際に耕作土である洪水層中の邪魔な石を一括処理するためのものと考えられる。

さらに、2基のお墓が検出されたが、その内の一つに埋葬されていたのは成人女性で、北に頭を置き（いわゆる北枕）、西に顔を向けた（阿弥陀仏が唱える西方極楽浄土の思想か）屈葬の状態であったが、後の畑の耕作などにより上側部分（全体の左半分）が残念なことに失われてしまっている。

平安時代の遺構としては、竪穴住居が2軒検出された。いずれも長方形の南東隅にカマドを持ち、底部がヘラ削りの土師器の坏や長胴甕、須恵器の大きな甕などが出土している。時期は長野原町内の他の遺跡にも多い、9世紀後半から10世紀にかけての時期であるのが特徴である。

また、調査区の東側の部分では、平安時代の竪穴状遺構や遺物の集中部分がそれぞれ何カ所か検出されており、そこからは灰釉陶器の椀や皿、土師器の坏や甕、須恵器の大甕などの破片が多数出土している。

古墳時代では、中期（5世紀末から6世紀中頃）の時期の竪穴住居が1軒だけ検出されており、西吾妻地区としては長野原町教育委員会が発掘調査した林宮原遺跡の1軒に続く2例目である。

この他に46区にかけて土師器の坏の内面に棒で引っ掻き磨いた跡である「暗文」が施されたものや、小型の甕、装飾品である白玉が集中して出土している。まるで、下田の観音堂が上に鎮座している大岩を取り囲むような形の分布であり、祭祀に関連して何らかの意図があるかのようである。

弥生時代は、前期末の土器の破片が集中して出土しており、付近には配石が認められる。

縄文時代は、中期の土器や石器が僅かに出土している。

第２節　近世

１　遺構

（１）畑と水田の全体構造

本報告で扱う調査区は、2000（平成12）年～2001（平成13）年度調査区（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』）西に隣接する。本報告では、これまでの報告にならって天明三年浅間山噴火で発生した泥流に被災した畑跡を「泥流畑」と呼ぶ。さらに天明三年耕作面の検討からは、一定の広さの耕作の単位が見出されていて、本報告でも解明途上にある「ツカ」との関連を示す資料として着目できる可能性を含んでいる。上記に基づいて、可能な限りで一筆の畑の構造を反映させ説明できるように、「単位畑」の構想で遺構区分し畑遺構を整理している。

本報告で扱う調査区の泥流面は、おおよそ北～南の傾斜方向に、短冊状に畑を区画し開墾していて、他に水田一筆が確認されている。調査区の中央を東西に通る１号道は地形に沿い、途中でやや蛇行し、一部で段差を造成してつくられており、耕作景観にある主要な作業道としての機能が見て取れる。畑や水田に通じる馬入れ道的な通路もこの道から分岐している。道は、ヤックラ状に集められた礫群の上位に設けられている場合や、畑の区割りの境界に礫を埋め込んで畑境とするなどの状況が確認されている。これは、畑を開墾する際に出てきた不要な礫が、地境や区画に沿って整然と片付けられたものと判断される。

開墾で出てきた不要な礫は、石垣を構築した際の段差の裏込めに用いたり、地境に溝を掘り埋め込み、その上位を畑の耕作土や道としている場合もある。この様に、耕作地を計画的に開墾し構築している特徴があげられる。特に、地境にある程度深い溝を掘り、そこに開墾で出た不要な礫を埋め込んでいる様子が顕著である。これは、第２面目で検出されているいくつかの溝状の遺構と泥流面の地境の位置が重なることや各遺構の断面図からも確認できる。この特徴は、大字林地内の室沢を境に西に隣接する中棚Ⅱ遺跡の畑の様子とも調和的である。

本遺跡の耕作地景観の中では、根切り溝が多く巡らされた耕作地であることに気づく。現在でもまとまった降雨があると、周辺に雨水が集中することがある。このことは発掘調査された泥流畑でも同様であったとみえて、根切り溝などが要所要所に施され、雨水対策がなされた畑が多いということになる。

本報告で扱う畑景観の中では、天明泥流被災後の復旧作業や後の開発などに伴う撹乱が目立つ。これは、今までに報告された遺跡の例と等しく、傾斜地には天明泥流堆積物の堆積厚が比較的薄いことも影響しているのであろう。

１号道と10号道で画され、S17号畑の西側の、畝サクの確認されない平地は、現況図で見るとおり被災時に耕作されていたかどうか、あるいは、撹乱による窪地であるかは確認できない。

１号道、S13号畑の区画、S17号畑の中単位の境界、S19号畑やS20号畑の区画などは、おおむね現況の耕地の区割りとも一致している。このことは、天明泥流被災後もある程度の地割りが地形として残されていたことや被災後あまり時間を経ずして復旧にあたった所産とも考えられる。

（２）畑と水田

S５号畑は、S５-１号畑、S５-２号畑の２つの単位畑で構成され、S５-１号平坦面、S５-２号平坦面がそれぞれ所在している。１号道の段差下に位置し、その下段にはS６号畑が所在する。S５-１号畑中央西にある長軸４mの不定形の撹乱には最大40cm大の礫が充填されていた。この礫は、天明泥流中のものかどうか

は調査時点では確認されていない。S1号水田側に広い範囲で撹乱があるが、石垣の残り部分などの推定によりこの畑の面積を計測している。

S6号畑は、南側が未検出で構造を把握するには至らないが、都合3か所に平坦面が検出されている。現況地形からはさらに南に遺構範囲が広がるものと考えられる。北端にS6-1号平坦面があるS6-1号畑の様子からすれば、単位畑S6-2号畑との境はS6-2号平坦面の北側と考えられる。S6-3号畑にあるS6-3号平坦面は、撹乱となって東半分が不明瞭である。S6-3号平坦面では不明だが、この畑の平坦面は、中央に長楕円の溝状の窪みがあり、この畑での特徴の一つといえる。耕作者の手法の個性か、作物が栽培されていたと仮定すればその種類による違いなのかもしれない。

S7号畑は撹乱が著しい。天明泥流堆積物の厚さが薄いために、近代の耕作により削平されたものかもしれないが、詳細は不明である。後述のS10号畑やS11号畑と一筆になる場合や不自然にヤックラの礫が多いことから、開墾後の土砂流入など耕作地の変容があり天明三年を迎えていたのかもしれない。S10号畑との境界には、明瞭な踏み分け道が存在していることで、一応筆の異なる畑と解釈した。

S8号畑では、便宜上5枚の単位畑に区分けした。未調査部分や大規模な撹乱は、電柱の設置や現況の住宅建設あるいは試掘によるものである。S8-1号平坦面とS8-5号平坦面の他にも平坦面があったかどうかは、畑の構造を考える上では着目されなければならないが、撹乱が多く詳細は不明である。S8-1号畑とS8-2号畑は、畝サクの境界で区分けした。S8-3号畑は撹乱が多く、詳細が不明である。47区K-18～19グリッドに位置する溝状の撹乱は泥流被災後の所産と考えられるが詳細は不明である。S8-4号畑は畝サクの変換から便宜上単位畑として区分けしたが、かならずしも適切とはいえない。S8-5号畑もトレンチによる撹乱などが著しく構造を把握するには不明な要素を含んでいる。北側の傾斜部は推定により範囲を想定し、S8号畑の面積計測をした。

S9号畑は、ヤックラなどに区画されることで単位畑の面積関係を厳密に把握できる可能性があるが、北側が調査区外となり未検出のためそれには至らない。

S10号畑は、S7号畑で記述したとおり、S11号畑と一筆の畑であった可能性がある。10号ヤックラが、S7号畑とS11号畑を深い段差で区画していることを含めて、畑の構造を考える必要があるかも知れない。47区H～J-17グリッド付近の畝サクの食い違いから単位畑に分けられるかもしれないが不確定な要素が多いので一括でS10号畑とした。北側の未検出部分や撹乱があるために、ここではこれ以上検討が及ばない。

S11号畑は、上記のように検討される必要があるが、単位畑の面積という視点では着目できる広さ（167㎡≒50.6坪）となっている。東部分を鉤の手で南北に通る溝の性格については不明である。

S12号畑は、S1212号平坦面が配置されるS1212号畑、S123号平坦面が配されるS123号畑、S125・6号平坦面が配されるS124～7号畑の3つの中単位として、細分される。面積と単位畑の数による構造については、第4章第1節を参照されたい。北側の傾斜部はS8号畑同様推定により範囲を想定し面積計測した。

S13号畑は、一部未調査部分があるが、推定により面積の算出をおこない、166㎡（≒50.3坪）の計測値を得ている。この計測値には、サクが2条検出されている先端部の巨礫の北部分を含め計測した値である。この畑の両側に不要な礫を積んで道にした痕跡があることは、南北に畑を短冊状に区画し開墾している調査区全体の景観に調和的である。

S14～16号畑は、東側が未検出で詳しくは不明である。畑遺構面の凹凸は、泥流中の礫による撹乱と考えられるが、詳細は不明である。

S17号畑は、少なくともS17-1～4号畑、S17-5～8号畑、S17-9・10号畑の中単位に区分され、S17-1

～10号平坦面が配置されている。このうち、S17-4号畑については、鋤込みがおこなわれた畑の可能性があるが、調査記録が残されていないため不詳である。①S17-5～8号畑とS17-9・10号畑では軽微な段差となっていること、②平坦面の配置が異なることなどから、一筆の畑と考えるには不適切かもしれない。しかし、それ以上の積極的な理由が見つからないため、調査時の遺構区分に則った。また、中単位を絡めた畑の構造については、未検出部分が多く検討を慎重にするべきであろうが、「中単位の幅×平坦面間の距離」から面積の概算がおこなえることは検討されてよい。つまり、125m×12m＝150㎡（≒45.5坪）程度の広さを考えておきたいが、S17-1～4号畑側の規模が確認できないため、あくまで目安である。

S18号畑は、S18-1号畑とS18-2号畑の2枚の単位畑としたが、撹乱や未検出が理由で的確な解釈には至らない。帯状の撹乱は、天明泥流堆積物の厚さの都合で、近代までの耕作痕が及んだものや泥流中の不要な礫を埋め込んだものであろうと考えられる。

S19号畑においても、便宜上S19-1号畑とS19-2号畑に区分したが、遺構面が調査区へと続くため、本来の構造を把握するには片手落ちとなっている。

S20号畑 においても、前述のS19号畑の場合と同様で、S20-1号畑とS20-2号畑に区分けしたが、本来の構造を説明した遺構分類の区分ではない。S20-12号平坦面の他にも平坦面が確認されるのかも知れないが、遺構面を傷つけた撹乱痕跡が検出を難しくしている。この方向性は、泥流中の礫の撹乱方向として確認しておく必要があろう。

S21号畑とS23号畑の段差付近は撹乱となっているが、段差により区分けされる2筆の畑と考えられる。8号溝が両畑を切っていることは、畝サクが溝の両側で揃っていることから分かる。S23号畑の畝状に表現されている撹乱には、天明泥流堆積物中の礫が充填された溝条の掘り込みであることが写真記録から判断できる。

S22号畑は極狭小な畑である。この類の畑を石高制度の中で当時どのように扱ったかは、歴史学的な視点で検地帳などから確認しておく必要もあろう。

S24号畑は、11号溝が鉤の手に廻ることでS23号畑と区画される。11号溝が天明三年に帰属するものとすれば、意図的に区画された理由が求められるが詳細は不明である。地形的な要因でこの様な形状となっているものかもしれないが、土砂の流入などによる耕作地の変形が理由かもしれない。

S1号水田では、As-A軽石の堆積が見られないことから、天明三年当時の水田面としての確証や耕作がなされていたかどうかなどの状況が得られていない。14号石垣下の12号溝が引水の機能を果たしていたと考えられるが、11号溝からの引水が水口とすれば左右に流れる引水の状況が理解できない。3本の溝の関係は、9～11号溝の項で記述したとおりであるが、帰属時期を取り違えているとすると、畑と溝の構造が変わってくる。残存している47区Q-9～R-10グリッド付近の畦畔からは、5.6mの芯材とした炭化材が出土している。残存状況は不良で、建築部材などの加工品の転用部材か未製品なのかについて判別できない程度で、1本の材であるかどうかも判断できない。

また、14号石垣と15号石垣に沿う形で杭が18本確認されている。途中番号が抜けているが調査時の番号をそのまま用いた。杭1～6、15は水田面に南に傾倒するように50cm内外の間隔で打ち込まれている。杭7～10、14は14号石垣に交差するようにやや不規則な間隔で打ち込まれている。杭1～9までの配列を写真で見ると、さらに石垣下に続いていくようにも考えられる。また、これらは畦畔の芯材となっていたのかもしれない。杭11～13、20～22は、石垣と密接に関連して、積み石と組み合わせて石垣が構築されていたと観察できる。その用途は、石垣造成や土盛りに伴う土留め杭などが想定される。これらの杭の最大長は88cmを計

り、そのいくつかは角材に加工された痕跡が確認できる。芯材、杭材について詳しくは第21、22、46～50図を参照されたい。

（3）ヤックラ

8号ヤックラは、1号道の両側の段差を築く11号石垣につながり、S23号畑の際に位置している。S23号畑側に片付けられない礫と2段の石積みの内側に握り拳大以上の礫が投げ込まれている。堀込みをもち礫が集められていることからすると、開墾時に不要な礫が集められたものと考えられる。南西側はS21号畑とS23号畑の境界になる段差となっているが、その大半部分が撹乱のため不詳であるが、本ヤックラが段差に続いていた可能性も考えられる。最大径が1m近い巨礫を核に、30cm大の礫を据えて範囲を区画して礫が集められている。

9号ヤックラと10号ヤックラは、南北のトレンチが通り遺構全体を確認することはできない。9号ヤックラは東半分が残されているのみである。10号ヤックラは、S10号畑とS11号畑を2mの段差としている。径1mに及ぶ礫を核にして傾斜の下がる南側に一部石積みによって範囲が区画され、内部に握り拳大以上の礫が積み上げられている。積み込まれた礫は何段階かに分かれる可能性がある。握り込みが確認できることから、開墾時から、不要な礫が放し出されて構築されたものであろうと考えられる。

11号ヤックラは、S12号畑の中に設けられ、小山状に積み上げられている。西側で石積みにより礫が積み上げられ範囲を区画していることが下位から確認でき、南端にはS12-3号平坦面と接している。北側と東側では耕作土が上位に載り、握り込みが確認できることから、開墾当時から不要な礫が集められたものと考えられる。

12号ヤックラも11号ヤックラと同様にS12号畑の中に設けられている。北側では耕作土が上位に載っていて、傾斜の下側の南側で大きめの礫を並べ範囲を区画している。

13号ヤックラは、S12号畑とS14号畑を区画する段差を構成している。24号石垣の積み石の途切れる部分である。人為的に片付けられた礫の集まりというよりも、土砂の流入の先端部の礫の集まりであるように思われ、西側に傾斜する段差となっている。

14号ヤックラは、人為的に集められた礫で構成される西側と、自然礫の集まりと考えられる東側部分とで構成されている。主体部分が未調査となっており、ヤックラの範囲が明確ではない。S17-1号平坦面はこのヤックラの南に位置している。東側で一部礫が積み上げられ、範囲を区画している。

15号ヤックラは、地表部の径が3mを超える巨礫を核にして、S17号畑の背後に礫を人為的に集めたものと考えられる。その背後に、1号道が構築されている。

16号ヤックラは、東を通る8号道と一体となり、段差に握り込みS17号畑とS18号畑を区画している。比較的大きめの礫で周囲を囲い、構築された後にも細かな礫を丹念に放し積み上げて構築されていることがわかる。耕作時にも継続して片付けられたものと考えられる。8号道は、最初の段階のヤックラの上位に位置する。

（4）道

1号道は、調査区中央を東西に走行する。被災後に設けられた現況の道の前身として現道とほぼ重なる位置で検出された。路面にはAs-A軽石が比較的均質で良好に堆積していた。この道からは、各畑へ分岐し延びる馬入れ道的な道が多い。本道は、周辺で耕作地と集落を結ぶ、農作業道としての機能を持っていたと考

えられる。段差に沿って畑景観を南北に区画しながら、多少地形に沿ったカーブを描いている。途中、段差に積まれた石垣や畑の根切り溝、ヤックラなどと隣接、併走している。最大幅は12mを計る。段差のみならず、地点により不要な礫を集めた上に道を構築していることも確認できる。このことからは、畑の開墾と共に道がつくられたことが理解できる。48区D-12グリッド付近は、本道からS21号畑に降りるスロープにもみえる。途中、南下する15号溝により寸断される。

２号道は、S20号畑にはじまる根切り溝である９号溝、S19号畑の根切り溝に挟まれ、途中12号石垣や13号石垣と併走する。水田の畦畔状に設けられた道である。東側の起点がどの地点になるかは調査時には明らかにされていない。場合によっては、S19号畑の北東を廻る高まりと繋がるのかもしれない。

３号道（断面図６号溝参照）は、S18号畑とＳ８号畑の境界に所在し、６号溝と併走し、１号道に交わる。北側は調査区外に延び、起点は不明である。その構造は、ヤックラ状に不要な礫を集めた上に道を構築し東に傾斜する土手状を呈している。

４号道（断面図15号溝参照）は、Ｓ８号畑、Ｓ９号畑とS10号畑の境界に所在し、15号溝と併走し、１号道に交わる手前で、一端途切れる。盛り上がった馬入れ道である。S10号畑とは最大25mの段差を持ち南下する。北側は調査区外に延び、起点は不明である。

５号道は、Ｓ７号畑南東の先端付近から調査の及ばなかった47区D-15グリッド付近に延びる。S11号畑とS13号畑の１mの境界段差の上面を南下し、調査区外となる。馬の背状に盛り上がった形状をなし、おそらく１号道へと繋がるものであろう。

６号道は、S12号畑とS13号畑の境界に所在し、南下して１号道に交わる。最大で３m近い間隔で両端に積まれた21号石垣と23号石垣などで区画した内部に不要な礫が重なり、馬の背状に盛り上がった上位を道としている。北側は調査区外に延び、起点は不明である。

７号道は、S12号畑とS14号畑、S15号畑の境界に所在する。掘り込みに不要な礫を充填し、ヤックラ状の礫の土盛りの上面が本道となる。南で１号道と交わる。

８号道は、１号道を起点に、18号ヤックラの東に隣接して通り、S17号畑とS16号畑の境界を南下し46区R-７グリッド付近でS16号畑に接続するため１号道からS16号畑への馬入れ道と考えられる。一部で道の両端に礫を並べている。

９号道は、１号道を起点に80cmほどの段差のスロープを降りS23号畑の東を外周するが、一部で撹乱のためどこまでが範囲かは不明確である。S23号畑には一部で根切り溝が併走する。

10号道（断面図15号溝参照）は、Ｓ５号畑とＳ６号畑に沿う15号溝に併走して１号道を起点に南下し、調査区外へと延びる。15号溝と本道は、両側の畑開墾に伴って不要な礫を集めて意図的に構築されていると考えられる。ただし、東側の畝サクの確認されていない平地は、被災時に耕作されていたかどうかは不明である。

（５）石垣

11号石垣は、１号道を挟んで、S18号畑とS21号畑の境をつくる段差を区画している。調査時に道両側の石垣をあわせて同一遺構名としているためこれにしたがった。傾斜部分を含めて、途中石積みが途切れる部分もあるが一連部分を本石垣に含めている。断面図で確認するようにS18号畑側では、傾斜に対して奥行き約１mの掘り込みに、ヤックラのように不要な礫を集めて裏込めとしていることがわかる。さらに、その上位に耕作土を盛り上げている。一部で、長平な礫を最下部に水平に据え布目状に積み上げているが多くは乱

石積みである。S21号畑側は1号道の造成し根固めとなるように積み上げられている。斜面部分には径2.5mを超える巨礫が確認できる。

12・13号石垣は、S19号畑とS20号畑の境界を区画している。本石垣の南には排水を目的と考えられる深さ20cmほどの根切り溝が併走する。小口とは限らないが、いずれも礫の平らな面を表にそろえて積み上げている。13号石垣はS19号石垣の東外側を囲うように廻り、S21号畑とS23号畑の段差の一部を起点とする。8号溝が後世の攪乱としても途中、11号溝が横断している。

14号石垣は、S23号畑、S24号畑とS1号水田の境界に構築された石垣で、S1号水田に注ぐ11号溝が注ぎ込んでいる。この部分については、溝に沿って並ぶ礫などは確認されていないことからすると、この溝が石垣を新しく切っているようにも考えられるが、As-A軽石の堆積の有無などの検出状況などを含め詳細は不明である。

15号石垣は、調査の時点で14号石垣の延長でさらにS5号畑とS8号畑を段差で境界とし、都合4枚の田畑を区画し平面で「S」字を呈している。調査時に14号石垣と別遺構として扱われていたためそのまま扱ったが、前述の14号石垣と一連の遺構と考えてよい。この石垣を47区R-9グリッド付近で切っている攪乱は、9号道と併走する根切り溝に続くようにも見えるが、As-A軽石の堆積状況などの判断要素を含め、詳しい検討は今後の課題である。

16号石垣は、S5号畑、S1号水田と段下のS6号畑の3筆の境界となっている。北段上にある広い範囲の攪乱が、どのように形成されたかは不明であるが、現況地形図から見ると、現況の耕作による攪乱の可能性がある。S6号畑側には14号溝が所在するが、明瞭な掘り込みが確認されることから、踏み分け道や耕作地の根切溝のような性格とは考えにくく、S1号水田との関連も検討すべきであろう。奥行き約1mの掘り込みを石垣の裏込めとし、長平な礫を最下部に水平に据え、石垣を積み上げている。

17号石垣は、段差の西面に礫を積み上げ区画し、ヤックラ状に礫を集めたものとも考えられる。以下の18号石垣や19号石垣と同様な構成と考えられる。調査時点の判断にあわせ石垣の遺構に分類した。この石垣の背後の礫の集合部分は裏込めと考えられる。

18号石垣は、17号ヤックラと同様に、S7号畑とS13号畑の境界にヤックラ状に集められた礫の集合部分とS7号畑を区画する西面に構築された石垣である。調査時点の判断にあわせ石垣の遺構に分類した。

19・20号石垣は、18号石垣とあわせてS7号畑とS13号畑の段差と境界を構成している。いずれも、石垣を構成する礫の中で大きめの礫を土台に据え、上位に礫を積み重ねていく様子が確認できる。また、斜面の2m以上の片付けることができないと考えられる巨礫が含まれている。

21号石垣は、20号石垣と隅をやや鋭角に交わり、23号石垣と対になり、S12号畑とS13号畑の境界を区画している。6号道がヤックラ状に積まれた礫の上位に南北に走行することから、意図的に単一面の耕作地を区画する目的があったと考えられる。このことは、開墾に関わる規格性を示すものと考えられる。

22号石垣と23号石垣は、S12号畑を東向きに区画し、21号石垣、6号道と共にS12号畑とS13号畑の境界を構成している。裏込めや構造についての詳細は不明である。

24号石垣と25号石垣は、直角に繋がり、S14号畑とS12号畑、S15号畑との境界段差を構成している。掘り込みや裏込めは、多量に礫を埋め込むような形態はとってはいない。

（6）溝

6号溝は、S18号畑の東端に沿って南下している。礫がヤックラ状に片付けられた上位を道として利用し、

それに隣接併走して本溝が所在している。起点と終点の様子からは、常時流水のあった溝とは考えにくく、雨水時の排水や道に対する根切り溝を機能として考える。また、畑の畝サクの終点とはかけ離れていることから、被災後の復旧や開削に伴う溝と考える見方もできるが、詳細な状況については今後の課題である。

７号溝は、９～11号溝へ繋がる流水路である。調査前の現況地形にも、国道145号下からの湧水が確認できたので、おそらくこの前身となる通水路であったと考えられる。本溝は、段差を流れ11号溝へ繋がる。

８号溝は、調査時点では７号溝から分岐しているように記録されているが、被災後の復旧や開削に伴う溝と考えた方が自然かも知れない。本溝内には調査時点で軽石が確認されていないことや溝の両側でS21号畑内の畝サクの流れが一致すること、溝がS23号畑内で終束してしまうことなどがその理由であるが、それ以上の根拠を示すことができないので、可能性を示しておくに留めておく。

９号溝は、S20号畑の北縁辺から、東段差を南下し、調査区外へ延びる。起点は、畑の段差となる根切り溝の形状であることから、常時水が流れるものではなく、雨水排水が目的の溝であろうと考えられる。

10号溝は、９号溝と11号溝を連絡している。９号溝が常時通水していないとすれば、本溝は、Ｓ１号水田での水落しの際の流水を取り回す機能があったと考えてよいかもしれない。新暦８月５日という季節性から見た農事暦からすれば、11号溝に通水がなされていない状況で、10号溝が９号溝への導水の機能を果たしていた可能性もある。調査時点でのそのような視点と観察はなされていないため、想定としておくに留めたい。

11号溝は、鉤の手にS22号畑の周囲を廻って、Ｓ１号水田へと注ぎ込んでいる。９～11号溝の流水や用水の取り回しについては、溝内に残され検出されている埋没直前に降下している軽石の堆積の有無等を含めた検討がなされる必要があろう。

12号溝は、Ｓ１号水田と14号石垣、15号石垣の間に位置している。水田の周囲を廻るのではなく断続していること、水田の周囲に明確な畦畔を伴っていない点などに検討を要する。

13号溝は、47区P-13グリッド付近を起点に、１号道の段下でＳ５号畑の北縁を東に下って、３％程度と緩勾配で15号溝に合流している。おそらく雨水時の排水の機能を目的としたものであろう。

14号溝は、16号石垣とＳ６号畑の間に位置している。段上にあたるＳ１号水田の切り回しした水が通水されていたとも考えられるが、周辺に広い範囲の攪乱があり詳細は不明である。勾配は１％に満たない。

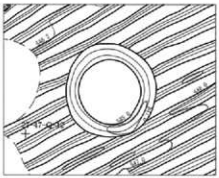
15号溝は、Ｓ９号畑の東西、17号石垣の西のあわせて３本の分岐が、47区J-18グリッド付近で合流し、南下してさらに13号溝と合流して、調査区外へと延びていく。14％と急勾配で４号道、10号道と併走しているが、常時通水していた流路かどうかは確認できない。Ｓ５号畑やＳ６号畑付近では明確に畑と区画され礫を積み水路状を呈するが、１号道よりも上流側では、ヤックラ状に片付けられた礫の上に道と共に段差を形成し設けられていることがわかる。

２　遺物

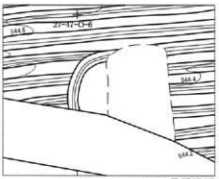
ここでは中近世の遺物をまとめて紹介する。これは天明三年の泥流中から出土した遺物に、近世の遺物が混ざるのは当然としても、中世、さらにはそれ以前の時代に属すると考えられる資料まで含まれていることから、中近世の時期の遺物を一括で紹介することとしたからである。

この時期の遺物としては、陶磁器、金銅製品、石製品、木製品などがある。種類は、磁器、陶器、軟質陶器、鉄鍋、鐘、煙管、古銭、石臼、擂り石、砥石、下駄、櫛、杭などがある。

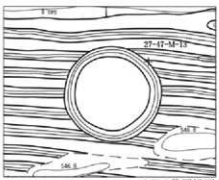
ここでは、それぞれについてみていくこととする。



S5-1号平坦面

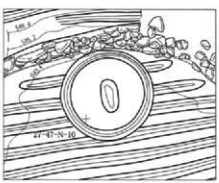


S6-3号平坦面

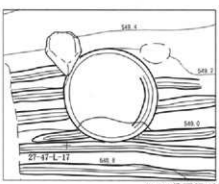


S5-2号平坦面

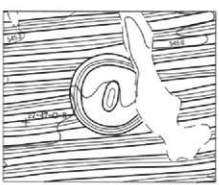
S8-1号平坦面



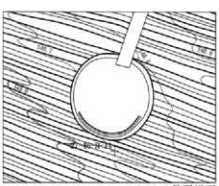
S6-1号平坦面



S8-5号平坦面



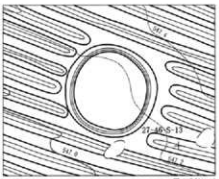
S6-2号平坦面



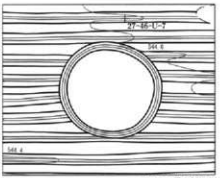
S12-1号平坦面

0　1:80　2m

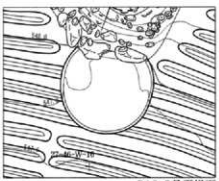
第18図　S5、S6、S8、S12号平坦面



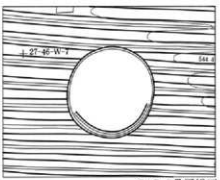
S12-2号平坦面



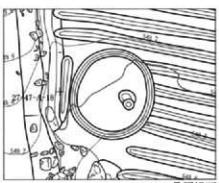
S17-1号平坦面



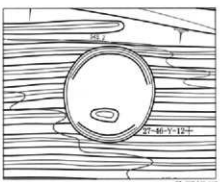
S12-3号平坦面



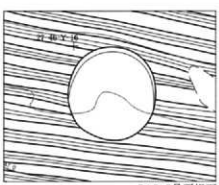
S17-2号平坦面



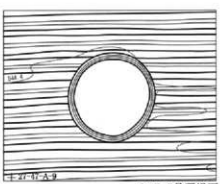
S12-5号平坦面



S17-3号平坦面



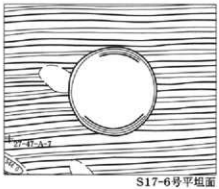
S12-6号平坦面



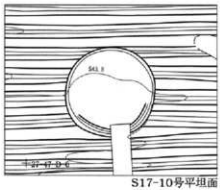
S17-5号平坦面

0　1:80　2m

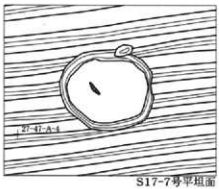
第19図　S12、S17号平坦面



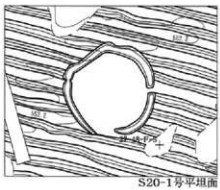
S17-6号平坦面



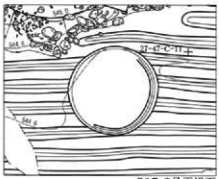
S17-10号平坦面



S17-7号平坦面

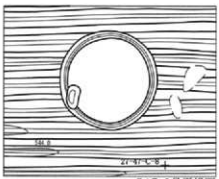


S20-1号平坦面



S17-8号平坦面

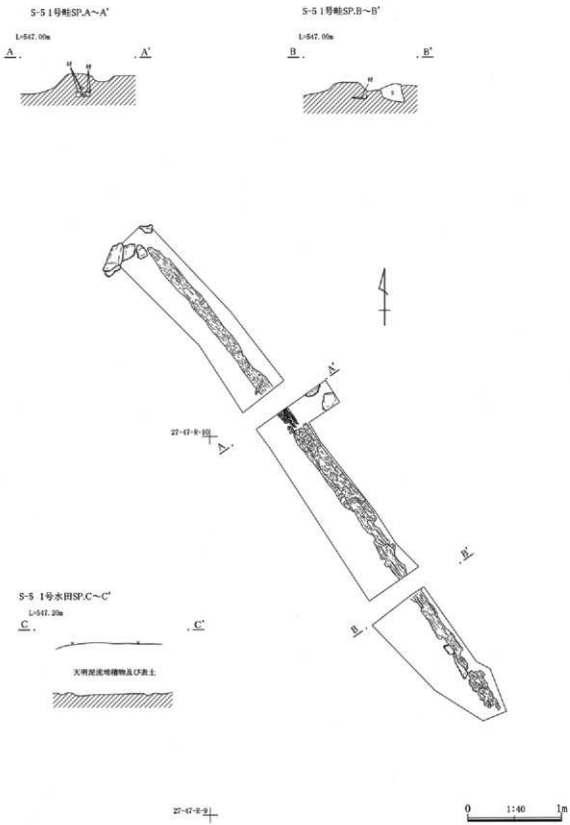
S20-2号平坦面



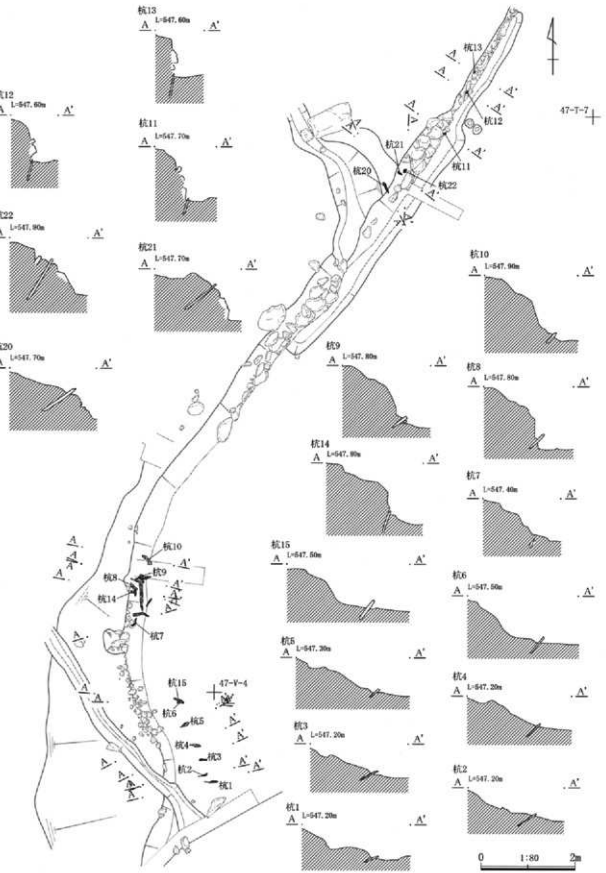
S17-9号平坦面

0　1:80　2m

第20図　S17、S20号平坦面

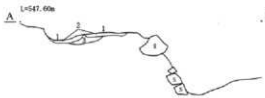


第21図　S1号水田　畦畔芯材



第22図　S1号水田　杭1～15、20～22

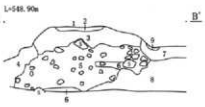
1号道



１号道Ａ－Ａ'

1　As-A軽石　（サビ層あり）
2　極暗褐色土(Hue7.5YR2/3) 礫ほとんどなし。細かい粒。サビ層少々。
3　極暗褐色土(Hue7.5YR2/3) 礫ほとんどなし。炭化物わずか。

1号道



１号道Ｂ－Ｂ'

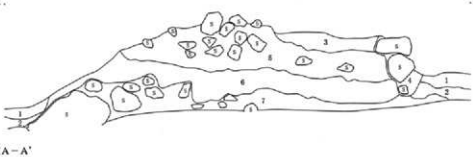
1　赤褐As-A軽石　（サビ層あり）
2　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径３cm礫50%。しまる。
3　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径１cm～３cm礫20～30%。砂状粒10%。
4　黒褐色土(Hue10YR2/3) 礫はほとんどなし。石垣をとめる土。
5　黒褐色土(Hue10YR2/3) ヤックラ（角礫）がつまる。
6　黒褐色土(Hue10YR2/3) と砂利のまじり。礫がヤックラ状にはいる。ヤックラの一部。
7　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径１cm礫５%。耕作土。
8　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径１cm礫５%。褐色粒５%。
9　黒褐色土(Hue10YR2/3) 礫ほとんどなし。やや細かいつぶ。

5号道

５号道Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR2/2) 江戸耕作土。径１cm礫２%含む。粘質。
2　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径３cm亜角礫含む。しまる。根石とその掘り込み。
3　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径10cm亜角礫２%。やや砂まじり。しまりなし。

6号道



６号道Ａ－Ａ'

1　肥流下耕作土　黒褐色土(Hue10YR2/3) やや砂質。しまりあり。径５mm軽石少量。
2　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径５mm軽石２%。やや砂質。しまりあり。
3　道部分。黒褐色土(Hue7.5YR3/2) 砂質。固い。径５～10cm角礫２%。植物根あり。
4　石垣部分　黒褐色土(Hue7.5YR3/2) 径50cm角礫が積まれている。石の間の土は砂質でやわらかい。西の石垣は明確に見えない。７層に含まれる巨礫（径１m）の上にヤックラの層があふれ出している。
5　ヤックラ部分　黒褐色土(Hue10YR2/3) 石と石の間はせまい。径15～20cm角礫が道の西側に多い。径５～10cmの角礫が道の下に多い。間の土は砂質でしまりなし。ボソボソしてやわらかい。
6　黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘質。しまりあり。径３～５cmの礫を多数含む礫層である。５層のヤックラの石を入れる前に土を入れている。
7　ヤックラ部分 ？　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径15～20cm角礫を多く含む（特に西側）。粘質。しまりあり。固い。

0　1:50　2m

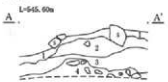
第23図　1、5、6号道

7号道

7号道A－A'

1　黒褐色土(Hue7.5YR3/2)　泥流下耕作土。やや粘質。径3cm角礫1％。径1～2cm小礫10%まざっている。
2　黒褐色土(Hue10YR3/2)　道部分。径15～20cmの角礫が並べられていて上にはもりあがったやっくらもある。やっくら部分の石は径5～10cmの角礫。間にはやや粘質の土が入れられている。6層のやっくら部分の石も多少まざる。
3　黒褐色土(Hue7.5YR3/2)　径3～5cmの角礫が多くまざる。（10%）やや粘質。しまりあり。
4　黒褐色土(Hue7.5YR3/2)　径2～3mmの軽石が見られる（5％）。径5～10cmの角礫少量。やや粘質。しまっている。
5　黒褐色土(Hue10YR2/3)　石積み部分。径30cmの角礫で構成。間には径15cmの角礫。粘質はあるがやわらかい。
6　黒褐色土(Hue10YR3/2)　やっくら部分。中央に径15cmの角礫。両側に径5～10cmの円礫、角礫が集中。石と石の間がせまくこんでいる。粘質はあるがやわらかい。
7　黒褐色土(Hue10YR3/2)　やっくら部分。広く掘り込みが行われていて径15～30cmの円礫・角礫がほぼ均等にうまっている。粘質はあるがやわらかい。石と石の間は6層に比べると広い。
8　黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質。しまりあり。径5～10cmの角礫が多く含まれる（10%）。径3～5mmの軽石も5％見られる。
9　黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質。しまりあり。径20cmの巨礫あり。径10cmの角礫が7層部分に隣接して見られる。
10　黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質。礫層。固くしまっている。径3～5cmの小礫のあと多数あり。径3mm軽石も多く見られる（10%）。径1～2cmの小礫多数。均等に配置。

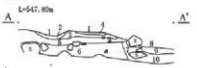
8号道



8号道A－A'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質。径1cm亜角礫1％含む。烟耕作土。鉄分沈着。しまる。
2　黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質。径1mm～3cm砂、礫多く含む。しまりなし。径15cm亜角礫含む。洪水ｏｒ山崩れ層。
3　黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質。径3cm亜角礫3％。砂含む。
4　黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質。径10cm～25cm礫含む。

9号道

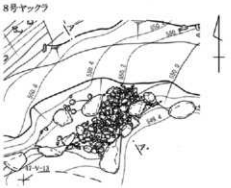


9号道A－A'

1　As-A　（サビ層あり）
2　極暗褐色土(Hue7.5YR2/3)　礫ほとんどなし。サビ層少々。
3　極暗褐色土(Hue7.5YR2/3)　径1cm～5cm角礫20%。サビ層多い。
4　黒褐色土(Hue10YR2/3)　かたくしまる。炭混
5　黒褐色土(Hue10YR2/3)　～極暗褐色土(Hue7.5YR2/3)　径1cm～5cm礫10%。
6　黒褐色土(Hue10YR2/3)　大、中、小、隅丸角礫多い。砂状の粒が多くまじったかんじ。
7　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径1cm礫わずか。
8　黒褐色土(Hue10YR2/3)　砂状。サビ層あり。
9　黒褐色土(Hue10YR2/3)　～極暗褐色土(Hue7.5YR2/3)　径1cm礫5％。サビ層やや多い。
10　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径1cm～3cm礫15%。サビ層少々。

0　1:50　2m

第24図　7、8、9号道



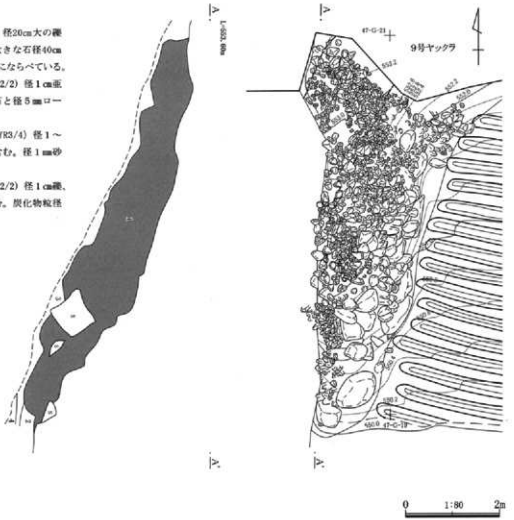
９号ヤックラＡ－Ａ'

1　礫層。ヤックラ。径20cm大の礫多く根石として大きな石径40cm大のものをまわりにならべている。

2　黒褐色土(Hue10YR2/2) 径１cm亜角礫、径５mm軽石と径５mmローム粒混入。粘質。

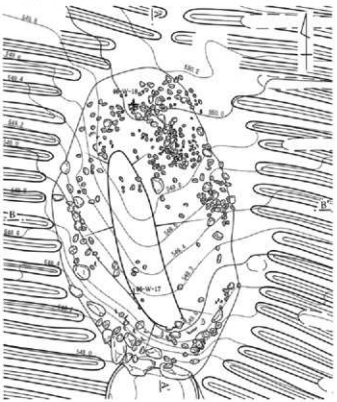
3　暗褐色土(Hue7.5YR3/4) 径１～５cm亜角礫多く含む。径１mm砂層含む。

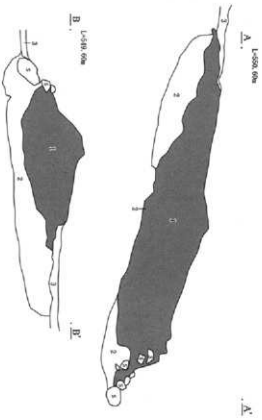
4　黒褐色土(Hue10YR2/2) 径１cm礫、５mm軽石１％含む。炭化物粒径５mm含む。粘質。



第25図　8、9号ヤックラ

11号ヤックラ



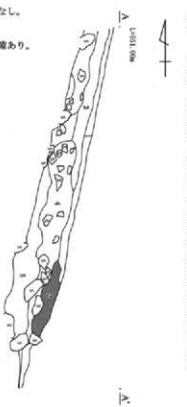


11号ヤックラA－A'・B－B'

1　泥流畑耕作土。

2　暗褐色土(Hue10YR3/3) しまりなし。
　　径20cm角礫5％含む。

3　径10cm亜角礫主体。石の間は空隙あり。



12号ヤックラA－A'

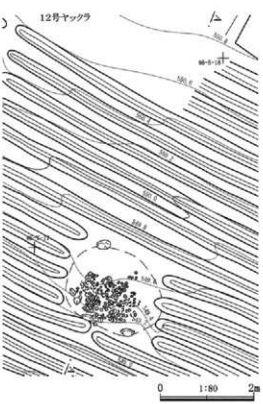
1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径2cm亜角礫1％。泥流畑耕作土。しまりなし。

2　径10cm亜角礫主体。12号ヤックラ。黒褐色土含む。しまりなし。

3　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径3cm亜角礫3％。しまりなし。

4　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径10～25cm角礫30％。しまりなし。

5　黒褐色土(Hue10YR2/2) 径20cm角礫5％。ややしまる。地山に礫がまじる。



0　1:80　2m

第26図　11、12号ヤックラ

第27図　10号ヤックラ

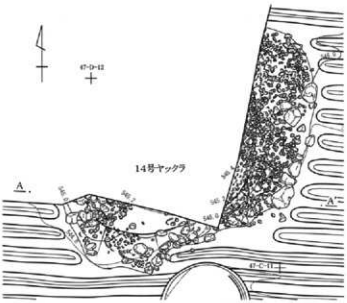
磁器は、江戸時代の17世紀末から19世紀にかけての肥前系の有田・波佐見焼が多いものの、第96図-１のように13世紀から14世紀にかけての中国・龍泉窯系など、中世と考えられる資料も一部にある。

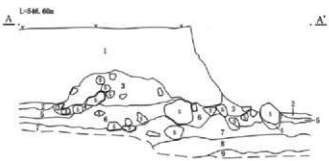
陶器は瀬戸・美濃を中心に江戸時代から現代にかけての資料が大部分であるが、15世紀代の古瀬戸や16世紀代の大窯期のものも僅かであるが出土している。

軟質陶器は内耳鍋（内耳の付いた土鍋）や焙烙（ほうろく）の近世と考えられる資料が大部分である。

金属製品では、煙管（キセル）が注目される。その詳細については第４章第７節で述べているので参照していただきたいが、特にⅢとⅣの形態の間の時期が天明三年（1783）に相当するので、今後も注意していきたい。

鉄鍋は破片だけであるが、胴部から底部にかけての「く」の字状に折れている部分であり、おおまかな形





14号ヤックラA－A'

1　天明泥流堆積物

2　黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質。径1cm礫1％。江戸時作土。

3　径5～20cm亜角礫主体。しまりなし。空げきあり。黒褐色土間に入る。

4　黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質。しまりあり。

5　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径3cm亜角礫2％含む。

6　黒褐色土(Hue10YR2/3)　砂多く含む。径15～25cm亜角礫5％。

7　黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質。ヤックラ下は径40cm程度の礫、程は径5cm程度の礫2％含む。

8　黒褐色土(Hue10YR2/3)　砂礫多く含む。径3～15cm礫（角礫中心）5％。流水and山崩れと考えられる。

9　黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質土。

15号ヤックラA－A'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径1cm亜角礫1％。緑作土（江戸）。

2　黒褐色土(Hue10YR2/3)　特にしまる。径1cm礫1％。道硬化面。

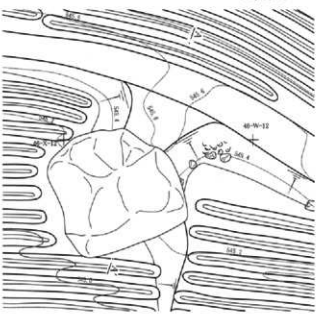
3　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径2～3cm礫1％。しまる。

4　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径10cm亜角礫主体。ヤックラ。

5　黒褐色土(Hue10YR2/3)　砂質土。径5～20cm亜角礫2％。

6　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径1～3cm礫3％。

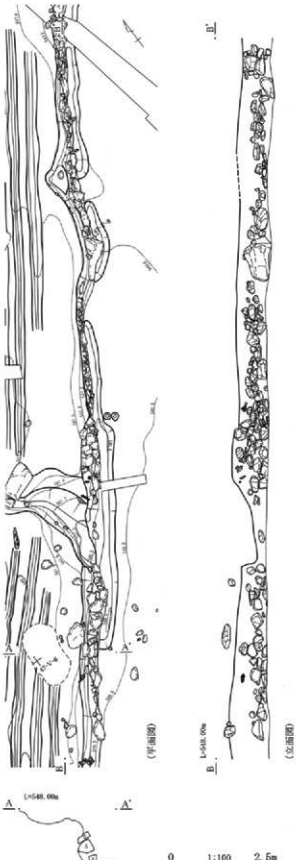
15号ヤックラ



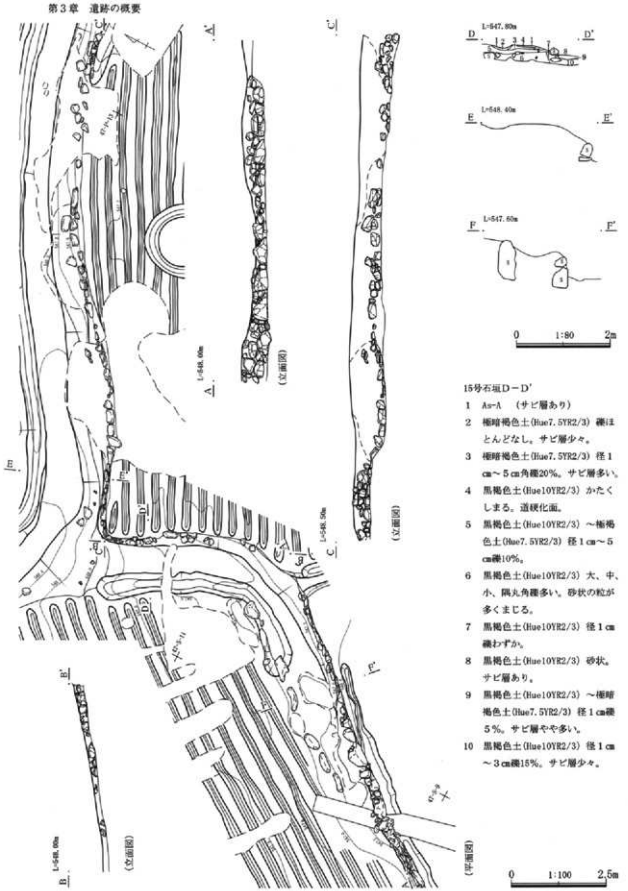
0　1:80　2m

第28図　14、15号ヤックラ

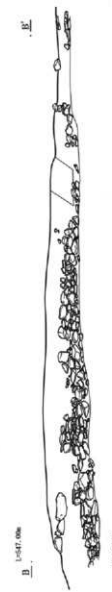
第30図　12、13号石垣



第31図　14号石垣

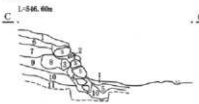

L=547.80m
D
D'
L=548.40m
E
E'
L=547.60m
F
F'
0
1:80
2m
15号石垣Ｄ－Ｄ'
1　As-A　（サビ層あり）
2　極暗褐色土(Hue7.5YR2/3) 礫ほとんどなし。サビ層少々。
3　極暗褐色土(Hue7.5YR2/3) 径１cm～５cm角礫20%。サビ層多い。
4　黒褐色土(Hue10YR2/3) かたくしまる。遺構化面。
5　黒褐色土(Hue10YR2/3) ～極褐色土(Hue7.5YR2/3) 径１cm～５cm礫10%。
6　黒褐色土(Hue10YR2/3) 大、中、小、隅丸角礫多い。砂状の粒が多くまじる。
7　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径１cm礫わずか。
8　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂状。サビ層あり。
9　黒褐色土(Hue10YR2/3) ～極暗褐色土(Hue7.5YR2/3) 径１cm礫５%。サビ層やや多い。
10　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径１cm～３cm礫15%。サビ層少々。
A
A'
L=548.60m
(立面図)
C
C'
L=548.50m
(立面図)
B
B'
L=548.60m
(立面図)
(平面図)
0
1:100
2.5m

第32図　15号石垣



第33図　16号石垣

16号石垣



16号石垣Ｃ－Ｃ'

1　黒褐色土(Hue10YR3/1) 径２cm礫含む。
2　黒褐色土(Hue10YR2/2) 径５mm礫、ローム粒含む。しまりあり。
3　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径５mmローム粒、礫、径５cm亜角礫含む。しまりなし。
4　黒褐色土(Hue10YR2/2) しまる。径５cm亜角礫含む。
5　黒褐色土(Hue10YR2/2) 径５mm礫、軽石、ローム粒含む。
6　黒褐色土(Hue10YR2/2) 径２cm礫含む。径１cmローム粒、径５mm軽石含む。
7　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径５mmローム粒多く含む。径２cm礫含む。
8　黒褐色土(Hue10YR2/2) 径２cm礫含む。しまりあり。径２cm亜角礫混入。
9　黒褐色土(Hue10YR2/3) ７よりも黒みあり。径２cm礫含む。
10　黒褐色土(Hue10YR2/2)
11　黒褐色土(Hue10YR2/2) ローム粒径１cm１％、径５cm亜角礫含む。

16号石垣

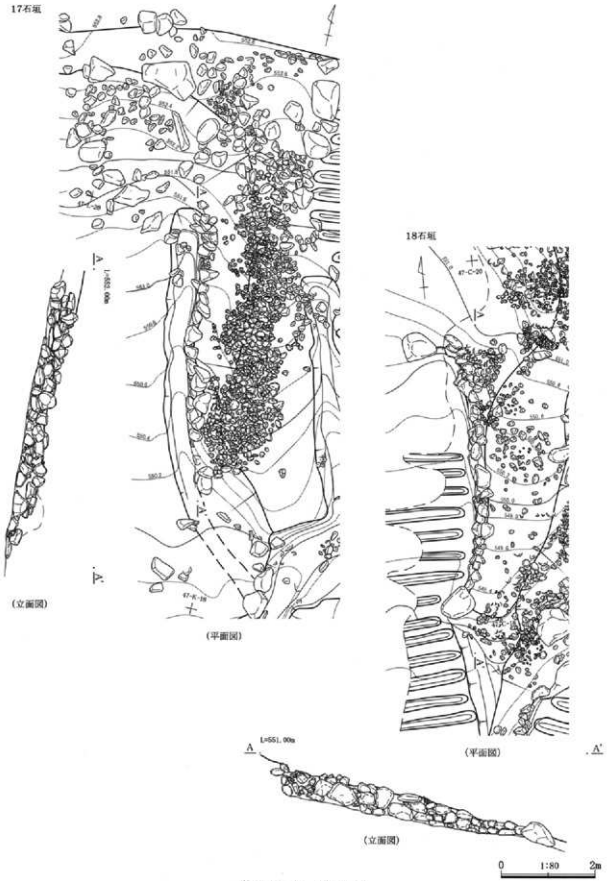
16号石垣Ｄ－Ｄ'

1　黒褐色土(Hue10YR2/2) 径２cm礫含む。しまる。
2　黒褐色土(Hue10YR2/2) 径１mm礫、径５mm軽石、ローム粒含む。粘質。水田耕土。
3　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径１mm礫、径５mm軽石、径５mmローム粒含む。粘質。上部ほど鉄分沈着多い。
4　黒褐色土(Hue10YR2/2) よくしまる。径２mm礫、ローム粒、軽石含む。
5　黒褐色土(Hue10YR2/2) しまる。褐色砂径0.5mm多く含む。
6　黒褐色土(Hue10YR2/2) しまる。径２mm礫やや多目。径１cmローム粒、径２mm軽石含む。
7　黒褐色土(Hue10YR2/2) しまる。径２cm礫含む。
8　黒褐色土(Hue10YR2/2) 砂多く含む。
9　黒褐色土(Hue10YR2/2) 径１cmローム粒、径５mm軽石、径２mm礫含む。
10　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径５mmローム粒多く、径５mm軽石、径５mm砂含む。鉄分沈着。
11　黒色土(Hue10YR1.7/1) 粘質。
12　黒色土(Hue10YR2/1) 粘質。径５mm礫２％、径５mmローム粒含む。
13　黒色土(Hue10YR2/1) 粘質。しまりなし。
14　黒褐色土(Hue2.5Y3/2) 砂まじり。粘質土。還元されている。
15　泥流
16　黒褐色土(Hue10YR2/2) 径５mm礫、軽石、ローム粒含む。縦方向に鉄分の沈着あり。植物の根の腐蝕か。畑耕土。
17　黒褐色土(Hue10YR2/2) 16より黒み強い。畑の床？
18　黒色土(Hue10YR2/1) 砂質。しまる。径５cm礫含む。

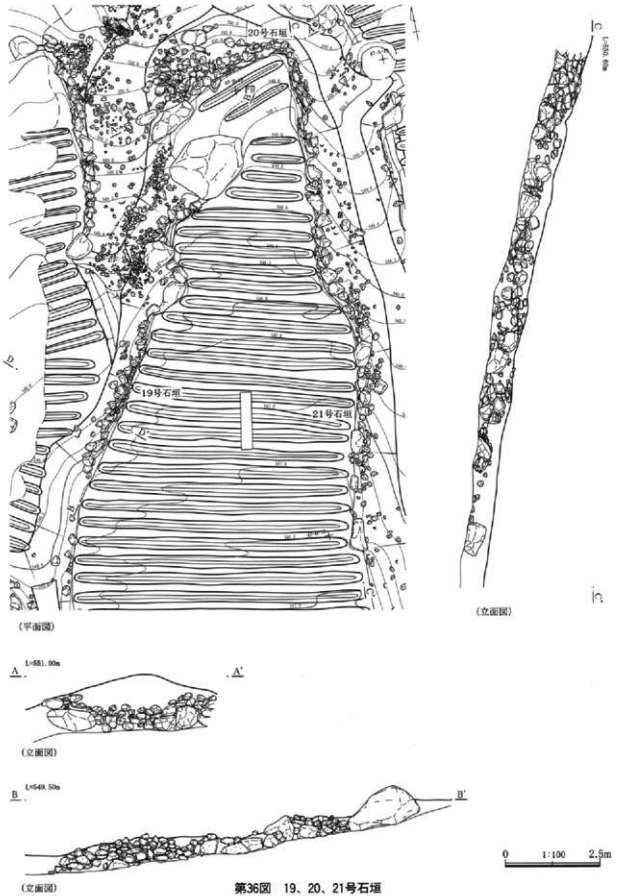
16号石垣

0　1:80　2m

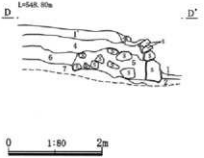
第34図　16号石垣



第35図　17、18号石垣



第36図　19、20、21号石垣



19号石垣D－D'

1　泥流下綜作土(Hue10YR2/3) 径1cm礫まじり（15%）。径3～5mm軽石少量。やや粘質。しまりあり。

1'　1層に比べ礫が大きい。径2～3cm、径5cmもあり。

2　黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘質。しまりあり。径5mm軽石多くまざる（5%）。径5cm角礫少量。径2～3cm角礫1%。

5　黒褐色土(Hue7.5YR3/2) 道部分。径10～15cmの角礫まじり。砂質だが固い。植物の根あり。

6　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径2～3cm角礫1%。、径5cmの角礫5%。道の下は径5～10cmの角礫が積んである。粘質。ややしまりあり。

7　黒褐色土(Hue10YR2/3) ヤックラ部分。中央に径20～30cm角礫、両側に径10～15cm角礫。石と石の間は広い。土もしっかり入れてる。粘質。ややしまりあり。

第37図　19、20、21号石垣

状が復元可能である。

鎌はその刃の部分の位置や形状などから、手持ちタイプではなく柄の先に取り付けるタイプ、あるいは牛などに引かせるタイプなのかも知れない。ただし、後者の場合は鋤が用いられることが多い。

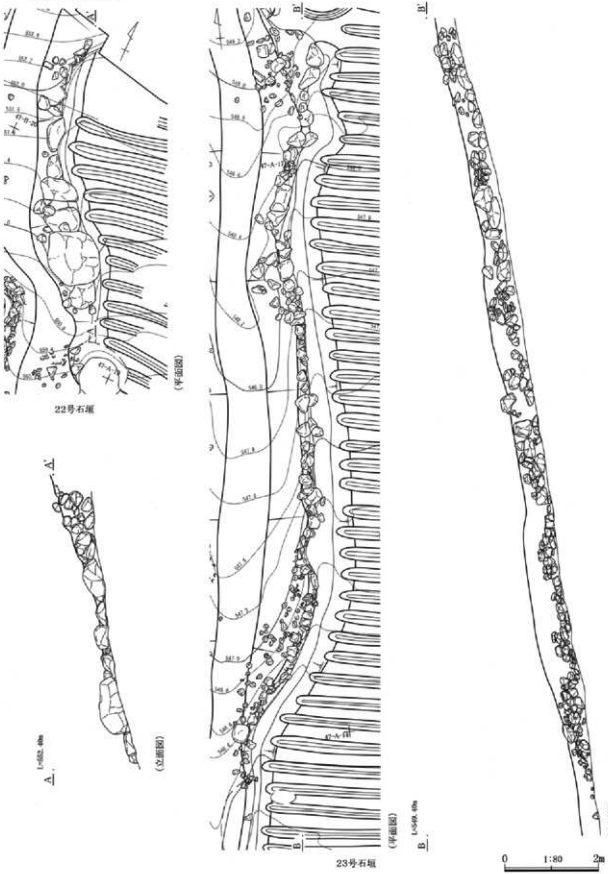
古銭は、墓の副葬品として使用されることが多い。特に、中世において中国の古銭が用いられる。江戸時代を代表する寛永通宝は、寛永13年（1636）に正式な官銭として製造が開始されたものであるが、裏面に11波のデザインが入ったものは、明和6年（1769）に4文銭として生産が開始されたものである。

石製品では、南牧村の砥沢産出の砥石が注目される。県内はもとより、大消費地である江戸方面をはじめ信州方面にも出荷されており、少し前に松本市の城下町の火災の被害に遭遇した間屋から多量に出土した事例については記憶に新しい。

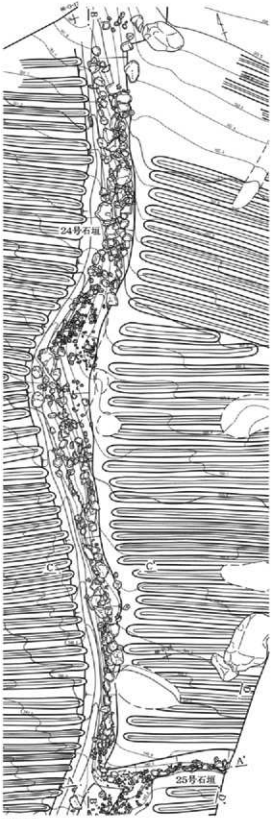
石臼の受け皿部分が出土している。この他に擂り石、一部には敲打の痕跡も残っていることから敲き石として分類した。また、くぼみをもつ軽石などが出土している。

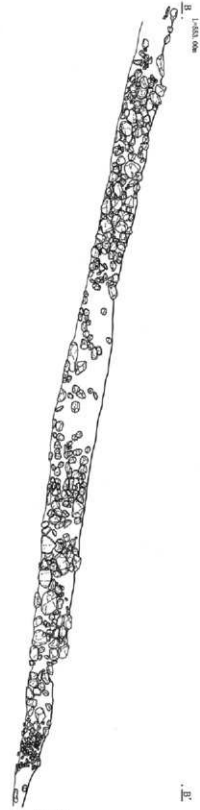
一方、当初は下原遺跡の発掘調査事務所に保管されていたことから、本遺跡の出土品と考えていた巡奉塔などの5個の石製品が、初期の発掘担当者たちが直前に発掘調査を終了させていた東吾妻町の上郷岡原遺跡から持ち込んでいた資料であることが判明したために、既に実測・トレース、それに写真撮影も終了して版組していたものを急遽はずすこととなった。

木製品は、大型の鋤、片足だけの下駄、それに天明3年の泥流で埋没した水田の畦部分に打ち込まれていた杭である。下駄は分類Ⅰの連歯、杭の一部は樹皮が残っている状態で、頭部の切り離し面と先端部の尖りの作り出しに加工がなされた資料である。



第38図　22、23号石垣





0　1:120　4.0m

第39図　24、25号石垣

24号石垣

24号石垣Ｃ－Ｃ'

1　暗褐色土(Hue10YR3/3)　泥流堆積作土。やや砂質。ややしまりあり。径２～３cm角礫　１%。径１cm角礫３%。径５mm軽石３%。

2　黒褐色土(Hue7.5YR3/2)　石垣部分。石垣の石は径30～50cmの角礫。砂質。しまりなし。石垣の内側は裏込めがしてあり径５～10cm角礫が多い。

3　暗褐色土(Hue10YR3/3)　やや砂質。ややしまりなし。径５cm角礫少量。径２～３cm角礫10%。径１cm軽石２%。

4　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径５cm角礫３%。径１～２cm角礫５%。径５mm軽石３%。やや砂質。ややしまりあり。

5　黒褐色土(Hue10YR2/3)　やや粘質。しまりあり。径５cm角礫２%。径２～３cm角礫２%。径２～３mm軽石10%。植物根あり。

6　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径20cm巨礫あり。粘質。しまりあり。礫の上に川砂が堆積している。径３～５cm角礫１%。径１～２cm角礫１%。

25号石垣

25号石垣Ｄ－Ｄ'

1　暗褐色土(Hue10YR3/3)　泥流堆積作土。やや砂質。径２～３cm角礫２%。径２～３mm軽石少量。

2　暗褐色土(Hue10YR3/3)　石垣。径50cmの角礫で形成。砂っぽい層。間には径10～15cmの角礫がはさまっている。

3　黒褐色土(Hue7.5YR3/2)　やや砂質。径３cm角礫１%。径５cm角礫１%。径１～２cm角礫２%。径３～５mm軽石３%。

4　黒褐色土(Hue10YR2/3)　やや粘質。径３cm角礫１%。径３mm軽石２%。植物の根あり。

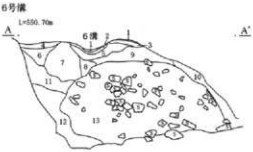
5　黒褐色土(Hue7.5YR3/2)　やや粘質。径10cm角礫５%。径５mm軽石２～３%。

6　黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質。径５cm角礫少量。径２～３cm角礫２%。径３～５mm軽石１%。川砂の層混入。

0　1:80　2m

第40図　24、25号石垣

6号溝

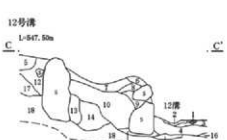


7号溝

8号溝

11号溝

12号溝



6号溝Ａ－Ａ'

1　As-A　(溝にはサビ層あり)
2　黒褐色土(Hue10YR2/3)　細かい粒。径１cm～３cm礫５%。
3　黒褐色土(Hue10YR2/3)　しまっている。硬い。径１cm～３cm礫20%。
4　黒褐色土(Hue10YR2/3)　礫はわずか。
5　黒褐色土(Hue10YR2/3)　角礫20%。
6　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径１cm～３cm礫10%。
7　黒褐色土(Hue10YR2/3)　角礫80%。
8　黒褐色土(Hue10YR2/3)　礫はほとんどなし。
9　暗褐色土(Hue10YR3/4)　砂利多く含む。
10　黒褐色土(Hue10YR2/3)　礫径１cm５%。
11　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径１cm礫５%。褐色粒10%。
12　黒褐色土(Hue10YR2/3)　角礫15%。砂利層あり。褐色粒10%。
13　黒褐色土(Hue10YR2/3)　ヤックラ　(ほとんど角礫)

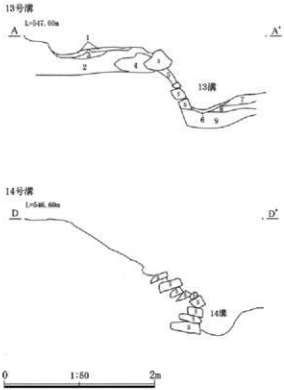
9･10･11溝

12号溝Ｃ－Ｃ'

1　As-A
2　黒色土(Hue10YR2/1)　粘質。しまりなし。
3　黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質。径２mm黄橙色軽石粒２%。水田耕土。
4　黒褐色土(Hue10YR2/3)　鉄分沈着。黄橙色軽石径２mm３%含む。径１cm礫傍か含む。しまりあり。
5　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径５mm礫、軽石、ローム粒含む。畑耕土。
6　黒褐色土(Hue10YR3/1)　しまる。径２mm礫傍か含む。径５mm黄橙色軽石傍か含む。
7　黒褐色土(Hue10YR2/3)　しまる。径２cm礫、径５mm黄橙色軽石含む。Ｓ－４　１遺構化。
8　黒褐色土(Hue10YR3/2)　しまる。径２mm礫含む。
9　黒褐色土(Hue10YR2/3)　しまる。径１cm礫含む。径１cm黄橙色軽石含む。
10　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径１cmローム粒１%、径５mm白色礫１%、径１cm黄橙色軽石１%含む。しまる。
11　褐色土(Hue10YR4/4)　砂層。
12　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径１cmローム粒、黄橙色軽石１%含む。
13　暗褐色土(Hue7.5YR3/3)　しまる。径２cm礫多く含む。
14　黒褐色土(Hue10YR3/2)　しまる。径２cm礫多く、径５mm黄橙色土、軽石傍か含む。
15　黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質。
16　褐色土(Hue10YR4/4)　砂質。黄橙色土粒含む。
17　黒褐色土(Hue7.5YR3/2)　しまる。径２cm礫含む。径５mm黄橙色軽石含む。
18　黒褐色土(Hue2.5YR3/1)　しまりなし。径１mm～１cm礫含む。径２mm黄橙色土含む。粘質

0　1:50　2m

第41図　区　6、7、8、9、10、11、12号溝

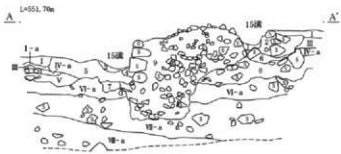


13号溝Ａ－Ａ'

1　極暗褐色土(Hue7.5YR2/3)　纏ほとんどなし。細かい粒。サビ層少々。
2　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径１cm～５cm纏15%。炭化物わずか。
3　極暗褐色土(Hue7.5YR2/3)　纏ほとんどなし。炭化物わずか。
4　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径１cm～２cm纏10%。
5　黒褐色土(Hue10YR2/3)　崇石垣を支えている土。纏ほとんどない。
6　極暗褐色土(Hue7.5YR2/3)　雑かい粒。サビ層少々入る。纏ほとんどなし。
7　極暗褐色土(Hue7.5YR2/3)　径約１cm纏５%。耕作土。
8　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径１cm纏15%。
9　砂利と纏層　径５cm角纏20%。残りは砂利。

第42図　区　13、14号溝

15号溝



15号溝A－A'

1　A－2

2　A－3

3　黒褐色土(Hue10YR2/2)　ややしまる。粘質。上部にAs-A軽石。径1cm礫含む。

4　黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質。しまる。

5　黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質。径5mm砂、礫含む。径1～3cm亜角礫3％。

6　A－5

7　黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質。しまる。径5cm亜角礫2％、径5mm礫塊状に含む。

8　黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質。径5cm亜角礫、径2mm砂5％、径30cm亜角礫1％。

9　D－11に似る。

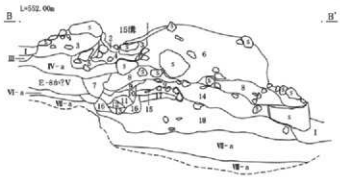
Ⅰ-a　黒褐色土(Hue10YR2/2)　黄褐色土粒径1cm15％含む。しまりなし。造成した土。

Ⅵ-a　黒褐色土(Hue10YR3/2)　粘質。亜角礫径7cm1％。径5mm黄褐色土1％。径5mm砂まじり。

Ⅶ-a　黒褐色土(Hue10YR3/2)　粘質。径5～25cm亜角礫3％。炭化物粒径5mm1％、黄褐色土径5mm1％。

Ⅶ'-a　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径5～25cm亜角礫3％。黄褐色土径5mm1％。

15号溝



15号溝B－B'

1　A－1

2　A－2

3　A－3

4　A－5

5　D－10

6　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径15cm亜角礫50％。径20cm亜角礫2％。ヤックラ。しまりなし。

7　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径2～5mm砂10％。径10cm亜角礫1％含む。粘質。しまりなし。

8　黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質。しまる。径20cm亜角礫含む。

9　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径2mm砂含む。径5cm亜角礫2％含む。山崩れか。

10　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径1cm礫2％。砂含む。しまりなし。

11　黒褐色土(Hue10YR2/2)　砂、礫径5cm50％含む。しまりなし。

12　黒褐色土(Hue10YR2/2)　礫径3cm2％含む。しまりなし。

13　黒褐色土(Hue10YR2/2)　砂、礫　径3cm50％含む。しまりなし。

14　黒褐色土(Hue10YR2/2)　亜角礫径15cm7％。

15　黒褐色土(Hue10YR2/2)　亜角礫径15cm50％ならんでいる。

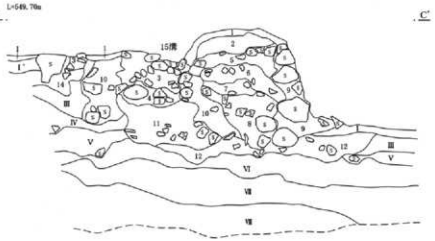
16　黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質。径10cm円礫含む。径1cm礫1％。

17　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径1cm亜角礫15％。径3cm角礫1％。しまる。

18　D－12と同じ。

第43図　15号溝

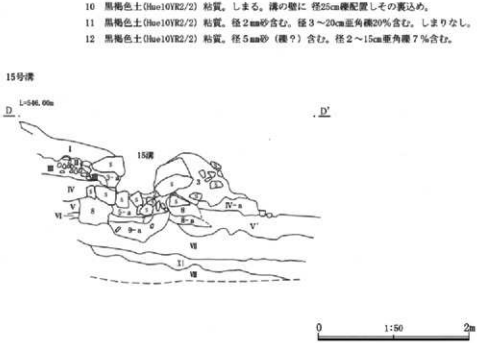
15号溝



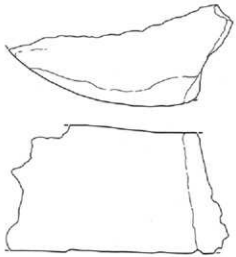
15号溝C－C'　D－D'

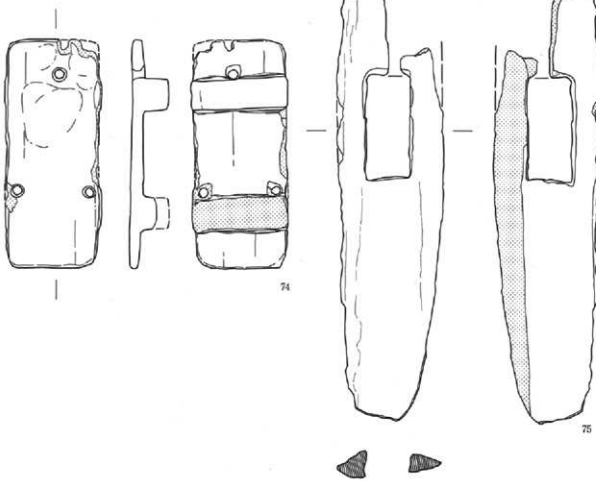
1　A－1　かなり硬化している。
2　暗褐色土(Hue10YR3/4)　径２mm粗砂多く含む。径５cm亜角礫３％含む。
3　A－5
4　A－6
5　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径20cm角礫。径７cm円礫30％。
5 a　黒褐色土(Hue10YR2/2)　５層より礫少なし。
6　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径15cm角礫50％。
7　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径15cm角礫30％。
8　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径５～20cm角礫30％。
8 a　黒褐色土(Hue10YR2/2)　８層より礫少ない。
9　黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質。しまる。径30～40cm巨礫をヤックラ根石として配置。
9 a　黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質。しまる。９層より礫少なし。
10　黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質。しまる。溝の壁に 径25cm礫配置しその裏込め。
11　黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質。径２mm砂含む。径３～20cm亜角礫20％含む。しまりなし。
12　黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質。径５mm砂（礫？）含む。径２～15cm亜角礫７％含む。

15号溝

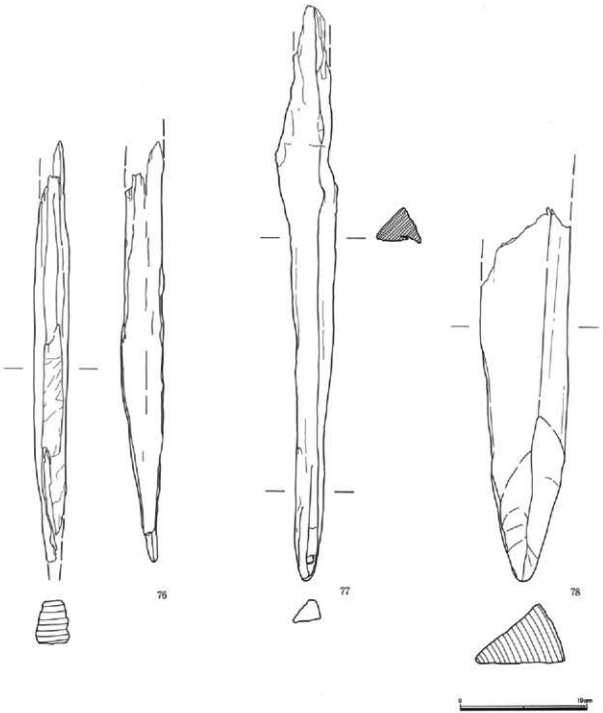


第44図　15号溝

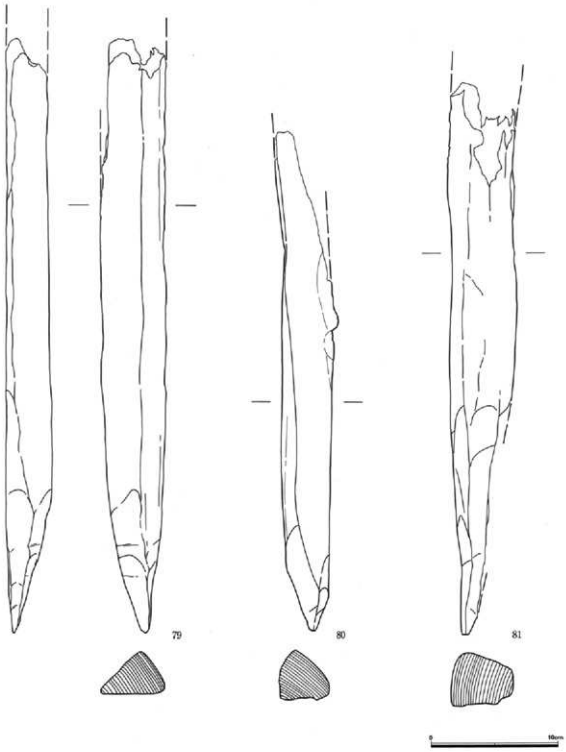




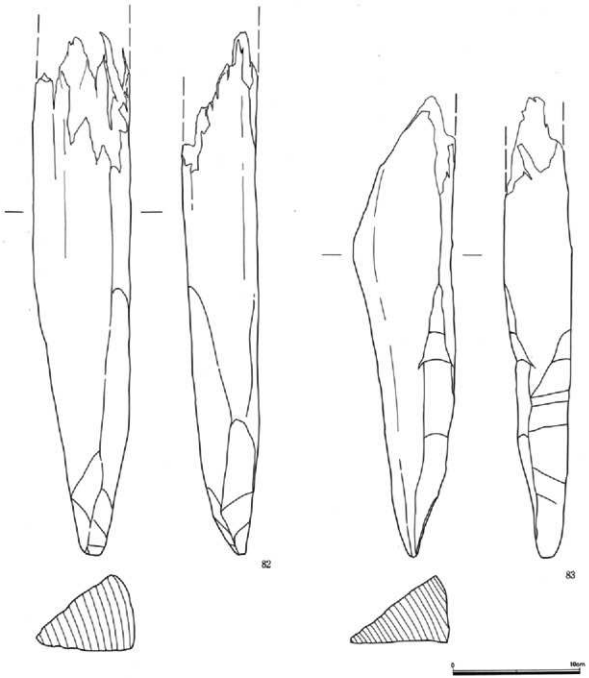
第45図　遺物　近世　石製品、木製品①（下駄、鋤）



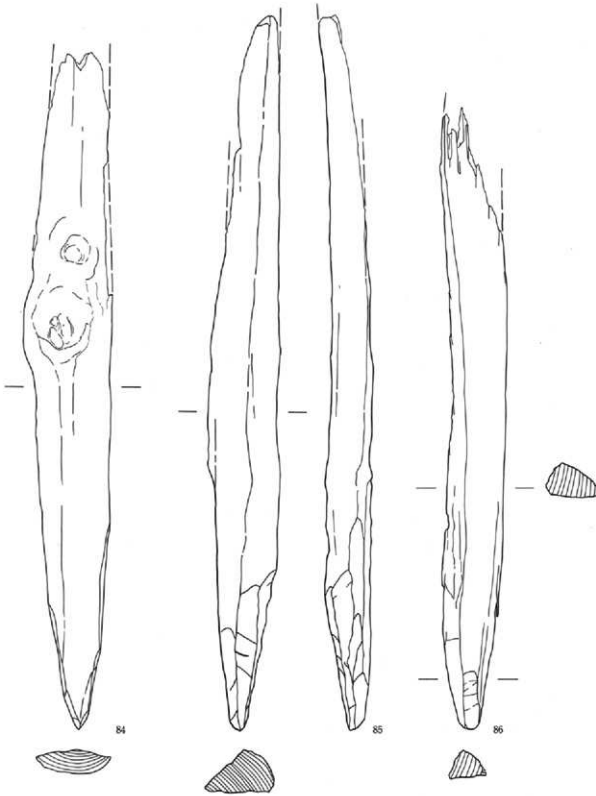
第46図　遺物　近世　木製品②（杭）



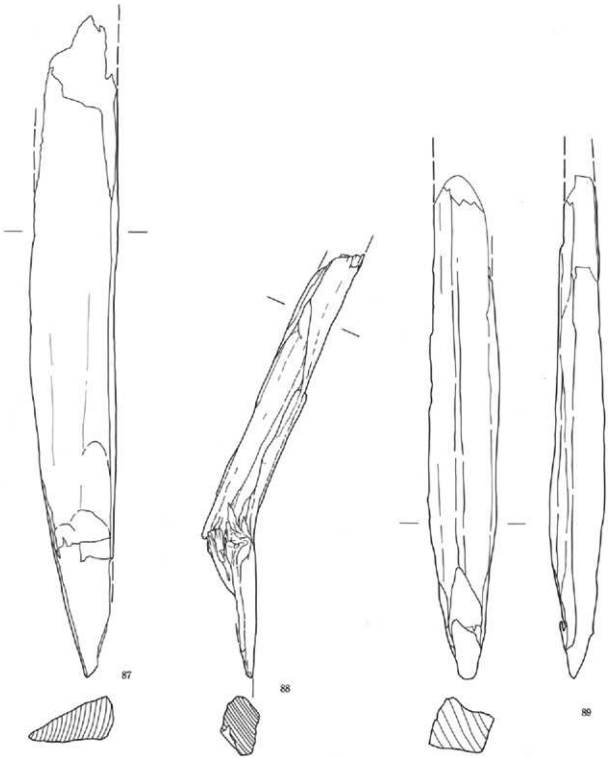
第47図　遺物　近世　木製品③（杭）



第48図　遺物　近世　木製品④（杭）



第49図　遺物　近世　木製品⑤（杭）



第50図　遺物　近世　木製品⑥（杭）

第3節　中世

（1）遺構

この時期は、文化層、つまり遺構検出の面としては第2面となる。基本土層の第Ⅶ層上面である。検出された遺構は、畑・溝・井戸・墓・土坑・集石（土坑）・ピット・焼土である。

1783（天明3）年の泥流堆積層の下位には、以前にも関氏が指摘しているように、1742（寛保2）年の洪水堆積層を含めた近世から中世の時代にかけての少なくとも2枚の洪水堆積層があり、それぞれの下位に畑の跡が検出されている。ここでは、上位の畑を中世と考えるか、あるいは近世初期と考えるかによって大きく異なり、特に天明以前の近世として一つの文化面を新たに設定しなければいけなくなる可能性が生じるものの、とりあえず畑としての初現は中世段階と考えるのが妥当なので、天明泥流堆積層以前のすべてを中世に含めておく事とする。さらに、今回は3枚もの畑が存在することが判明した。これらも含めて、詳細な時期の判定は残りの部分の発掘調査に委ねたい。

1　畑（第51～58図、写真図版152～157）

46区1号畑、46区2号畑、46区3号畑、47区1号畑、47区2号畑の5箇所の畑が検出されている。

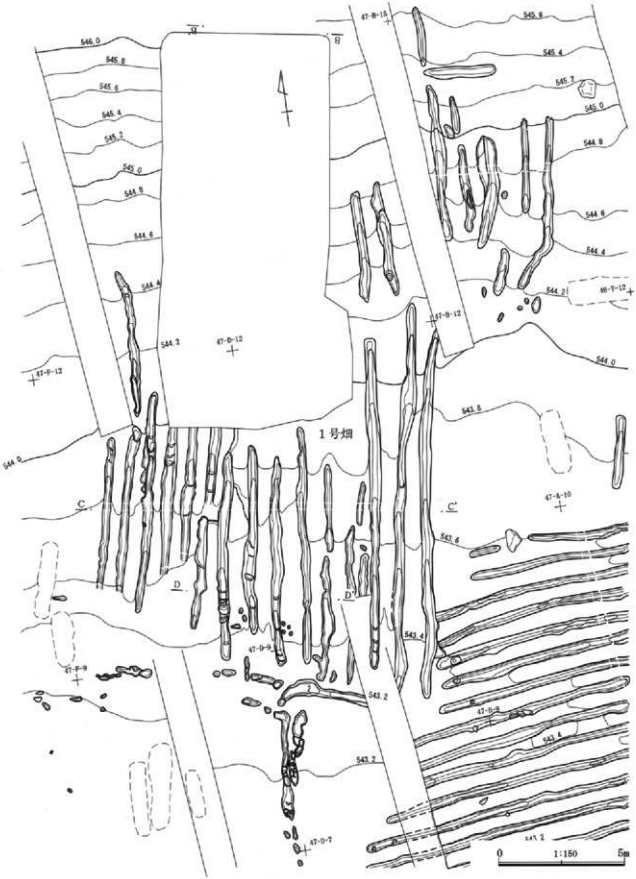
46区1号畑は、46区Y～47区E-8～14グリッドの範囲に位置する。畝の数は約20本で、走向方向はほぼ南北、畝の幅は約50cm、面積は約540㎡と広い。この畑に関しては2つの注目すべき点がある。ひとつは畝間の中に鋤鍬の痕跡がいくつか認められたことである。おそらくは畝間を掘り出してあまり日が経たないうちに洪水層が被さったと考えられよう。もうひとつは畑の南縁に両脇に溝を伴う幅約1mの道状の遺構が確認されたことである。

46区2号畑は、46区W～47区C-5～9グリッドの範囲に位置する。畝の数は20本で、走向方向はほぼ東西、畝の幅は50～60cm、面積も約500㎡と46区1号畑に類似する。この畑に関しても3つの注目すべき点がある。ひとつは隣接する46区1号畑との切り合いの様子から、46区2号畑の方が46区1号畑よりも古いことが判明したことである。さらに、46区4号集石に壊されていることから、ヤックラを作らなければ石の処理が出来なかった1742（寛保2）年の洪水よりももっと以前の畑と考えられることである。つまり、穴を掘って片付けられるだけの洪水層に覆われたと考えられ、それは基本土層の第Ⅶ層と考えるのが妥当である。さらに、この考え方からは、46区1号畑を覆った洪水層は新旧関係から必然的に基本土層の第Ⅴ層である1742（寛保2）年と判断される訳である。残りのひとつは畑の断面の様子から、さらに下層にもうひとつの畑が存在することが分かったことである。あるいは、基本土層の第Ⅶ層が二つに細分されている中での下位の洪水層とも考えられる第Ⅶb層とも考えられる。つまり、最低でも3時期の異なる畑が存在したことを証明したことになる。

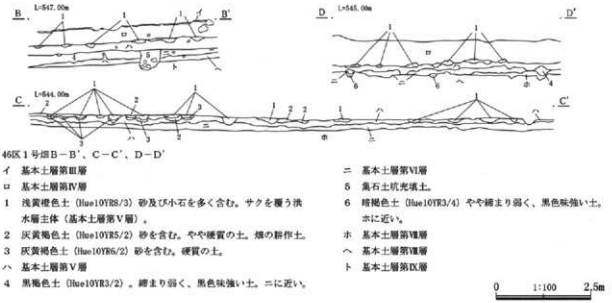
46区3号畑は46区P～V-7～12グリッドの範囲に位置する。畝の残りが悪いものの、数は約15本確認できる。走向方向は南北から約40°東に傾いている。面積も約400㎡である。

47区1号畑は47区T―5グリッド付近に位置する。畝の数は8本で、走向方向はほぼ東西、面積も約3㎡とかなり狭い。

47区2号畑は、47区G～T-9～12グリッドの範囲に位置する。畝の数は約30本で、走向方向はほぼ南北、畝の幅は約50cm、面積は約180㎡とやや広めである。この畑に関しては2つの注目すべき点がある。ひとつは北側の断面で、さらに新しい畑が確認出来たことである。新しい方の畑の畝間も走向がほぼ南北でややず



第53図　46区　1号畑



第54図　46区　1号畑BCD断面

れて残っていることである。それぞれの畝間が確認された間の4層が洪水層で、基本土層の第Ⅶ層に相当すると考えられることから、必然的に上位の畑がやはり基本土層の第Ⅴ層である1742（寛保2）年の洪水に覆われたと考えるのが妥当であろう。もうひとつの点は、46区1号畑と同様に、畑の南端に両脇に溝を伴う幅約1mの道状の遺構が確認されたことである。この道は東で47区2号畑の東の端と同じ場所でほぼ直角に南側に折れている。まさに、同時期の遺構と考えて間違いないであろう。

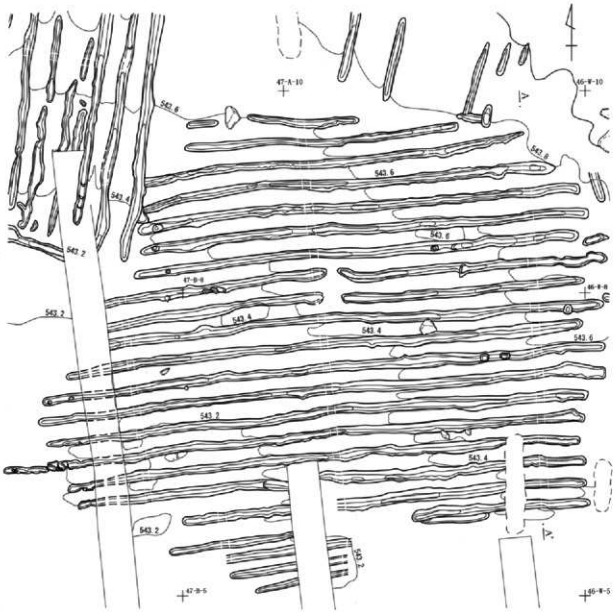
2　溝（第51・52、88～90図、写真図版24-158～160、25-161～166、26-167・168）

溝は47区で8本が検出されている。

47区1号溝は47区J～L-13～117グリッドの範囲に位置する。長さ約16m、幅約0.6mで、走向方向が南北である。47区2号溝は長さ約8.4m、幅約0.36～0.5mで、走向方向が南北である。47区3号溝は長さ約10.8m、幅約0.5mで、走向方向が南北である。47区4号溝は遺構確認のための10号試掘トレンチにより南側が壊されており、残存する長さは約3.6m、幅約0.4mで、走向方向が南北である。47区5号溝も遺構確認のための10号試掘トレンチにより南側が壊されており、残存する長さ約1.8m、幅約0.2mで、走向方向が南北である。47区6号溝は長さ約1.2m、幅約0.2mで、走向方向が南北である。47区7号溝は長さ約4.2m、幅約0.4mで、走向方向が南北である。47区8号溝は南の発掘調査区域外に延びているために、確認できる長さが約25m、幅約0.6mで、走向方向が南北である。特に、8号溝は南側のセクションから2回にわたり掘り直されていることが判明した。基本土層の様子からおそらくは、まず「二」層（基本土層第Ⅷ層）が堆積した後に溝が掘り込まれ、その溝が「ハ」層（基本土層第Ⅴ層）により1度埋没した後に、掘り返されて盤に石が積み上げられたと考えられる。

3　井戸（第59図、写真図版26-169・170）

46区S－6グリッドに位置する。僅かに1基だけの検出である。重複関係では上部を46区28号土坑、46区29号土坑、46区78号土坑により壊されているので、掘り込み面が特定できないが、おそらくは基本土層の第



46区２号畑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR3/4)　畑サク部分砂礫混じる。径１～３cm円礫多く混じる。一部径５～10cm角礫が混じる部分あり。
　　鉄分を多く含み、赤味が強い。砂質、締まりなし。

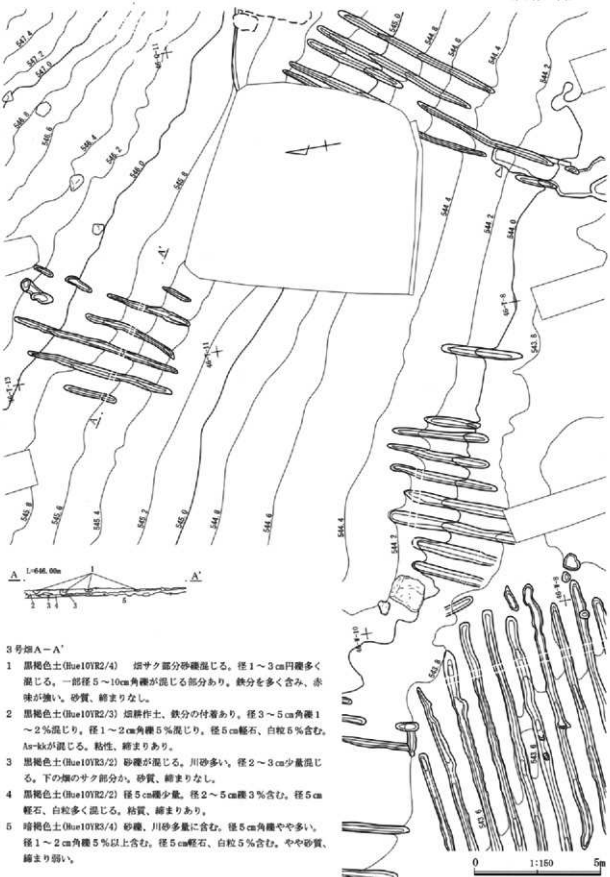
ハ　基本土層第Ⅴ層

ヘ　基本土層第Ⅷ層

ホ　基本土層第Ⅶ

0　1:150　5m

第55図　46区　2号畑



3号畑A－A'

1　黒褐色土(Hue10YR2/4)　畑サク部分砂礫混じる。径1～3cm円礫多く混じる。一部径5～10cm角礫が混じる部分あり。鉄分を多く含み、赤味が強い。砂質、締まりなし。

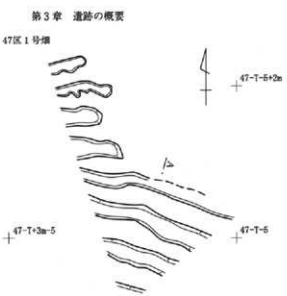
2　黒褐色土(Hue10YR2/3)　畑耕作土、鉄分の付着あり。径3～5cm角礫1～2%混じり。径1～2cm角礫5%混じり。径5cm軽石、白粒5%含む。As-kkが混じる。粘性、締まりあり。

3　黒褐色土(Hue10YR3/2)　砂礫が混じる。川砂多い。径2～3cm少量混じる。下の畑のサク部分か。砂質、締まりなし。

4　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径5cm礫少量。径2～5cm礫3%含む。径5cm軽石、白粒多く混じる。粘質、締まりあり。

5　暗褐色土(Hue10YR3/4)　砂礫、川砂多量に含む。径5cm角礫やや多い。径1～2cm角礫5%以上含む。径5cm軽石、白粒5%含む。やや砂質、締まり弱い。

第56図　46区　3号畑



第57図　47区　1号畑

Ⅶ層上面と考えられる。規模は長軸1.2m、短軸0.8m、深さ2.4mである。掘り込みの壁面の状態から水位は下部から約0.9m（標高542m前後）と考えられる。46区29号土坑の調査中に一見周囲に石が詰められている様子が見られたのだが、実はさらにその下から深さ約1.5mの正方形の筒型の遺構が検出され、その埋没土の中に多数の石が詰められた状態であった。形状からおそらくは約1.5mの正方形の筒形の遺構が検出され、その埋没土に多数の石が詰められている状態であった。形状からおそらくは井戸と考えられる。このような状態はよく見られるもので、遺構を廃棄する際のまじない的な意味合いが強い行為と解釈されている。

このように調理場としての台所にあるカマドなどの「火の神」や、井戸や水汲み場などでの「水の神」に対し、その場の廃棄を行う際のまじない的な行為と解釈されていることが、民俗学や古代の文献などからも多数の報告・記述があると解釈されている。

4　土坑（第51、52、60～70図、写真図版26～33）

総数25基検出されている。内訳は46区21基、47区３基、48区１基である。

47区２号は長さ0.87m・幅0.46m・深さ0.12m、47区80号は長さ1.18m・幅0.88m・深さ0.12m、48区１号は長さ2.36m・幅0.42m・深さ0.42m、53号は長さ0.94m・幅0.8m・深さ0.26m、54号は長さ0.5m・幅0.43m・深さ0.26m、55号は長さ（1.34）m・幅1.32m・深さ0.34m、56号は長さ（0.78）m・幅（0.42）m・深さ0.56m、57号は長さ1.36m・幅1.1m・深さ0.34m、58号は長さ（1.24）m・幅1.2m・深さ0.66m、59号は長さ0.92m・幅0.36m・深さ0.12m、60号は長さ1.94m・幅1.28m・深さ.0.2m、61号は長さ0.74m・幅0.7m・深さ0.3m、62号は長さ0.96m・幅0.64m・深さ0.1m、63号は長さ（0.46）m・幅0.36m・深さ0.12m、64号は長さ0.76m・幅0.46m・深さ0.22m、66号は長さ0.9m・幅0.66m・深さ0.16m、67号は長さ（1.22）m、幅（1.0）m、深さ0.21m、68号は長さ1.02m・幅0.98m・深さ0.33m、69号は長さ0.8m・幅0.8m・深さ0.51m、70号は長さ1.18m・幅0.94m・深さ0.28m、71号は長さ0.92m・幅0.8m・深さ0.24m、72号は長さ0.9m・幅0.72m・深さ0.18m、73号は長さ1.0m・幅0.74m・深さ0.16m、74号は長さ0.48m・幅0.46m・深さ0.11m、76号は長さ（1.54）m、幅（1.6）m、深さ0.3m、77号は長さ1.66m・幅0.68m・深さ0.3m、78号は重複関係のために計測不能、79号は長さ0.64m、幅0.52m、深さ0.12m、81号は長さ1.18m・幅0.84m・深さ0.12mである。

なお、土坑とした中に墓（土坑墓：土壙）と考えられる遺構が２基検出されている。65号はＳ－６グリッドに位置する。規模は65号が長さ1.14m・幅1.02m・深さ0.36mである。人骨と副葬品である古銭が出土し

47区１号畑Ａ－Ａ'

1　耕作土　河床砂土がブロック状に混じる。黄色映が強い。

2　黒褐色土(Hue10YR2/3)　やや粘性。やや締まりあり。亜角礫径３cm程度１％含む。黄色軽石径５mm僅か。炭化物僅か。

3　河床砂土　細粒だけでなく、亜円礫径３cm以下を含む。鉄分の付着あり。畝間。

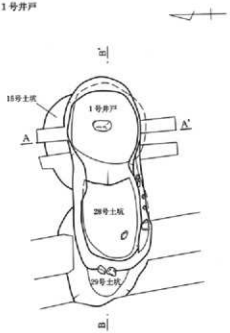
4　黒褐色土(Hue10YR2/2)　やや粘性。やや締まりあり。角礫径５cm程度５％含む。黄色軽石径３mm少量。白色粒少量。
鉄分の付着あり。

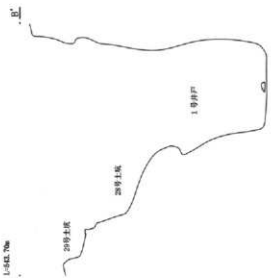
5　河床砂土　細粒土体。茶褐色。鉄分の付着あり。畝間。

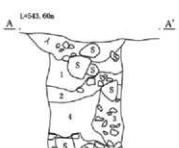
6　黒褐色土(Hue10YR2/3)　やや粘性。やや締まりあり。部分的に角礫径10cmを含む。黄色粒僅か。鉄分の付着あり。

第58図　47区　2号畑

1号井戸







46区１号井戸Ａ－Ａ'

イ　暗褐色土（Hue10YR3/3）やや粘質。しまり弱い。石の周りには鉄分付着部分あり。径10～15cm礫１％。径３～５cm礫３％。砂礫まじり。径５mm軽石、白粒多くまざる。

1　黒褐色土(Hue10YR2/3)　やや粘質。しまりなし。鉄分付着あり。径２～15cm礫少量。径５mm軽石、白粒少量。

2　黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質。しまり弱い。一部砂質まじり。径５～10cm角礫多くまざる。径２～３cm角礫少量。

3　黒褐色土(Hue10YR2/3)　やや粘質。砂礫まじり。しまり弱い。礫層。径10cm礫少量。径５cm礫多い。

4　黒褐色土(Hue10YR2/3)　やや粘質。一部砂礫まざる。しまり弱い。径１～２cm礫３％。径５mm軽石まじり。

5　黒褐色土(Hue10YR2/3)　巨大礫層（投げこみ）。石の切り口は赤い。粘質。しまり弱い。炭化物まじり。径50cm礫少量。径30cm礫多い。

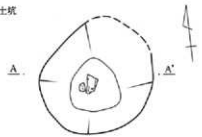
6　黒褐色土(Hue10YR2/3)　やや粘質。しまり弱い。径20cm礫少量。径２～３cm礫１％。径５mm軽石少量。７層まじり。

7　褐色土（Hue10YR4/6）砂質。しまりなし。基本土層⑤

0　1:40　1m

第59図　46区　1号井戸

58号土坑



46区58号土坑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR3/2) 砂質。しまりややあり。角礫径10～15cm３％。茶色軽石径１cmわずか。黄色軽石径１cmわずか。茶色粒少量。黄色粒少量。

60号土坑

46区60号土坑Ａ－Ａ'

1　暗褐色土 (Hue10YR3/3) 砂質。しまり非常に弱い。炭化物わずか。角礫径１cm以下わずか。茶色軽石径１cm以下ごくわずか。茶色粒わずか。黄色粒わずか。

62号土坑

46区62号土坑Ａ－Ａ'

1　暗褐色土(Hue10YR3/4) 粕川テフラ下の砂礫層。やや粘質。しまり弱い。鉄分まじり。径２～３cm角礫１％。径５mm軽石、白粒少量含む。砂礫まじり。

59号土坑

46区59号土坑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR3/2) 砂質。しまり非常に弱い。角礫径２cm程度１％。茶色粒、黄色粒ごくわずか。
※薄認面より刀子が出土する。

61号土坑

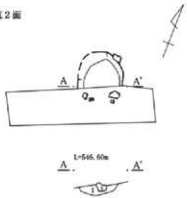
46区61号土坑Ａ－Ａ'

1　暗褐色土　As-kkを多く含む。
2　暗褐色土　主体、ただし、黄褐色（基本土層９～10層）を少量含む。
イ　19号トレンチに西側を破されている。

63号土坑１面

第60図　46区　58・59・60・61・62・63号土坑

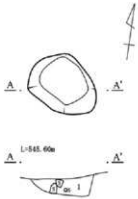
63号土坑２面



46区63号土坑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3)　やや粘質。しまり弱い。径１～２cm礫２％。径５mm軽石、白粒多くまざる。５％以上。基本土層10層。炭化物少量まざる。

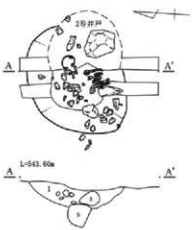
64号土坑



46区64号土坑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR3/2)　やや粘性。しまりなし。As-kkが小さいブロック状に多めにまじる。角礫径３～15cm程度が少量まじる。黄色粒わずか。鉄分の付着あり。

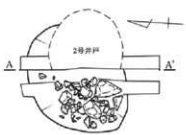
65号土坑骨出土状況



46区65号土坑Ａ－Ａ'

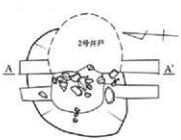
1　暗褐色土(Hue10YR3/3)　やや粘質。しまり弱い。石の周りには鉄分付着部分あり。径10～15cm礫１％。径３～５cm礫３％。砂礫まじり。径５mm軽石、白粒多くまざる。

65号土坑



66号土坑

65号土坑掘り方



46区66号土坑Ａ－Ａ'

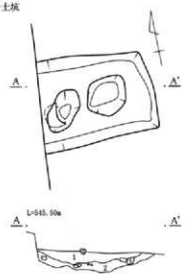
1　暗褐色土(Hue10YR3/3)　砂質（As-kkは粘性）。しまり弱い。As-kkが小さいブロック状に少量まじる。黄色軽石径１～３mm少量まじる。炭化物少量まじる。鉄分の付着あり。

0　1:40　1m

第61図　46区　63・64・65・66号土坑

47区

67号土坑



47区67号土坑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR3/1) 砂質。しまり弱い。小さいブロック状にAs-kkを多量に含む。黄色軽石径１～３mm少量まじる。炭化物少量まじる。

2　黒褐色土(Hue10YR2/3) やや粘性。ややしまりあり。黄色軽石径１cm少量まじる。炭化物わずかにまじる。角礫径５cm３％まじる。

68号土坑

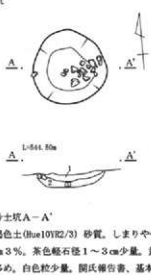
46区68号土坑Ａ－Ａ'

1　褐色土 (Hue10YR4/4) 径５mm軽石、白粒多くまざる（５％）。砂質。しまりなし。

2　黒褐色土(Hue10YR2/3) As-kk層。粘質。ややしまりあり。径１～２cm微１％。径５mm軽石少量まざる。

3　暗褐色土 (Hue10YR3/3) 径５mm軽石、白粒多くまざる（５％）。炭化物多く含む。砂礫まじり。粘質。しまりあり。

69号土坑

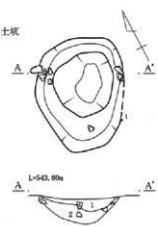


46区69号土坑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。しまりやや弱い。角礫径３～10cm３％。茶色軽石径１～３cm少量。黄色軽石径３mm程やや多め。白色粒少量。関氏報告書、基本土層９層か？

2　暗褐色土 (Hue10YR3/4) 砂質。ややしまりあり。角礫径３～10cm３％。黄色軽石径１cmやや多めにまじる。茶色粒少量。黄色粒多め。関氏報告書、基本土層10層か？

70号土坑



46区70号土坑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。しまり弱い。角礫径５～15cm３％。茶色粒少量。黄色粒ややや多め。炭化物少量まじる。関氏基本土層９層か？

2　暗褐色土 (Hue10YR3/3) 砂質。しまり弱い。角礫径３～10cm７％。茶色粒、黄色粒少量まじる。黄色軽石径１～３mm少量まじる。関氏基本土層10層か？

0　1:40　1m

第62図　47区　67号土坑　46区　68・69・70号土坑

46区

71号土坑

46区71号土坑Ａ－Ａ'

1　暗褐色土（Hue10YR3/4）砂質。ややしまりあり。茶色粒少量。黄色粒多め。白色粒多めにまじる。炭化物少量まじる。黄色軽石径３～５mm多めにまじる。

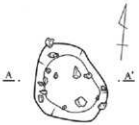
2　黒褐色土（Hue10YR2/3）砂質。ややしまりあり。角礫径３～５cm少量。茶色軽石３～５mm少量。黄色軽石径３～５mm少量まじる。黄色粒少量まじる。

73号土坑

46区73号土坑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土（Hue10YR2/3）砂質。ややしまりあり。角礫径３～10cm５％。As-kkが小ブロック状に多めにまじる。黄色軽石径３mm程度わずかにまじる。茶色粒、黄色粒少量まじる。

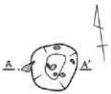
72号土坑



46区72号土坑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土（Hue10YR2/3）砂質。ややしまりあり。角礫径10～15cm３％。黄色軽石径３mm程度少量。茶色粒ごくわずか。黄色粒ややめ。As-kkが小さいブロック状にごくわずかにまじる。

74号土坑



46区74号土坑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土（Hue10YR2/3）やや粘質。しまり弱い。径１cm礫２％。径２～３cm礫１％。径５cm礫少量。径５mm軽石含む。

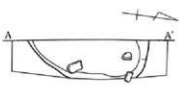
0　1:40　1m

第63図　46区　71・72・73・74号土坑

75号土坑1面目

75号土坑2面目

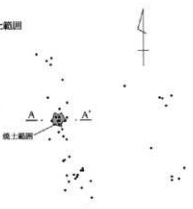
75号土坑掘り方



46区75号土坑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘質。しまり弱い。Au-kk少量まじり。径15cm礫少量。径５～10cm礫２%、径２～３cm礫５%まじり。炭化物まざる。径５mm軽石、白粒多めにまざる（５%）。

76号土坑焼土範囲



46区76号土坑焼土Ａ－Ａ'

1　焼土　砂質。ややしまりあり。橙色焼土主体。黒褐色土2/2少量まじる。炭少量まじる。

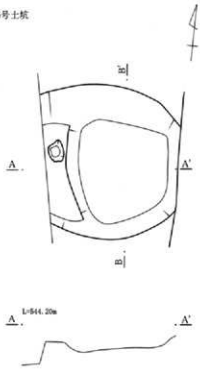
2　黒褐色土(Hue10YR2/2) 砂質。ややしまりあり。角礫径３cm程度わずかにまじる。焼土が細粒状に少量まじる。炭化した木の実あり。炭化物はやや多めにまじる。

3　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。ややしまりあり。角礫径３～10cm多めにまじる。黄色軽石径３mm程度少量。 炭化物少量。

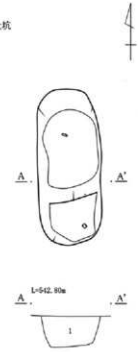
0　1:40　1m

第64図　46区　75・76号土坑

76号土坑



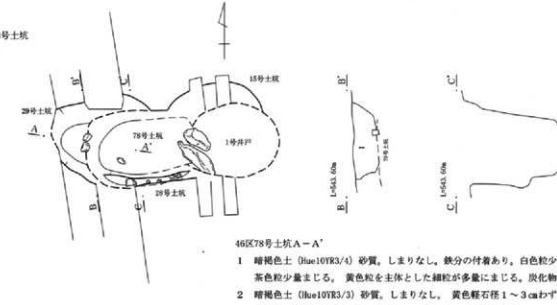
77号土坑



46区77号土坑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土（Hue10YR2/3）やや粘性。しまりあり。角礫径３cm程度ごくわずか。黄色軽石径５～10mmやや多め。黄粒、茶粒わずかにまじる。炭少量まじる。褐色土4/4の粒が小ブロック状にまじる。

78号土坑



46区78号土坑Ａ－Ａ'

1　暗褐色土（Hue10YR3/4）砂質。しまりなし。鉄分の付着あり。白色粒少量、茶色粒少量まじる。黄色粒を主体とした細粒が多量にまじる。炭化物少量。

2　暗褐色土（Hue10YR3/3）砂質。しまりなし。黄色軽石径１～３cmわずかにまじる。炭化物少量まじる。上記の１の層に比して細粒は少ない。

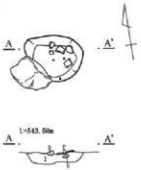
3　暗褐色土（Hue10YR3/3）砂質。ややしまりあり。角礫径３～５cm２％。黄色軽石径３～10mmやや多め。茶色軽石径３～５mm少量。黄色粒やや多めにまじる。

※１、２の層が29号土坑の覆土。３の層が78号土坑の覆土。

0　1:40　1m

第65図　46区　76・77・78号土坑

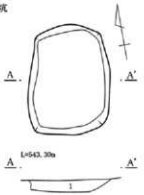
79号土坑



46区79号土坑Ｂ－Ｂ'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 鉄分多く付着。やや粘質。しまり弱い。砂礫まじり（一部砂質），径２～３cm礫２%。径５～10cm礫少量。径５mm軽石少量まざる。

81号土坑

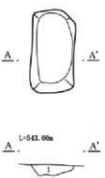


46区81号土坑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。しまりやや弱い。炭化物少量まじる。As-kkわずかにまじる。角礫径５～15cmわずか。黄色軽石径３～５mmわずか。鉄分の付着あり。

第66図　46区　79・81号土坑

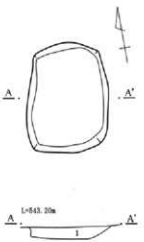
2号土坑



47区２号土坑Ａ－Ａ'

1　黒褐色土 (Hue10YR2/3) やや粘性。締まりあり。角礫径３cm程度ごく僅か。黄色軽石径５～10mmやや多め。黄粒、茶粒僅かに混じる。炭少量混じる。

80号土坑



47区80号土坑Ａ－Ａ'

1　暗褐色土 (Hue10YR3/4) 砂質。締まりなし。鉄分の付着あり。白色粒少量、茶色粒少量混じる。黄色粒を主体とした細粒が多量に混じる。

第67図　47区　2・80号土坑

第68図　47区　1号土坑

ている。（第61図、写真図版29-194、195）75号はQ-６グリッドに位置する。規模は長さ約1.2m、幅約0.8m、深さ約0.3mである。75号は長さ（1.3）m・幅（0.4）m・深さ（0.32）m、人骨と副葬品である古銭４枚（第98図58、59、61、写真図版55-58～61）が出土している。（第64図、写真図版31-214、32-215）

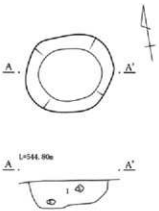
これらの人骨については、第５章第４節に橋崎修一郎氏による鑑定の結果を収録しているので、そちらを参照していただきたい。

5　集石（第71～87図、写真図版34-230～43-306）

集石は大きくは２種類に分けられる。ひとつは「ヤックラ」と同様に耕作などに邪魔な石を１ヶ所に集めた場所（Ⅰ類）である。もうひとつは、基本的には土坑であるが、埋没土の中に多量に石が埋設されている。これは畑として利用する際に邪魔な石を、穴を掘りそこに埋め込み、上に土をかけることで再び耕地として使用するための処理穴（Ⅱ類）である。どちらにしても、邪魔な石の処理のための遺構と言える。総数34基検出されている。内訳は46区18基、47区13基、48区３基である。

46区１号は長さ14.8m・幅2.2m・深さ0.46m、２号は長さ0.84m・幅0.76m・深さ0.37m、３号は長さ2.35m・幅1.72m・深さ0.85m、４号は長さ3.93m・幅0.85m・深さ1.25m、５号は長さ2.05m・幅0.68m・深さ0.85m、６号は長さ0.97m・幅0.65m・深さ0.3m、７号は長さ3.18m・幅0.8m・深さ0.63m、８号は長さ3.2m・幅0.93m・深さ0.42m、９号は長さ1.2m・幅0.62m・深さ0.05m、10号は長さ2.5m・幅0.93m・深さ0.42m、12号は長さ.45m・幅0.95m・深さ0.95m、14号は長さ2.9m・幅0.76m・深さ0.47m、15号は長さ.62m・幅1.4m・深さ0.29m、16号は長さ0.82m・幅0.8m・深さ0.16m、17号は長さ0.9m・幅（0.7）m・深さ0.15m、18号は長さ1.6m・幅（1.15）m・深さ0.32m、47区１号は長さ20.5m・幅3.2m・深さ1.0m、２号は長さ3.9m・幅3.2m・深さ1.0m、３号は長さ3.7m・幅1.8m・深さ－m、４号は長さ6.15m・幅2.35m・深さ－m、５号は長さ2.4m・幅2.1m・深さ0.3m、６号は長さ3.65m・幅0.5m・深さ0.2m、７号は長さ4.9m・幅0.6m・深さ1.84m、８号は長さ1.9m・幅0.6m・深さ1.84m、９号は長さ3.4m・幅0.95m・深さ1.1m、10号は長さ2.15m・幅0.85m・深さ0.825m、11号は長さ3.25m・幅0.7m・深さ0.7m、12号は長さ3.85m・幅0.85

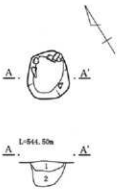
53号土坑



46区53号土坑A－A'

1　暗褐色土（Hue10YR3/3）褐色4/4が主体だが暗褐色3/3も少量混じる。砂質。しまり弱い。角礫径5～10cm3％。角礫径20cm以上もあり。黄色軽石径5mm程度わずか。黄色粒わ

54号土坑

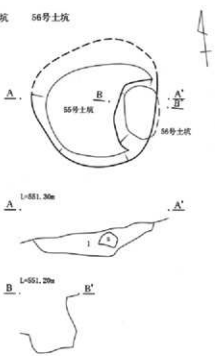


46区54号土坑A－A'

1　暗褐色土（Hue10YR3/3）砂質。しまり弱い。根っこ状に炭化物あり。亜角礫径3cm以下3％まざる。黄色軽石径5mm以下わずか。茶色粒ごくわずか。黄色粒わずか。白色粒わずか。

2　黒褐色土（Hue10YR2/3）砂質。締まり弱い。亜角礫径3～10cm5％。黄色軽石径1cm以下僅か。黄色粒僅か。

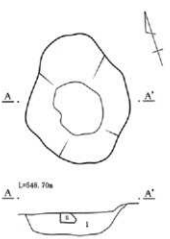
55号土坑　56号土坑



46区55号土坑A－A'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3）砂質。しまり弱い。亜角礫径3～10cm5％。黄色軽石径1cm以下わずか。黄色粒わずか。白色粒わずか。

57号土坑

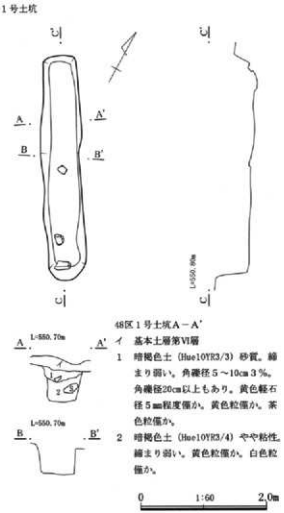


46区57号土坑A－A'

1　暗褐色土（Hue10YR3/3）砂質。しまり非常に弱い。角礫径10cm以下が3％。まだ角礫径15cm以上もあり。茶色軽石径1cm程度少量。黄色軽石径1cm程度わずか。黄色粒少量。

0　1:40　1m

第69図　47区　53・54・55・56・57号土坑



第70図　48区　1号土坑

m・深さ0.35mである。13号は長さ2.9m・幅0.65m・深さ1.1m、48区１号は長さ3.05m・幅0.28m・深さ0.56m、２号は長さ1.74m・幅0.68m・深さ0.22m、３号集石は長さ2.5m、幅1.8m、深さ0.9mである。Ⅱ類は15基（46区４～10、12、14、47区８～13）である。47区６号と７号は区画境とも考えられる。

なお、47区１号集石については、この周辺から古墳時代の土師器や白玉、それに弥生土器が集中して出土することから、古墳時代か弥生時代の遺構の可能性をも想定した。

6　ピット（第52、91図、写真図版44-307～314、45-315～317）

ピットは46区で７基検出された。

１号は長さ0.43m・幅0.36m・深さ0.18m、２号は長さ0.3m・幅0.23m・深さ0.14m、３号は長さ0.65m・幅0.53m・深さ0.18m、４号は長さ0.54m・幅0.52m・深さ0.12m、５号は長さ0.5m・幅0.43m・深さ0.19m、６号は長さ0.45m・幅0.33m・深さ0.12m、７号は長さ0.24m・幅0.24m・深さ0.52mである。

7　焼土（第51、92～95図、写真図版45-318～322、46-323～330、47-331～334）

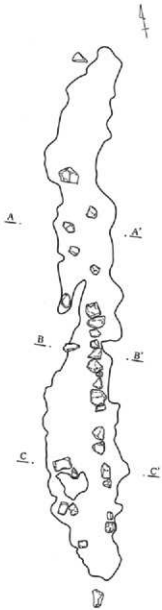
焼土は７基検出された。46区で３基、47区で４基である。

１号は長さ約81.0cm、幅約（40）cm、深さ約20cm。２号は長さ約17.2cm、幅約14.2cm、深さ約10cm。３号は長さ約34cm、幅約18cm、深さ約６cm。４号は長さ約22cm、幅約14cm、深さ約６cm。５号は長さ約362cm、幅約224cm、深さ約１cm。

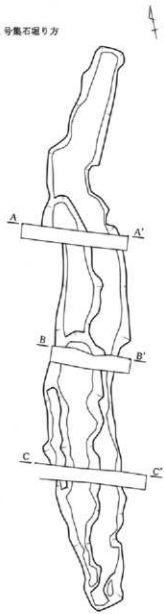
（２）遺物

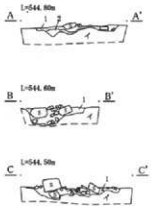
この時期の遺物については、第３章第２節でまとめて述べているので、そちらを参照されたい。多数の遺物が基本土層の第Ⅳ層から第Ⅶ層までの遺構検出確認作業で検出されている。大部分が陶磁器や鍔などの生産用具や埴輪等の金属製品、それに砥石等の石製品もみられる。陶磁器は、瀬戸・美濃、それに有田が多いものの、数は僅かだが13～14世紀の中国の資料も含まれている。

1号集石



1号集石遺り方





46区1号集石A－A'　B－B'

1　黒褐色土（Hue10YR2/2）径2～5cm亜角礫1％含む。径2mm白色土粒、径5mm黄褐色土粒2％含む。炭化物粒径1cm1％含む。締まりなし。

2　黒褐色土（Hue10YR2/2）径10cm亜角礫1％含む。径5mm黄褐色土粒1％含む。浅間の焼け石みたい。

イ　黒褐色土（Hue10YR3/2）砂礫土。径5cm礫3％含む。砂は粒子径2mmほどの荒砂。締まりなし。

0　1:100　4m

第71図　46区　1号集石

２号集石

２号集石堀り方

46区２号集石Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。しまりなし。21トレ11層か。

2　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂まじり。径10cm亜角礫非常に多く含む。しまる。鉄分付着あり。

46区３号集石Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 径10cm礫主体。しまりなし。石の間は空げき多い。巨礫と同質の礫でうすくはがれた破片含む。巨礫には焼けた痕跡があり、そのためはくりしたか。炭化物粒含む。その中に竹とみられるものあり。

2　黒褐色土(Hue10YR2/3) しまりなし。

３号集石

３号集石堀り方

４号集石

４号集石堀り方

46区４号集石Ａ－Ａ'

1　角礫径15～20cm主体。上部には角礫・円礫 径30～50cmが混じる。天仁元年（1108）の軽石あり。黒いキャベツ状？

埋土　暗褐色土（Hue10YR3/3）やや粘性。しまり弱い。黄色粒わずか。白色粒わずか

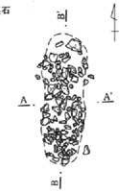
※石はしっかり組んである。先に側面に石を置いた後に詰めたものか？

※Ⅲ区２号畑を壊してつくられている。

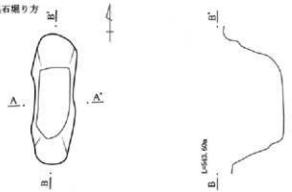
0　1:60　2.0m

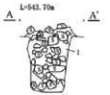
第72図　46区　2・3・4号集石

5号集石



5号集石堀り方





46区５号集石Ａ－Ａ'

1　亜角礫・亜円礫径15～30cm主体。亜角礫径50cm以上もあり。

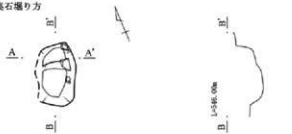
埋土　黒褐色土（Hue10YR2/2）やや粘性。しまりなし。鉄分の付着あり。黄色粒少量。

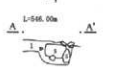
溶底部には常に水が溜まる。伏流水の滲みだしか？

※田区２号畑を壊してつくられている。

6号集石

6号集石堀り方





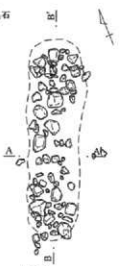
46区６号集石Ａ－Ａ'

1　角礫径50～60cm、角礫径15～20cm。不均質に詰められている。

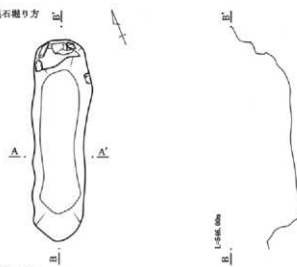
埋土　暗褐色土（Hue10YR3/3）砂質。しまり弱い。黄色粒径５mm程度わずか。茶色粒わずか。

西側は掘り込み面が確認できず。

7号集石



7号集石堀り方



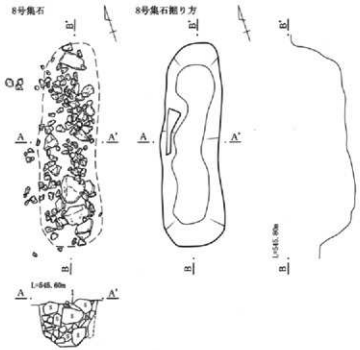
46区７号集石Ａ－Ａ'

1　角礫径50～60cm、角礫径15～30cmが不均質に混ざる。石の組み方は不均質で雑。

埋土　暗褐色土（Hue10YR3/3）砂質。しまり弱い。茶色粒径５～10mmやや多め。茶色粒、

黄色粒、白色粒わずか。黄色粒径５mm わずか。

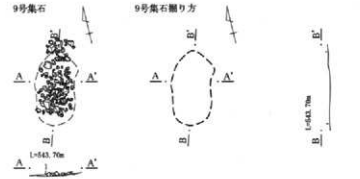
第73図　46区　5・6・7号集石



46区８号集石Ａ－Ａ'

1　角礫径50～70cm、角礫径30～50cm主体。ただし角礫径100cm以上もあり。石のつまり方、大きさは不均質。21～23号集石に共通。

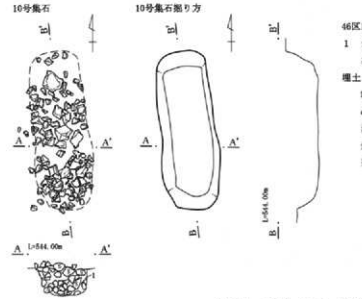
埋土　暗褐色土（Hue10YR3/4）砂質。しまり弱い。黄色軽石径１cmわずか。黄色粒わずか。白色粒わずか。ごくわずかに鉄分の付着あり。



46区９号集石Ａ－Ａ'

1　亜角礫径15～20cm主体。

埋土　褐色土（Hue10YR4/4）砂質。しまり弱い。黄色粒少量。



46区10号集石Ａ－Ａ'

1　角礫径10～20cm、20～30cm主体。角礫径50cm以上もあり。鉄分の付着あり。

埋土　暗褐色土（Hue10YR3/3）砂質。しまりなし。黄色粒、白色粒わずか。全体的に鉄分の付着あり。径３cm以下角礫が多く含まれる。21～23号集石と同型か。浅く石の詰め方もあまり組んでいない。上の面密の畑を作った時につくられた集石の可能性あり。

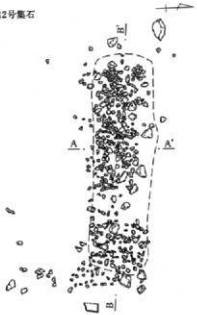
密　天明畑の下に２つ畑あるその上の方の畑

0　1:60　2.0m

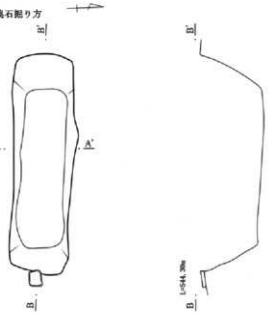
第74図　46区　8・9・10号集石

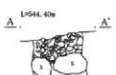
11号集石

12号集石



12号集石掘り方





6区12号集石A－A'

1　角礫径5～30cm主体。角礫径1m程度もあり。鉄分の付着が甚だしく石は橙色、朱色に近い。

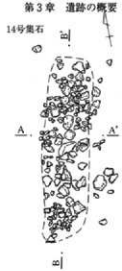
埋土　黒褐色土(Hue10YR2/2)、黒褐色土(Hue10YR3/2) 鮮やかな橙色（鉄分による）が混じり合う。径1cm以下の小石が混じる。鉄分の付着が甚だしい。

13号集石

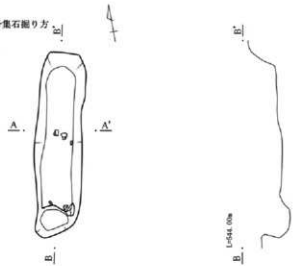
0　1:60　2.0m

第75図　46区　11・12・13号集石

14号集石



14号集石掘り方



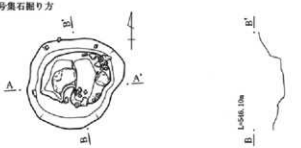
46区14号集石Ａ－Ａ'

1　角礫径15～20cm主体。

埋土　黒褐色土(Hue10YR2/3) やや粘性。しまり弱い。黄色軽石径５mm 程度わずか。
黄色粒少量混じる。茶色粒少量混じる。鉄分の付着あり。

15号集石

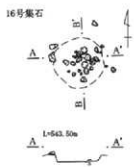
15号集石掘り方



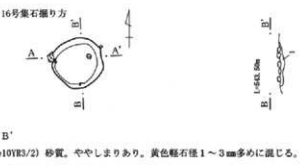
46区15号集石Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR3/2) 砂質。しまりなし。角礫径５～20cm主体の集石。黄色軽石径３mm
程度少量混じる。茶色粒、黄色粒少量混じる。炭化物少量混じる。As-kkが小ブロック状
にまじる。鉄分の付着あり。
※２つの遺構（土坑）の可能性あり。埋設土は基本的に変わらないが、西の方が礫が少
なく鉄分の付着が多い。黄色軽石もやや多い。

16号集石



16号集石掘り方

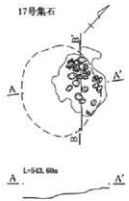


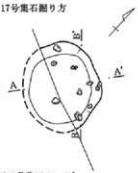
46区16号集石Ｂ－Ｂ'

1　黒褐色土(Hue10YR3/2) 砂質。ややしまりあり。黄色軽石径１～３mm多めに混じる。 炭化物多
めに混じる。 黄色粒、白色粒少量混じる。

0　1:60　2.0m

第76図　46区　14・15・16号集石

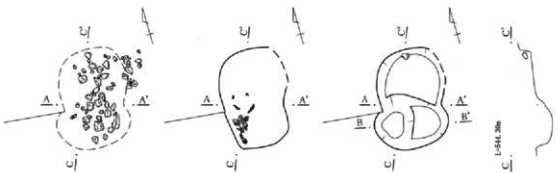


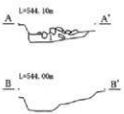


46区17号集石B－B'

1　円礫径15cm程度が主体。焼けた痕跡あり。鉄分の付着あり。割れた石あり。角礫径20cmもわずかにまじる。

黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。ややしまりあり。黄色軽石径1～3mmわずか。 炭化物　多めにまじる。茶色粒、黄色粒ややや多めにまじる。





46区18号集石A－A'

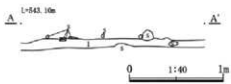
1　角礫径10～30cm主体。

暗褐色土 (Hue10YR3/4) 砂質。しまりなし。茶色軽石径3cm程度わずかにまじる。茶粒、黄粒わずかにまじる。鉄分の付着あり。河床砂土（細粒）もブロック状にみられる。

0　1:60　2.0m

第77図　46区　17・18号集石

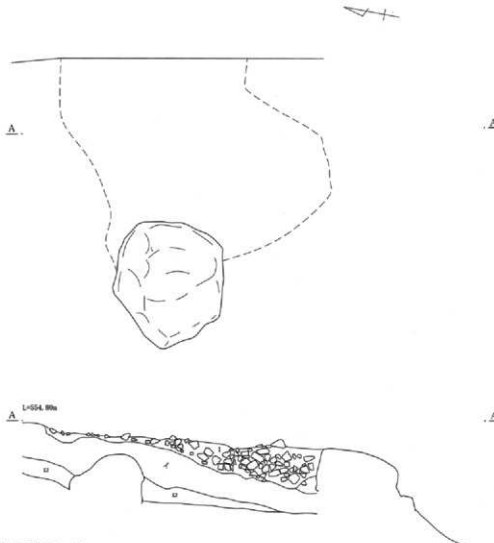
１号集石



47区１号集石Ａ－Ａ'
1　黒褐色土（Hue10YR2/3）砂質。締まりなし。

第78図　47区　1号集石

2号集石



47区2号集石A－A'

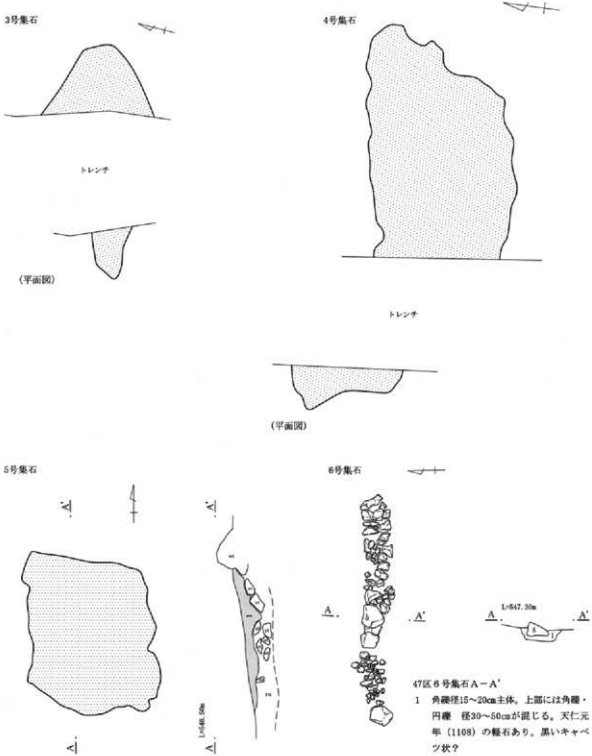
1　黒褐色土（Hue10YR2/3）径10cm礫主体。締まりなし。石の間は空間多い。
　　巨礫と同質の礫でうすくはがれた破片含む。巨礫には焼けた痕跡があり、
　　そのため剥離したか。炭化物粒含む。その中に竹とみられるものあり。

イ　基本土層第Ⅵ層

ロ　基本土層第Ⅶa層

0　1:60　2.0m

第79図　47区　2号集石



47区６号集石Ａ－Ａ'

1　角礫径15～20cm主体。上部には角礫・円礫　径30～50cmが混じる。天仁元年（1108）の輕石あり。黒いキャベツ状？

埋土　暗褐色土（Hue10YR3/3）やや粘性。締まり弱い。黄色粒様か。白色粒様か。

47区５号集石Ａ－Ａ'

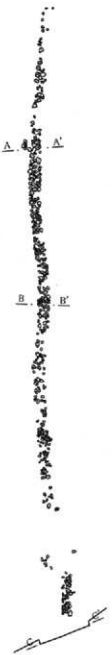
1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂多く含む。径15cm亜角礫多く含む。しまりなし。集石本体。

2　地山　黒褐色土(Hue10YR2/2) 径３～40cm角礫多く含む。転石はほとんどない。

0　1:60　2.0m

第80図　47区　3・4・5・6号集石

7号集石



47区7号集石A－A'

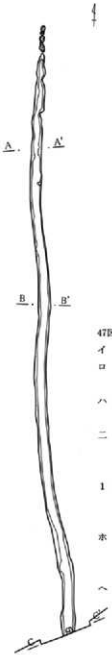
1　暗褐色土（Hue10YR3/3）砂質。締まりなし。部分的に黄色粒が径1cmくらいのブロック状に混じる。亜角礫径10～20cm主体。角礫径50cmも混じる。鉄分の付着あり。

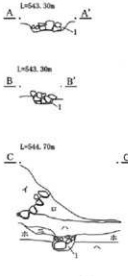
47区7号集石B－B'

1　径15～25cm亜角礫主体。10～20cm円礫も混じる。

黒褐色土（Hue10YR2/3）砂質。締まりなし。1mm程度の黄色粒がごく僅かに混じる以外はほとんど混ざるものなし。

7号集石掘り方





0　1:80　2m

47区7号集石C－C'

イ　天明泥流堆積物。基本土層第Ⅱ層。

ロ　一部天明泥流堆積物を含むがハとほぼ同じ。径15～30cm角礫主体。50cm角礫あり。

ハ　暗褐色土（Hue10YR3/3）砂質。締まり非常に弱い。角礫径3～5cm3%。基本土層第Ⅳ層。

ニ　暗褐色土（Hue10YR3/3）砂質。締まり弱い。径3～5cm角礫1%。径5～10mm黄色軽石僅か。径1～2mm黄色粒僅か。径1～2mm白色粒やや多く含む。

1　径15～25cm亜角礫主体。10～20cm円礫も混じる。黒褐色土（Hue10YR2/3）砂質。締まりなし。1mm程度の黄色粒がごく僅かに混じる以外はほとんど混ざるものなし。

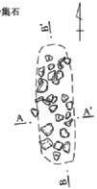
ホ　暗褐色土（Hue10YR3/4）砂質。締まりややあり。径10cm程度の角礫1%。径10mm程度の黄色軽石僅か。径1～2mm黄色粒僅か。径1～2mm白色粒やや多めに含む。

ヘ　にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）やや粘性あり。締まりややあり。径1～2mm黄色粒僅か。径1～2mm白色粒僅か。炭化物少量。

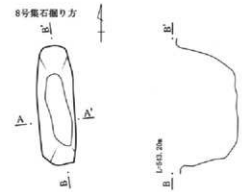
0　1:150　5m

第81図　47区　7号集石

8号集石



8号集石掘り方

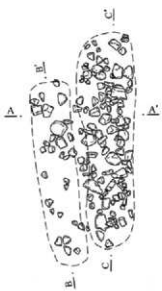


47区８号集石Ａ－Ａ'

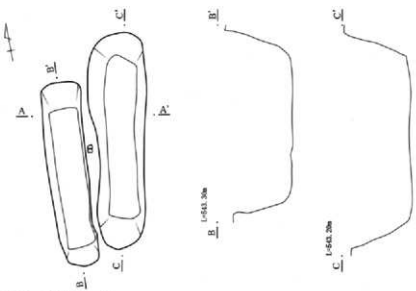
1　角礫径15～20cm主体。角礫径50cm程度のものあり。鉄分の付着あり。

埋土　黒褐色土(Hue10YR3/2) 砂質。しまりなし。茶色粒わずか。径５～20mmの角礫が混じる。鉄分の付着あり。

13号集石　9号集石



13号集石掘り方　9号集石掘り方



47区13・９号集石Ａ－Ａ'

イ　黒褐色土(Hue10YR2/2) 砂質。しまりあり。鉄分の付着あり。茶色粒少量。黄色粒、白色粒わずか。黄色軽石径３mmわずか。

ロ　暗褐色土 (Hue10YR3/4) 粘質。ややしまりあり。茶色粒、黄色粒、白色粒わずか。黄色軽石径３～５mm少量。炭化物少量。

(13号集石)

1　角礫径15～25cm主体。径30cmあり。径50cmあり。鉄分の付着あり。

埋土　暗褐色土 (Hue10YR3/3) 砂質。しまりなし。黄色軽石径１cmわずか。鉄分の付着あり。

(９号集石)

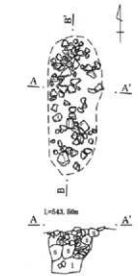
1　角礫径20～30cm主体。角礫径50～60cmあり。角礫径10～20cmあり。青灰、茶褐色の石あり。鉄分の付着あり。

埋土　黒褐色土(Hue10YR2/3) と黒褐色土(Hue10YR2/2) のまじり。砂質。しまりなし。黄色軽石径３mmわずか。河床砂土が10ｃｍの塊状につまる。鉄分の付着あり。

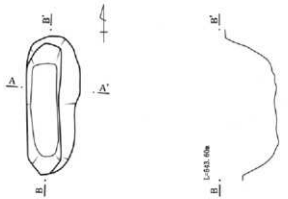
0　1:60　2.0m

第82図　47区　8・9・13号集石

10号集石



10号集石掘り方

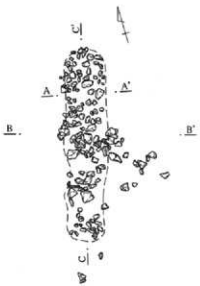


47区10号集石Ａ－Ａ'

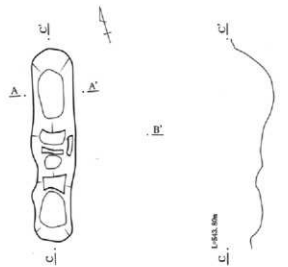
1　角礫径50cm、亜円礫径30cm、角礫径10～20cmが主体。鉄分の付着がみられる。

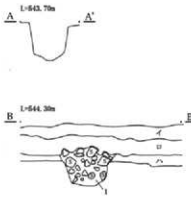
埋土　暗褐色土（Hue10YR3/3）砂質。締まり弱い。黄色粒、茶色粒、白色粒僅か。茶褐軽石径10mm程度僅か。河床砂土僅か。

11号集石



11号集石掘り方





47区11号集石Ａ－Ａ'

1　径15～20cm角礫主体。径30cm角礫あり。鉄分の付着あり。

埋土　黒褐色土（Hue10YR3/2）砂質。締まり弱い。鉄分の付着あり。白色粒僅か。

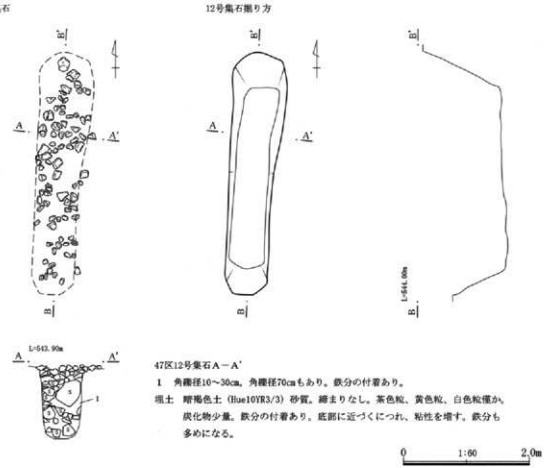
イ　現耕作土

ロ　黒褐色土（Hue10YR3/2）砂質。締まり弱い。径１～３cmの角礫３％。10mm程度茶色軽石僅か。５～10mm程度黄色軽石やや多め。

ハ　黒褐色土（Hue10YR2/3）やや粘性。締まりあり。10mm程度の黄色軽石ごく僅か。１～２mmの黄色粒少量。

0　1:50　2.0m

第83図　47区　10・11号集石



47区12号集石Ａ－Ａ'

1　角礫径10～30cm。角礫径70cmもあり。鉄分の付着あり。

埋土　暗褐色土（Hue10YR3/3）砂質。締まりなし。茶色粒、黄色粒、白色粒僅か。炭化物少量。鉄分の付着あり。底部に近づくにつれ、粘性を増す。鉄分も多めになる。

第84図　47区　12号集石

1号集石

48区１号集石Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径２～５cm亜角礫１％含む。径２mm白色土粒、径５mm黄褐色土粒２％含む。炭化物粒径１cm１％含む。しまりなし。

2　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径10cm亜角礫１％含む。径５mm黄褐色土粒１％含む。浅間の焼け石みたい。

3　黒褐色土(Hue10YR3/2)　砂礫土。径５cm礫３％含む。砂は粒子径２mmほどのあら砂。しまりなし。

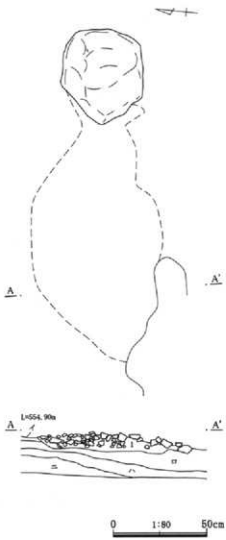
4　黒色土(Hue10YR2/1)　集石。径15～35cm礫含む。白色土粒径２mm、黄褐色土粒径５mm３％含む。黄褐色(Hue10YR5/8)砂径２mm部分的に含む。

5　黒色土(Hue10YR2/1)　黄褐色土粒径７mm、白色土粒径２mm、径２cm礫を各々５％含む。

6　黒褐色土(Hue10YR3/1)　比較的灰色味強い。砂礫層。砂は径２mm、礫は径２cm～５cm10％含む。

第85図　48区　1号集石

2号集石



48区２号集石Ａ－Ａ'

１　角礫径５～50cmが少量。角礫径１ｍ以上のものもあり。これらの角礫はやわらかく削れる。

埋土　褐色土（Hue10YR4/4）～にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）砂質。やや締まりあり。炭化物少量。黄色軽石径３mmごく僅か。

イ　基本土層第Ⅵ層

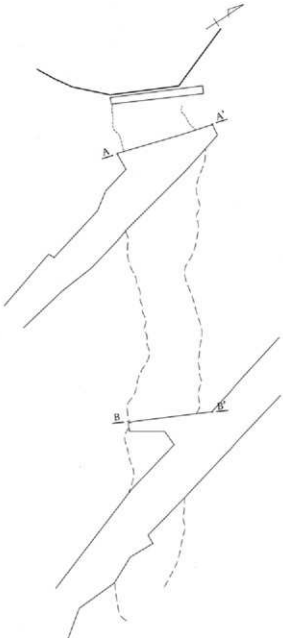
ロ　基本土層第Ⅶa層

ハ　基本土層第Ⅶb層

ニ　基本土層第Ⅷ層

第86図　48区　2号集石

1号集石



48区3号集石A－A'　B－B'

1　角礫径5～50cmが少量。これらの角礫はやわらかく削れる。

埋土　褐色土 10ys10YR4/4 ～にぶい黄褐色土 10ys10YR4/3 砂質。やや締まりあり。

イ　基本土層第VI層

ロ　基本土層第VIIa層

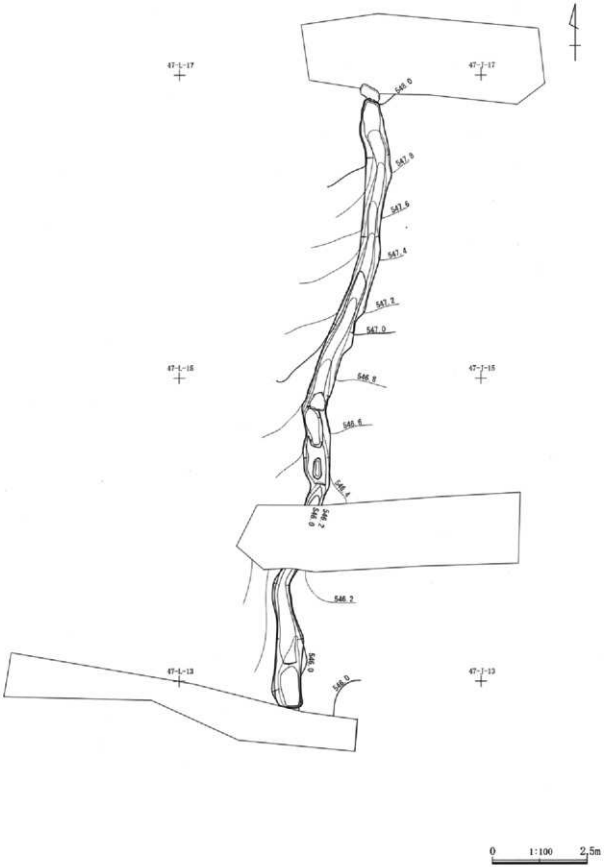
ハ　基本土層第VIIb層

ニ　基本土層第VIII層

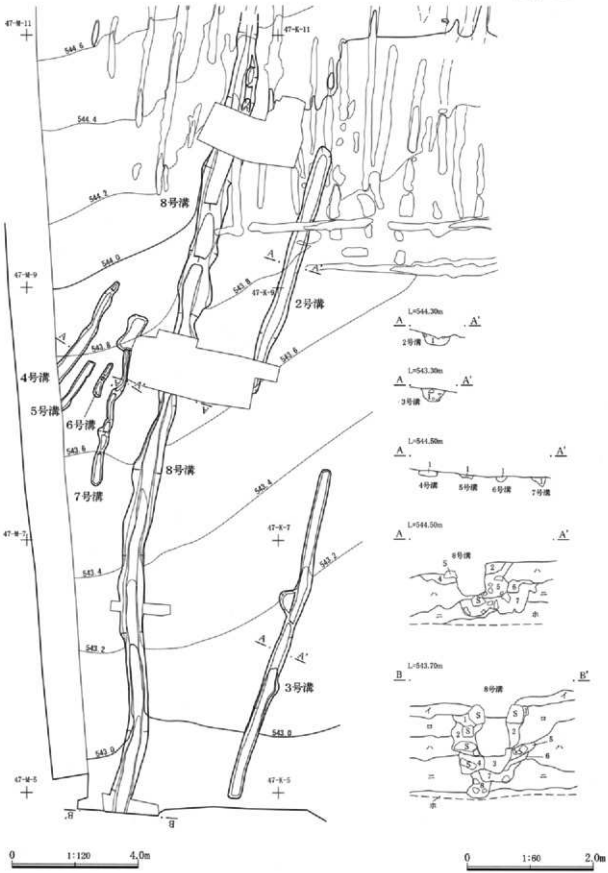
ホ　基本土層第IX層

0　1:150　5m

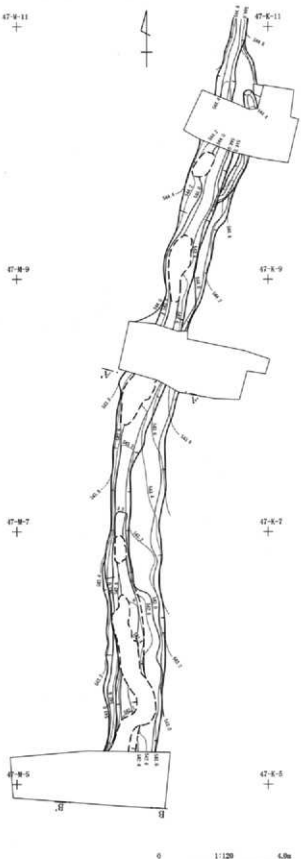
第87図　48区　3号集石


47-L-17
47-J-17
548.0
547.8
547.6
547.4
547.2
547.0
47-L-15
47-J-15
546.8
546.6
546.4
546.2
546.0
47-L-13
47-J-13
548.0
0
1:100
2.5m

第88図　47区　1号溝



第89図　47区　2、3、4、5、6、7、8号溝



２号溝Ａ－Ａ'

1　黒褐色土（Hue10YR2/2）砂層。径３cm亜角礫３％含む。径25cm亜角礫含む。締まりなし。

３号溝Ａ－Ａ'

1　黒褐色土（Hue10YR2/2）砂層。径３cm亜角礫３％含む。径25cm亜角礫含む。締まりなし。

４号溝Ａ－Ａ'

1　黒褐色土（Hue10YR2/3）砂層。径３cm亜角礫１％含む。鉄分の沈着あり。

５号溝Ａ－Ａ'

1　黒褐色土（Hue10YR2/3）砂層。径３cm亜角礫１％含む。鉄分の沈着あり。

６号溝Ａ－Ａ'

1　黒褐色土（Hue10YR2/3）砂層。径３cm亜角礫１％含む。鉄分の沈着あり。

７号溝Ａ－Ａ'

1　黒褐色土（Hue10YR2/3）砂層。径３cm亜角礫１％含む。鉄分の沈着あり。

８号溝Ａ－Ａ'　Ｂ－Ｂ'

イ　基本土層第Ⅳ層

1　黒褐色土（Hue10YR2/3）砂質。締まりなし。径２cm礫混じり。径20cm亜角礫含む。

黒褐色土（Hue10YR2/3）砂質。締まりあり。径１cm礫混じり。鉄分の沈着多い。

2　黒褐色土（Hue10YR2/3）砂質。締まりなし。径２～15cm亜角礫15％含む。径２cm礫含む。砂礫多く含む。

3　黒褐色土（Hue10YR2/3）砂質。締まりあり。径２～５cm軽石微かに含む。径５cm亜角礫含む。

ロ　基本土層第Ⅴ層

4　黒褐色土（Hue10YR2/3）砂礫多く含む。径20cm亜角礫５％含む。層厚径５cm含む。

5　黒褐色土（Hue10YR2/3）径１cm黄橙色軽石２％含む。細かな砂含む。

6　褐色土（Hue10YR4/4）砂質土。

7　明黄褐色土（Hue10YR7/6）砂質土。砂礫含む。

8　明黄褐色土（Hue10YR7/6）砂質土。砂礫多く含む。

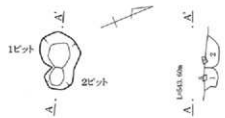
ハ　基本土層第Ⅵ層

ニ　基本土層第Ⅶ層

ホ　基本土層第Ⅷ層

第90図　47区　8号溝

46区　1・2号ピット

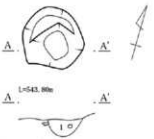


46区1・2号ピットA－A'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3)やや粘性。ややしまりあり。角礫径3～10cm3％。黄色軽石径3～5mmわずか。茶色粒少量。鉄分の付着あり。河床砂土がブロック状に少量まじる。(2号ピット)

2　暗褐色土 (Hue10YR3/3)やや粘性。ややしまりあり。角礫径3～10cm5％。茶色粒やや多めにまじる。(1号ピット)

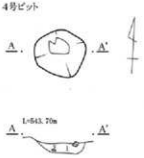
46区　3号ピット



46区3号ピットA－A'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。しまり弱い。角礫径5～10cm5％。黄色軽石径3cm少量まじる。茶色粒、黄色粒わずかにまじる。鉄分の付着あり。

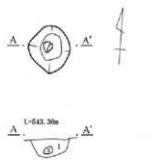
46区　4号ピット



46区4号ピットA－A'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。しまり弱い。角礫径5～10cm3％。黄色軽石径3cm少量まじる。茶色軽石径3cm少量まじる。茶色粒、黄色粒わずかにまじる。鉄分の付着あり。

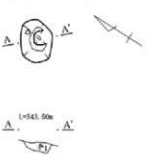
46区　5号ピット



46区5号ピットA－A'

1　黒褐色土(Hue10YR3/2) やや粘性。しまり弱い。亜角礫径5～15cm3％まじる。黄色軽石径3mm程度少量まじる。炭化物わずかにまじる。黄色粒少量、白色粒わずかにまじる。鉄分の付着あり。

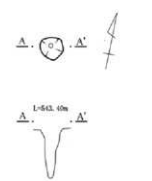
46区　6号ピット



46区6号ピットA－A'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。しまりなし。角礫径3～10cm5％。黄色軽石径1～5mm少量まじる。炭化物わずか。 鉄分の付着あり。

46区　7号ピット



46区7号ピットA－A'

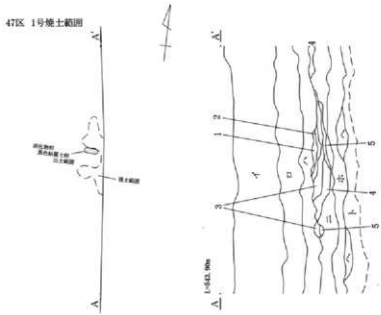
※掘りすぎのためセクションはなし。

ただし、埋土は、暗褐色土 (Hue10YR3/4) 砂質。しまりなし。黄色軽石径3mmわずか。角礫径1～3cmわずか。

0　1:40　1m

第91図　46区　1・3・4・5・6・7号ピット

47区 1号焼土範囲

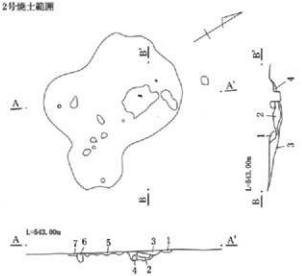


47区１号焼土Ａ－Ａ'

1　橙色土（Hue7.5YR6/8）焼土
2　暗褐色土（Hue10YR3/3）砂質。砂含む。
3　暗褐色土（Hue10YR3/4）浅間－粕川テフラ（As-kk）火山灰含む。
4　暗褐色土（Hue10YR3/4）褐色砂（As-Bスコリアか？）含む。
5　暗褐色土（Hue10YR3/3）粘質土。

イ　基本土層第Ⅴ層
ロ　基本土層第Ⅵ層
ハ　基本土層第Ⅶ層
ニ　基本土層第Ⅷ層
ホ　基本土層第Ⅸ層
ヘ　基本土層第Ⅸ層
ト　基本土層第Ⅹ層

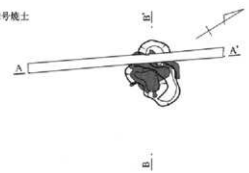
2号焼土範囲



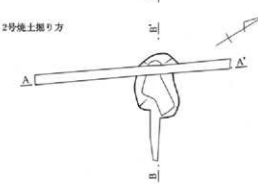
47区２号焼土Ａ－Ａ'

1　暗褐色土(Hue10YR3/3) 砂質。しまりなし。白色粒わずか。焼土多めにまじる。
2　橙色焼土（３×10cm）砂質。しまりややあり。黄色粒わずか。灰わずか。暗褐3/3の土がまじる。
3　暗褐色土(Hue10YR3/3) 砂質。しまりなし。黄色軽石径10mmわずか。焼土多めにまじる。
4　黒褐色土(Hue10YR3/2) 砂質。しまりなし。根のかくらんを受けている。
5　暗褐色土(Hue10YR3/3) 砂質。しまりなし。 黄色軽石径３～５mmわずか。白粒わずかに混じる。
6　黒褐色土(Hue10YR3/2) 砂質。しまりなし。黄色粒、白色粒わずか。焼土わずか。根のかくらんを受けている。
7　暗褐色土(Hue10YR3/3) やや粘性。しまりあり。 黄色軽石径５～10mmわずか。黄色粒、白色粒わずか。炭化物少量。

2号焼土



2号焼土掘り方



47区２号焼土Ｂ－Ｂ'

1　橙色焼土　砂質。しまりなし。暗褐3/3の土が混じる。黄色粒、白色粒わずかに混じる。炭化物少量。根により一部かくらん。
2　暗褐色土(Hue10YR3/3) 砂質。しまりなし。白色粒わずか。炭化物少量。
3　黒褐色土(Hue10YR3/2) 砂質。ややしまりあり。黄色軽石径10mmわずか。茶色粒、黄色粒、白色粒わずか。緑土か？
4　黒褐色土(Hue10YR2/3) やや粘性。ややしまりあり。黄色粒、白色粒わずか。炭化物少量。

0　1:40　1m

第92図　47区　1・2号焼土

3号焼土範囲

3号焼土範囲

47区３号焼土Ａ－Ａ'

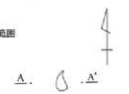
1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。しまりあり。黄色粒わずか。As-kk少量まじる。

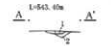
1'　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。しまりあり。黄色粒わずか。橙色焼土ごくわずか。

2　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。しまりあり。黄色粒わずか。橙色焼土少量。灰少量。炭化物少量。

3　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。しまりあり。黄色粒わずか。 灰少量まじる。As-kk わずか。

4号焼土範囲





4号焼土範囲

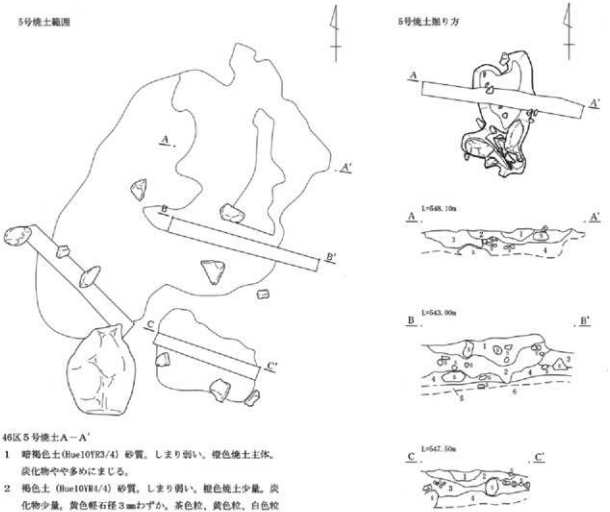
47区４号焼土Ａ－Ａ'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。ややしまりあり。灰少量まじる。橙色焼土多めにまじる。

2　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂質。ややしまりあり。焼土、粒状に少量まじる。As-kkが少量まじる。

0　1:40　1m

第93図　47区　3・4号焼土



46区５号焼土Ａ－Ａ'

1　暗褐色土(Hue10YR3/4) 砂質。しまり弱い。橙色焼土主体。炭化物やや多めにまじる。

2　褐色土（Hue10YR4/4）砂質。しまり弱い。橙色焼土少量。炭化物少量。黄色軽石径３mmわずか。茶色粒、黄色粒、白色粒やや多め。

3　にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 砂質。しまり弱い。２と同様。ただし焼土はまじらない。黄色粒は２よりやや目立つ。

4　暗褐色土(Hue10YR3/3) 砂質。しまり弱い。角礫径５～10cm７%。炭化物わずか。黄色粒、白色粒わずか。

46区５号焼土Ｂ－Ｂ'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 焼土層。やや粘性。しまり弱い。径３cm礫まじり。炭化物多くまざる。径５mm軽石少量（１～２%）。

2　黒褐色土(Hue10YR2/3) 砂礫多い。粘質。しまりあり。径５mm軽石10%。径５～10cm角礫２%。白粒まじり。

3　黒褐色土(Hue10YR2/3)　２層に比べ礫が多い。粘質。しまりあり。径５cm角礫３%。径２～３cm角礫３%。にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) の層が混ざる。径５mm軽石、白粒が多くみられる。

4　基本土層の８層。As-kkまじり。径５mm軽石まじり。

5　基本土層の９層。径５～15cm角礫まじり。径５mm軽石まじり。

6　基本土層の10層。径５～10cm角礫多くまざる。径５mm軽石まじり。

46区５号焼土Ｃ－Ｃ'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3) 焼土まじり。径５cm亜円礫多い（10%）。径５mm軽石多くみられる。表面には炭化物が多くみられる。粘質。しまり弱い。傾斜があるため焼土の残りは少ない。

2　黒褐色土(Hue10YR2/3) 炭化物が少量みられる。径２～３cm礫１%。径５mm軽石や白粒多い。粘質。しまりややあり。

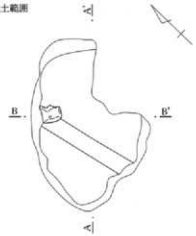
3　黒褐色土(Hue10YR2/3)　礫多い。基本土層の７・８・９層まじり。径５～15cm礫多くみられる（10%）。径５mm軽石多い（５～10%）。東側の礫上にAs-kkが堆積。粘性あり。しまりあり。

4　暗褐色土(Hue10YR3/4) 基本土層の10層。径５mm軽石、白粒が多い（10%）。径５～10cm礫少量まじり。やや粘質。しまり弱い。

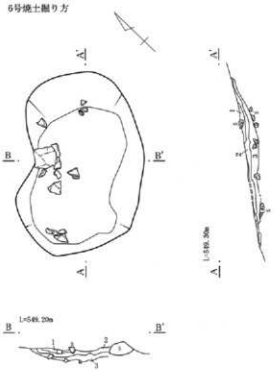
0　1:40　1m

第94図　46区　5号焼土

6号焼土範囲



6号焼土掘り方



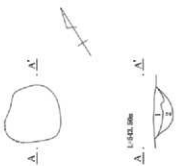
46区６号焼土Ａ－Ａ'

1　暗褐色土(Hue10YR3/4)　径２～３cm円礫まじり。焼土層の上で焼土が少しまざる。ややしまりあり。ややねばり。

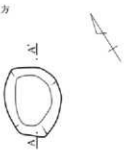
2　焼土層　褐色土(Hue10YR4/6)　径５mm軽石、白粒少量まざる。炭化物少量まざる。やや粘質。しまり弱い。

3　黒褐色土(Hue7.5YR2/2)　径２～３cm亜円礫３％まじり。炭化物多くまざる。やや粘性があり、ややしまりあり。径５mm軽石、白粒少量まざる。

7号焼土



7号焼土掘り方



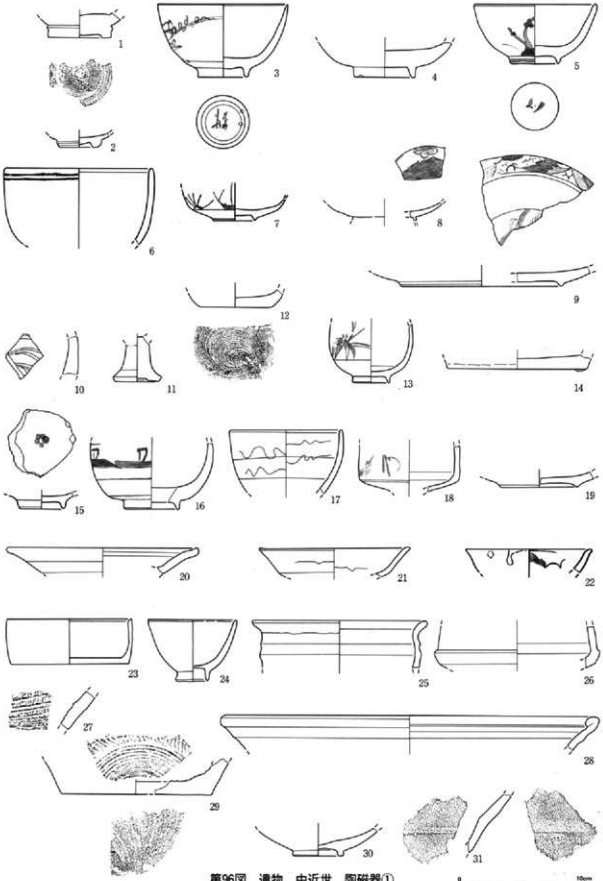
46区７号焼土Ａ－Ａ'

1　焼土　砂質。しまりふつう。橙色焼土主体。黒褐色2/3の土が少量まじる。黄色軽石径１～３mmわずか。焼けた礫径３～10cm３％程度まじる。

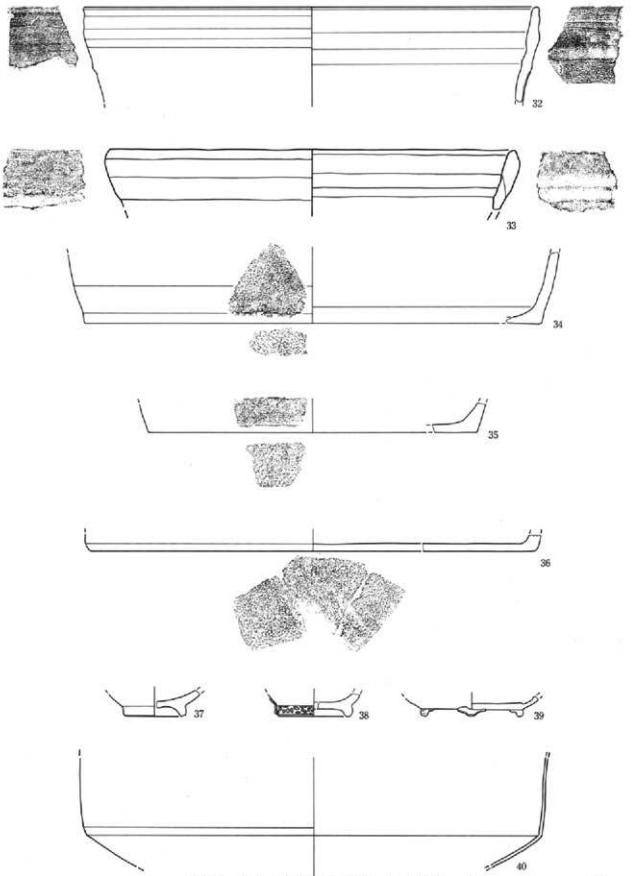
2　暗褐色土(Hue10YR3/3)　砂質。しまりやや弱い。角礫径１～３cm３％程度まじる。黄色粒少量まじる。黄色軽石径３mm程度少量混じる。

0　1:40　1m

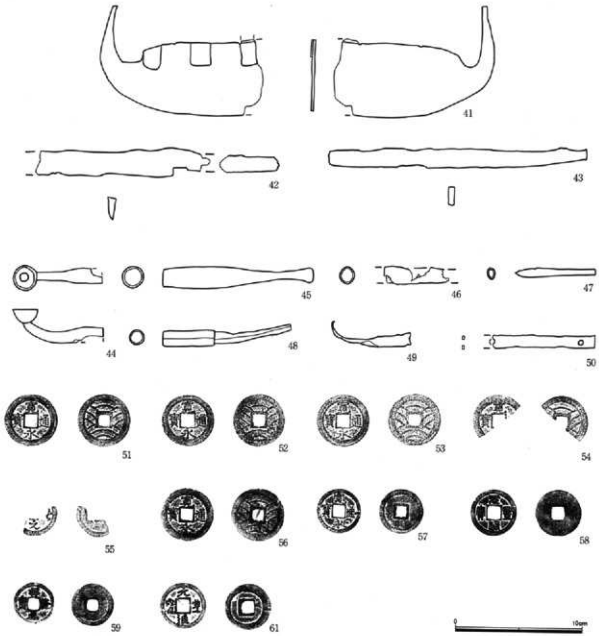
第95図　46区　6・7号焼土



第96図　遺物　中近世　陶磁器①



第97図　遺物　中近世　陶磁器②、金属製品①



第98図　遺物　中近世　金属製品②

第99図　遺物　中近世　石製品

第４節　平安時代

（１）遺構

この時期は、文化層の第３面に相当する。基本土層の第Ⅶ層が包含層である。

１　竪穴住居

48区１号竪穴住居（第100～105図、写真図版48-342～346、49-347～350）

D-３グリッドに位置する。確認時になかなか竪穴住居との判断がつきにくかったために、サブトレンチを４本も入れてやっと大まかな形状と規模が判明した。重複関係は無いものの、東壁の大部分を遺構確認のための２号試掘トレンチで壊されている。住居の規模は長軸約60cm、短軸約50cmのやや隅丸の長方形に近い。面積は9.8㎡である。遺構確認面からの深さは約15～20cmで、壁は緩やかに立ち上がる。床面は多少の凸凹を有しながらもほぼ平坦な面をなしていた。埋没土は上位に薄く浅間－粕川テフラが確認されていることから、基本土層の第Ⅶ層から第Ⅵ層を中心としている。カマドは、北壁の中心から南西側に位置し、南西隅に近い。袖や煙出し部分の構築材として薄く広めの石を何枚も用いられており、比較的に残存状態は良いが、右袖の一部が壊されている。煙出しは住居の掘り込み範囲よりも外に飛び出している。カマドの左袖と南西隅との間に床下土坑が設定されている。柱穴は検出されず、周溝も確認出来なかった。遺物は、須恵器の坏・碗を中心とした多数の破片が出土している。また、焼失住居であり、多くの炭化材が出土している。

46区１号竪穴住居（第100、106～108図、写真図版47-335～338、48-339～341）

U-３グリッドに位置する。重複関係は無い。遺構確認のための20号試掘トレンチの南端で須恵器の大甕がまとまって出土したことから住居と認識されたが、その後の遺構確認の際に平面形状が明確でないために、さらに補助トレンチを３本も入れてやっと大まかな形状と規模が判明した。住居の規模は長軸約42cm、短軸約40cmのやや楕円気味な形状である。面積は14.6㎡である。遺構確認面からの深さは約30cmで、壁はほとんど斜めの感じで緩やかに立ち上がる。埋没土は上位に薄く浅間－粕川テフラが確認されていることから、基本土層の第Ⅶ層から第Ⅵ層を中心としている。カマドは、東壁のほぼ中心から南東側に位置し、南東隅部分に近い。残存状態もあまり良くなく、袖は明確ではない。構築材の一部に石が利用されているが、煙出しははっきりせずに、掘り方の痕跡から判断した。大型の甕が散在した部分の少し西側から長軸約90cm、短軸約70cmの楕円形の床下土坑が検出された。南壁付近に須恵器の大甕の破片が多数出土しており、その右側に約42cm×約40cmのほぼ正円に近い貯蔵穴がある。柱穴は検出されず、周溝も確認出来なかった。遺物は、須恵器の坏・碗を中心とした多数の破片が出土している。

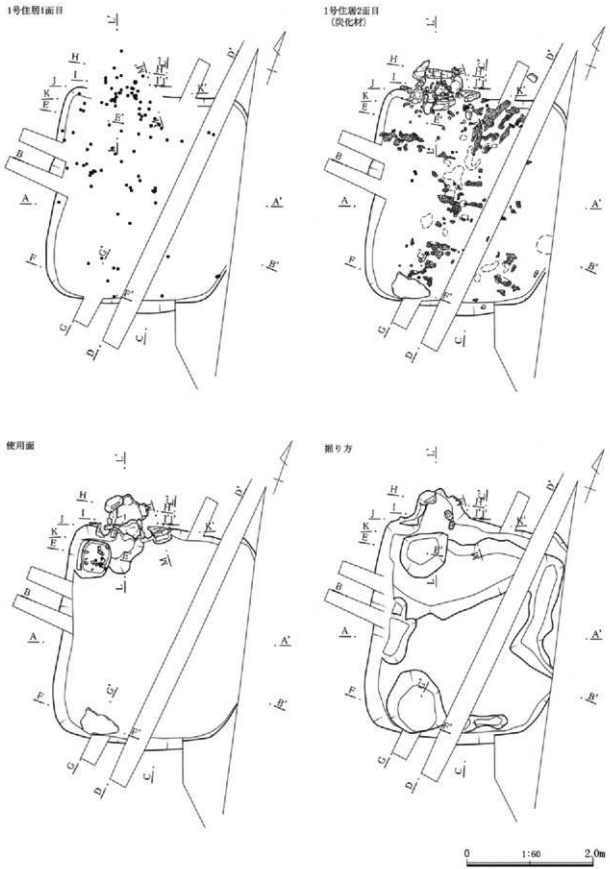
これ以外に、発掘調査時に遺物の多さと、焼土細粒や炭化物の多さ、それに北から南に向かう緩やかな傾斜の中でも、壁状の段差が３ヶ所確認できたことから、それぞれを北壁とする竪穴遺構を３基設定したものの、埋没土も北壁付近に僅かに浅く残っているだけで、それ以外の場所の壁がはっきりしておらず、カマドなどの痕跡も分からない。

１号竪穴遺構（第100・110図、写真図版49-351・352）

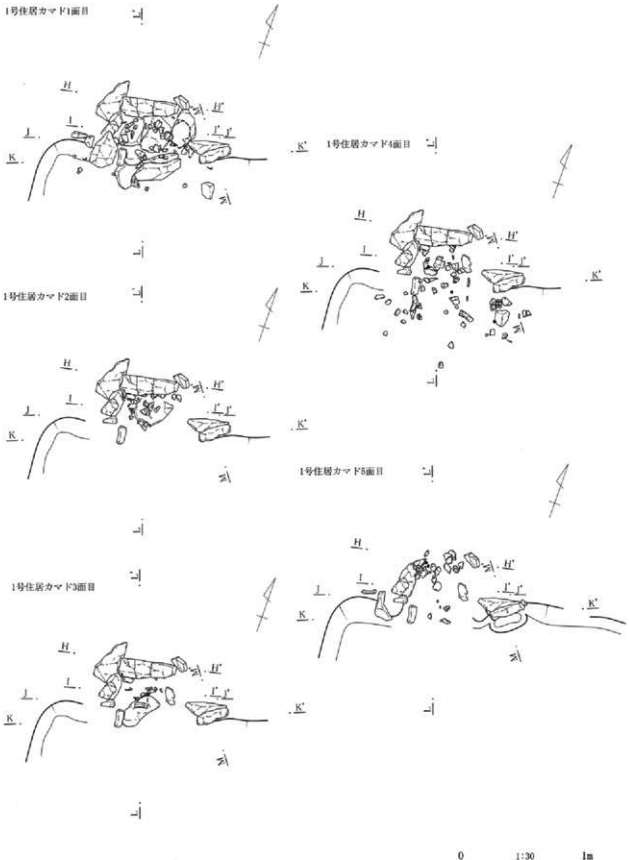
規模は、北壁の長さが約３m以上というだけで、床面も硬くなく平らでもない。

２号竪穴遺構（第100、110図、写真図版49-351・352）

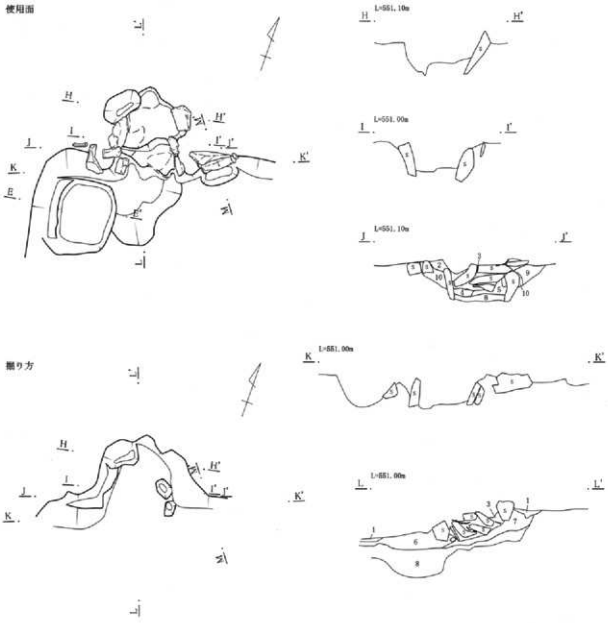
規模は、北壁の一部が確認されただけで、床面も硬くなく平らでもない。



第101図　48区１号竪穴住居



第102図　48区１号竪穴住居カマド

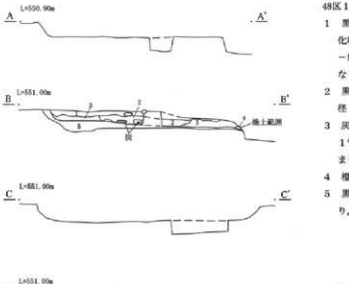


48区１号竪穴住居カマドＪ－Ｊ'Ｌ－Ｌ'

1　暗褐色土（Hue10YR3/4）締まりなし。
2　橙色土（Hue7.5YR7/6）やや締まる。焼土層。炭化物粒径５cm１％含む。
3　褐色土（Hue10YR4/6）締まりなし。焼土粒多量、炭化物粒径５mm１％含む。
4　暗褐色土（Hue10YR3/3）焼土多量に含む。締まりなし。炭化物粒含む。
5　暗褐色土（Hue10YR3/3）軽石径７mm（As-YPk）５％、炭化物粒径５mm３％含む。
6　暗褐色土（Hue10YR3/3）やや締まる。軽石径３mm（As-YPk）１％、炭化物粒径２cm１％含む。
7　暗褐色土（Hue10YR3/4）焼土粒多量に含む。灰褐色砂塊径５cm含む。As-Bかワ締まりなし。
8　暗褐色土（Hue10YR3/4）上部に焼土多量に含む。締まりあり。（貼り床）
9　暗褐色土（Hue10YR3/4）炭化物粒、白色軽石１％含む。やや締まる。
10　橙色土（Hue7.5YR7/6）焼土。やや締まる。

0　1:30　1m

第103図　48区１号竪穴住居カマド



48区１号竪穴住居Ｂ－Ｂ'　Ｄ－Ｄ'

1　黒褐色土（Hue10YR3/2）白色軽石径５mm（As-YPk ）２％、炭化物粒径５mm１％、焼土粒径１cm１％、青灰色アッシュ（浅間－榛川テフラ）塊径１cm１％、亜角礫径15cm１％含む。締まりなし。黄褐色土塊径３cm１％。

2　黒褐色土（Hue10YR3/1）炭化物粒径１cm10％、青灰色アッシュ径１cm２％、炭化材、焼土塊多量に含む。締まりなし。

3　灰黄褐色土（Hue10YR4/2）黄褐色土粒径１cm３％、小礫径２cm１％、炭化物粒径１cm～３cm１％、焼土粒径５mm１％含む。締まりなし。

4　橙色土（Hue2.5YR6/8）焼土。やや締まる。

5　黒褐色土（Hue10YR3/2）黒色土塊、黄褐色土塊含む。締まりあり。土器片、炭化物粒含む。貼り床。

48区１号竪穴住居Ｅ－Ｅ'

1　黒褐色土（Hue10YR3/2）締まる。白色軽石（As-YPk）径１cm、黒褐色土塊径２cm、黄褐色土塊径２cm、炭化物粒径１cm含む。床下土坑充填土

48区１号竪穴住居Ｇ－Ｇ'

1　黒褐色土（Hue10YR3/2）締まる。白色軽石（As-YPk）径１cm、黒褐色土塊径２cm、黄褐色土塊径２cm、炭化物粒径１cm含む。貼り床。

2　黒褐色土（Hue10YR3/2）締まりなし。

3　黒色土（Hue10YR2/1）白色軽石（As-YPk）、炭化物粒径１cm、黄褐色土粒径５mm含む。やや締まる。

4　黒褐色土（Hue10YR3/2）黒色土塊径３cm５％、黄褐色土塊径５mm１％含む。やや締まる。

第104図　48区１号竪穴住居

３号竪穴遺構（第100、110図、写真図版49-351・352）

規模ははっきりせず、床面も硬くなく平らでもない。

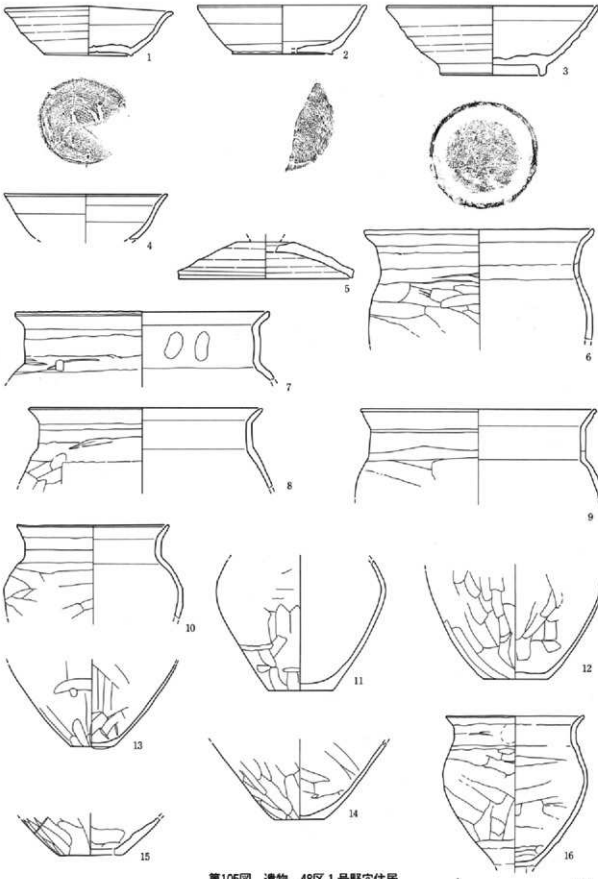
また、遺物分布が出土した土器は、土師器の甕や須恵器の坏・碗、灰釉陶器の椀等である。その内容については、下記で述べることとする。

47区１号配石（第100図、写真図版52-377）

これについては、存在する場所の周辺で基本土層の第層から第Ⅹ層までがかなり薄いために確認面もはっきりせず、石の厚みを考慮しても設置面がはっきりしないために、中世から弥生時代までの時期とかなり大まかな認定しか出来ない。そこで、係わるすべての時代の遺構に記載することとした。

（２）遺物（第123～126図、写真図版62～64）

多くの遺物が46区から47区にかけての基本土層第Ⅶ層を中心に出土している。土師器と須恵器、灰釉陶器などであり、器種は坏・高台付椀・甕・長頸壺などである。特に羽釜には「吉井型」と「月夜野型」と呼ばれる特徴的な形態があり、これについては第４章第３節でまとめている。また、灰釉陶器については神谷佳明氏に第４章第節でまとめて頂いた。さらに、多数出土している墨書土器についても、第４章第５節でまと



第105図　遺物　48区1号竪穴住居

めてみた。

本遺跡での灰釉陶器の接合事例は46区を中心に37例が確認されている。

46区76土坑5・9・11

46区O-6-25、76号土坑24

46区P-6-6、S-6-13・49

46区P-6-8・9、R-7-14・16・32、S-6-3・7・44・45・47・55・65・67・77、S-7-13・83、T-7-2・4・37、68号土坑

46区P-7-1・3・4、P-8-7・10、Q-7-4・11

46区P-8-1・16

46区P-8-10・14

46区Q-7-6・10

46区R-4-15、S-5-39・59、T-6-135

46区R-5-36、T-7-21

46区S-6-17、T-7-4

46区S-7-22、16号集石埋土

46区T-4-7・15

46区T-6-56・88

46区T-7-10・29

46区U-5-146、U-6-65、V-5-57・105

46区V-6-38、X-6-1

46区W-5-19、W-6-20、X-5-6・12

46区W-8-8？、W-8-？

46区X-9-2、47区7層3

46区O-6-5、76号土坑15

46区P-5-35、X-6-25

46区P-7-12、R-7-23、-　-15

46区P-8-4・9

46区Q-4-13、Q-5-3、R-5-17、S-5-75、T-7-30

46区R-4-13、S-5-18

46区R-5-8、S-6-24・74

46区R-5-52・58

46区S-6-45・61・64

46区T-3-22、X-6-9・23

46区T-6-1・15・33、T-7-24、U-7-1

46区T-6-87、V-6-9

46区U-5-35、V-5-135

46区U-8-1、X-9-1

46区W-4-4、W-5-？

46区W-8-3、7層4

46区X-8-1、47区7層6

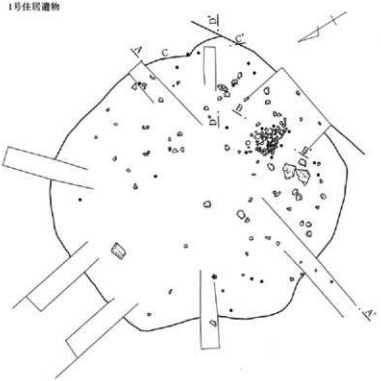
これらの分布の様子は、46区から一部47区にかけて遺物が集中して分布する範囲内に満遍なく認められる。(第119図)

次に、すべての遺物をチェックして土器類を選び出し、それらを遺構別・器種別に分類してそれぞれの点数と重量を遺構毎・器種毎にそれぞれ計測し、データ化することとした。

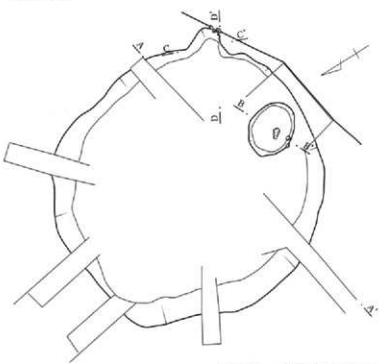
出土位置	種類	重　量（g）	備　考
48区1号竪穴住居	土師器	坏　670.0 g　甕　21106.0 g	
	須恵器	13.0 g	小破片のため分類不能
46区1号竪穴住居	土師器	坏　118.0 g　甕　134.2 g	
	須恵器	坏　20.0 g　椀　268.0 g　甕　1011.0 g	
グリッド一括	土師器	坏　1641.6 g　甕　2846.6 g	
	須恵器	坏　423.0 g　甕　24.4 g	

本遺跡から出土した平安時代に属する土器類は上記に記載した数量である(灰釉陶器は除く)。

1号住居遺物



1号住居掘り方



46区１号竪穴住居Ａ－Ａ'

1　黒褐色土（Hue10YR3/1）粘性。やや締まりあり。浅間－鬼川テフラ（As-kk）が多量に混じる。炭化物少量混じる。細粒（河床砂土？）がブロック状に混じる。

2　黒色土（Hue10YR2/1）（ただし変色が著だしい）粘性。やや締まりあり。黄色軽石径１～３mmやや多めに混じる。炭化物少量。黄色粒少量。

3　黒褐色土（Hue10YR3/1）粘性。やや締まりあり。黄色軽石径５～10mm少量。

3'　上記３層に黄色軽石径５～10mm多めに混じる。

4　黒褐色土（Hue10YR2/2）粘性。やや締まりあり。黄色軽石径５～10mm多めに混じる。

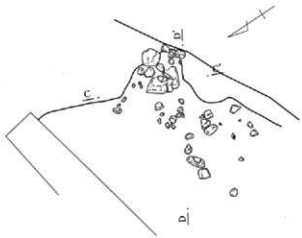
46区１号竪穴住居Ｂ－Ｂ'

1　黒褐色土（Hue10YR2/2）粘性。締まりあり。黄色軽石径５～10mm混じる。床下土坑充填土。

0　1:60　2.0m

第106図　46区１号竪穴住居

1号住居カマド遺物



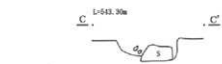
46区１号竪穴住居カマドＤ－Ｄ'

1　黒色土（Hue10YR2/1）粘性。やや締まりあり。青みがかかった、もろい角礫径２～10cm僅かに混じる。黄色軽石径３mm以下僅か。白粒少量。鉄分の付着あり。

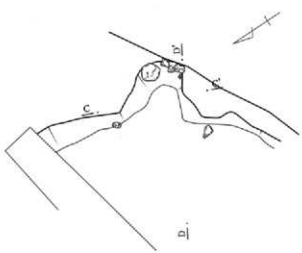
2　黒色土（Hue10YR2/1）上記の１の層とほぼ同じ。ただし、褐灰色土6/1がやや多めに混じる。鉄分の付着なし。炭化物少量。

3　上記の２の層に比し、褐灰色土の割合が多い。

※　竪穴住居の南壁より水が浸透し、土は常に水分を含む。酸化している土としていない土があり色は一定ではない。

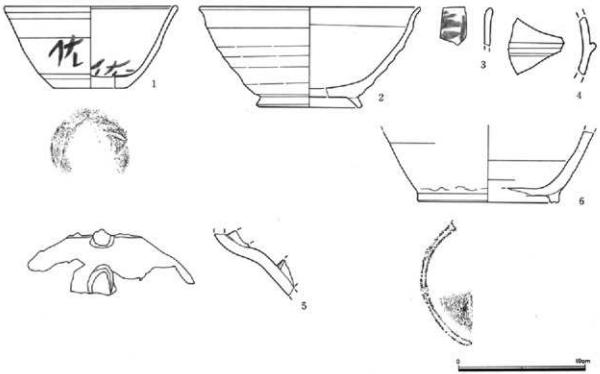


1号住居カマド掘り方



0　1:30　1m

第107図　46区１号竪穴住居カマド



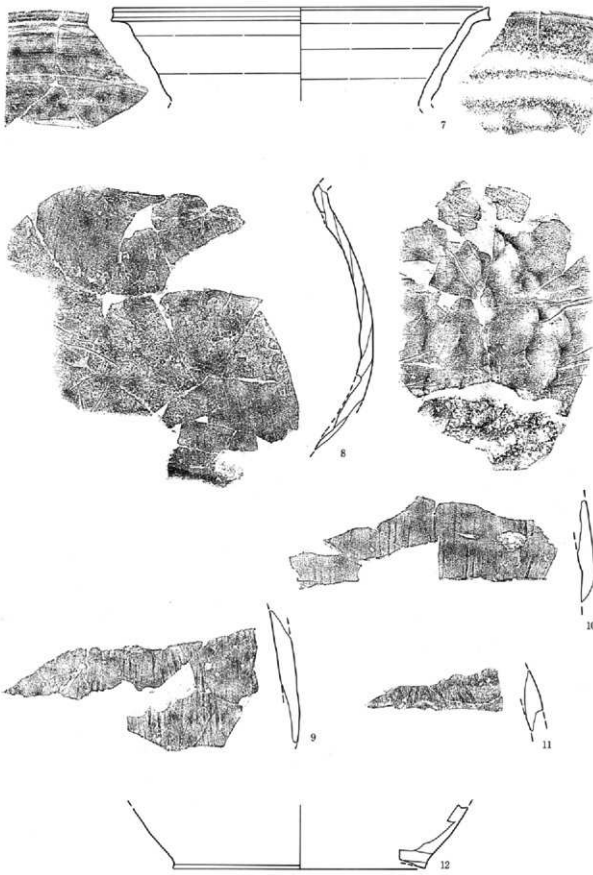
第108図　46区1号竪穴住居①

次に、その数に対して、本遺跡出土の完形品や他の遺跡の平安時代の時期の遺物を用いて器種毎の推定重量の平均値を求めた。その結果、平安時代の須恵器の坏が約170g、須恵器の高台付椀が約300g、灰釉陶器の椀が約120g、土師器の小型甕が約350g、大型甕が約2,000gの平均の重さが計測された。

その数値から割り込むことで、遺跡の遺構毎の推定個数を導き出すこととした。さらに、実測個数は推定される全体の大きさの約半分を有する個体をも実測対象としていることから、両者の間に多少の誤差が生じると考えられる。

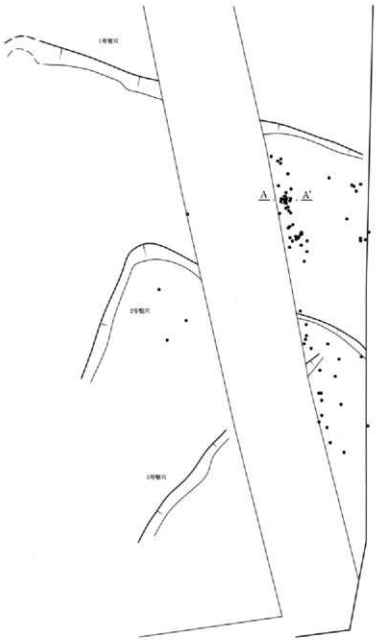
出土位置	種類	器種	推定個数	実測個数	器種	推定個数	実測個数	備　　考
48区1号竪穴住居	土師器	坏	3.35	0	甕	1.05	10	
	須恵器		0.076（坏　2、椀　2、蓋　1）					
46区1号竪穴住居	土師器	坏	0.69	0	甕	0.067	0	
	須恵器	坏	0.12	1	椀	0.89	1	
		甕	0.5	1	壺	－	1	
グリッド一括	土師器	坏	8.21	0	甕	1.412	0	
	須恵器	坏	2.5	3	椀	－	7	
		甕	0.012					

遺物の分布が多かった46～47区グリッドでの点数が多いのは当然としても、竪穴住居からの甕の推定個数が多いのは想定異常である。やはり、カマド右の貯蔵スペースの存在が大きいのであろうか。なお、数が少ない遺構については割愛した。



第109図　46区１号竪穴住居②

1・2・3号竪穴遺構　26号土坑焼土



47区１号竪穴遺構Ａ－Ａ'

1　暗褐色土（Hue10YR3/3）焼土、炭化物粒少量。

2　暗褐色土（Hue10YR3/4）焼土、炭化物粒微か。

3　黒褐色土（Hue10YR3/4）基本土層第Ⅸ層基本土層Ⅸ層を主体とする。

0　1:30　50cm

0　1:60　2.0m

第110図　46区　1・2・3号竪穴遺構　26号土坑焼土

第５節　古墳時代

この時期は、文化層の第４面に相当する。基本土層の第Ⅶ層が包含層である。

（１）遺構

この時代の遺構は、竪穴住居１軒、周辺に遺物が集中する47区１号集石がある。

１　竪穴住居

47区１号竪穴住居（第100、113～122図、写真図版50-355～362、51-363～370、52-371～374）

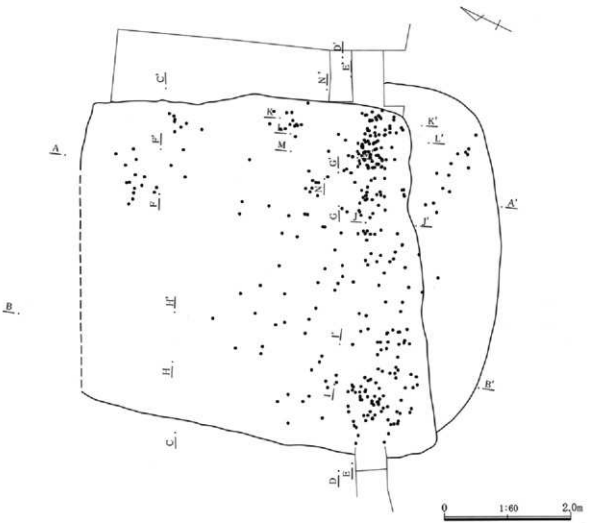
Ｆ-１グリッドに位置する。重複関係は、47区２号土坑が住居の埋没土の一部を掘り込んでいる。埋没土は基本土層Ⅱ層を主体としているが、上位の途中に浅間－粕川テフラが薄く堆積している。形状は、北壁の長さが約4.6m、南壁の長さが約5.4mとやや台形に近い四角形であり、四壁ともほぼ直線を指向する。規模は、主軸でもある南北が約5.4m、東西が約5.6mである。面積は28.3㎡である。遺構確認面からの深さは約90㎝とかなり深く、壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、多少の凸凹を有しながらもほぼ平坦な面をなしていた。ただ、使用された土がやや粘性を持つ締りが弱い基本土層のⅩⅡ層と基本土層のⅩⅡ層を混ぜ合わせた感じである。カマドは、東壁の中心から南側に位置し、南東隅に近い。両袖の残りは良く、構築材にいくつもの薄い石を利用している。煙出しは僅かに住居の外に伸びている。焼土の残りも良く、細かく砕けた獣骨が多数含まれていたが、残念ながら種の特定は出来なかった。柱穴は４本検出されている。カマド脇のものから仮に１として、時計回りに４番まで番号を付けることとする。個々の規模は、柱穴１が直径36㎝、深さ54㎝。柱穴２が直径42㎝、深さ36㎝。柱穴３が直径36㎝、深さ30㎝。柱穴４が直径30㎝、深さ24㎝である。柱穴の間は、１-２が2.8m、２-３が2.7m、３-４が2.7m、４-１が2.7mとほぼ同一の間隔である。柱穴の１、２、３には柱としての木の部分が腐食しているものの、上からの流れ込みの土による直径約㎝の痕跡が残っている。周溝は確認出来なかった。南東隅に位置する円形の床下土坑の規模は直径86㎝、深さは24㎝である。遺物はカマドの中とカマドの右袖横の南東隅のコーナーに小型甕とやや大型の甕が設置され、カマドの中と同様に細かく砕けた獣骨が多数検出された。遺物は、住居の確認開始時点から埋没土中にかけて多数の破片が出土しており、特にカマド内や右横の貯蔵コーナーからやや大き目の破片が多数出土している。主体は、土師器の坏・甕であり、特に坏と甕が大部分を占める。遺物の時期は、５世紀末から６世紀前半にかけてである。古墳時代の土器については、多数の土師器が竪穴住居を中心に出土しているが、須恵器は破片が僅か１片だけの出土であり、この地が少なくとも当時の上毛野地域（「上毛野国」の記載が文献に現れるのは7世紀後半の木簡、「上野国」は律令制度が整う８世紀からの名称）の中心部から見て僻地の立地であったにしても、須恵器が１点も出土しないのは集落遺跡であることにも起因するのであろう。

（２）遺物（第121、122図、写真図版60、61）

遺物の組成としては、土師器の坏・甕・壺であり、特に坏と甕が大部分を占める。共に、５世紀後半から６世紀前半の時期の特徴をよく表している遺物である。分類にあたっては、ほぼ同時期の箕郷町下芝天神遺跡の事例を参考としたが、この時期の編年については、坂口一氏（1987、1999）、中沢悟氏が多野郡吉井町の矢田遺跡での編年（1996）について詳細な細分を行っており、坂口編年ではⅡ段階からⅢ段階（1999では３期から４期）、中沢編年では５段階から６段階に相当する。

土師器の分類では、まずは坏が１類と２類とに大きく分けられる。１類（１～８）は口縁部が内側に湾曲

1号住居遺物上げ



第113図　47区1号竪穴住居

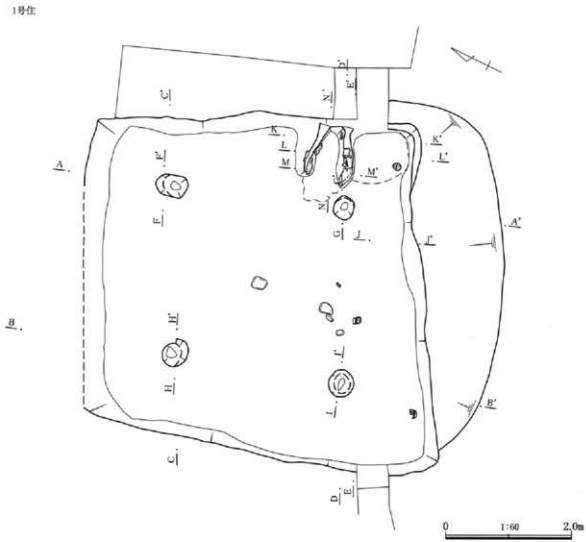
する形状であるのに対して、2類（9～20）は口縁部が外に反り返る形状である。共に底部は篦削りによる成形で、口縁部は横撫でにより整えている。甕については、器面の成形や厚みなどで坏との違いは一目瞭然であるが、底部に穴があいているだけの甑や転用の甑との区別は難しい。

次に、すべての遺物をチェックして土器類を選び出し、それらを遺構別・器種別に分類してそれぞれの点数と重量を遺構毎・器種毎にそれぞれ計測し、データ化することとした。

出土位置	種類	器種	重量（g）	器種	重量（g）	備　　考
47区1号竪穴住居	土師器	坏	123.0 g	甕	24.4 g	内黒・土師器11.0 g 含む

本遺跡の遺構から出土した古墳時代に属する土器類は上記に記載した数量である。

次に、その数に対して、本遺跡出土の完形品や他の遺跡の古墳時代の時期の遺物を用いて器種毎の推定重



第114図　47区１号竪穴住居

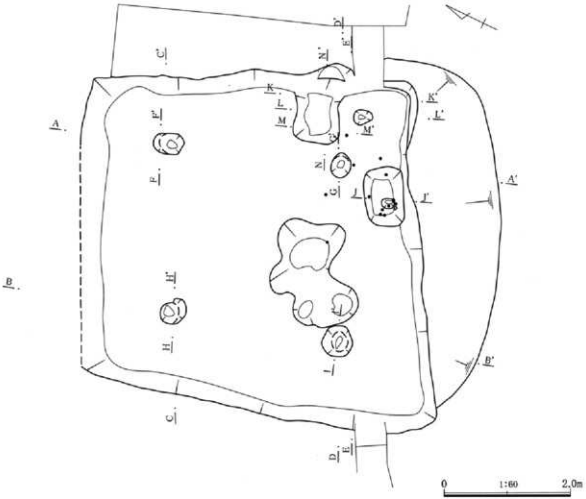
量の平均値を求めた。その結果、古墳時代の土師器の坏が約200ｇ、土師器の甕が約2,000ｇの重さであることが計測されている。

その数値から割り込むことで、遺跡の遺構毎の推定個数を導き出すこととした。さらに、実測個数は推定される全体の大きさの約半分を有する個体をも実測対象としていることから、両者の間に多少の誤差が生じると考えられる。

出土位置	種類	器種	推定個数	実測個数	器種	推定個数	実測個数	備　　考
47区１号竪穴住居	土師器	坏類	0.55	20	甕	0.012	5	

遺物は47区１号竪穴住居上層とやや南側に分布が多く、竪穴住居からの復元個数もかなり多い。

47区　1号住居跡り方



第115図　47区１号竪穴住居

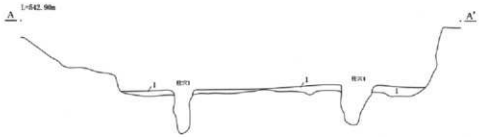
参考文献

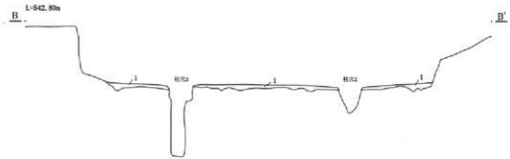
坂口　一 1987　「群馬県における古墳時代中期の土器の編年」『研究紀要』４　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

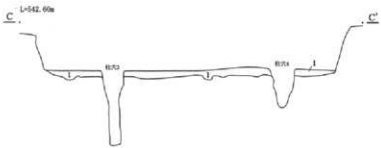
坂口　一 1999　「群馬県における古墳時代中期の土器の様相」『東国土器研究』第５号　東国土器研究会

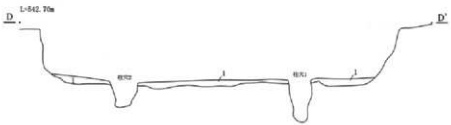
中沢　悟 1996　「矢田遺跡における古墳時代の土器について」『矢田　Ⅵ　古墳時代住居跡編（3）』　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

1号住居







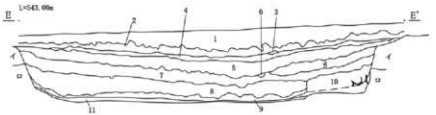


47区１号竪穴住居Ａ－Ａ'　Ｂ－Ｂ'　Ｃ－Ｃ'　Ｄ－Ｄ'

1　にぶい黄橙色土（Hue10YR6/3）基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。掘り方。

0　1:60　2.0m

第116図　47区１号竪穴住居断面



47区１号竪穴住居Ｅ－Ｅ'

1　黒褐色土（Hue10YR3/2）基本土層第Ⅷ層を主体とする。
2　灰褐色土（Hue7.5YR4/2）基本土層第Ⅷ層を主体とする。
3　褐色土（Hue7.5YR4/3）基本土層第Ⅷ層を主体とする。青灰色アッシュ（浅間－粕川テフラ）塊径１cm５％
4　浅間－粕川テフラ（As-kk）　一次堆積。
5　黒褐色土（Hue10YR3/4）基本土層第Ⅸ層と第Ⅹ層が混ざり込んでいる。
6　黄褐色土（Hue10YR8/6）基本土層第Ⅸ層と第Ⅹ層、それに第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。
7　黄褐色土（Hue10YR7/8）軽石径３mm（As-YPk）１％含む。基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。
8　にぶい黄褐色土（Hue10YR6/4）軽石径３mm（As-YPk）３％含む。基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。
9　黄褐色土（Hue10YR5/6）軽石径３mm（As-YPk）１％含む。基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。
10　黒褐色土（Hue10YR3/4）カマド構築土。
11　にぶい黄褐色土（Hue10YR6/4）基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。
イ　基本土層第Ⅹ層
ロ　基本土層第ⅩⅠ層

47区１号竪穴住居Ｆ－Ｆ'

1　にぶい黄橙色土（Hue10YR6/3）基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。
2　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）基本土層第ⅩⅠ層を主体とする。
3　浅黄橙色土（Hue10YR8/3）基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。柱の木が腐食した部分。

47区１号竪穴住居柱穴Ｇ－Ｇ'

1　浅黄橙色土（Hue10YR8/3）基本土層第ⅩⅠ層を主体とする。
2　浅黄橙色土（Hue10YR8/3）基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。柱の木が腐食した部分。
3　にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）基本土層第ⅩⅠ層を主体とする。
4　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）基本土層第ⅩⅠ層を主体とする。

47区１号竪穴住居柱穴Ｈ－Ｈ'

1　浅黄橙色土（Hue10YR8/3）基本土層第ⅩⅠ層を主体とする。
2　浅黄橙色土（Hue10YR8/3）基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。柱の木が腐食した部分。
3　にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）基本土層第ⅩⅠ層を主体とする。

47区１号竪穴住居柱穴Ｉ－Ｉ'

1　浅黄橙色土（Hue10YR8/3）基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。柱の木が腐食した部分。
2　にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）基本土層第ⅩⅠ層を主体とする。
3　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/3）基本土層第ⅩⅠ層を主体とする。
4　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）基本土層第ⅩⅠ層を主体とする。

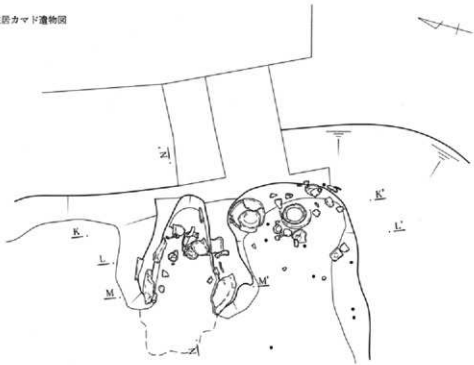
47区１号竪穴住居柱穴Ｊ－Ｊ'

1　にぶい黄橙色土（Hue10YR6/3）基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。
2　浅黄橙色土（Hue10YR8/3）基本土層第ⅩⅠ層を主体とする。
3　浅黄橙色土（Hue10YR8/3）基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。柱の木が腐食した部分。
4　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）基本土層第ⅩⅠ層を主体とする。
5　浅黄橙色土（Hue10YR8/3）基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。柱の木が腐食した部分。
6　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）基本土層第ⅩⅠ層を主体とする。

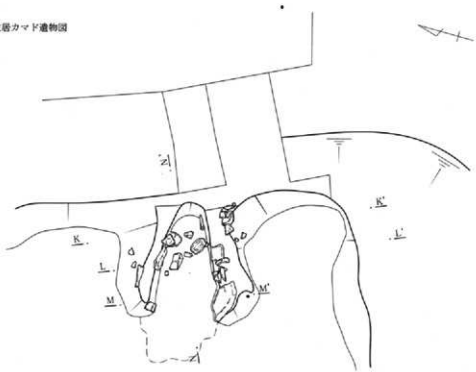
0　1:60　2.0m

第117図　47区１号竪穴住居カマド

1号住居カマド遺物図

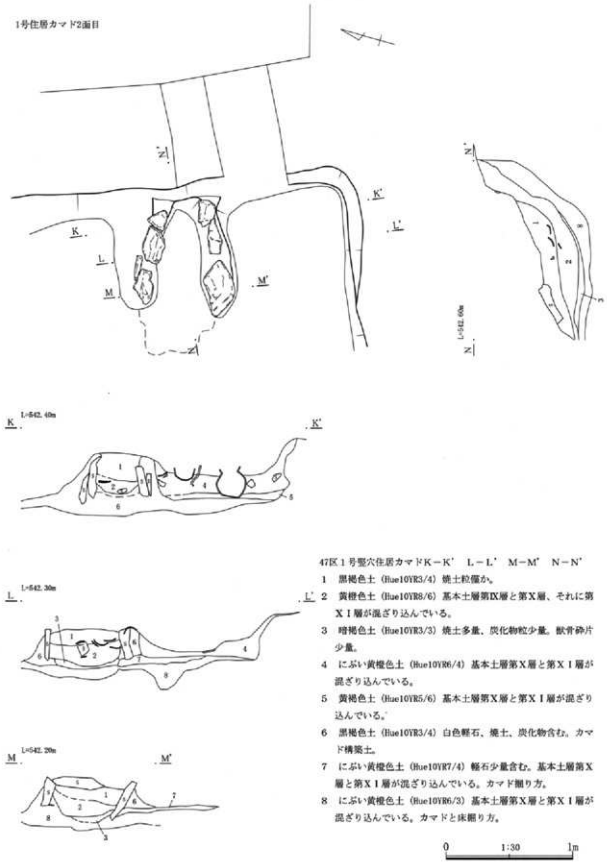


1号住居カマド遺物図



0　1:30　1m

第118図　47区１号竪穴住居カマド



47区１号竪穴住居カマドK－K'　L－L'　M－M'　N－N'

1　黒褐色土（Hue10YR3/4）焼土粒僅か。

2　黄橙色土（Hue10YR8/6）基本土層第Ⅸ層と第Ⅹ層、それに第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。

3　暗褐色土（Hue10YR3/3）焼土多量、炭化物粒少量。獣骨砕片少量。

4　にぶい黄橙色土（Hue10YR6/4）基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。

5　黄褐色土（Hue10YR5/6）基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。

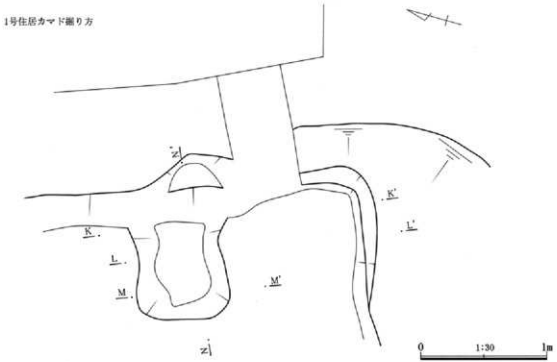
6　黒褐色土（Hue10YR3/4）白色軽石、焼土、炭化物含む。カマド構築土。

7　にぶい黄橙色土（Hue10YR7/4）軽石少量含む。基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。カマド掘り方。

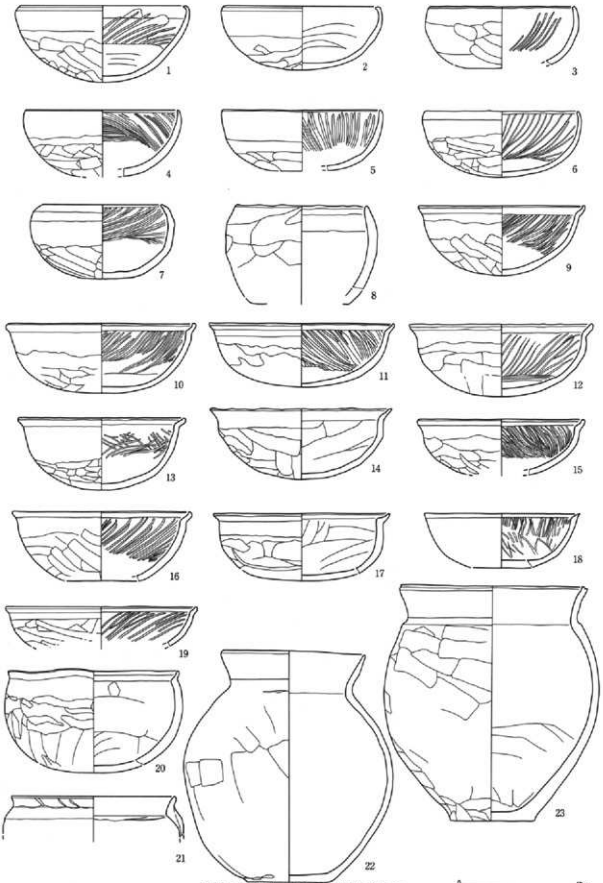
8　にぶい黄橙色土（Hue10YR6/3）基本土層第Ⅹ層と第ⅩⅠ層が混ざり込んでいる。カマドと床掘り方。

0　1:30　1m

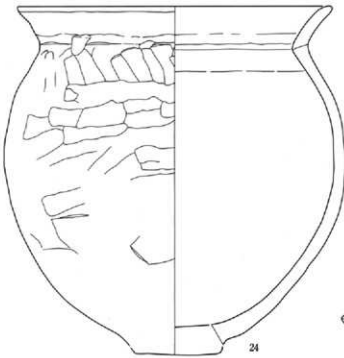
第119図　47区１号竪穴住居カマド

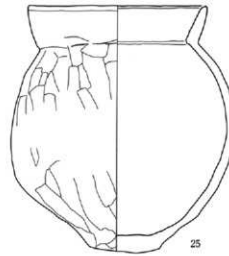


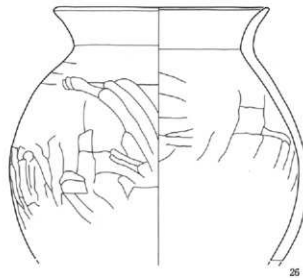
第120図　47区１号竪穴住居カマド掘り方

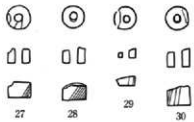


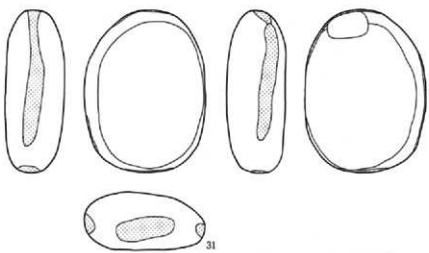
第121図　遺物　47区1号竪穴住居①



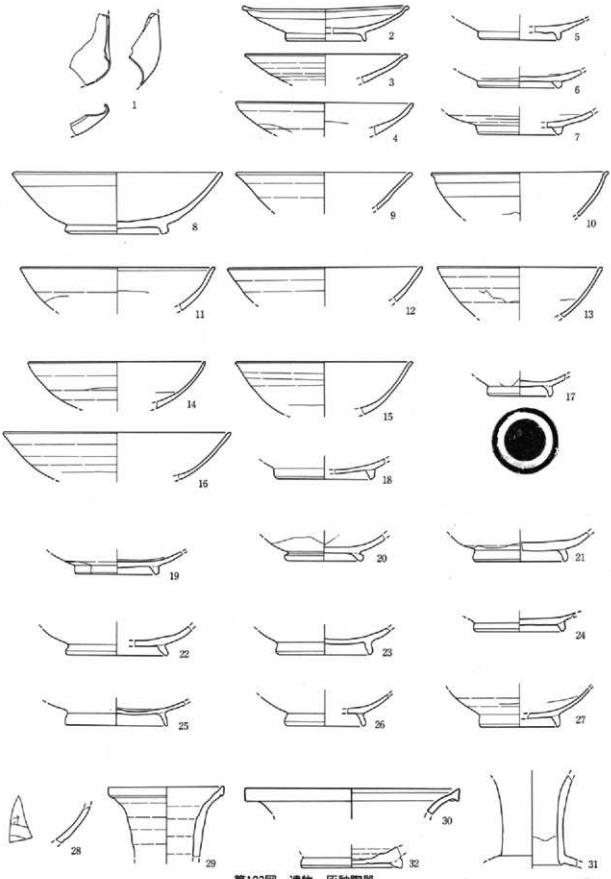




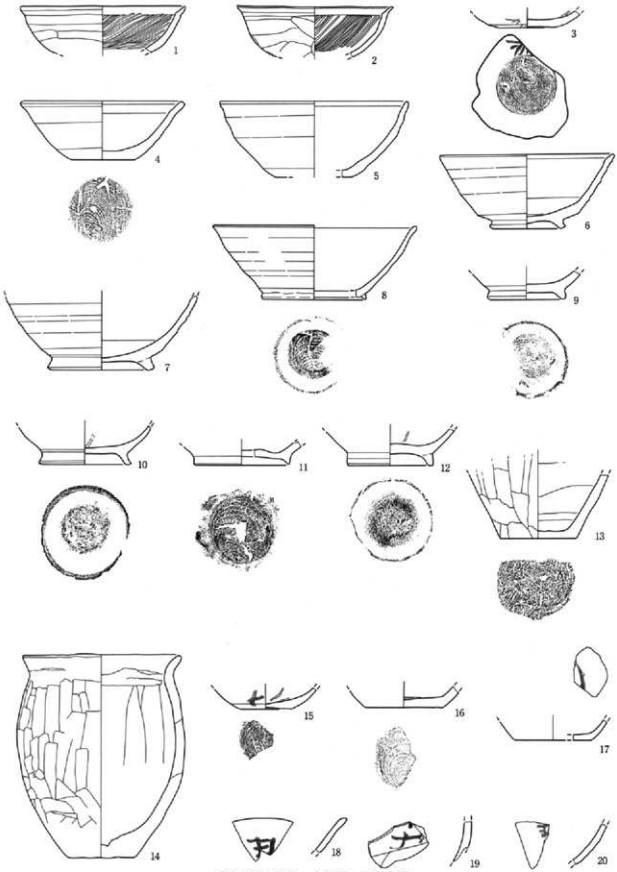




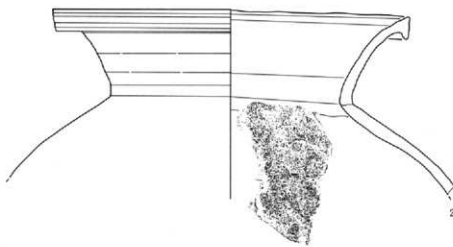
第122図　遺物　47区１号竪穴住居②

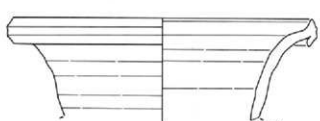


第123図　遺物　灰釉陶器

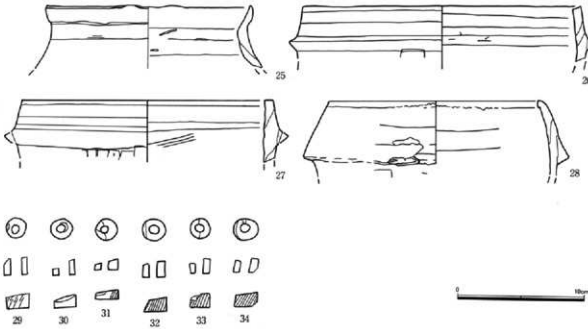


第124図　遺物　土師器、墨書土器





第125図　遺物　須恵器



第126図　遺物　羽釜、臼玉

第６節　弥生時代

（１）遺構

この時期は、文化層の第５面に相当する。基本土層の第Ⅺ層が包含層である。弥生土器を中心とした遺物の集中部分を検出した。

１　遺物分布（第134～140図、写真図版378）

47区の南東部、A-１～B-２グリッド周辺の遺物分布については出土した点数をドットで表したが、総数約650点の内、120点ほどが接合した。発掘調査中の所見では、竪穴住居等の痕跡も確認出来なかったために、遺物集中地点として扱うこととした。ただ、47区の南東部分の巨石に接する様に集中しており、一部は古墳時代の土師器の分布と重なる。（第100図参照）

あるいは、平安時代の灰釉陶器や古墳時代の土師器・玉類と同様に、巨石信仰の表れであろうか。

２　47区１号集石（第78図、写真図版377）

これについては、存在する場所の周辺で基本土層の第層から第Ⅹ層までがかなり薄いために確認面もはっきりせず、石の厚みを考慮しても設置面がはっきりしないために、中世から弥生時代までの時期とかなり大まかな認定しか出来ない。そこで、係わるすべての時代の遺構に記載することとした。

（２）遺物（第141～147図、写真図版67～69）

遺物は、上記の遺物集中地点から出土した土器を主体とする。図化した破片数は56点である。時期は弥生時代中期前半が中心であるが、一部は前期末まで遡る可能性も考えられる。文様は、条痕文、沈線文、無文、縄文が主体である。ここで、それぞれについてみていくこととする。

１　条痕文（第141図１～８）

１は、口縁部に９本単位の上と下の両方からの鋭い櫛歯状の条痕を左右に斜行させることで「×」印を呈し、胴部に何単位かの粗い条痕を斜め方向、あるいは横方向に施している。内面は指による横ナデを施している。器形は口縁部がやや外反する小型の甕で、２～８も同一個体と考えられる。

２　条痕文と平行沈線文（第142図９～16）

口縁部に２本の浅く広い幅の沈線を施した９～12は同一個体と考えられ、器形は口縁部がやや外反する大型の甕である。あるいは沈線化した浮線文ととらえることで、前期末から中期初頭の位置付けが可能なのかも知れない。

13～16は歯同一個体と考えられる大型の甕で、胴部から口縁部にかけてやや内湾し、口唇部に僅かに外反する。口縁部は横ナデによる無文で、口縁部下位から胴部上位にかけてほぼ一定間隔の幅が狭くやや深めの沈線を横方向に３本施すとともに、その内の最上位の１本にはほぼ等間隔で押圧による刺突を施す。また、地に細い斜め方向の条痕を施している。口縁部内面は横ナデ、胴部内面は斜め方向のナデを施している。

３　無文（第143図17～22）

17は胴部から頸部にかけてやや内湾し、頸部はほぼ直立する。口唇部に波状の突起をおそらくは12ヶ所ほど持つ。頸部は無文、口縁部内面は横ナデ、胴部は幅広のヘラで斜め方向や横方向のナデが施されている。器形は大型の甕である。17～22はほぼ同一個体と考えられる。

４　細い条痕文（第144～146図、23～53）

縦方向あるいは斜め方向に細い10本程度の櫛歯の条痕を施す。器形はおそらくは大型の甕と考えられる。

条痕の様子から何個体分に相当すると考えられる。

5　縄文（第147図54～56）

ほとんど縄目が読めない資料であり、ほぼ同一個体と考えられる。

本遺跡とほぼ同時期、あるいは先行する時期の群馬県内での遺跡としては、周辺では中棚Ⅱ遺跡、川原湯勝沼遺跡があげられる。特に、川原湯勝沼遺跡は２個体の甕と壺の出土状況が再葬墓的な様相を示すことから注目すべき遺跡である。さらに隣接する市町村をみると、高崎市（旧倉渕村）三ノ倉落合遺跡、中之条町清水遺跡、渋川市南大塚遺跡などがあげられる。これらの遺跡は縄文時代晩期から中期初頭にかけての、縄文土器の器形と文様を色濃く残す変形工字文系の土器と、条痕文系の沖式であり、外来系の遠賀川式や水神平式が伴う事例もある。いずれにしても、中期前半の岩櫃山式土器に先行する時期の土器群である。県内では渋川市（旧子持村）押手遺跡や高崎市（旧榛名町）上久保遺跡、藤岡市の沖Ⅱ遺跡などがあげられる。

特に、集石遺構に類似する事例として、藤岡市の前期の沖Ⅱ遺跡の土坑があげられる。こうした点を踏まえて、器形と施文から前期末から中期前半とも考えられ、器形からはむしろ東北地方の影響を受けているとも考えられる。

吾妻地区のこの時代の様子をみてみると、吾妻町には学史に名高い岩櫃山麓の巣岩除遺跡がある。この遺跡は再葬という形態での墓であり、生活領域からかけ離れた山の斜面途中の岩の除に土器に人骨を入れて土器ごと埋葬する形で、その時期も限定される。出土した19個体の土器も大きく分けて、縄文時代の伝統を引き継ぐ東日本的な変形工字文の甕形土器と、東海地方などの影響を受けた条痕文をもつ壺形土器の二つの系統である。この遺跡出土の土器を示標とした岩櫃山式が編年として設定されている。

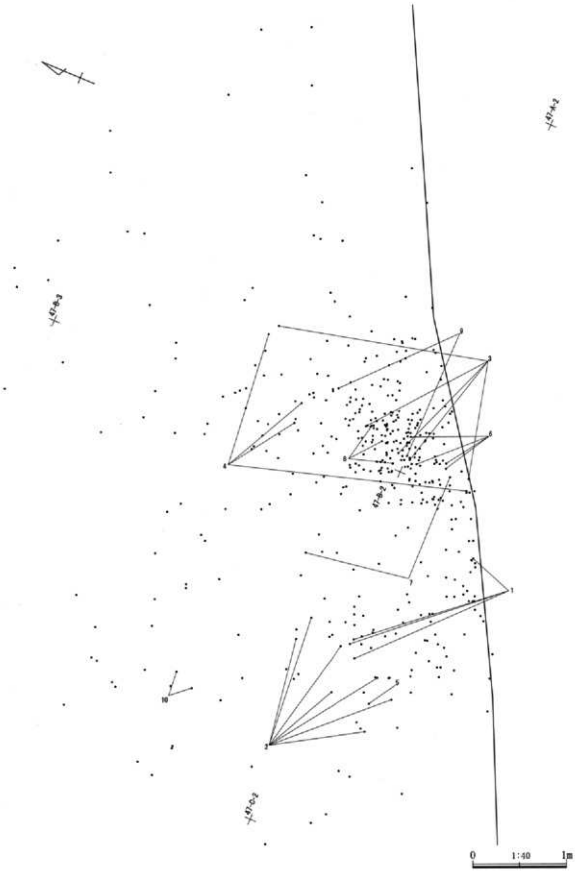
吾妻町内では一方で、集落空間として利用可能な地形からも再葬と考えられる遺構が検出される事例もある。前畑遺跡からは弥生時代中期前半の土坑９基が検出され、岩櫃山式土器の壺型土器を中心に多数の遺物が出土している。後期には遺跡数が増加し、善導寺前遺跡、小泉宮戸遺跡、昆布皆戸遺跡などがあげられる。

中之条町では、前期末葉の壺形土器と甕形土器が宿割遺跡から出土しており、再葬墓と考えられている。有笠山１号洞窟遺跡と２号洞窟遺跡からは中期初頭の土器と共に、多量の焼けた人骨や穿孔された人の指の骨などが出土しており、やはり再葬墓と考えられる。後期になると吾妻町と同様に遺跡数が増加し、天神遺跡や伊勢町川端遺跡などがあげられる。

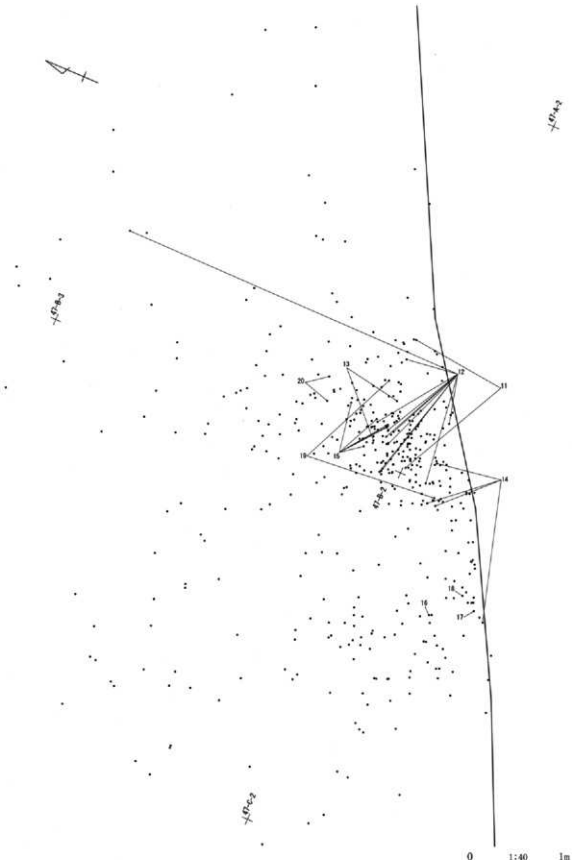
長野原町では、立馬Ⅰ遺跡で前期の竪穴住居が１軒、中期後半の土器棺墓を含む土坑が数基、長野原一本松遺跡で中期前半の土坑１基、横壁中村遺跡では埋甕１基、がそれぞれ検出されている。一方で、前述した吾妻町や中之条町の事例とは異なり、後期の出土事例は少なく、石畑遺跡で１基の土坑、下原遺跡や立馬Ⅰ遺跡、それに二社平遺跡、居家以岩除群、寺久保遺跡、新田原Ⅰ遺跡で採集されているだけである。

倉渕村では、上の久保遺跡で岩櫃山式の壺型土器と甕型土器、それに深鉢が出土しており、後期では水沼遺跡や東小学校遺跡から樽式が出土している。

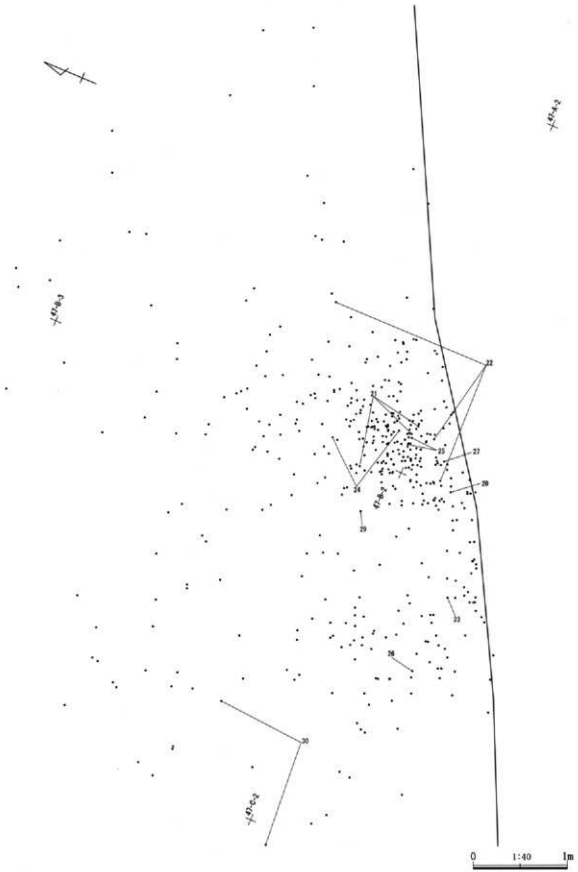
このように、前期末から中期前半にかけてよりも後半に、さらに後期に徐々に遺跡数が増加する傾向が強い。だが、再葬墓はむしろその以前の段階の中期前半から中葉にかけて隆盛し、中期後半からは方形や円形の周溝墓が隆盛する。藤岡市沖Ⅱ遺跡では、前期末から中期初頭の土器棺設土坑27基と集石土坑１基が検出されている。ここでは他の遺跡と比べて、甕形土器の割合が高いのが特徴である。また、集石土坑は底面に



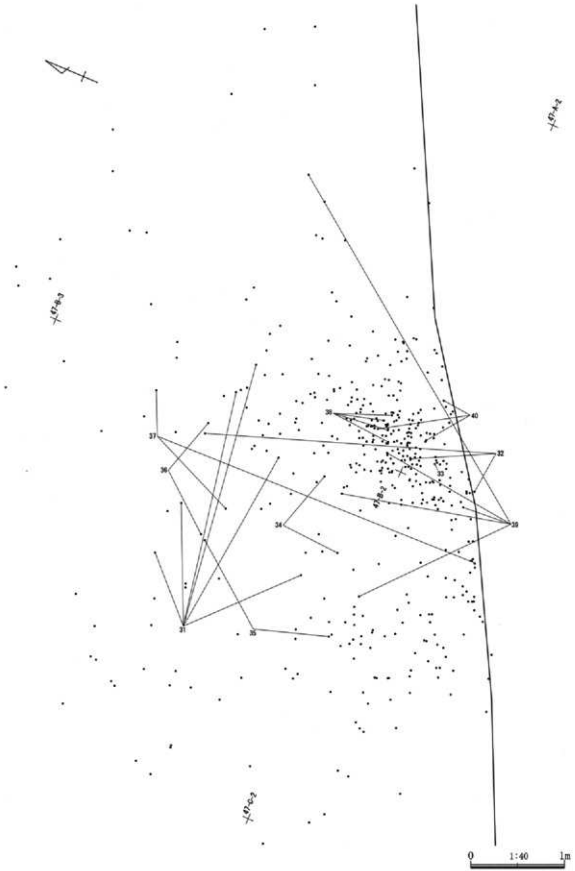
第127図　弥生土器接合分布図　1～10



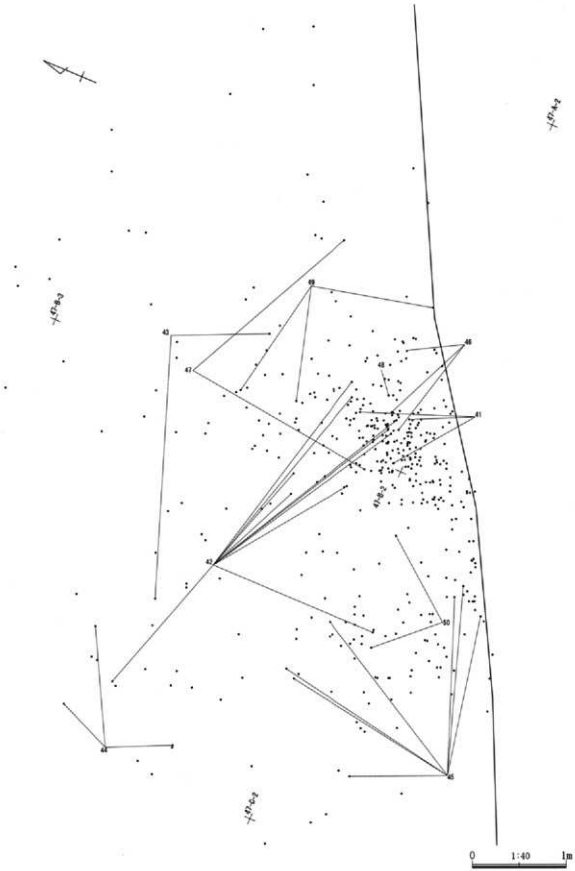
第128図　弥生土器接合分布図　11～20



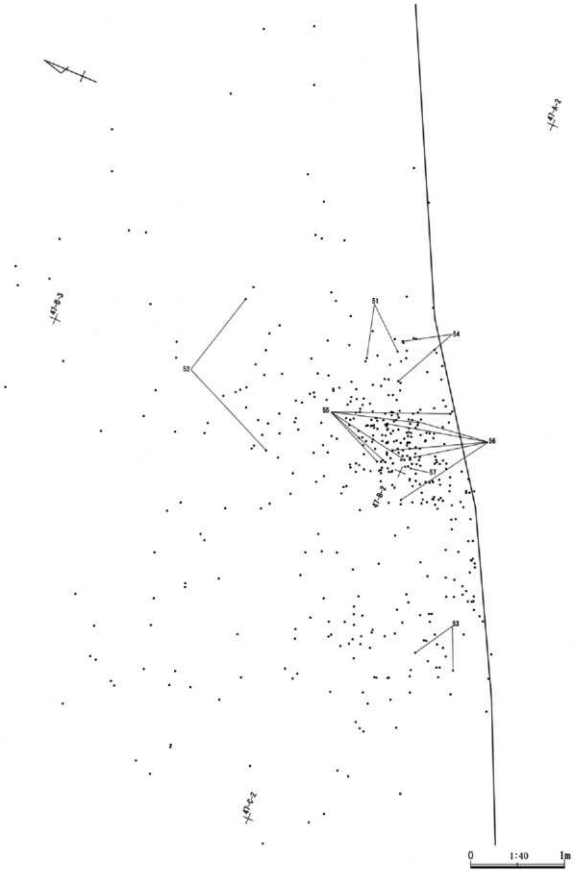
第129図　弥生土器接合分布図　21～30



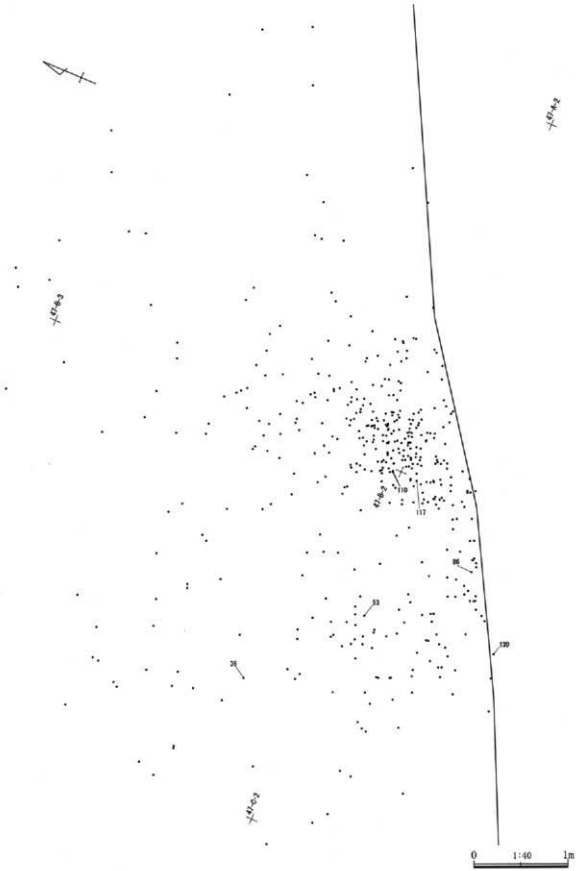
第130図　弥生土器接合分布図　31～35、37～40



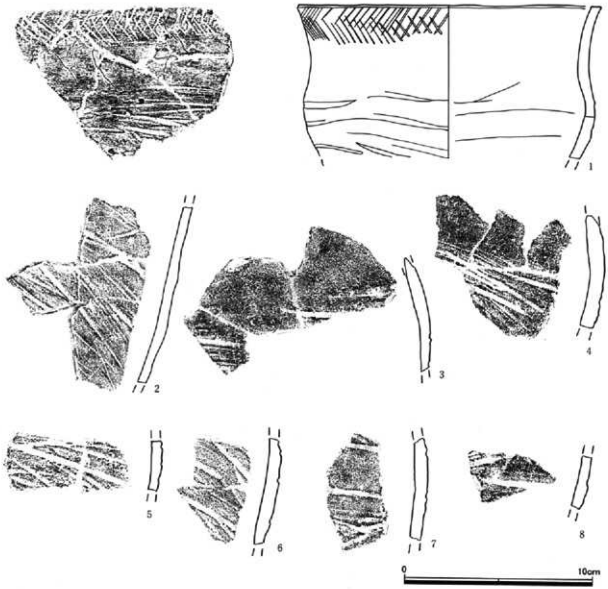
第131図　弥生土器接合分布図　41～50



第132図　弥生土器接合分布図　51・52、54～57

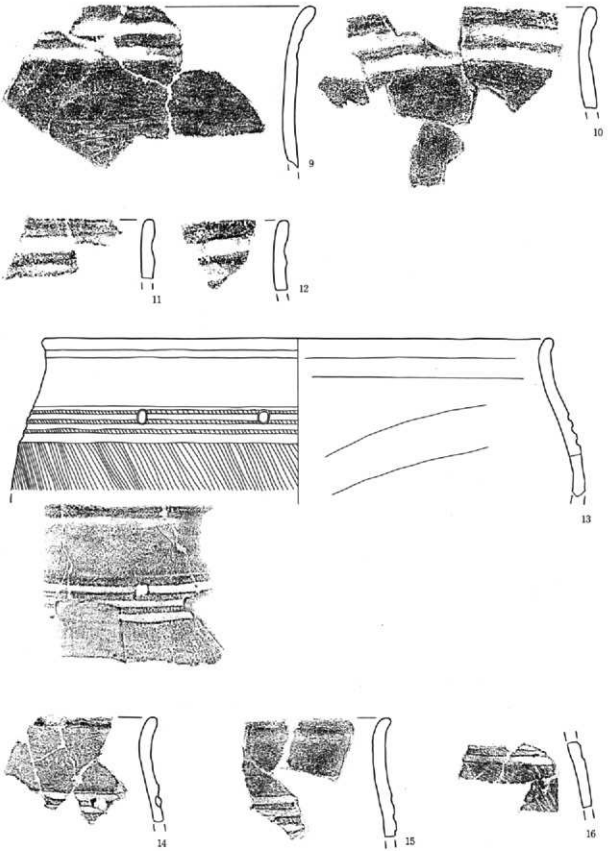


第133図　弥生土器接合分布図　36、53、86、110、117、130

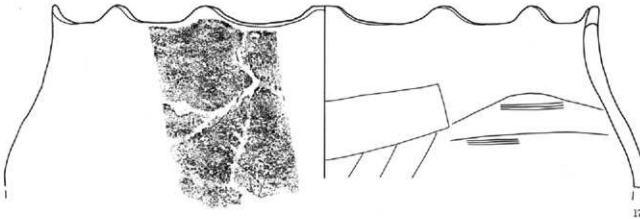


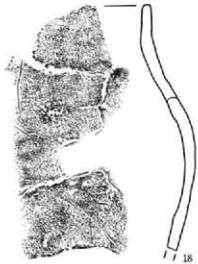
第134図　遺物　弥生土器①

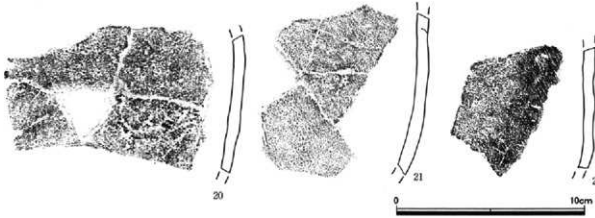
礫を敷き詰めたようにして、その上から土器が転倒しの状態で出土している。この様子は本遺跡の１号集石遺構との類似性があるようにも思えるが、今後の課題としたい。



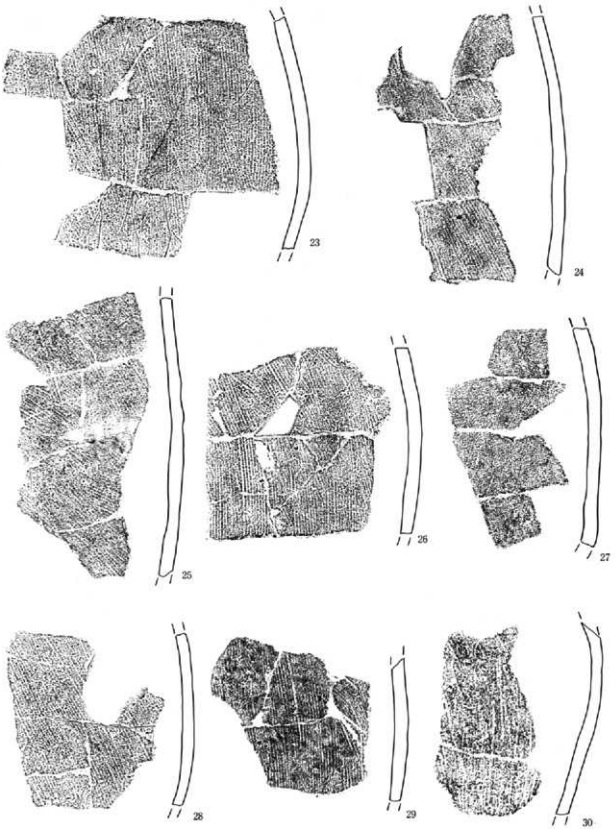
第135図　遺物　弥生土器②



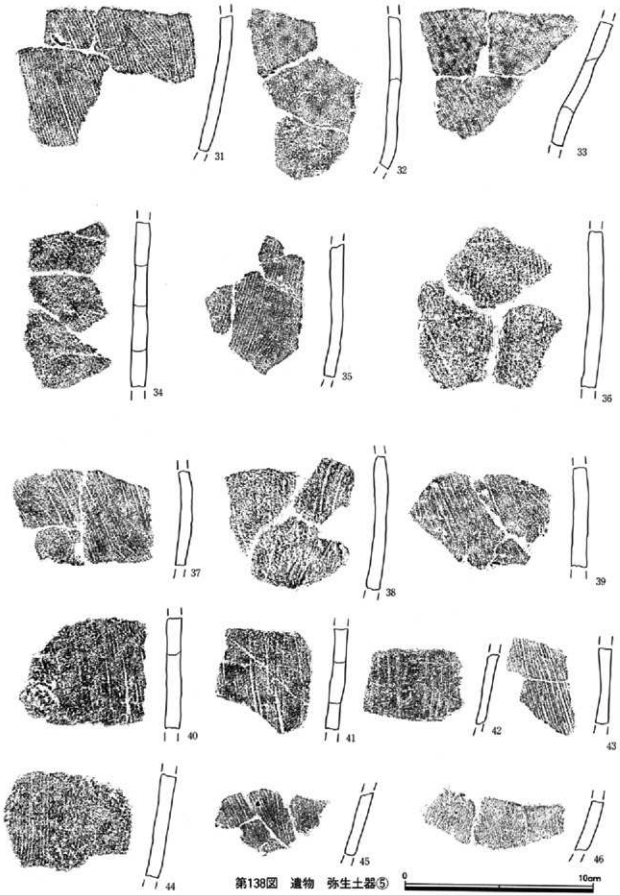




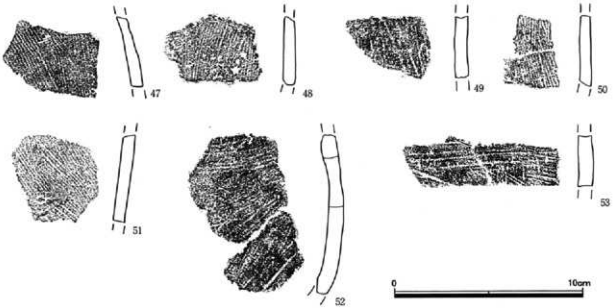
第136図　遺物　弥生土器③



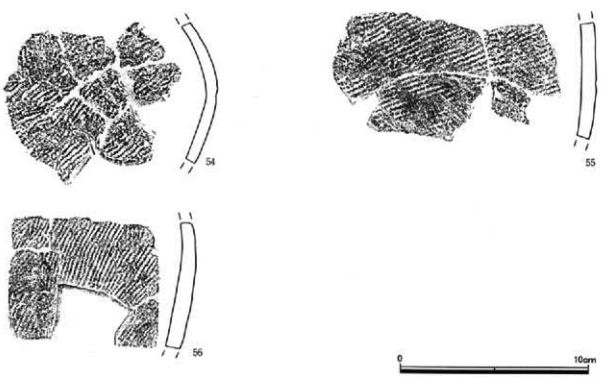
第137図　遺物　弥生土器④



第138図　遺物　弥生土器⑤



第139図　遺物　弥生土器⑥



第140図　遺物　弥生土器⑦

第７節　縄文時代の遺構と遺物

この時期は、文化層の第６面に相当する。弥生時代とほぼ同様に基本土層第Ⅻ層が包含層に相当するはずであるが、実際の出土実態は異なる。

（１）遺構

残念ながら、遺構は検出されなかった。

（２）遺物（写真図版67）

遺構確認段階でのグリッドによる一括と取り上げや、縄文時代以後の遺構に混じり込んだ状態での出土遺物は土器の破片12点と、石器７点と僅かである。おそらくは上流域から流されてきた可能性が高い。その内の土器３点、石器５点を図化した。

土器は、中期後半の加曽利Ｅ式土器の胴部の破片である。

石器は、打製石鏃２点、打製石斧１点、削器と石核が各１点ずつである。打製石鏃は１点が石材がチャートで、もう１点は黒色安山岩である。打製石斧は中央部に抉りが入る分銅形だが、刃部及び頭部がほぼ直角に近い角を持つ。石材は頁岩である。削器は大型の横長の剥片を素材に、石材は頁岩である。石核も厚手の剥片を素材とし、周縁から中心方向に向かって細かな剥片剥離を７回以上行っている。石材は頁岩である。

第４章　まとめ

第１節　天明三年泥流面

発掘された水田は、これまでの長野原町内の天明三年遺跡では初めての検出である。泥流被災後の天明五年「荒地反別書上帳」（坂寄冨士夫「浅間荒れによる八ツ場地区の被害」『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』2003　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）によれば、畑方30町に対して田方３町の記載が確認できることからして、埋もれた耕作地に水田の検出例が少ないことは予想できる。当地で水田が少ない理由として、耕作地は傾斜地とならざるを得ないこと、水田を営むための安定した水の確保が難しいことなどがその理由であろう。被災した８月５日の農事暦では「土用干し」を迎えた前後であったことが想定でき（関俊明「天明三年泥流畑の耕作状況」『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』2003　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団）、農事暦を念頭に置いた遺構検出や検討がこれからの課題となろう。

泥流畑は、傾斜方向に対する短冊形や、地形をもとにした不定形に区画されていて、短冊形を基調に地形を優先させている。地境に整然と不要な礫を集めるなど、計画的に開墾に取り組んだ様子を確認できる。これは、本遺跡の西、室沢を越えた大字林字中棚に所在する中棚Ⅱ遺跡のこれまでの調査からも同様なことがいえる。また、中棚Ⅱ遺跡の例では、天明三年の被災後も同様に地境に礫を埋めこんで地境としている例も見られ、この地に受け継がれた開墾時の不要な礫の処理方法を垣間見ることができたといえよう。

さて、この様な畑の地割りをもつ調査区内の泥流畑では、第８図で一覧する畑で単位面積の抽出をおこなった。

Ｓ５号畑では南東付近で一部攪乱があるが、推定した範囲の面積を２つの単位畑とすると348÷２＝174㎡（≒52.7坪）、Ｓ８号畑では北の斜面側で畑の範囲が不明瞭であるが、等高線と礫の産状をもとに範囲を想定し、862÷５＝172㎡(≒52.2坪)、S11号畑では167㎡（≒50.6坪）、S12号畑ではやはり北斜面側で畑の範囲が不明瞭であるが等高線と礫の産状をもとに範囲を想定し、S12-１～２号畑で351÷２＝176㎡(≒53.2坪)、S12-３号畑で272㎡(≒82.4坪)、S12-４～７号畑で564÷４＝141㎡(≒42.7坪)となるが、耕作による中単位の分

第141図　単位面積確定畑

割を無視してS12号畑全体を7つの単位と考えると、1186÷7≒169㎡(≒51.3坪)、S13号畑では166㎡(≒50.3坪)などの値が、抽出できる。

また、S21号畑とS23号畑では、境界付近の段差が不明確であり、やや不確実な推定によるが、2筆の面積合計を算出することで、286+367=653㎡を算出することになる。653㎡≒198坪からすれば、50坪の単位が4となり、開墾後の土砂流流入などの要素を除去して2筆の畑を一括した区割りで考えてみることで近似した50坪の面積を抽出することになる。

S17号畑は、本文でも記述したとおり、少なくともS17-1～4号畑、S17-5～8号畑などの中単位が存在している。畑の構造については、未検出部分が多く検討を慎重にするべきであろうが、「中単位の幅×平坦面間の距離」から面積の概算をおこなうとS17-5～8号畑で、12.5m×12m=150㎡（≒45.5坪）程度、本文中では推定していないが、第2面で検出されている7号集石を境界と想定してみると、14m×9m程度になり、「中単位の幅×平坦面間の距離」で一辺が大きくなれば他方を小さくし広さを揃えようとする意図をうかがえるようにもみえる。しかし、S17-1～4号畑側の規模が確定できないため、あくまで目安であるのは本文中で記述されたとおりである。

また、20号石垣と21号石垣で、開墾にあたってほぼ平坦な耕作面に、石積みで区画し不要な礫を片付けヤックラ状に並べS12号畑やS13号畑を区画したことが読み取れる。このことは、意図的に面積を規制した根拠になるかもしれない。

以上のように、観察される遺構の構造から、開墾にあたり面積を規格しようとした根拠のいくつかを示した。そして、多少の数値のバラツキを加味して、「165㎡=50坪」の単位面積を本遺跡での単位面積の抽出としておきたい。そして、長野原町大字林における、中棚Ⅱ遺跡の例（40坪）と本遺跡での対比で、抽出した広さの違いを何に求めるかが今後の課題といえよう。

第2節　土地利用の変遷

本遺跡は、安山岩の柱状節理による独特の景観を呈する丸岩を南に見上げる、林の集落と国道145号の南側、吾妻川の左岸の下位段丘面に位置する。南に傾斜した地形で、標高は535～550m、現在の吾妻川の高さは530mで、比高5～20mである。

ここでは、本遺跡でのこれまでの土地利用について、この周辺の様子と併せて発掘調査の成果から分かる範囲で記述してみることとする。

本遺跡での人間の痕跡が認められるのは、まず縄文時代中期の土器の破片であるが、残念ながら遺構は検出されていない。おそらくは、より上位の段丘に位置する長野原一本松遺跡や楡木Ⅱ遺跡等のようには定住は出来ないものの、一時的に利用したか、あるいは流れ込んだものかも知れない。

次に、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての条痕文や沈線文等の土器の破片が集中して出土しており、いくつかの石を配置したかのような痕跡も存在することから、一時的な利用があったものと考えられるが、その目的がどのようなものなのかははっきりしない。（約2,500年前）

古墳時代の中期（5世紀末から6世紀中頃）の時期の竪穴住居が1軒だけ出土しており、住居内だけでなく周辺からも、土師器の坏や小型の甕、祭祀に使用されたと考えられる臼玉が集中して出土している。遺跡の南東に位置する大岩を祭祀の対象にしていた可能性が高い。（約1,500年前）

平安時代の検出された竪穴住居は、長方形の南東隅にカマドを持ち、底部がヘラ削りの土師器の坏や長胴

甕、須恵器の大きな甕などが出土している。時期はおそらくは9世紀後半から10世紀にかけての時期で、長野原町地域で最も多いのが特徴である。また、調査区の東側の部分では、平安時代の竪穴状遺構や遺物の集中部分がそれぞれ何カ所か検出されており、そこからは灰釉陶器の椀や皿、土師器の坏や甕、須恵器の大甕などの破片が多数出土している。(約1,100年前)

中世では、2基のお墓が検出されたが、その内の一つに埋葬されていたのは成人女性で、北に頭を置き(いわゆる北枕)、西に顔を向けた(阿弥陀仏が唱える西方極楽浄土の思想か)屈葬の状態であったが、後の畑の耕作などにより上側部分(全体の左半分)が残念なことに失われていた。

この他に、1基の井戸や大小様々な大きさの角のある形の石が詰め込まれた、東西、あるいは南北方向の細長い長方形の穴、すなわち集石が多数検出されており、後者はおそらくは畑を耕す際に耕作土である洪水層中の邪魔な石を一括処理するためのものと考えている。

中世から近世にかけては、少なくとも2枚の洪水層があり、それぞれの下に畑の跡が検出された。上位の畑は南北方向のサク(畝間)のみが確認されたが、下位の畑については南北方向と東西方向の2つのサクに区画されており、さらにその下にやや向きが異なる南北方向のサクが確認されることから、さらに2つの時期の畑があることが分かった。

近世の天明3年(1783)までは、畑・水田・溝・道・石垣の跡、それに耕作に邪魔な石をまとめて片づけた「ヤックラ」等が存在する農地が展開していた。だが、そこに浅間山の大噴火とそれに伴う厚さ2m以上の泥流が覆い尽くすことにより、吾妻川の両岸一帯は壊滅的な被害を受けてしまった様子が、本遺跡などから明らかになってきている。(223年前)

「ヤックラ」については、本来は民俗の用語の意味合いが強く、むしろ基本的には石を集めた状態の「集石遺構」が考古学の名称として適していると考えられるが、八ッ場関連の発掘調査で既に長期にわたり使用されているので、ここでも踏襲することとするが、いずれは再考の余地がある。

その後は、復旧作業が進み、近年までは、沢の水を利用した水田や畑等が再び広がっていた。また、地域の信仰の拠点としての下田の観音堂も大岩の上に鎮座しているが、創建の時期は不明である。

現在は、八ッ場ダム建設に伴い、国道145号線の付け替えに伴う橋脚部分の建設と、道路や鉄道のトンネル掘削等の諸工事に伴い搬出される土の置き場として利用されている。

第3節　遺物

ここでは、特徴のある遺物についてまとめてみることとした。

本遺跡出土の古墳時代から平安時代にかけての土器は、その胎土や整形の様子から大部分がここ吾妻地区で製作されたものではなく、別の地域、特に西毛地区で製作された可能性が高い。

特に、47区1号竪穴住居から出土した古墳時代の土師器の坏は、器面の磨き、精密さや胎土の精製さから、西毛地区の高崎市下芝天神遺跡や同市三ッ寺Ⅰ遺跡等の出土遺物に類似し、さらに外面の器面に削りの後に磨きをかける手法は、以前整理した東吾妻町の霜田遺跡にはやや見劣りするものの、同じ様である。

平安時代の須恵器の坏や高台付椀についても、西毛地域の秋間産と考えられるものが主体を占めており、一部に月夜野の窯の製品と考えられる資料も存在する。

また、平安時代の須恵器の羽釜については、桜岡氏らが県内での区分を「吉井型」と「月夜野型」、それに「東毛型（仮称）」の三つに大別しており、それぞれに窯を抱えた生産地とその流通地を抱えている。

吾妻地区では南からの「吉井型」、北からの「月夜野型」の分布範囲が接する地域であり、本遺跡でも両方が出土しているが、同一住居内でも混在していることから、流通の住み分け？が把握出来ない。

もちろん、たった2軒だけのデータでは、不十分であることから、吾妻郡内の多数の検出例を基にさらに検討を加えていくこととする。

長野原町の向原遺跡では、10軒の竪穴住居のうち、D区1号竪穴住居から「月夜野型」が1点出土している。同町の林宮原遺跡では、5軒の竪穴住居のうち、1軒から「月夜野型」が1点出土している。東吾妻町の小泉宮戸遺跡では、平安時代の26軒の竪穴住居のうち、「吉井型」が7a号と14号から、「月夜野型」が2号と6号、31号、33号からそれぞれ1点ずつ出土している。同町の諏訪前遺跡からも平安時代の竪穴住居が22軒も検出されているが、羽釜の出土は少なく、「吉井型」と思われるものが17号竪穴住居、「月夜野型」が33号竪穴住居からそれぞれ1点ずつ出土している。このように、竪穴住居毎に「吉井型」と「月夜野型」が見事に分かれて出土している。嬬恋村の東平遺跡の2軒の竪穴住居のうち、3区1号から羽釜の破片が1点だけ出土しているが、断面だけの実測図で観察文での記載もなく詳細は不明である。

だが、長野原町の坪井遺跡のⅠ軒、花畑遺跡の2軒、同町の横壁掲沼遺跡の1軒、嬬恋村の千俣前田Ⅲ遺跡の1軒、同村の千俣前田Ⅳ遺跡の1軒、草津町の伊堀遺跡の1軒からは羽釜そのものが出土しておらず、比較検討が出来ない。六合村の熊倉遺跡では、25軒前後の竪穴住居の存在が確認されており、これまでに発掘調査がなされたのは9軒だが、その内容は残念ながらほとんど明らかにされていない。

以上のことから、本遺跡以外では「吉井型」と「月夜野型」の住み分け？がはっきりしている現象が見られる。この点は本遺跡の事例と相反する結果であり、今後予定されている長野原町の楡木Ⅱ遺跡整理作業の成果を基に、別項で検討を加えていくこととしたい。

参考文献

草津町教育委員会 1974　井堀遺跡

長野原町教育委員会 1996　向原遺跡、2000　坪井遺跡Ⅱ

吾妻町教育委員会編 2003　小泉宮戸遺跡、2003　諏訪前遺跡Ⅰ、

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002　八ッ場ダム発掘調査集成（1）

嬬恋村教育委員会 1999　東平遺跡、1999　千俣前田Ⅲ遺跡、2000　千俣前田Ⅳ遺跡

六合村教育委員会 1983　熊倉遺跡　昭和57年度調査の概要

第４節　下原遺跡出土の灰釉陶器

神谷　佳明

はじめに

吾妻郡長野原町下原遺跡は吾妻川上流域左岸の低位河岸段丘に立地する遺跡である。この遺跡では縄文時代、弥生時代、古墳時代中期竪穴住居、平安時代竪穴住居などの遺構が検出され、これに伴う遺物が出土している。弥生時代から平安時代にかけての遺物には竪穴住居など遺構に伴わないいわゆる遺構外として取り上げられた遺物が多数存在している。弥生時代の遺物は47区Ａ-１～Ｂ-２グリッド、古墳時代の遺物は中期後半代の土師器や石製模造品などが37区Ｆ-25グリッドを中心に、平安時代の遺物は46区から47区にかけての調査範囲の南東部分に集中して出土している。平安時代の遺物の数量は土師器多数、須恵器多数、灰釉陶器144点（接合作業後）が見られる。これらの遺物は大部分が小破片の状態で、また接合する破片は少ない。灰釉陶器では胎土からも同一とみられるものがほとんど存在していない。また、隣接して所在する「下田観音様」の地表下には23,000～24,000年前の浅間山噴火時に押し流されてきた巨大な浅間山溶岩が存在していることから盤座・巨石信仰に関係する祭祀遺構の可能性かと想定される。

下原遺跡の平安時代の遺構・遺物

平安時代の遺構は竪穴住居が48区と46区から各１軒ずつみつかっている。竪穴住居の存続年代は出土土器から48区1号竪穴住居が９世紀第３四半期、46区１号竪穴住居が９世紀第４四半期に比定される。また、遺構外として取り上げられた遺物には竪穴住居と同一年代に比定される土器群も存在するが第124図から第126図に掲載されているように10世紀前半代に比定される酸化焔焼成による須恵器椀や羽釜や土師器甕などの土器も出土している。そして遺構外として取り上げられた遺物には第123図のように灰釉陶器も多く含まれている。

出土した灰釉陶器

灰釉陶器は図示できた32点の他に残存状態が良くないため図示できなかった破片が112点ほど出土している。これらの灰釉陶器はほとんどが遺構外からの出土であるが、一部遺構から出土しているものもある。しかし、出土した遺構も47区1号竪穴住居と46区76号土坑でともに古墳時代中期と中世の遺構であることから混入したものと判断される。こうした状況から灰釉陶器は遺構に伴うものはなく、すべて遺構外からの出土であると判断される。その出土状態も分布をみると発掘調査範囲の東南部46区I～X-２～11グリッドの範囲に限定される。各グリッドからの出土は遺物出土分布図のとおり出土量に差が見られ、最も多く出土したグリッドでもP-６，P-８の９点が最高で多くのグリッドからは１～３点しか出土していない。そして残存状態も第123図-８の1/2が最も良好な状態でほとんどが1～２㎝程度の小破片でしかなかった。

出土した灰釉陶器の器種は椀99点、稜椀1点、皿11点、耳皿2点、折縁皿1点、椀または皿15点、長頸壺14点、不明1点である。そのうち窯式期の比定できるものは84点あり、その内訳は光ヶ丘1号窯式期15点、大原２号窯式期64点、虎渓山1号窯式期５点であった。また、窯式期の比定できない破片も施釉方法や口縁部・高台の形状から大原２号窯式期とみられるものが大部分である。こうした結果から灰釉陶器が下原遺跡へ搬入された時期は竪穴住居が存続していた時ではなくそれ以降に搬入されたものの方が大部分を占め、竪穴住居での使用ではない他の用途が想定された。

灰釉陶器の用途

出土した灰釉陶器の出土状態や残存状態から前述の盤座・巨石信仰に伴う祭祀行為に使用されたと想定することが最も想定し易い用途であるが、ではこうした祭祀行為に伴う用途に灰釉陶器が使用された類例を鑑みて下田遺跡の出土状態＝祭祀行為に結びつけることが可能か否かを検証を試みることとした。

施釉陶器が古代の朝廷において儀礼用飲食器として使用されていたことは文献や冷然院でのまとまった緑釉陶器の出土から指摘[1]されている。

では、東国での施釉陶器を使用した儀礼・祭祀行為には岩手県胆沢城から９世紀前半代の緑釉陶器がまとまって出土していることや前橋市山王廃寺から地鎮具とした埋納されたとみられる緑釉陶器などからしても明らかである。また、灰釉陶器でも美濃国と信濃国の国境に存在する神坂峠で古墳時代の石製模造品などとともに灰釉陶器の出土を見ることができる。神坂峠は古墳時代から東国への交通路として重視されていたが、その高低差や山道の傾斜が急なため東国への交通路としては最も難所の一つとされたいた。そのため峠の鞍部では旅の安全を祈願して多くの祭祀行為が行われていたことが発掘調査の成果などでわかっている。そうした祭祀行為のなかで灰釉陶器も使用されていたことがわかっている。

また、祭祀に使用されたとみられる灰釉陶器が小破片化して廃棄された例としては沼田市町田十二原遺跡でみることができる。町田十二原遺跡の16号住居からは10世紀後半虎渓山1号窯式期の灰釉陶器が多量に出土している。報告では小瓶、椀、皿、段皿など図示可能な12点が掲載されているが、この掲載された灰釉陶器もほとんど小破片化しており、さらに図示されている他にも椀、皿の小破片を多くみることができる。こうした複数の椀、段皿と瓶類の組み合わせは拙稿「緑釉陶器からみた古代上野国」で考察したように仏教祭祀に関する法具として使用されたと見られる。また、町田十二原遺跡は寺院跡がみつかって戸神諏訪遺跡とは隣接する位置関係にあることから戸神諏訪遺跡の寺院で仏事などの法要を司る人物が仏事で使用した灰釉陶器を廃棄した結果によるとみられる。

盤座・巨石信仰に伴う祭祀遺跡としては奈良県三輪山をはじめ各地でみることができ群馬県内でも前橋市(旧宮城村)鬘石遺跡などに代表される遺跡が知られている。盤座・巨石信仰の祭祀行為は出土遺物からは主に古墳時代に盛んであったことが知られており、下田遺跡でも５世紀後半代の土器が出土しており祭祀行為の実施が想定される。また、長野県では古東山道ルートとされる大門峠から雨境峠にかけて存在する御座岩、鍵引石、鳴石など雨境峠遺跡群でみられる巨石では古墳時代から中世にかけて交通路の安全祈願を兼ねた信仰、祭祀が行われていたと想定されている。

この他にも施釉陶器を使用した祭祀行為の事例や盤座・巨石祭祀の事例をみることは可能である。以上のような類例から下原遺跡での灰釉陶器出土状態を考えると前述のような盤座・巨石信仰に伴う祭祀行為の結果か、東に存在する吾妻川渓谷は現在でも急峻な渓谷であるため交通の難所であることから交通路の安全祈願を兼ねた祭祀が行われていたと想定される。

注

注１　高橋照彦「出土文物からみた平安時代の儀礼の場とその変化」『国立歴史民俗博物館研究報告』第74集で元旦節会、七日節会・踏歌節会での三節酒の容器として使用されたことが指摘されている。

参考文献
高橋照彦「出土文物からみた平安時代の儀礼の場とその変化」『国立歴史民俗博物館研究報告』第74集　国立歴史民俗博物館 1997
大場磐雄「神坂峠」阿智村教育委員会1969
小林修「赤城山横石と上毛野の盤座」『「坂詰秀一先生古希記念論集」考古学の諸相Ⅱ』坂詰秀一先生古希記念会 2006
田中広明「関東地方の施釉陶器の流通と古代社会」『研究紀要』第11号　(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1994
田中広明「緑釉陶器の流通と武蔵国北部の古代社会」『埼玉考古』第35号　埼玉考古学会 2000
田中広明「関東地方の施釉陶器の流通と古代社会(２)」『研究紀要』第16号　(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1994
関口功一「巨石祭祀の原風景」『東国史論』第20号　群馬考古学研究会 2005
神谷佳明「緑釉陶器にみる古代上野国」『研究紀要』第19号　(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001

第5節　墨書土器

古代の文字資料には、大きく分けて紙等に記されて伝え残されてきた文献史料と、発掘調査等によって出土した漆紙文書、木簡、金石文、篦書土器、墨書土器、文字瓦等の考古資料の二つがある。

この中で、土器類に墨で字を書いた遺物を墨書土器といい、日本で本格的に文字を利用し始めた律令制以降見られるようになる。多くは一文字から数文字が書かれたもので、土器が用いられた場所（国名、郡名、寺院名など）や所属先を示す施設名や官職、人名、地名や、信仰や奉献等の祭祀にかかわる語を書いたものが多く出土し、大陸とのつながりや国内での文字文化の広がりを研究する上で貴重な出土史料ともなっている。

また、則天文字と呼ばれる「圀」等の17もの文字が用いられることもある。

群馬県内では多くの出土例があり、群馬県教育委員会により3回に及ぶ集成がなされている。だが、これまで山間部である吾妻郡では3遺跡6点と出土事例は少ないと指摘されてきた。草津町井堀遺跡で2点出土しており、岡の異体字である「罡」と「若」。中之条町五十嵐遺跡で3点、東吾妻町本宿遺跡で「車」とあるが、実測図などは公表されていない。

さらに、最近の発掘調査の増加に伴い、長野原町向原遺跡、同町宮原遺跡、同町花畑遺跡、嬬恋村干俣前田Ⅲ遺跡などで出土が相次いでおり、報告もなされてきている。だが、中之条町の大塚遺跡や下原遺跡等は未報告であるが、中之条町立歴史民俗資料館にコーナーを設けて展示されており、今後の比較検討の材料としたい。

本遺跡から出土した資料は下記の通りである。

46区T-4	11		外面	須恵器	不明
46区T-4	67		内外面	須恵器	「　」
46区U-5	100		内面	須恵器	「　」
46区V-3	6		外面	土師器	木か禾
46区V-4	123		外面	土師器	不明
46区V-4	9		外面	土師器	「　」
46区V-5	92	＋　46区U-5　86	外面	須恵器	「君？」
46区W-4	18		底部	須恵器	「佐」
46区W-5	27		外面	須恵器	「□井」
46区X-6	6		底部	灰釉陶器	「　」
47区A-2	55	？	外面	須恵器	「　」
47区L-11	1		内外面	須恵器	「　」

解読は当事業団の高嶋英之氏にお願いした。

吾妻地域の墨書土器については、日を改めてまとめる予定である。

参考文献
草津町教育委員会 1974　井堀遺跡
中之条町教育委員会 1985　大塚遺跡群五十嵐遺跡
中之条町教育委員会 1986　大塚遺跡群五十嵐遺跡Ⅱ
群馬県 1989　群馬県内出土の墨書・刻書土器集成（1）
群馬県 1992　群馬県内出土の墨書・刻書土器集成（2）
群馬県 1998　群馬県内出土の墨書・刻書土器集成（3）

第6節　臼玉

本遺跡では、47区1号竪穴住居から4点、その南側部分の土器集中部分から6点の臼玉が出土しており、いずれも完形で石材は滑石である。

臼玉は、古墳時代（5世紀から6世紀）に作られる、主に滑石を材料とする装飾用・祭祀用の薄い円盤状の玉である。全国的にみても、滑石の利用が古墳時代中期から後期以降に増加する傾向から、この段階に石材の選択に大きな変換点が存在するとみられている。これに関連して、深澤氏は石製模造品の生産・流通・消費システムを「古墳副葬用」と「集落祭祀用」の二つに区分し、5世紀代に古墳への副葬と併行して集落での祭祀が開始され、5世紀後半にはその主要な石材が蛇紋岩などから滑石に移行していくという興味深い説明をしており、全国的な傾向よりもやや早い段階での移行が読み取れる。

また、石製模造品や玉類の出土地点は、副葬品として古墳の石室内から、あるいは祭祀遺構のモニュメント周囲から出土することが多く、竪穴住居内から出土する事例は決して多くなく、製作跡や住居内のカマド祭祀と考えられるような出土状態を示していることが多い。

県内での出土事例については、以前に西毛地区を田口一郎氏、中毛地区を加辺二生氏、東毛地区を杉山秀宏氏らが、最近では深澤敦仁氏が記述している。

だがこれまでの報告では、吾妻地域では石製模造品が竪穴住居から出土する事例は数少なく、報告はほとんどなされていないのが現状である。だが、本遺跡を含めて、いくつかの遺跡で報告がなされつつある。

群馬県内では、南西部を流れる神流（かんな）川から鏑（かぶら）川に挟まれた御荷鉾（みかぼ）山にかけて広がる三波（さんば）川帯にみられる滑石を用いて、専業的に製作する集団の存在が想定されている。

その分布は、生産地である鏑川流域の藤岡地区を中心に、西は富岡市から東は利根川流域の伊勢崎市、北は赤城村まで流通が広がっている。さらに、大泉町や太田市、月夜野町など、その地域での古墳時代の拠点集落と考えられる遺跡からも出土しているが、特に西毛地区で滑石の出土事例が多い傾向がある。

群馬での石製模造品の他の石材には蛇紋岩、頁岩などが使用されているが、圧倒的に滑石が多く利用されており、鏑川流域の優位性は変わらない。また、前原豊氏は利根川を挟んで、西では滑石、東は頁岩などと石材が大きく異なることに注目している。

いずれにしてもそれらの産出地から吾妻は遠隔地ではあるが、本遺跡の石材が滑石であることは土器と同様に西毛の影響が強いことを示していると言える。おそらくは、土器と同様に榛名山東麓を回り込んで、吾妻川伝いの経路を辿ったものか、あるいは榛名山西麓の島川沿いを北上する経路を辿ったかのどちらかであろうが、現状では充分な検証が出来ない。このように、単純に生産地と本遺跡の距離だけではなく、その流通経路には当時の社会情勢も大きく影響したものと考えられる。

では、実際の出土事例をみてみよう。吾妻町内では、東上野遺跡で詳細は不明だが緑色凝灰岩の管玉や滑石の臼玉の未製品が多数出土しているとのことである。長野原町では川原湯勝沼遺跡からは5～6世紀の土師器と剣形模造品が出土している。町教育委員会の宮田孝彦氏は、本遺跡の事例とも合わせて、吾妻川に直面した段丘面の自然流路あるいはその周辺で出土していることから水に関連した祭祀遺構と指摘している。

吾妻川と利根川が合流する榛名山北東麓から子持山南東麓では、子持村の黒井峯遺跡と渋川市の中筋遺跡が著名である。黒井峯遺跡では祭祀遺構の種類について、①建物側、②台状の盛り土上（樹木があった可能性があり、③と同一か）、③樹木、④道（分岐点など）、の四つに大きく分類している。中筋遺跡でも、第2次の報告で祭祀遺構を大きいものと小さいものの二つに分類されている。

次に、古墳から出土している事例は、吾妻町では四戸古墳群や生原古墳群、中之条町では平古墳群などがある。『上毛古墳総覧』では当時で計31ヶ所（274基の11.3%）から出土していると記載されているが、現在では大部分の遺物が四散している状況で、本来の実態を把握することは出来ないが、いずれにしても、総数445基の利根郡での32ヶ所（7.2%）に比べても、その数は少なくはない。

県内での集落遺跡での出土状況をみてみると、坂井隆氏が伊勢崎市の八寸大道上遺跡の報告書で、神流川から鏑川にかけての産出地と、東は太田から西は富岡、北は沼田地区に広がるその消費地についての分布図を作成しており、原産地を背景とした製作集団とその消費地への流通の様子を図化している。だが、報告書刊行時の1989年時点での作成であり、その後の報告資料の増加により当時の中心地である西毛地区や東毛地区がさらに多くなるのは勿論、北毛地区や吾妻地区での出土事例も少しずつ増えており、特に遠隔地での様相を書き改める必要がある。すでに報告されているのはそれ以外には実際には詳細が未報告なだけで、中之条町の川端遺跡や横尾遺跡群から臼玉と勾玉、滑石模造品が出土している。

利根地区でも、利根川の小流域で古墳時代の最大集落である後田遺跡では、臼玉が主体であり、石製模造品もあるが、全体的に少ない。寧ろ土製の勾玉や丸玉の存在から、現地での需要に対して供給が追いつかない部分を石から土で補ったとも言える。この遺跡は沼田地域に所在した「渭田郷」の中心地とも考えられているが、集落の規模から考えれば、祭祀の頻度が低く感じられる。この他にも、門前A遺跡からは丸玉、沼田市の向田遺跡では管玉、町田小沢Ⅱ遺跡から臼玉、白沢村の寺谷Ⅱ遺跡の18号竪穴住居から多数の剣形の石製模造品が出土しており、寺谷遺跡からは臼玉と勾玉が僅かだが出土している。

赤城山西麓の赤城村では古くは寺内遺跡で、最近では宮田諏訪原遺跡でも巨石を対象として土器と玉類が多数出土している。榛名山東麓の渋川市行幸田畑中遺跡では管玉と臼玉、吉岡町熊野遺跡でも臼玉が僅かだが出土している。副葬品の形で古墳から出土する事例としては、川場村の生品西浦遺跡の古墳群や沼田市の奈良古墳群などから比較的多く出土している。

では、実際に祭祀の対象としては何が選ばれていたのであろうか。通常は、神の寄り代としての山や巨石などの自然の地形、樹木や動物などを対象とすることが多いが、時期が5世紀後半から6世紀前半にかけての時期であることから、おそらく、当時活発に活動していた榛名山を鎮めるためだという考えも出されている。これは、榛名山南麓を中心とした石製模造品の出土頻度の傾向から、古くより指摘されている。

さらに、先に述べた宮田諏訪原遺跡の報告で、小林修一氏はこの地域は赤城山の西麓に位置するが、赤城山よりもむしろ南西方向に位置する榛名山を真近に見ることが出来る地域であり、宮田諏訪原遺跡を始め、祭祀に関連する遺跡が多いことを指摘している。そして、「5世紀代において、古墳時代における榛名山の最初の爆発となった榛名有馬火山灰（Hr-AA）の噴火・噴出があった」ことから、こうした火山である榛名山の活動に対して、赤城山を媒介とした神を鎮める儀式の場であったと強調している。

特に、榛名山は「伊香保峯」とも呼ばれ、万葉集では「伊香保峯に雷な鳴りそねわが上には故はなけども子らによりてぞ」など9首も詠まれており、平安時代後期に編纂された延喜式では、全国の神社を式内社として座社収録しており、群馬県内についても上野十二社のうちの六の宮である榛名神社が鎮座する。

参考文献
坂井　隆 1989　『八寸大道上遺跡』　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
田口一郎・加部二生・杉山秀宏 1993　「群馬県の概要」『古墳時代の祭祀　－祭祀関係の遺構と遺物－』　東日本埋蔵文化財研究会
梁澤敦仁 2005　「原石の流通と玉作（関東）－群馬県地域の様相に基づく仮説モデルの提示－」『古墳時代の滑石製品　－その生産と消費－』埋蔵文化財研究会
小林　修 2005　『宮田諏訪原遺跡Ⅰ・Ⅱ』　赤城村教育委員会

第7節　金属製品

(1)　鉄鍋

中世の鉄鍋の分類は、五十川伸矢氏（五十川 1992）によりA・B・Cの3種類に分類されている。

鍋の展示を行ったかみつけの里博物館の図録（清水　豊編 2000）では、鍋Aは口縁部が屈曲する形で、西日本を中心に分布する。鍋Bは鍋弦を付けるための耳があるもので、底に3つの足が付いている。14世紀に以降に見られ、中世の終わり頃には東国でも見られるようになる。鍋Cは口縁部の内側に吊り耳を持ち、「内耳鍋」と呼ばれる。岩手県平泉市の柳御所出土の鍋は12世紀で、他の東北地方での出土例から、11世紀末には出現したとされている。内耳鍋の分布圏は東国に多く、現時点で出土例の西端は岐阜県である、と記されている。

群馬県内では、中世では太田市八幡遺跡や上新田遺跡、宝積院遺跡から出土しており、また、富岡市の一ノ宮本宿郷土遺跡や高崎市鳥羽遺跡からは鋳型が出土している。

本遺跡出土の資料は、破片のために耳部分が欠損しているが、おそらくは鍋Cに分類される。時期は近世と考えられる。

同様の中世以後、近世の資料としては、玉村町の上福島遺跡でも3点出土しており、いずれも鍋Bである。この他に、茶釜や釜が1点ずつ出土している。

こうした金属製品は、従来ならば回収されて鋳直し等により別の製品に変わってしまうこともあるために、遺跡には残りにくいのであるが、本遺跡のように泥流により一気に埋没した場合には、当時の生活用具の大部分がその場に残されている事が多い訳である。

つまり、こうした遺跡が多い八ッ場関係の遺跡や吾妻川や利根川流域での同様の遺跡からは、時期の示唆となる遺物が出土する可能性が高いと言える。

参考文献
五十川伸矢 1992
清水豊編2000　『鍋について考える』　かみつけの里博物館第6回特別展図録

(2)　煙管

煙管（キセル：きせる）は、刻み煙草（たばこ）を詰めて火をつけて、発生する煙を吸口から吸う喫煙具である。雁首（がんくび）と羅宇（ラウ）、吸口から成り、そのすべて金属製であるものや、羅宇を竹の管で作りその両端に金属製の雁首と吸口を付ける張り交ぜるものもある。材質は大半が真鍮であるが、銅や鉄、金、銀などが用いられることもある。特殊な事例として土製や陶器製がある。

その名称は、カンボジア語の「khsier（クシェル）」に由来する説があるが、実際には日本からカンボジアの日本人町に持ち込まれたもので、本来はオランダ人が長崎から持ち込んだクレイパイプの名称であるポルトガル語の「que sorber（キ・ソルベル）」からきたとする鈴木達也氏の説もある。

煙管については、江戸文化研究会が六段階に形態分類し、遺跡での出土層位から（1）～（6）に編年分類している。(小泉編 1983)

（1）雁首と吸口に肩がつき、脂返しが下方に湾曲する。雁首の火皿と首部の接合部に補強帯を巻く。

（2）雁首と吸口に肩がつくが、脂返しは上方にのみ湾曲する。雁首の火皿と首部の接合部に補強帯を巻く。

（３）吸口のみに肩がつき、脂返しは上方にのみ湾曲する。雁首の火皿と首部の接合部に補強帯を巻く。
（４）雁首と吸口共に肩が無くなり、脂返しは上方にのみ湾曲する。補強帯も無くなる。
（５）首部の湾曲が小さくなり、河骨形の形態から抜け出す。
（６）首部の湾曲はまったく消失し、火皿もきわめて小型化し、椀形より逆台形に近くなる。

その後、「図説　江戸考古学研究事典」では、キセルの変遷について（１）～（６）をⅠ～Ⅵとし、Ⅰ（～1650）、Ⅱ（～1700）、Ⅲ（～1750）、Ⅳ（～1800）、Ⅴ（～1900）、Ⅵ（1900～）と年代を示している。

その変遷については、まず火皿が小型化し、脂返しの湾曲が小さくなってゆく。Ⅰ・Ⅱで独立していた肩付が無くなり、首部との段差が曲線的に滑らかになり、首部から肩部へ曲線的に移行し、やがて意匠のみの肩となる。火皿補強帯が次第に消滅する等の傾向が認められるとしている。

筆者も、この変遷を利用して、佐波郡玉村町の福島曲戸遺跡の報告で、天明三年と寛保二年と考えられる洪水堆積層の上下の地層から出土した煙管の吸い口２点のそれぞれの形状比較を通して洪水層の年代の推定を行っている。それによって、寛保二年の復旧溝の充填土から出土した資料（第244図 A-１）がⅢ（1700年代前半期）で、天明三年の洪水層から出土した資料（第244図 A-２）がⅣ（1700年代後半期）であることから、それぞれの洪水の時期と一致する結果が得られた。

同町の上福島中町遺跡では分析はされていないものの、報告内容の検討から、寛保二年の洪水層の下位のⅠ-１号建物跡から出土した雁首１点と吸い口２点はⅣ、天明三年の洪水層の下位のⅡ-２号建物とⅡ-６号建物、Ⅳ-Ⅳ-から出土した雁首21点と吸い口18点(その内に完形１点を含む)はⅤと、編年の年代観より１段階(50年間隔）ずつ遅くなる傾向がみられる。

久々戸遺跡の報告で担当した関後明氏は、天明三年の洪水堆積層の下位から出土した煙管について論及している。それによると、１点の雁首に補強体が残存することから、1700年以前のⅠかⅡの段階を想定している。それ以外の雁首２点と吸い口２点の形状からは、Ⅳ（1700年代後半期）の段階と考えられることから、年代観と合致している。

このように、煙管の編年を利用した遺構の検出面の年代を推定することが可能と考えられ、他の資料の年代観と併せてより正確な年代の把握に努めることが可能と考えられる。

参考文献
小泉弘編 1983　『江戸を掘る』　柏書房
江戸研究会編 2001　『図説　江戸考古学研究事典』　柏書房
小野和之編 2003　『上福島中町遺跡』　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第8節　竪穴住居の埋没

47区の南隅で、基本土層の第Ⅹ層の暗黄褐色土の上面で、楕円形の変色部分が確認された。これは後に断面を確認するためのトレンチにより、基本土層の第Ⅶ層の下部と第Ⅷ層、それに第Ⅸ層が擂鉢状に沈み込んでいる状態のために、平面精査の確認時には不定形に見えることが判明した。その試掘トレンチによって、さらにその部分に竪穴住居が存在し、上記の層はその埋没土であることも分かった。つまり、長方形、あるいは正方形に掘り込まれた竪穴住居が人為による急速な埋め戻しではなく、徐々に埋没していく自然堆積の工程を示していると考えられる。

また、その埋没土の第Ⅶ層は浅間－粕川テフラ（As-Kk）の純粋な堆積層で、凸レンズ状に約5～10cmの厚さで堆積しており、この遺構の周辺には部分的に確認できるものの、大部分では残存していないことから、調査当初は堆積後のさらなる上位の地層の堆積の重みで沈み込んだものと判断した。

だが、廃絶された竪穴住居が徐々に埋没していく過程での窪みの部分に堆積した可能性も考えられる。

仮に後者だとすると、この住居が完全に埋没するまでに約600年の期間を要したことになる。そのようなことが実際に有り得るのだろうか。

県内でのこれまでの発掘調査の中で、最も著名な事例として六合村の熊倉遺跡があげられる。ここでは、平安時代の後期の9世紀後半から10世紀前半にかけての竪穴住居が未だに埋没が完了しておらず、今でも窪地として肉眼で観察することが出来る。この場合、完全埋没までに約1,000年もの時間がかかっていることになる。この報告の中でも、廃絶後の盤の崩落や雨水などによる周辺からの土砂流入等による自然埋没そのものが緩慢になっていくことによる埋没の未完了を指摘している。そこに針葉樹の存在や植物の成長の遅れ等の寒冷地独特の特徴による表土の形成の遅れもさらに関係するのかも知れない。

この報告の中では、他の事例として前橋市の上諏訪遺跡での古墳時代中期の竪穴住居の埋没期間が浅間Bテフラの堆積までの約400年間、渋川市（旧子持村）の黒井峯遺跡での古墳時代の6世紀初頭から中葉までの竪穴住居が榛名伊香保テフラ（以前の榛名－二ツ岳軽石）の降下までの時間を、最速で数年、最大で約100年間も窪地が残っていた事例を紹介している。

渋川市（旧赤城村）の勝保沢中ノ山遺跡でも、5世紀前半の竪穴住居の埋没途中で榛名伊香保テフラが堆積していることから、約100年経過しても完全には埋没していない状態であったことが判明している。

これらのことから、竪穴住居が埋没する時間については、数十年近くかかるのはざらで、さらには100年以上もかかることが有り得る。そこから本遺跡での事例も有り得ないことではないという話になる。

参考文献
能登　健編 1984　熊倉遺跡　－山棲み集落の研究－　六合村教育委員会
石坂　茂編 1988　勝保沢中ノ山遺跡Ⅰ　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

第９節　浅間山と赤岩

浅間山は、地理的にはフォッサマグナの東縁部の中央に位置し，基盤は新第三紀層の堆積岩・火山岩類から成る複式火山であり、行政区分では長野県と群馬県の県境に位置し、現在の標高は2,560mである。

その活動史は、大きく黒斑期・仏岩期・前掛期の三つの時期に分かれる。

黒斑期（～2.1万年前）　現在の黒斑山は東に開いた馬蹄形カルデラであるが、カルデラ形成以前は、現在の湯の平付近に中心火道を持つ約2,800mの成層火山であったと考えられている。カルデラ形成は２万３千年前で、このときに発生した岩屑なだれの痕跡が吾妻川流域や前橋台地、浅間山周辺の流れ山として確認できる。また、活動末期の噴火で噴出した軽石や火山灰は浅間－板鼻褐色軽石（As-BP）として東の広い範囲に堆積した。

仏岩期（2.1～1.5万年前）　浅間山を南から見ると山体右側に膨らみを確認する事が出来るが、これが仏岩火山である。黒斑山の山体崩壊後に活動を開始し、１万５千年前の大規模噴火からしばらくしてその活動を終える。万座鹿沢口周辺に見られるベージュ色の崖はこのときの噴出物であり、浅間－白糸軽石（As-Sr）と呼ばれる。この噴火によってカルデラが形成されたと考えられている。

前掛期（1.5万年前～現在）　仏岩火山の活動終了後、現在の位置で噴火が始まった。大きな噴火としては４世紀、1108（天仁元）年、1783（天明三）年のものが知られており、それぞれに溶岩流、火砕流の噴出を伴っている。特に、1108年の噴火は1783年の噴火の倍の規模で山頂に小規模なカルデラ状地形を形成した。それが現在の前掛山である。

いずれの段階でも噴出された堆積物は、周辺の地形と環境に大きな影響を与えている。

群馬大学の早川由紀夫教授に教えを受けた河口亜希子氏は、吾妻川や利根川の川原に存在する、独特の光沢をもつ赤い岩塊のことを「赤岩」と呼び、その分布の把握と形成について卒業論文として記述している。その内容は下記の通りである。

ここで赤岩と呼ぶ岩はどのようにして形成されたものなのか。一般に流動性を持ったマグマが、火山の爆発によって放出されたものを火山弾と呼ぶが、特に流動性に富んだマグマは火口付近に積み重なり、火口の縁を形成していく。これらのひとつひとつをスパターといい、これらが堆積してできた岩石はアグルチネートと呼ばれる。

前橋などでみられる赤岩を観察すると、軟らかい餅が積み重なったような構造をしているのが分かる。これは、赤岩がアグルチネートであることを示すもので、赤岩が赤い色を呈するのは、火口付近に高温状態で堆積したことにより酸化されたことによる。つまり赤岩は、火山の火口付近で形成され、何らかの作用によって現在の位置まで移動してきたということが言える訳である。

前橋市岩神町の飛石稲荷神社には大きな赤岩が祀られている。神社の名前の由来は、火山の火口からこの場所まで赤岩が飛んできたという伝説によるが、このようなことは実際には考えられない。では、赤岩はどのようにして前橋までもたらされたのか。実は赤岩は前橋泥流堆積物とよばれる堆積物中に見つかっている。前橋泥流というのは、今から約２万３千年前の浅間山でおこった山体崩壊によってひきおこされた泥流のことで、この泥流はまず塚原流と呼ばれ、吾妻川に流れ込むことで応桑泥流と呼び名を変える。さらに、吾妻川、そして利根川を流れ下り、広い範囲に堆積物を残している。このため堆積物の見つかる地点ごとに異なる名称で呼ばれることがあるが、ここでは一括して前橋泥流と呼ぶことにする。つまり赤岩は、前橋泥流によって上流から下流へと押し流されて、現在の位置まで運ばれてきたということが言える。

前橋市岩神町の飛石稲荷神社に祀られている赤岩や、敷島公園内にあるお艶が岩等市内で見られる赤岩については、従来は赤城火山がその供給源であるとされてきた。赤城山の山体崩壊によって坂東橋上流に堆積した流れ山の中に、赤岩と同質と見られる岩塊が含まれていることから、これが前橋泥流によって二次的に押し流されて前橋付近にもたらされたという考え方である。

しかし、利根川との合流点よりもずっと上流の吾妻川流域や、浅間山の南麓に位置する長野県佐久市の塚原岩なだれの堆積範囲にも赤岩が分布していることなどから、群馬大学の早川由紀夫教授やその教えを受けた河口亜希子氏らにより、赤岩の起源は浅間山であるとする説が提起されている。

こうしたことから、赤岩は浅間山を起源として、約23,000～24,000年前に吾妻川や利根川を流れ下り、あるいは流域の途中で立ち往生してしまった岩石であることが分かった。その内のいくつかは、祭祀の対象物として前記した飛石稲荷神社や長野県佐久市の赤岩神社の御神体として鎮座し、人が岩に変わるなどの伝説として後世に伝えられているのである。

赤石と同様に、浅間山北麓から中之条付近の吾妻川流域において、ひび割れのみられる黒い岩塊が見つかっている。この岩塊を仮に黒岩と呼ぶこととする。この黒岩は、1783（天明三）年に浅間山でおこった鎌原岩なだれによって運ばれたものである。鎌原岩なだれは、吾妻川に流れ込んで泥流を引き起こし、泥流はやがて利根川に流入し、最終的には太平洋にまで達したことが古記録にも残っている。

鎌原泥流堆積物には大小の岩塊が多量に含まれており、そのため泥流に覆われた地域では、耕地を取り戻すために大変苦労したことが、古文書や発掘調査の記録からも窺える。

本遺跡が位置する林地区は吾妻川左岸の河岸段丘にあり、古くから道陸峠越えの信州道、草津道が東西方向につながる交通の要所であり、現在も国道145号線とＪＲ吾妻線が存在する。

「八ッ場ダム地域移設予定文化財調査報告書」によれば、本遺跡内に所在する林の下田観音堂は、林の集落の内の14戸が構成員となっており、春の彼岸の中日に念仏講が実施され、その際に使用される鉦鼓等が持ち回りで保存されている。祭神・本尊等は観音と毘沙門天、それに不動尊である。地番は大字林下原619-1である。

このお堂が建っているのが巨石の上であり、詳細な調査はなされていないが肉眼による岩の観察から、おそらくは23,000～24,000年前の浅間山の黒斑山の山体が東側に崩壊し、それに伴い押し流されてきた、通称「赤石」と呼ばれるものである。こうした石が信仰の対象となるのは、川に隣接した位置とその形状等が関係するものと考えられる。

参考文献

川口亜希子　「吾妻川の地学案内」1996年度群馬大学卒業論文　http://www.edu.gunma-u.ac.jp/~hayakawa/edu/akko/INDEX.html

八ッ場ダム地域移設予定文化財調査会移設文化財部編 1996　八ッ場ダム地域移設予定文化財調査報告書　長野原町

第５章　下原遺跡における自然科学分析

株式会社　古環境研究所

第１節　下原遺跡のテフラ

１．はじめに

吾妻川流域とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、榛名や浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山碎屑物（おいせつぶつ），いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代などを知ることができるようになっている。

そこで下原遺跡においても、地質調査を行って土層層序を記載し、微化石分析用試料を採取するとともに、テフラ検出分析を行って指標テフラの検出同定を行い、土層や遺構の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象地点は、48区S-５・１号水田セクションA-A'、48区S-５・１号水田セクションB-B'、48区S-６・１号畑セクションA-A'の３地点である。

２．土層の層序

（１）48区S-５・１号水田セクションA-A'

48区S-５・１号水田セクションA-A'では、下位より亜角礫混じり暗灰色土（層厚７cm以上，礫の最大径57mm，７層）、亜角礫混じり灰褐色土（層厚22cm，礫の最大径38mm，６層）、亜角礫混じりでわずかに褐色がかった灰色土（層厚７cm，礫の最大径５mm，５層）、灰褐色土（層厚７cm，４層）、砂混じり暗灰色土（層厚６cm，３層）、亜角礫や亜円礫を多く含む灰褐色泥流堆積物（層厚51cm，礫の最大径268mm，２層）、亜角礫や亜円礫を含む褐色表土（層厚39cm，礫の最大径44mm，１層）が認められる（図１）。

これらのうち、泥流堆積物は、層相から1783（天明３）年に発生した天明泥流堆積物と考えられる。発掘調査では、その直下に水田遺構があると考えられている。

（２）48区S-５・１号水田セクションB-B'

48区S-５・１号水田セクションB-B'では、下位より暗灰褐色土（層厚13cm以上，７層）、灰褐色土（層厚９cm，６層）、わずかに褐色がかった灰色土（層厚14cm，５層）、灰褐色土（層厚７cm，４層）、砂混じり暗灰色土（層厚９cm，３層）、亜角礫や亜円礫を多く含む灰褐色泥流堆積物（層厚43cm，礫の最大径188mm，２層）、亜角礫や亜円礫を含む褐色表土（層厚16cm，礫の最大径34mm，１層）が認められる（図２）。これらのうち泥流堆積物は、層相から天明泥流堆積物と考えられる。

（３）48区S-６・１号畑セクションA-A'

48区S-６・１号畑セクションA-A'では、下位より若干灰色がかった褐色土（層厚４cm以上，６層）、わずかに褐色がかった灰色土（層厚15cm，５層）、若干色調が暗い灰色土（層厚６cm，最上部0.2cmに褐鉄鉱が濃集，４層）、白色軽石層（層厚２cm，軽石の最大径４mm，３層）亜角礫や亜円礫を多く含む灰褐色泥流

堆積物（層厚28cm，礫の最大径163mm）が認められる（図３）。白色軽石層の上位には畑遺構が認められ、サクは灰白色砂層（層厚2cm）で埋められている。白色軽石層については、その層位や層相から、1783（天明３）年に浅間火山から噴出した浅間A軽石（As-A，荒牧，1968，新井，1979）に由来すると考えられる。またその上位の泥流堆積物は、層相から天明泥流堆積物と考えられる。

３．テフラ検出分析

（１）分析試料と分析方法

48区S-５・１号水田セクションA-A'および48区S-５・１号水田セクションB-B'において、水田作土の可能性が考えられている３層の試料２点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

１）試料10gを秤量。

２）超音波洗浄により泥分を除去。

３）80°Cで恒温乾燥。

４）実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

（２）分析結果

テフラ検出分析の結果を表１に示す。48区S-５・１号水田セクションA-A'の試料１には、軽石が少量含まれている。軽石には、光沢をもち良く発泡した白色軽石（最大径2.3mm）のほかに、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径2.1mm）が少量含まれている。いずれの軽石にも、斑晶として斜方輝石や単斜輝石が認められる。火山ガラスとしては、これらの細粒物である軽石型ガラスが比較的多く含まれている。

48区S-５・１号水田セクションB-B'の試料１にも、軽石が少量含まれている。軽石には、光沢をもち良く発泡した白色軽石（最大径2.1mm）である。その斑晶には斜方輝石や単斜輝石が認められる。火山ガラスとしては、この軽石の細粒物である軽石型ガラスのほか、淡褐色の軽石型ガラスが比較的多く含まれている。

４．考察

テフラ検出分析により、48区S-５・１号水田セクションA-A'および48区S-５・１号水田セクションB-B'の３層から検出されたテフラ粒子のうち、白色の軽石や火山ガラスについては、その岩相からAs-Aに由来すると考えられる。また淡褐色の軽石や火山ガラスについては、その岩相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B，荒牧，1968，新井，1979）や、1128（大治３）年に浅間火山から噴出した浅間粕川テフラ（As-Kk，早田，1991，1995）に由来すると考えられる。したがって、３層の上面から検出された水田面と考えられている状況は、本地域におけるAs-Aの降灰後の様子である可能性が高いと考えられよう。

５．小結

下原遺跡において、地質調査と屈折率測定を行った。その結果、浅間Bテフラ（As-B，1108年）、浅間粕川テフラ（As-Kk，1128年）、浅間A軽石（As-A，1783年）、As-Aの噴火に関係する天明泥流堆積物などを検出することができた。

文献
新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル，no.157，p.41-52.
荒牧重雄（1968）浅間火山の地質．地団研専報，no.45，65p.
町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.
早田　勉（1991）浅間火山の生い立ち．佐久考古通信，no.53，p.2-7.
早田　勉（1995）テフラからさぐる浅間山の活動史．御代田町誌自然編，p.22-43.

表1　48区におけるテフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
S-5・1号水田セクションA-A'	1	+	白*1＞淡褐	2.3,2.1	++	pm	白＞淡褐
S-5・1号水田セクションB-B'	1	+	白*1	2.1	++	pm	白＞淡褐

++++：とくに多い，+++：多い，++：中程度，+：少ない，-：認められない．
最大径の単位はmm．bw：バブル型，pm：軽石型．*1：光沢をもつもの．

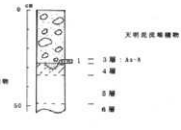


図1　S1号水田セクションA－A'の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

図2　S1号水田セクションB－B'の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

図3　S6－1号畑セクションA－A'の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

第２節　下原遺跡における植物珪酸体分析

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（SiO^2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。また、イネの消長を検討することで堀蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

２．試料

分析試料は、48区S-５・１号水田セクションA-A'、48区S-５・1号水田セクションB-B'、48区S-６・１号畑セクションA-A'の３地点から採取された計13点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

３．分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

１）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）

２）試料約１gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）

３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理

４）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散

５）沈底法による20μm以下の微粒子除去

６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成

７）検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10-５g）をかけて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる。イネの換算係数は2.94（穂実重は1.03）、ヒエ属（ヒエ）は8.40、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である（杉山，2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

４．分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表１および図１～図３に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヒエ属型、キビ族型、ジュズダマ属、ヨシ属、ススキ属型（おもにスス

キ属)、ウシクサ族A（チガヤ属など)、ウシクサ族B（大型）

〔イネ科－タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節)、クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など)、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節)、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来)、茎部起源、未分類等

〔樹木〕

はめ絵パズル状（ブナ科ブナ属など)、多角形板状（ブナ科コナラ属など)、その他

５．考察

（１）稲作跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料１ｇあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山，2000)。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

１）48区S-５・１号水田セクションA-A'（図１）

天明泥流堆積物直下の３層（試料１）から７層（試料５）までの層準について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、４層（試料３）と７層（試料５）では、密度が4,400個/gおよび3,700個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

３層（試料１、１'）では、密度が700～2,600個/gと比較的低い値である。ただし、同層は直上を天明泥流堆積物で覆われていることから、上層から後代のものが混入したことは考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

その他の層では、密度が700～2,000個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

２）48区S-５・１号水田セクションB-B'（図２）

天明泥流堆積物直下の３層（試料１）から７層（試料５）までの層準について分析を行った。その結果、３層（試料１）と４層（試料２）からイネが検出された。このうち、３層（試料１）では密度が1,400個/gと比較的低い値である。ただし、同層は直上を天明泥流堆積物で覆われていることから、上層から後代のものが混入したことは考えにくい。したがって、同層の時期に調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

４層では、密度が700個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

３）48区S-６・１号畑セクションA-A'（図３）

畑遺構のサク部（試料１）とAs-A直下層（試料２）について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。密度は4,400個/gおよび3,700個/gといずれも比較的高い値である。したがって、これらの層準では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

（２）イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはイネ、ムギ類、ヒエ属型が検出された。以下に各分類群ごとに栽培の可能性について考察する。

１）ムギ類

ムギ類（穎の表皮細胞）は、１号水田セクションA-A'の３層（試料１'）、１号水田セクションB-B'の４層（試料２）、１号畑セクションA-A'の畑遺構のサク部（試料１）から検出された。密度は700～1,400個/gと低い値であるが、穎（籾殻）は栽培地に残されることがまれであることから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。したがって、これらの層準の時期に調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

２）ヒエ属型

ヒエ属型は、１号水田セクションA-A'の３層（試料１）と１号畑セクションA-A'のAs-A直下層（試料２）から検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態からこれらを識別することは困難である（杉山ほか，1988）。また、密度も700～1,400個/gと低い値であることから、これらの層準でヒエが栽培されていた可能性は考えられるものの、イヌビエなどの野・雑草である可能性も否定できない。

３）その他

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。また、キビ族型にはヒエ属やエノコログサ属に近似したものも含まれている。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、模薬類などの畑作物は分析の対象外となっている。

（３）植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、ヨシ属、ススキ属型、ネザサ節型、クマザサ属型、ミヤコザサ節型などが検出され、天明泥流堆積物直下層ではブナ属やコナラ属などの樹木（落葉樹）に由来する植物珪酸体も検出された。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねヨシ属が優勢であり、とくに３～４層ではヨシ属が多くなっている。

以上の結果から、天明泥流堆積物下位の３層～４層の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境

であったと考えられ、そこを利用して稲作が行われていたと推定される。また、その周囲にはススキ属、メダケ属（おもにネザサ節）、クマザサ属などが生育する比較的乾燥した草原的なところが分布していたと考えられ、遺跡周辺にはブナ属やコナラ属などの落葉樹が生育していたと推定される。

6．まとめ

植物珪酸体分析の結果、48区S-5・1号水田セクションA-A'の4層と7層、および48区S-6・1号畑セクションA-A'の畑遺構のサク部とAs-A直下層では、イネが多量に検出され、それぞれ稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、天明泥流堆積物直下の3層などでも、稲作が行われていた可能性が認められた。また、3～4層ではムギ類やヒエ属（ヒエが含まれる）が栽培されていた可能性も認められた。

当時の調査区周辺は、ヨシ属が生育するような湿地的な環境であったと考えられ、そこを利用して稲作が行われていたと推定される。また、その周囲にはススキ属、メダケ属（おもにネザサ節）、クマザサ属などが生育する比較的乾燥した草原的なところが分布していたと考えられ、遺跡周辺にはブナ属やコナラ属などの落葉樹が生育していたと推定される。

文献

杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第31号，p.70-83.
杉山真二・松田隆二・藤原宏志（1988）機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用－古代農耕追究のための基礎資料として－．考古学と自然科学，20，p.81-92.
杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.
藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73-85.

表1　群馬県、下原遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

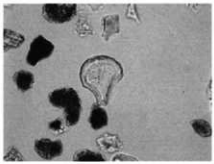
分類群	学名	地点・試料	1号水田セクションA-A'						1号水田セクションB-B'					1号畑セクションA-A'	
			1	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2
イネ科	Gramineae (Grasses)														
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)		7	26	44	20	7	37	14	7				44	37
ムギ類(頴の表皮細胞)	*Hordeum-Triticum* (husk Phytolith)			7						7				15	
ヒエ属型	*Echinochloa* type		14												7
キビ族型	Paniceae type		22	7	44	7	29		14	22	7	13	7	15	15
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		43	20	29	27	36	15	42	51	7	20	15	29	44
ススキ属型	*Miscanthus* type		36	33	51	33	29	44	56	58	28	7	29	15	44
ウシクサ族A	Andropogoneae A type		14	7	7	20	7	15	7		34	7		15	15
ウシクサ族B	Andropogoneae B type														15
ジュズダマ属	*Coix*								7						
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)														
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*		7	7	7	7			7						
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*		51	20	22	27	36	30	35	51	7	20	7	29	37
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)		22	33	29	27		15	49	43	62	47	22	29	22
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*		22	39	37	27	21	59	42	51	48	40	73	44	59
未分類等	Others		72	66	103	13	36	74	28	51	41	27	29	15	22
その他のイネ科	Others														
表皮毛起源	Husk hair origin		43	26	37	27	14		28	14	14	20	7	22	29
棒状珪酸体	Rod-shaped		181	256	287	166	236	178	328	137	268	288	73	124	375
茎部起源	Stem origin		7												
未分類等	Others		413	486	544	478	416	385	488	433	468	483	373	409	529
樹木起源	Arboreal														
はめ絵パズル状(ブナ属など)	Jigsaw puzzle shaped (*Fagus* etc.)			7											
多角形板状(コナラ属など)	Polygonal plate shaped (*Quercus*)			7											7
その他	Others						7				7				7
植物珪酸体総数	Total		956	1045	1242	876	874	851	1143	924	990	972	636	803	1263

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/m²・cm）：試料の仮比重を1.0と仮定して算出

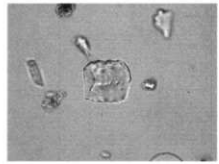
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	0.21	0.77	1.30	0.59	0.21	1.09	0.41	0.21				1.29	1.08
ヒエ属型	*Echinochloa* type	1.22												0.62
ヨシ属	*Phragmites* (reed)	2.74	1.24	1.86	1.67	2.26	0.93	2.64	3.19	0.43	1.27	0.92	1.84	2.78
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.45	0.41	0.64	0.41	0.36	0.55	0.69	0.72	0.34	0.08	0.36	0.18	0.55
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*	0.08	0.08	0.09	0.08			0.08						
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*	0.24	0.09	0.11	0.13	0.17	0.14	0.17	0.24	0.03	0.10	0.04	0.14	0.18
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)	0.16	0.25	0.22	0.20		0.11	0.37	0.32	0.46	0.35	0.16	0.22	0.17
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*	0.07	0.12	0.11	0.08	0.06	0.18	0.13	0.15	0.14	0.12	0.22	0.13	0.18

タケ亜科の比率（%）

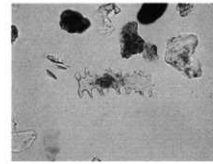
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*	15	14	16	16			11						
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*	44	18	20	26	73	33	23	34	5	17	8	29	34
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)	29	46	42	41		26	49	45	72	62	39	45	32
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*	12	22	21	16	27	41	17	21	23	21	52	27	34



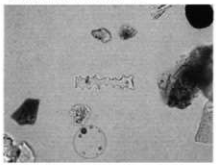
イネ
1号水田セクションA-A’ 2



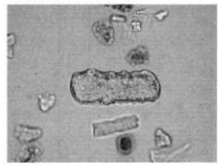
イネ(側面)
1号畑セクションA-A’ 2



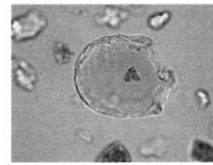
ムギ類(穎の表皮細胞)
1号水田セクションA-A’ 1’



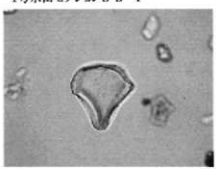
ムギ類(穎の表皮細胞)
1号水田セクションB-B’ 1



ヒエ属型
1号水田セクションA-A’ 1

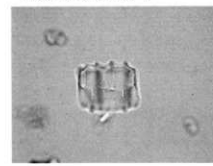


ヨシ属
1号水田セクションA-A’ 1’

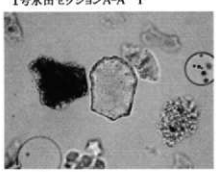


ススキ属型
1号水田セクションA-A’ 1’

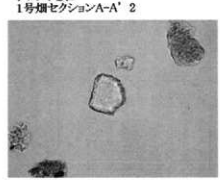
ウシクサ族B
1号畑セクションA-A’ 2



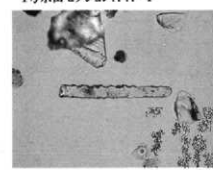
ネザサ節型
1号水田セクションA-A’ 1



クマザサ属型
1号水田セクションA-A’ 5



ミヤコザサ節型
1号水田セクションA-A’ 2



棒状珪酸体
1号水田セクションA-A’ 4

植物珪酸体(プラント・オパール)の顕微鏡写真　　50μm

第３節　下原遺跡48区１号竪穴住居出土炭化材の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

１．はじめに

ここでは、平安時代(９世紀後半)の竪穴住居址(48区１号竪穴住居)から出土した主に建築材と考えられる炭化材43試料の樹種同定結果を報告する。

当遺跡は吾妻川左岸の標高535～550mの下段段丘面に位置し、縄文時代から近世の遺物・遺構が出土する複合遺跡として知られ、周辺には横壁中村遺跡・中棚Ⅱ遺跡などが分布し、上流や下流にも多くの遺跡が分布している。しかし、平安時代の建築材樹種利用に関する資料は少ないようである。当遺跡は山間部の谷筋に立地する遺跡であることから、遺跡周辺の森林樹木を利用していたと推測される。従って炭化材樹種を明らかにすることから、当時の建築材に関する樹種選択性と周辺植生の様子を知る資料が得られることが期待され、この調査は実施された。

２．試料と方法

同定は、炭化材の横断面(木口)を手で割り実体顕微鏡で予察した。クリは、横断面の管孔配列が特徴的であるため、この段階で同定した。それ以外の分類群は、材の３方向(横断面・接線断面・放射断面)の断面を作成し、走査電子顕微鏡で材組織を拡大し、その特徴を元に同定を決定した。走査電子顕微鏡用の試料は、３断面を５mm角以下の大きさに整え、直径１cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子㈱製 JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

炭化材試料は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

３．結果

同定の結果、クリ(40点)・ブナ属(２点)・ケヤキ(２点)・イヌシデ節(１点)・コナラ節(１点)・カツラ(１点)の落葉広葉樹合計６分類群が検出された。試料12(クリとカツラ)・28(ブナ属とクリ)・30(クリとケヤキ)・35(クリとケヤキ)からは、異なる分類群が検出されたので合計は47点となっている(表１)。

クリが最も多く検出され、全体の約85パーセントを占めていた。取り上げられた炭化材は、崩れて割れたものが多く、使用時の形状は不明なものがほとんどであった。しかし破片の形状や年輪線のカーブから、クリは芯持ち丸木か丸木を分割加工するなどして、利用していたものが多いようであった。一方、ケヤキとブナ属は、加工形成して利用していた形跡があった。試料30からは、成型されたケヤキ材とクリ材が直交して出土した規があった。

クリの炭化材破片の年輪幅は２～３mm前後で、年輪幅が非常に狭く年輪数が多い破片は見られなかった。しかしケヤキには、放射径(放射方向の長さ:材が肥大成長する方向)が4.3cmで、52年輪あり、１年輪の平均が約0.8mmで年輪幅は非常に狭いものがあった。

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の３方向の組織写真を提示する。

(１)クマシデ属イヌシデ節 Carpinus sect. Eucarpinus　カバノキ科　図版１　１a-１c(試料18)

放射組織が集合する部分と２～数個の小型の管孔が放射方向に複合し配列する部分とがある散孔材。道管

の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織はほぼ同性、１～２細胞幅、道管との壁孔はやや大きく交互状である。

クマシデ属イヌシデ節は、暖帯および温帯の山地に生育する落葉高木または大形低木で、山野に多く見られるイヌシデとアカシデ、乾いた山稜に生育するイワシデが属する。材は丈夫である。

(2)ブナ属　Fagus　ブナ科　図版１　2a-2c(試料34)

小型の管孔が密在し除々に径を減じてゆく散孔材。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は階段数が10～20本の階段穿孔と単穿孔が混在する。放射組織は異性、１～３細胞幅のものと細胞幅が広く背も高い大型の放射組織がある。

ブナ属は温帯域の極相林の主要構成樹種で、大木となる落葉樹である。北海道南部以南の肥沃な山地に群生するブナと、本州以南のおもに太平洋側に分布しブナより低地から生育しているイヌブナの２種があるが材組織は類似している。材は建築材から漆器まで用途が広い。

(3)コナラ属コナラ亜属コナラ節　Quercus subgen. Quercus sect. Prinus　ブナ科　図版１　3a-3c(試料22)

年輪の始めに大型の管孔が配列し除々に径を減じ、晩材部では薄壁で角形の小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にチロースがある。放射組織は単列のものと広放射組織がある。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木で、カシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。材は乾燥すると割れや狂いが出やすい欠点があるが丈夫であり、人里にも多く生育し入手しやすい樹種である。

(4)クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　ブナ科　図版２　4a-4c(試料33)

年輪の始めに中型～大型の管孔が密に配列し除々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性である。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。材は粘りがあり耐朽性にすぐれている。

(5)ケヤキ　Zelkova serrata (Thunb.) Makino　ニレ科　図版２　5a-5c(試料35)

年輪の始めに大型の管孔が１～２層配列し、その後は小型の管孔が多数集合して接線状・塊状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、主に５細胞幅、上下端や縁に大型結晶細胞があり、道管との壁孔は交互状である。

ケヤキは暖帯下部から温帯の山中や川岸に生育する落葉高木である。材質は堅く、用途は建築材や容器が多い。

(6)カツラ　Cercidiphyllum japonicum Sieb.et Zucc.　カツラ科　図版２　6a-6c(試料12)

小型で多角形の管孔が密在し年輪界ではやや径を減じ、管孔の占有面積が多い散孔材。道管の壁孔はまばらな交互状から階段状、穿孔は横棒数が非常に多い階段穿孔である。放射組織は異性、１～３細胞幅、多列部の上下端や中間に方形細胞と直立細胞が単列部が１～３細胞層ある。

カツラは北海道から九州の暖帯から温帯の渓谷に生育する落葉高木である。材は均質でやや軽軟、割裂性・切削性は良く、狂いは少ないが保存性はあまり良くない。

4.考察

平安時代の48区１号竪穴住居から出土した炭化材47試料からは、クリ(40点)・ブナ属(２点)・ケヤキ(２点)・イ

ヌシデ節(１点)･コナラ節(１点)･カツラ(１点)の落葉広葉樹合計６分類群が検出され、これらの樹種が利用されていたことが明らかになった。クリが全体の85パーセントを占めていたことから、主要な建築材であったと考えられる。クリは芯持ち丸木材またはそのような形状から加工して、利用していたようであった。クリの年輪幅は２～３mm前後が多く、５mm前後の破片もあり、破片からは比較的成長のよい状態の材と思えた。従って、クリの生育に適した陽光地で、ほどよく成長した材を伐採利用していたように思われる。ケヤキとブナ属の破片からは、クリよりも太い材を分割加工して用いていたように思えた。このような樹種による形状の差から、遺跡周辺には利用しやすい太さのクリが多く生育していたのかも知れない。しかしそれが、栽培されていたクリであったのか、自然林に生育していたクリであるかは特定できない。

千野(1991)は主には青森県の資料であるが、平安時代になると縄文時代のように再びクリ材が建築材に多くなる傾向を指摘し、利用可能なクリ材が集落周辺にあったのだろうと考えた。平安時代の住居建築材にクリが目立つ傾向は、その後に報告されている遺跡でも散見される。当遺跡でもクリが多い結果であり、時代性を反映した樹種利用が行なわれていたことが判った。

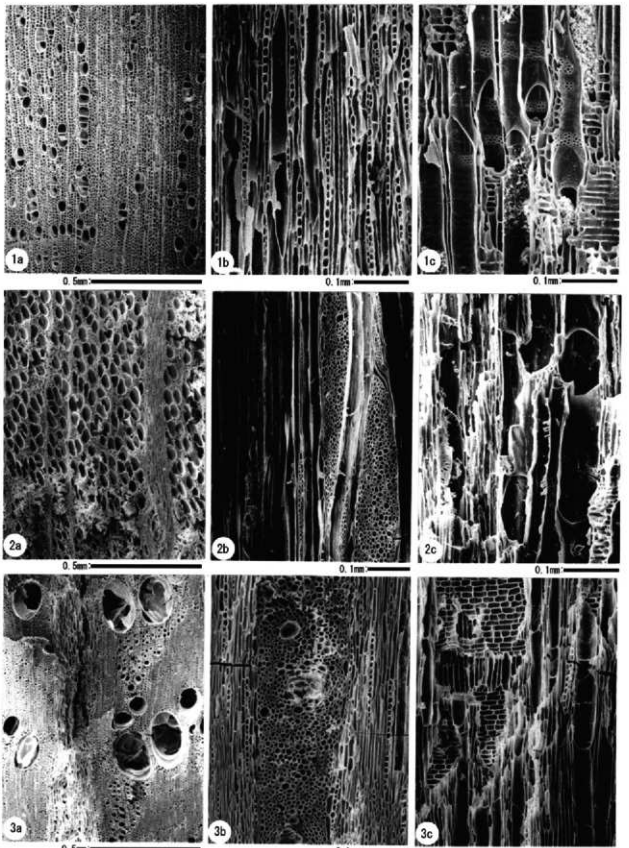
今回検出されたクリ･ブナ属･ケヤキ･イヌシデ節･コナラ節･カツラの樹種構成は、当遺跡が立地する周辺環境に成立する温帯～冷温帯の落葉広葉樹林の主要樹種を含んでいるので、遺跡周辺地から建築材を調達し、生活していたことが判った。

引用文献

千野裕道(1991)縄文時代に二次林はあったか－遺跡出土の植物性遺物からの検討－．東京都埋蔵文化財センター「研究論集Ｘ」：214-249.

表１　下原遺跡48区１号竪穴住居(平安時代：９世紀後半)出土炭化材樹種同定結果一覧
＊：破片が複数の場合は最大破片を記録　最大破片：放射径×接線径

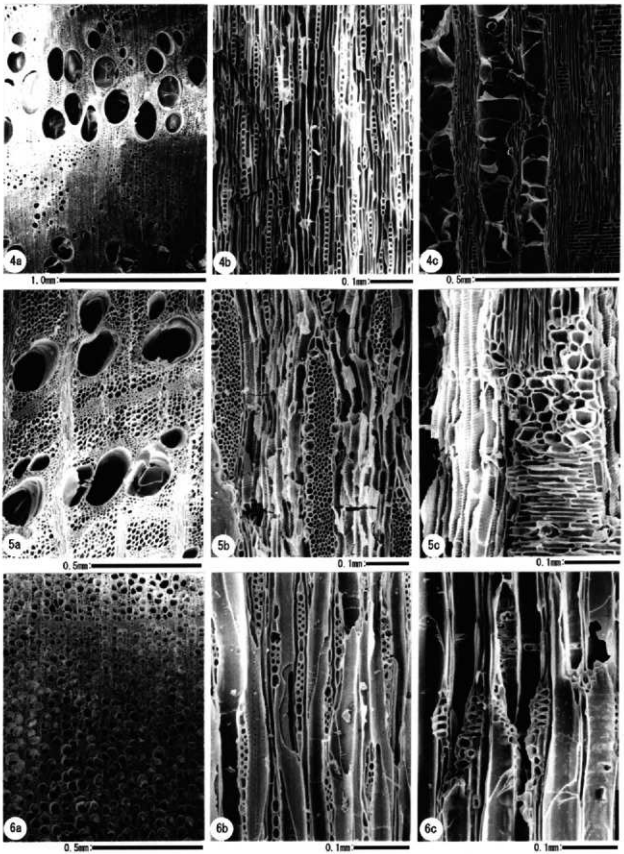
遺構	地区グリット	試料	樹　種	形　　状＊	備　　考
１号住居	48区Ｄ－３	18	イヌシデ節	2.5×2.0cm破片	
１号住居	48区Ｄ－３	12	カツラ	小破片	
１号住居	48区Ｄ－３	19	クリ	2.5×4.5cm破片	１年輪３～５mm
１号住居	48区Ｄ－３	33	クリ	3.0×3.0cm破片	放射径３cmで13年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	40	クリ	3.5×3.5cm破片	放射径3.5cmで13年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	31	クリ	4.0×3.0cm破片	放射径４cmで16年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	32	クリ	樹芯部の破片含む	１年輪２～３mm
１号住居	48区Ｄ－３	20	クリ	小破片	１年輪２～３mm
１号住居	48区Ｄ－３	6	クリ	小破片	１年輪２mm
１号住居	48区Ｄ－３	1	クリ	小破片	
１号住居	48区Ｄ－３	12	クリ	小破片	
１号住居	48区Ｄ－３	38	クリ	小破片	
１号住居	48区Ｄ－３	2	クリ	幅10cm、板目板状	１年輪５mm前後
１号住居	48区Ｄ－３	35	クリ	幅６cm、板目板状	１年輪５mm前後
１号住居	48区Ｄ－３	14	クリ	幅7.5cm、板目板状	１年輪２～３mm
１号住居	48区Ｄ－３	15	クリ	破片	１年輪２～３mm
１号住居	48区Ｄ－３	21	クリ	破片	１年輪２～３mm
１号住居	48区Ｄ－３	41	クリ	破片	１年輪２～３mm
１号住居	48区Ｄ－３	16	クリ	破片	１年輪３～７mm
１号住居	48区Ｄ－３	3	クリ	破片	１年輪４～５mm
１号住居	48区Ｄ－３	5	クリ	破片	１年輪５mm前後
１号住居	48区Ｄ－３	10	クリ	破片	１年輪５mm前後
１号住居	48区Ｄ－３	37	クリ	破片	１年輪５mm前後
１号住居	48区Ｄ－３	23	クリ	破片	１年輪６mm前後
１号住居	48区Ｄ－３	11	クリ	破片	放射径2.0cmで７年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	27	クリ	破片	
１号住居	48区Ｄ－３	42	クリ	破片	
１号住居	48区Ｄ－３	28	クリ	破片、少量	
１号住居	48区Ｄ－３	4	クリ	丸木形状の破片	１年輪２～３mm
１号住居	48区Ｄ－３	7	クリ	丸木形状の破片	１年輪２～５mm
１号住居	48区Ｄ－３	24	クリ	丸木形状の破片	放射径1.5cmで６年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	44	クリ	丸木形状の破片	放射径1.8cmで６年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	30	クリ	丸木形状の破片	放射径2.3cmで12年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	13	クリ	丸木形状の破片	放射径2.5cmで21年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	36	クリ	丸木形状の破片	放射径3.0cmで７年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	25	クリ	丸木形状の破片	放射径3.5cmで６年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	17	クリ	丸木形状の破片	放射径3.8cmで７年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	26	クリ	丸木形状の破片	放射径4.0cmで７年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	39	クリ	丸木形状の破片	放射径4.5cmで22年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	9	クリ	丸木形状の破片	放射径4.8cmで19年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	29	クリ	丸木形状の破片、分割材？	放射径4.8cmで11年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	43	クリ	丸木破片	１年輪５mm前後
１号住居	48区Ｄ－３	35	ケヤキ	4.3×2.5cm加工痕ある破片	放射径4.3cmで52年輪あり
１号住居	48区Ｄ－３	30	ケヤキ	加工材？	１年輪１～２mm
１号住居	48区Ｄ－３	22	コナラ節	小破片	
１号住居	48区Ｄ－３	34	ブナ属	5.5×2.5cm、芯去り削り出し楕円棒状	１年輪３mm前後
１号住居	48区Ｄ－３	28	ブナ属	6.5×2.0cm、芯去り削り出し楕円棒状	１年輪３～５mm



図版1　下原遺跡Ⅲ区-1G 1号住居出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真

1a-1c：イヌシデ節（試料18）　2a-2c：ブナ属（試料34）　3a-3c：コナラ属コナラ節（試料22）

a：横断面　b：接線断面　c：放射断面



図版２　下原遺跡Ⅲ区 -1G １号住居出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真
4a-4c：クリ（試料 33）　5a-5c：ケヤキ（試料 35）　6a-6c：カツラ（試料 12）
a：横断面　b：接線断面　c：放射断面

第４節　下原遺跡出土人骨

橋崎　修一郎

はじめに

下原遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字林字下原に所在する。(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が、2003（平成15）年９月～2004（同16）年10月まで行われた。本遺跡の、46区65号土坑及び同75号土坑より、中世の人骨が出土したので以下に報告する。人骨は、清掃後、計測・写真撮影・観察を行った。

なお、歯の計測方法は藤田（1949）に従った。また、歯の計測値の比較は、中近世人はMATSUMURA[松村]（1995）を引用し、現代人は権田（1959）を引用した。

2000（平成12）年に調査が行われた、下原遺跡Ⅱ区出土人骨は、すでに本報告者により報告されているので参照されたい（橋崎、2003）。

１．46区65号土坑出土人骨［旧Ⅲ区15号土坑］(2004年10月８日取り上げ)

（１）人骨の出土状況

人骨は、長軸約120cm・短軸約100cm・深さ約26cmの楕円形土坑から出土している。なお、本土坑は、46区1号井戸と重複するが、出土状況から井戸が埋没する過程で、本土坑が掘られたものと推定される。

（２）人骨の出土部位

人骨の出土部位はほぼ全身に及ぶが、残存状態は全体的に悪く、破片のみである。したがって、ここでは主に出土歯のみについて報告する。

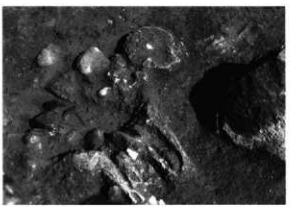


写真１．下原遺跡46区65号土坑出土人骨出土状況

（３）副葬品

副葬品は、検出されていない。

（４）被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の出土位置より、被葬者の頭位は北側で、右側を下にし顔面部を西に向けた横臥（側臥）屈葬で埋葬されたと推定される。

（５）被葬者の個体数

人骨の残存状態は非常に悪いが、出土歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は１個体であると推定される。

（６）被葬者の性別

出土人骨の頭蓋骨片は薄く、華奢である。また、出土永久歯の歯冠計測値を比較すると比較的小さいため、被葬者の性別は女性であると推定される。

（７）被葬者の死亡年齢

出土歯の咬耗度を観察すると、エナメル質のみのマルティンの１度及び象牙質が点状に露出するマルティンの２度の状態である。したがって、被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

（８）被葬者の古病理

出土歯には、歯石の付着は認められなかった。齲蝕（虫歯）は、確かではないが、上顎左第２大臼歯（M2）の歯冠咬合面部及び歯冠頰側部に認められた。

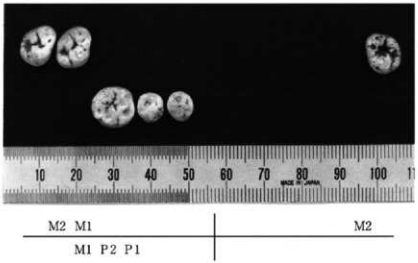


写真２．下原遺跡46区65号土坑出土人骨出土永久歯

２．46区75号土坑出土人骨［旧Ⅲ区25号土坑］（2004年10月28日取り上げ）

（１）人骨の出土状況

人骨は、長軸約126cm・短軸約60cm以上・深さ約10cmの楕円形土坑から出土している。土坑の東西は、南北に21トレンチ及び22トレンチにより切られているため、東西軸の正確な大きさは不明である。

（２）人骨の出土部位

人骨の残存状態は非常に悪いため、ここでは出土歯のみについて報告する。

（３）副葬品

副葬品は、祥符元宝（1008年）を含む３点の銭貨が検出されている。

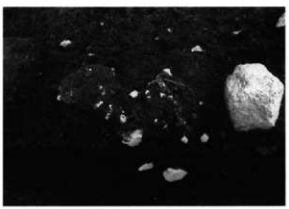


写真３．下原遺跡46区75号土坑出土人骨出土状況

（４）被葬者の頭位・埋葬状態

出土人骨の出土状況から、被葬者の頭位は北側で、右側を下にし顔面部を西側に向けた横臥（側臥）屈葬で埋葬されたと推定される。

（５）被葬者の個体数

出土歯には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は１個体であると推定される。

（６）被葬者の性別

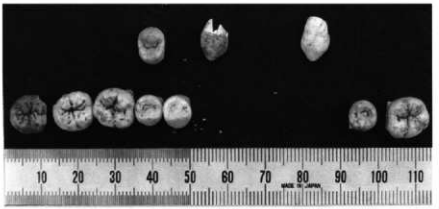
出土永久歯の歯冠計測値を比較すると、比較的大きいため、被葬者の性別は男性（男児）である可能性が高い。

（７）被葬者の死亡年齢

出土歯の咬耗度を観察すると、エナメル質のみに限定されるマルティンの１度の状態である。また、下顎右第３大臼歯は、歯冠のみが完成し歯根が未完成の状態である。したがって、被葬者の死亡年齢は、約12歳であると推定される。

（８）被葬者の古病理

出土歯には、歯石の付着及び齲蝕（虫歯）は認められなかった。



P2　C	C
M3　M2　M1　P2　P1	P2　M1

写真４．下原遺跡46区75号土坑出土人骨出土永久歯

まとめ

下原遺跡の46区65号土坑及び同75号土坑より、中世の人骨がそれぞれ１体ずつ出土した。２体共、頭位は北側で右側を下にして顔面部を西側に向けた状態で埋葬されていたと推定された。46区65号土坑には、約30歳代の女性が横臥（側臥）屈葬で埋葬されたと推定された。同人骨の上顎左第２大臼歯（M2）には、咬合面及び頬側部に**齲蝕**（虫歯）が認められた。また、46区75号土坑には、約12歳の男性（男児）が横臥（側臥）屈葬で埋葬されたと推定された。

謝辞

本遺跡出土人骨を報告する機会を与えていただき、本遺跡に関する考古学的情報をいただいた、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団の麻生敏隆氏に感謝いたします。

引用文献

藤田恒太郎 1949　歯の計測規準について、「人類学雑誌」, 61:1-6.

MATSUMURA, Hirofumi 1995 ***A microevolutional history of the Japanese as viewed from dental morphology***, National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum

梅田和良 1959　歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」, 67:151-163

植崎修一郎 2003　３．中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡出土人骨、「久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡」, （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

表１．下原遺跡出土人骨出土永久歯歯冠計測値及び比較表

	歯種	計測	下原遺跡出土人骨				中世時代人		江戸時代人		現代人	
			65号土坑		75号土坑		*		*		**	
			旧15号土坑		旧25号土坑		Matsumura,1995		Matsumura,1995		権田,1959	
			右	左	右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀
上顎	I1	MD	−	−	−	−	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
		BL	−	−	−	−	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28
	I2	MD	−	−	−	−	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05
		BL	−	−	−	−	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51
	C	MD	−	−	7.6	7.5	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	−	−	7.9	破損	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	P1	MD	−	−	−	−	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	−	−	−	−	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	P2	MD	−	−	7.4	−	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	−	−	9.9	−	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	M1	MD	8.9	−	−	−	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL	11.6	−	−	−	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
	M2	MD	8.8	9.3	−	−	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
		BL	11.4	10.9	−	−	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31
	M3	MD	−	−	−	−	−	−	−	−	8.94	8.86
		BL	−	−	−	−	−	−	−	−	10.79	10.50
下顎	I1	MD	−	−	−	−	5.42	5.22	5.45	5.32	5.48	5.47
		BL	−	−	−	−	5.78	5.61	5.78	5.65	5.88	5.77
	I2	MD	−	−	−	−	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11
		BL	−	−	−	−	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30
	C	MD	−	−	−	−	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68
		BL	−	−	−	−	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.50
	P1	MD	7.1	−	7.4	−	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	7.8	−	8.7	−	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
	P2	MD	7.1	−	7.4	7.5	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	8.2	−	8.2	8.1	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
	M1	MD	11.7	−	11.1	11.5	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	11.1	−	11.1	11.2	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
	M2	MD	−	−	11.0		11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89
		BL	−	−	10.5		10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20
	M3	MD	−	−	破損	−	−	−	−	−	10.96	10.65
		BL	−	−	10.2	−	−	−	−	−	10.28	10.02

註1．計測値の単位は、すべて、「mm」である。
註2．歯種は、I1（第１切歯）・I2（第２切歯）・C（犬歯）・P1（第１小臼歯）・P2（第２小臼歯）・M1（第１大臼歯）・M2（第２大臼歯）・M3（第３大臼歯）を意味する。
註3．計測項目は、MD（歯冠近遠心径）・BL（歯冠唇頬舌径）を意味する
註4．「破損」とは、歯冠が破損しており計測不能であることを示す。
註5．「＊」は、MATSUMURA（1995）より引用。なお、MATSUMURA（1995）には、第３大臼歯のデータは無い。
註6．「＊＊」は、権田(1959)より引用

遺構番号振替表

遺構名			面積（㎡）
S5畑	S5-1畑	S5-1平	348
	S5-2畑	S5-2平	
S6畑	S6-1畑	S6-1平	
	S6-2畑	S6-2平	
	S6-3畑	S6-3平	
S7畑			
S8畑	S8-1畑	S8-1平	862
	S8-2畑		
	S8-3畑		
	S8-4畑		
	S8-5畑	S8-5平	
S9畑			
S10畑			223
S11畑			167
S12畑	S12-1畑	S12-1平	351 / 1187
	S12-2畑	S12-2平	
	S12-3畑	S12-3平	272
	S12-4畑		564
	S12-5畑	S12-5平	
	S12-6畑	S12-6平	
	S12-7畑		
S13畑			166
S14畑			
S15畑			
S16畑			
S17畑	S17-1畑	S17-1平	
	S17-2畑	S17-2平	
	S17-3畑	S17-3平	
	S17-4畑		
	S17-5畑	S17-5平	
	S17-6畑	S17-6平	
	S17-7畑	S17-7平	
	S17-8畑	S17-8平	
	S17-9畑	S17-9平	
	S17-10畑	S17-10平	
S18畑	S18-1畑		
	S18-2畑		
S19畑	S19-1畑		
	S19-2畑		
S20畑	S20-1畑	S20-1平	
	S20-2畑	S20-2平	
S21畑			286
S22畑			7
S23畑			367
S24畑			40
S1水田			

(3)ヤックラ

遺構名称	位置	長径(m)	短径(m)	厚さ(m)	形態	平面形状	礫の最大径(cm)	備考
8ヤックラ	47KU-13	2.8	1.6	0.7	乱石積上一部石囲状	不整形	90	S23畑の1号道路。
9ヤックラ	47KG-19～G-20	7.7	3.6	1.5	乱石積上一部石囲状	—	100	S10畑。
10ヤックラ	47KE-16～H-16	11.6	4.3	2	乱石積上	不整形	88	S10畑とS11畑に隣接。
11ヤックラ	46KV-16～V-18	6.6	3.8	1.4	乱石積上	長楕円形	74	S12畑内。
12ヤックラ	46KS-16	2	1.8	0.3	乱石積上	楕円形	40	同上。
13ヤックラ	46KO-14～P-13	8.5	1.9	—	乱石積上	不整形	70	S12畑とS14畑の境界、24石庙と一部共有。
14ヤックラ	47KB-12～D-11	6.2	4	0.6	乱石積上一部周囲積み石	—	60	S17畑内。部分検出。
15ヤックラ	46KW-11～W-12	5.4	2.5	0.4	乱石積上	不整形	324	S17畑の1号道路。
16ヤックラ	46KQ-9～R-8	7.4	3	—	乱石積上一部周囲積み石	(長楕円形)	35	S17畑、1号道と8号道の交点

(4)道

遺構名称	位置	長さ(m)	巾(m)	高低差(m)	備考
1道	46区O-9～48区D-12	185	1.2	8.2	調査区中央を南北に２分。断面ポイントは図８を参照。
2道	47区X-7～48区I-6	46	0.4	3.4	９溝、12・13石垣と併走。
3道	47区S-13～U-18	27	0.7	9.4	６溝と併走。断面図６号溝参照。
4道	47区H-19～L-14	29	1	5.8	Ｓ８畑とS10畑の境界、15溝と併走。断面図15号溝参照。
5道	47区C-15～C-16	4	0.6	0.4	S11畑とS13畑の境界、Ｓ７畑の開口部か？。断面ポイントは図８を参照。
6道	47区A-12～A-21	34	1.3	7.4	S12畑とS13畑の境界、20～23石垣に伴う。断面ポイントは図８を参照。
7道	46区P-11～Q-10	5.5	1.4	0.8	S15畑とS12畑の境界、S14畑の開口部。断面ポイントは図８を参照。
8道	46区Q-9～R-7	13	0.7	1.8	16ヤックラと隣接し、S16畑とS17畑の境界。断面ポイントは図８を参照。
9道	47区R-9～R-11	11	0.8	1.4	S23畑とＳ５畑の境界、15石垣に伴う。断面ポイントは図８を参照。
10道	47区K-13～L-4	36	1	3.6	Ｓ５畑とＳ６畑に沿い、15溝と併走。断面図15号溝参照。

(6)溝

遺構名称	位置	長さ(m)	巾(m)	高低差(m)	掘込深さ(m)	備考
6溝	47区T-14～U-18	17	0.5	5	0.1	３道に併走。断面ポイントは図８を参照。
7溝	47区Y-８～48区D-11	18.5	0.4	3.6	0.1	11溝へ続く。断面ポイントは図８を参照。
8溝	47区W-７～48区B-10	18.5	0.5	2.6	0.1	帰属時期不明か？断面ポイントは図８を参照。
9溝	47区V-３～48区H-５	58	0.5	6	0.1	２道に併走。断面ポイントは図８を参照。
10溝	47区W-５～X-７	12	0.4	1.4	0.1	９溝と11溝を繋ぐ。断面ポイントは図８を参照。
11溝	47区U-６～X-９	29	0.6	2.8	0.2	７溝からＳ１水田へ続く。断面ポイントは図８を参照。
12溝	47区R-９～U-５	21	0.3	0.2	0.05	Ｓ１水田と隣接。断面ポイントは図８を参照。
13溝	47区K-13～O-13	18.5	0.5	0.6	0.2	１道に併走。断面ポイントは図８を参照。
14溝	47区P-８～R-５	15	0.6	0.8	0.2	16石垣に併走。断面ポイントは図８を参照。
15溝	47区H・J・K-20～L-４	72.5	0.5	10.4	0.5	４道、10道に併走。断面ポイントは図８を参照。

(5)石垣

遺構名称	位置	長さ(m)	高さ(m)	段数	積み方	築石の特徴	礫最大径(cm)	備考
11石垣	47区T-14～48区D-12	45.5	1.7	6	一部布積崩積	亜角礫	250	S18畑とS21畑境界、1道に伴う。
12石垣	48区G-５～I-６	10	0.5	5	野面積乱積	亜角礫	80	S19畑とS20畑境界、2道に伴う。
13石垣	48区D-６～X-９	28	0.5	4	野面積乱積	亜角礫	80	S19畑とS20畑境界、一部S21畑とS23畑境界、２道に伴う。
14石垣	47区S-９～U-５	19.5	0.9	5	野面積乱積	亜角礫	115	S1水田とS23畑、S24畑境界。
15石垣	47区O-13～S-９	30.5	1.1	4	野面積乱積	亜角礫	110	S1水田とS23畑境界、１道、９道に伴う。
16石垣	47区M-10～R-５	36	0.6	9	野面積乱積	亜角礫	52	Ｓ１水田とＳ５畑、Ｓ６畑境界、14溝に伴う。
17石垣	47区K-18～K-20	6.5	0.9	6	野面積乱積	亜角礫	36	Ｓ８畑に向かい、15溝に伴う。
18石垣	47区C-18～C-19	6.5	0.6	3	野面積乱積	亜角礫	40	Ｓ７畑に面する。
19石垣	47区B-17～C-16	8	1.1	4	野面積乱積	亜角礫	35	Ｓ７畑とS13畑境界。
20石垣	47区A-19～B-18	4.5	1.4	4	野面積乱積	亜角礫	120	S13畑に面し、６道に伴う。
21石垣	47区A-16～A-19	14.5	0.9	5	野面積乱積	亜角礫	65	同上。
22石垣	47区A-19～A-20	7.5	0.7	4	野面積乱積	亜角礫	72	S12畑に面し、６道に伴う。
23石垣	46区Y-17～47区A-14	20.5	0.8	4	野面積乱積	亜角礫	56	同上。
24石垣	46区N-16～P-11	23.5	1.1	5	野面積乱積	亜角礫	60	13ヤックラと共にS12畑とS14畑の境界。
25石垣	46区O-11～P-11	4	0.6	3	野面積乱積	亜角礫	40	S14畑とS15畑境界。

遺構種類	時期	区	新番号	旧番号	調査年度	報告年度	備考
畑	中世	46	1	S－5	1998	2003	既報告分のS－5を置き換え
畑	中近世	47	1	1	2004		
畑	中近世	47	2	2面	2004		
畑	中世	47	3	3面1	2004		
畑	中世	46	2	3面2	2004		
畑	中世	46	3	3面3	2004		
土坑	中世	46	1	1	1998	2003	
土坑	中世	46	2	2	1998	2003	
土坑	中世	46	3	3	1998	2003	
土坑	中世	46	4	4	1998	2003	
土坑	中世	46	5	5	1998	2003	
土坑	中世	46	6	6	1998	2003	
土坑	中世	46	7	7	1998	2003	
土坑	中世	46	8	8	1998	2003	
土坑	中世	46	9	9	1998	2003	
土坑	中世	46	10	10	1998	2003	
土坑	中世	46	11	11	1998	2003	
土坑	中世	46	12	12	1998	2003	
土坑	中世	46	13	13	1998	2003	
土坑	中世	46	14	14	1998	2003	
土坑	中世	46	15	15	1998	2003	
土坑	中世	46	16	16	1998	2003	
土坑	中世	46	17	17	1998	2003	
土坑	中世	46	18	18	1998	2003	
土坑	中世	46	19	19	1998	2003	
土坑	中世	46	20	20	1998	2003	
土坑	中世	46	21	21	1998	2003	墓、人骨出土
土坑	中世	46	22	22	1998	2003	
土坑	中世	46	23	23	1998	2003	
土坑	中世	46	24	24	1998	2003	
土坑	中世	46	25	25	1998	2003	
土坑	中世	46	26	26	1998	2003	
土坑	中世	46	27	27	1998	2003	
土坑	中世	46		28	1998	2003	報告時、欠番
土坑	中世	46	28	29	1998	2003	
土坑	中世	46	29	30	1998	2003	
土坑	中世	46	30	31	1998	2003	墓、人骨出土
土坑	中世	46	31	32	1998	2003	
土坑	中世	46		33	1998	2003	報告時、欠番
土坑	中世	46	32	34	1998	2003	
土坑	中世	46	33	35	1998	2003	
土坑	中世	46	34	36	1998	2003	
土坑	中世	46	35	37	1998	2003	
土坑	中世	46	36	38	1998	2003	
土坑	中世	46	37	39	1998	2003	
土坑	中世	46	38	40	1998	2003	
土坑	中世	46	39	41	1998	2003	
土坑	中世	46	40	42	1998	2003	
土坑	中世	46	41	43	1998	2003	
土坑	中世	46	42	44	1998	2003	

土坑	中世	46	43	45	1998	2003	
土坑	中世	46	44	46	1998	2003	
土坑	中世	46	47	47	1998	2003	
土坑	中世	36	1	48	1998	2003	
土坑	中世	36	2	49	1998	2003	
土坑	中世	36	3	50	1998	2003	
土坑	中世	46	48	51	1998	2003	
土坑	中世	36	4	52	1998	2003	
土坑	中世	46	49	53	1998	2003	
土坑	中世	46	50	54	1998	2003	
土坑	中世	36	5	55	1998	2003	
土坑	中世	36	6	56	1998	2003	墓、人骨出土
土坑	中世	46	51	57	1998	2003	
土坑	中世	36	7	58	1998	2003	
土坑	中世	36	8	59	1998	2003	
土坑	中世	36	9	60	1998	2003	
土坑	中世	36	10	61	1998	2003	
土坑	中世	36	11	62	1998	2003	
土坑	中世	36	12	63	1998	2003	
土坑	中世	36	13	64	1998	2003	
土坑	中世	36	14	65	1998	2003	
土坑	中世	46	52	66	1998	2003	
土坑	中世	36	15	67	1998	2003	
土坑	中世	48	1	1	2003		
土坑	中世	47	1	2	2004		
土坑	中世	46	53	3	2004		
土坑	中世	46	54	4	2004		
土坑	中世	46	55	5	2004		
土坑	中世	46	56	6	2004		
土坑	中世	46	57	7	2004		
土坑	中世	46	58	8	2004		
土坑	中世	46	59	9	2004		
土坑	中世	46	60	10	2004		
土坑	中世	46	61	11	2004		
土坑	中世	46	62	12	2004		
土坑	中世	46	63	13	2004		
土坑	中世	46	64	14	2004		
土坑	中世	46	65	15	2004		墓、人骨出土
土坑	中世	46	66	16	2004		
土坑	中世	46	67	17	2004		
土坑	中世	46	68	18	2004		
土坑	中世	46	69	19	2004		
土坑	中世	46	70	20	2004		
土坑	中世	46	71	21	2004		
土坑	中世	46	72	22	2004		
土坑	中世	46	73	23	2004		
土坑	中世	46	74	24	2004		
土坑	中世	46	75	25	2004		墓、人骨・古銭出土、トレンチで西半分が欠損
土坑	平安	46	76	26	2004		
土坑	平安	46	77	27	2004		
土坑	中世	46	78	28	2004		
土坑	中世	46	79	29	2004		

土坑	平安	46	80	30	2004		
土坑	平安	46	81	31	2004		
集石	中世	47	1	1	2003		
集石	中世	48	1	2	2003		
集石	中世	48	2	3	2003		
集石	中世	47	2	4	2003		
集石	中世	47	3	5	2004		
集石	中世	47	4	6	2004		
集石	中世	47	5	7	2004		
集石	中世	47	6	8	2004		
集石	中世	46	1	9	2004		
集石	中世	46	2	10	2004		
集石	中世	46	3	11	2004		
集石	中世	47	7	12	2004		
集石	中世	47	8	13	2004		
集石	中世	47	9	14	2004		
集石	中世	47	10	15	2004		
集石	中世	47	11	16	2004		
集石	中世	47	12	17	2004		
集石	中世	47	13	18	2004		
集石	中世	46	4	19	2004		
集石	中世	46	5	20	2004		
集石	中世	46	6	21	2004		
集石	中世	46	7	22	2004		
集石	中世	46	8	23	2004		
集石	中世	46	9	24	2004		
集石	中世	46	10	25	2004		
集石	中世	46	11	26	2004		
集石	中世	46	12	27	2004		
集石	中世	46	13	28	2004		
集石	中世	36	1	29	2004		
集石	中世	46	14	30	2004		
集石	平安	46	15	31	2004		
集石	平安	46	16	32	2004		
集石	平安	46	17	33	2004		
集石	平安	46	18	34	2004		
ピット	中世		1～204	1～204	1998	2003	46を中心に、1～204まであるが、詳細が不明
ピット	中世	46	1	1	2004		1から新たに番号を付ける
ピット	中世	46	2	2	2004		
ピット	平安	46	3	3	2004		
ピット	平安	46	4	4	2004		
ピット	中世	46	5	5	2004		
ピット	中世	46	6	6	2004		
ピット	中世	46	7	7	2004		
焼土	天明3年		1	1	1998	2003	
焼土	天明3年		2	2	1998	2003	
焼土	中世	46	1	3	1998	2003	
焼土	中世	36	1	4	1998	2003	
焼土	中世	36	2	5	1998	2003	

焼土	中世	46	2	6	1998	2003	
焼土	中世	46	3	7	1998	2003	
焼土	中世	36	3	8	1998	2003	
焼土	中世	36	4	9	1998	2003	
焼土	中世	36	5	10	1998	2003	
焼土	中世			11	1998	2003	報告時、欠番
焼土	中世	36	6	12	1998	2003	
焼土	中世	36	7	13	1998	2003	
焼土	中世	36	8	14	1998	2003	
焼土	中世	36	9	15	1998	2003	
焼土	中世	46	4	16	1998	2003	
焼土	中世	36	10	17	1998	2003	
焼土	中世	36	11	18	1998	2003	
焼土	中世	47	1	1	2004		
焼土	中世	47	2	2	2004		
焼土	中世	46	5	3	2004		
焼土	中世	46	6	4	2004		
焼土	中世	47	3	5	2004		
焼土	中世	47	4	6	2004		
焼土	中世	46	7	7	2004		
石組	中世	36	1	1	1998	2003	
石組	中世	36	2	2	1998	2003	
石組	中世	36	3	3	1998	2003	
石組	中世	36	4	4	1998	2003	
石組	中世	36	5	5	1998	2003	
石列	中世	36	1	1	1998	2003	
石列	中世	36	2	2	1998	2003	
石列	中世	36	3	3	1998	2003	
石列	中世	36	4	4	1998	2003	
石列	中近世	36	5	5	1998	2003	
配石	平安	47	1	1	2004		
配石	平安	47	2	2	2004		
井戸	中近世	35	1	1	1998	2003	
井戸	中世	46	1	2	2004		
溝	天明3年		S1－1	S1－1	2003		
溝	天明3年		S2－1	S2－2	2003		
溝	天明3年		S3－1	S3－1	2003		
溝	天明3年		S3－2	S3－4	2003		
溝	天明3年		S4－1	S4－1	2003		
溝	天明3年		S4－2	S4－2	2003		
溝	天明3年		S4－3	S4－3	2003		
溝	天明3年	47	S5－1	S5－1	2003		
溝	天明3年	47	S5－2	S5－2	2003		
溝	天明3年		S5－3	S5－3	2003		
溝	天明3年	47	S6－1	S6－1	2003		
溝	天明3年		S8－1	S8－1	2003		
溝	天明3年	47	S8－2	S8－2	2003		

溝	天明３年		Ｓ８－３	Ｓ８－３	2003		
溝	中近世	46	1	1	1998	2003	
溝	中近世	46	2	2	1998	2003	
溝	中世	46	3	3	1998	2003	
溝	中世	36	1	4	1998	2003	
溝	中世	36	2	5	1998	2003	
溝	中近世	47	1	1	2004		
溝	中近世	47	2	2	2004		
溝	中近世	47	3	3	2004		
溝	中近世	47	4	4	2004		
溝	中近世	47	5	5	2004		
溝	中近世	47	6	6	2004		
溝	中近世	47	7	7	2004		
溝	中近世	47	8	8	2004		
柵列	中世	46	1	1	1998	2003	
柵列	中世	36	1	2	1998	2003	
覆屋	天明３年		1	1	1988	2003	
竪穴住居	平安	48	1	1	2003		
竪穴住居	平安	46	1	2	2004		当初は２号竪穴
竪穴住居	古墳	47	1	3	2004		当初は４号竪穴
竪穴	平安	46	1	1	2004		
竪穴	平安	46	2	2	2004		
竪穴	平安	46	3	3	2004		

中近世陶磁器観察表（第96、97図、写真図版54）

番号	出土位置	種　別	備　　考
1	84	龍泉窯系青磁 碗	底部器壁厚く、高台外面まで施釉する。13から14世紀。
2	121	中国磁器 皿	高台外面下半から高台内無釉。白磁皿B群。15世紀。
3	76	肥前磁器 碗	波佐見系。外面丁寧な雪輪梅樹文。高台内１重圏線内に「大明年製」崩れ銘。17世紀末から18世紀中頃。
4	80	肥前陶器 碗	やや大振りの陶胎染付碗。東屋山水文。17世紀末から18世紀中頃。
5	77	肥前磁器 碗	波佐見系。外面雪輪梅樹文。高台内不明銘。18世紀中から後半。
6	122	肥前陶器 碗	陶胎染付碗。焼成不良により釉が切れる箇所が点在する。文様も見えにくい。18世紀。
7	79	肥前磁器 丸碗	外面菊花文。見込み手描き五弁花。18世紀後半から19世紀初頭。
8	137	肥前磁器 上絵碗	内面黒色絵具で上絵を施す。底部は二次被熱により上絵具発泡する。江戸時代。
9	86	肥前磁器 皿	中皿。やや焼成があまく、貫入入る。17世紀末から18世紀。
10	120	肥前磁器 青磁皿か鉢	内面篦による文様あり。17世紀から18世紀。
11	78	肥前磁器 仏飯器	底部外面無釉。江戸時代。
12	156	瀬戸・美濃陶器 皿	右回転糸切り無調整。残存部無釉、底部外面僅かに灰釉付着。古瀬戸小皿の底部であろう。
13	139	瀬戸・美濃陶器 瓶	体部外面灰釉。内面無釉。底部外面一部灰釉かかる。古瀬戸。
14	132	瀬戸・美濃陶器 丸碗	染付。外面笹文。18世紀末から19世紀中頃。
15	133	瀬戸・美濃陶器 碗	見込みに梅鉢状の文様を染め付ける。18世紀末から19世紀中頃。
16	123	瀬戸・美濃磁器 碗	染付。底部器壁厚い。19世紀前半から中頃。
17	130	瀬戸・美濃陶器 碗	口縁部飴釉、口縁部以下は鉄釉状に薄く施釉。江戸時代。
18	131	瀬戸・美濃陶器 碗か向付	胎土、釉調は柳茶碗と同じ。鉄絵具と描き方も近似する。高台脇以下無釉。18世紀末から19世紀中頃。
19	124	瀬戸・美濃陶器 皿	内面から高台内灰釉。貫入入る。底部内面一部無釉。大窯期。
20	126	美濃陶器 皿	灰釉。17世紀。
21	127	瀬戸・美濃陶器 皿	口縁部のみ灰釉。緑釉皿か。15世紀末から16世紀前半か。
22	138	瀬戸・美濃陶器 皿	長石釉。内面鉄絵。17世紀前半から中頃。
23	81	瀬戸・美濃陶器 髪水入	貫入の入る灰釉。底部から体部外面下端無釉。江戸時代。
24	128	瀬戸・美濃磁器？ 小杯	口錆。底部内面押印？による除刮施文。19世紀。
25	125	瀬戸・美濃陶器 不詳	口縁部から内面灰釉、外面口縁部鉄釉。灰釉部貫入入る。釉調は腰錆碗と同じ。江戸時代。
26	129	瀬戸・美濃陶器 香炉	飴釉。底部外面無釉、内面施釉。江戸時代。
27	135	瀬戸・美濃陶器 おろし皿	内面篦によりおろし目を刻む。内面極薄く灰釉掛かる。古瀬戸であろう。

28	136	瀬戸・美濃陶器？ すり鉢	錆釉。17世紀後半から18世紀前半。
29	85	瀬戸・美濃陶器 すり鉢	底部右回転糸切り無調整。錆釉。江戸時代。
30	83	京・信楽系？陶器 皿	高台はシャープに削り出す。高台端部を除き貫入の入る灰釉。
31	140	在地系 内耳鍋	口縁部片。上野型。15～16世紀。
32	S11-2 号畑	在地系 内耳鍋	口縁部肥厚する。内面口縁部下に施される２条の凹線状横撫でにより、内湾するように見える。北信系内耳鍋Ｂタイプか。15世紀末から16世紀初頃。
33	141	在地系 内耳鍋	口縁部片。外面に横鰹目状の回転撫で明瞭。口縁部はほぼ直立。信州型か。
34	89	在地系 内耳鍋？	平底。鍋形の体部下位から底部片であろう。中世。
35	90	在地系 内耳鍋か焙烙	平底。底部外面砂付着。中世か。
36	91	在地系 内耳鍋か焙烙	平底。底部外面砂付着。中世か。
37	82	製作地不詳 碗？	高台端部を除き貫入の入る透明釉。高台端部から内面の一部に砂付着。素地は青灰色。
38	134	製作地不詳陶器 碗	茶色の釉を内面は通常に、外面は斑点状に施釉。時期不詳。
39	87	製作地不詳 香炉	残存部無釉。外面の一部に灰釉残る。江戸時代。

下原遺跡出土灰釉陶器一覧表

実測遺物（第123図、写真図版64）

番号	区	出土位置	No.	器形	部位	残存率	窯式期	
1	46区	S-6	45・61・64	耳皿		1/4	大原2号窯式期	
2	46区	T-7	21	皿		1/3	大原2号窯式期	R-5No.36
3	46区	S-5	39・58	皿	口縁部	1/12	大原2号窯式期	R-4No.15、T-6No.135
4	46区	U-7	1・23・24	折縁皿	口縁部	1/8	大原2号窯式期	T-6No.1・15
5	46区	S-4	6	椀	底部～口縁	1/10	大原2号窯式期	
6	46区	S-7	22	皿	底部	1/20	大原2号窯式期	16集No.2
7	46区	Q-7	16	皿	底部	1/20	大原2号窯式期	
8	46区			椀		1/2	大原2号窯式期	
9	46区	X-5	6・20	椀	口縁部	破片	大原2号窯式期	W-5No.19、W-6No.20
10	46区	7層	3	椀	口縁部	破片	光ヶ丘1号窯式期	
11	46区	P-5	3	椀	口縁部	破片	虎渓山1号窯式期	R-5(17)S-5(75)T-7(30)
12	46区	W-5	9	椀	口縁部	破片	大原2号窯式期	
13	46区	P-8	4・9	椀	口縁部	破片	大原2号窯式期	
14	46区	P-5	35	椀	口縁部	破片	大原2号窯式期	X-6No.25
15	46区	V-5	57・105	椀	口縁部	1/10	大原2号窯式期	U-5No.146、U-6No.65
16	46区	P-7	1・3・4・7	椀	口縁部	1/10	大原2号窯式期	P-8No.7、Q-7No.11
17	46区	X-6	6	椀	底部	1/6	大原2号窯式期	底部外面に墨書　判読不能
18	46区	V-6	39	椀	底部～口縁	1/20	光ヶ丘1号窯式期	
19	46区	T-4	7・15	皿	底部	1/4	大原2号窯式期	
20	46区	76土坑	15	椀	底部～口縁	1/12	大原2号窯式期	O-6No.5
21	46区	V-5	35	椀	底部	1/16	大原2号窯式期	U-5No.135
22	46区	P-6	36	椀	底部～口縁	1/8	大原2号窯式期	
22	46区	U-5	1	椀	底部片	1/20	?	
23	46区	P-8	1・16	椀	底部	1/20	大原2号窯式期	
25	46区	U-8	1	椀	底部	1/10	虎渓山1号窯式期	X-9No.1
26	46区	S-5	76	椀	底部～口縁	1/8	大原2号窯式期	
27	46区	Q-5	22	椀	底部～口縁	1/6	大原2号窯式期	
28	46区	W-8	45・61・64	長頸壺	口縁部	破片	?	
28	46区	T-5	5	椀	口縁部中位	小片	大原2号窯式期？	外面に「＋」のヘラ描き
30	46区	T-7	11・29	長頸壺	口縁部	小片	大原2号窯式期？	
31	46区	W-8		長頸壺	頸部～口縁	破片	大原2号窯式期	
32	46区	J-11	1・2	長頸壺	底部片	小片	?	

未実測遺物

番号	区	出土位置	No.	器形	部位	残存率	窯式期	
1	46区	X-9	2	長頸壺	胴部下位	小片	不明	47区7層No.3
2	46区	S-6	11	椀	口縁部	小片	虎渓山1号窯式期	T-7No.4
3	46区	P-7	12・15	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	R-7No.23
4	46区	W-8	3	長頸壺	胴部下位	小片	不明	7層No.4
5	46区	X-8	1	長頸壺	胴部下位	小片	不明	7層No.6
6	46区	S-4	13	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
7	46区	T-3	22	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	X-6No.9・23
8	47区	J-1	1	椀or皿	底部	小片	大原3号窯式期	高台三日月状B
9	46区	7層	5	皿	底部	小片	大原4号窯式期	高台三日月状B
10	46区	T-3	23	椀or皿	底部	小片	光ヶ丘1号窯式期	高台三日月状A
11	46区	U-6	23	椀or皿	底部	小片	光ヶ丘2号窯式期	高台三日月状A
12	46区	76土坑	13	椀	口縁部	他2片	大原2号窯式期	
13	46区	76土坑	5・9・11	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
14	46区	1号住居	－	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期？	
15	46区	1号住居	13	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	

16	46区	1号住居	17	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
17	46区	1号住居	54	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
18	46区	1号住居	62	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
19	46区	19トレンチ		椀	底部	小片	大原2号窯式期	高台三日月状B
20	46区	S-5	18	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	R-4No.13
21	46区	P-8	10・14	椀	口縁部	小片	虎渓山1号窯式期？	
22	46区	S-6	6・13・49	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
23	46区	T-6	56・88	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
24	46区	Q-7	6・10	椀	口縁部下位	小片	大原2号窯式期	
25	46区	T-6	87	椀	口縁部下位	小片	大原2号窯式期	V-6No.9
26	46区	76号土坑	24	椀	口縁部	小片	光ヶ丘1号窯式期	O-6No.25
27	46区	W-4	4	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	w-5
28	46区	R-5	8	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	S-6No.24・74
29	46区	V-6	38	椀	口縁部	小片	虎渓山1号窯式期	X-6No.1
30	46区	R-5	52・56	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
31	46区	T-5	11	耳皿	口縁部	小片	大原2号窯式期？	
32	46区	T-6	18	皿	口縁部	小片	大原2号窯式期	
33	46区	O-7	2	椀	口縁部下位	小片	大原2号窯式期	
34	46区	P-7	8	椀	口縁部下位	小片	大原2号窯式期？	内面煤付着
35	46区	P-6	24	皿	口縁部	小片	大原2号窯式期	
36	46区	T-8	1	椀	口縁部下位	小片	大原2号窯式期	
37	46区	U-7	3	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
38	46区	X-6	4	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
39	46区	U-7	2	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
40	46区	J-7	21	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
41	46区	O-5	9	鉢椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
42	46区	P-8	8	椀	口縁部下位	小片	大原2号窯式期	
43	46区	R-6	19	椀	口縁部	小片	光ヶ丘1号窯式期	
44	46区	7層	8	椀	口縁部	小片	光ヶ丘1号窯式期	
45	46区	T-6	21	皿	口縁部	小片	大原2号窯式期	
46	46区	T-6	95	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
47	46区	O-7	14	椀	口縁部	小片	光ヶ丘1号窯式期	
48	46区	P-8	11	椀	口縁部中位	小片	大原2号窯式期	
49	46区	P-8	6	椀	口縁部中位	小片	大原2号窯式期	
50	46区	P-6	25	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
51	46区	P-6	39	椀	口縁部下位	小片	大原2号窯式期？	
52	46区	N-5	5	椀	口縁部中位	小片	光ヶ丘1号窯式期	刷毛塗り
53	46区	Q-7	5	椀	口縁部	小片	光ヶ丘1号窯式期？	刷毛塗りか
54	46区	P-6	4	椀	口縁部	小片	光ヶ丘1号窯式期？	口縁部外反
55	46区	O-5	15	椀	口縁部中位	小片	大原2号窯式期	
56	46区	T-3	18	椀	口縁部中位	小片	大原2号窯式期	
57	46区	T-5	89	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
58	46区	P-4	26	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
59	46区	S-5	56	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
60	46区	P-7	10	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
61	46区	S-4	5	椀	口縁部	小片	光ヶ丘1号窯式期？	
62	46区	T-6	6	皿	口縁部	小片	大原2号窯式期	
63	46区	T-6	9	椀	口縁部	小片	大原2号窯式期	
64	46区	O-5	11	椀	口縁部中位	小片	大原2号窯式期	
65	46区	O-7	13	椀	口縁部中位	小片	大原2号窯式期	
66	46区	P-5	6	椀or皿	口縁部中位	小片	－	
67	46区	P-5	26	椀or皿	口縁部中位	小片	－	

68	46区	P-6	20	椀or皿	口縁部中位	小片	－	
69	46区	P-6	26	椀or皿	口縁部中位	小片	－	
70	46区	P-7	5	椀	口縁部中位	小片	－	
71	46区	P-7	6	椀	口縁部	小片	－	
72	46区	P-7	7	椀	口縁部中位	小片	－	
73	46区	P-7	11	椀	口縁部	小片	大原２号窯式期	
74	46区	P-7	15	椀	口縁部中位	小片	－	
75	46区	P-8	2	椀	口縁部中位	小片	－	
76	46区	P-8	3	椀	口縁部中位	小片	－	
77	46区	P-8	5	椀	口縁部	小片	大原２号窯式期？	
78	46区	P-8	20	椀	口縁部中位	小片	－	
79	46区	Q-4	13	椀	口縁部中位	小片	－	
80	46区	R-5	32	椀	口縁部中位	小片	大原２号窯式期？	
81	46区	R-5	56	椀	口縁部中位	小片	－	
82	46区	S-5	21	椀	口縁部	小片	－	
83	46区	S-6	4	椀	口縁部中位	小片	－	
84	46区	S-6	6	椀	口縁部	小片	－	
85	46区	S-6	42	皿	口縁部	小片	大原２号窯式期？	
86	46区	S-6	43	椀	口縁部中位	小片	－	
87	46区	S-7	21	椀	口縁部中位	小片	－	
88	46区	T-2	1	椀	口縁部中位	小片	大原２号窯式期	
89	46区	T-4	17	椀	口縁部中位	小片	－	
90	46区	T-6	4	椀	口縁部中位	小片	－	
91	46区	T-6	171	椀	口縁部	小片	－	
92	46区	T-7	31	椀	口縁部	小片	－	
93	46区	U-4	73	椀	口縁部	小片	大原２号窯式期	
94	46区	U-4	74	椀	口縁部中位	小片	－	
95	46区	U-5	79	椀	口縁部	小片	大原２号窯式期	
96	46区	U-5	80	椀	口縁部中位	小片	－	
97	46区	U-7	1	椀	口縁部中位	小片	－	
98	46区	V-3	42	椀or皿	口縁部中位	小片	－	
99	46区	V-5	17	椀	口縁部	小片	大原２号窯式期	
100	46区	V-5	26	椀	口縁部	小片	－	
101	46区	V-5	46	椀	口縁部	小片	－	
102	46区	V-5	78	椀	口縁部	小片	－	
103	46区	V-5	88	椀	口縁部	小片	－	
104	46区	V-6	11	椀	口縁部	小片	－	
105	46区	W-4	21	椀	口縁部中位	小片	大原２号窯式期	
106	46区	W-6	7	椀	口縁部中位	小片	大原２号窯式期	
107	46区	X-3	1	椀	口縁部中位	小片	大原２号窯式期？	
108	46区	X-4	1	椀	口縁部中位	小片	－	
109	46区	X-4	3	椀	口縁部中位	小片	－	
110	46区	X-5	16	椀	口縁部中位	小片	－	
111	46区	7層	22	椀	口縁部	小片	光ヶ丘１号窯式期？	
112	46区	7層	不明	椀	口縁部下位	小片	－	
113	46区	泥流下		椀	口縁部中位	小片	－	
114	46区	-	1	椀	口縁部中位	小片	光ヶ丘１号窯式期	
115	46区	S-7	89	長頸壺	口縁部	小片	－	
116	46区	T-6	133	長頸壺	口縁部	小片	－	
117	46区	W-6	10・14	長頸壺	頸部	小片	－	
118	47区	I-8	3	長頸壺	頸部	小片	－	
119	46区	W-8	2	長頸壺	胴部(肩部)	小片	－	

120	46区	X-7	1	長頸壺	胴部(肩部)	小片	—	
121	46区	S-14　7層	—	長頸壺	胴部(肩部)	小片	—	
122	46区	X-9	2	長頸壺	胴部下位	小片	—	

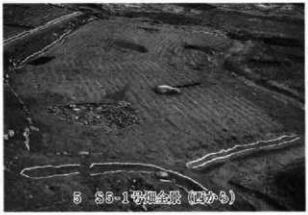
写　真　図　版

1　天明荒廃下地全景（S18～S24：上空から）

2　天明荒廃下地全景（S8・S9：上空から）

3 天明試掘T地全景（S6.S7.S9：上空から）

4 天明試掘T地全景（S10-17：上空から）



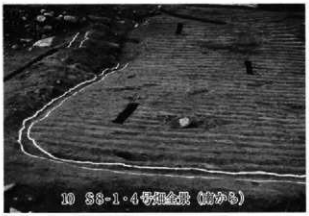
5 S5-1号畑全景（西から）

6 S5-2号畑全景（東から）

7 S6-1・2・3号畑全景（東から）

8 S7号畑全景（南から）

9 S8-1号畑全景（南から）



10 S8-1・4号畑全景（南から）

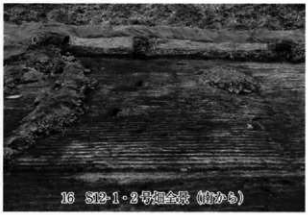
11 S8-2・3号畑全景（東から）

12 S8-5号畑全景（東から）

13 S9号畑全景（南から）

14 S10号畑全景（南から）

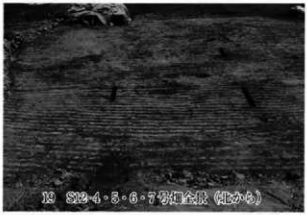
15 S11号畑全景（東から）



16 S12-1・2号畑全景（南から）

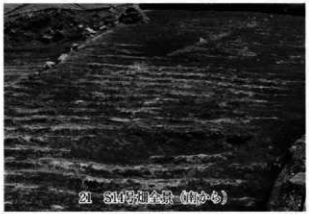
17 S12-1・2号畑全景（北から）

18 S12-3号畑全景（南から）



19 S12-4・5・6・7号畑全景（北から）

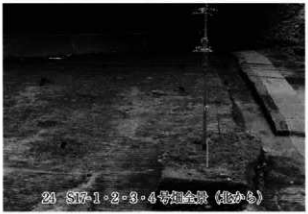
20 S13号畑全景（南から）



21 S14号畑全景（南から）

22 S15号畑全景（北から）

23 S16号畑全景（南から）

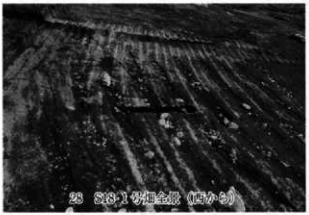


24 S17-1・2・3・4号畑全景（北から）

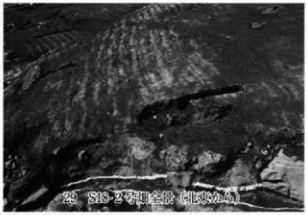
25 S17-5・6・7・8号畑全景（北から）

26 S17-9・10号畑全景（北から）

27 S18-2号畑全景（南西から）

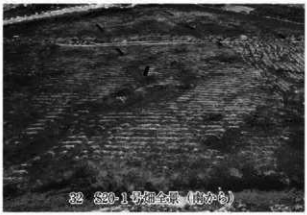


28 S18-1号畑全景（西から）


29. S18-2号畑全景（北東から）

30. S19-1号畑全景（東から）

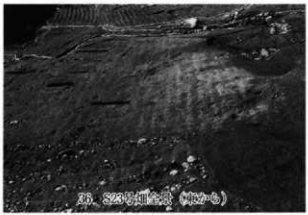
31. S19-2号畑全景（東から）


32. S20-1号畑全景（南から）

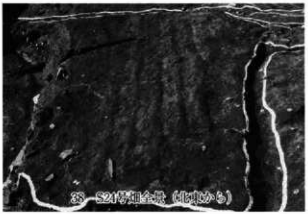
33. S20-2号畑全景（南から）

34. S21号畑全景（東から）

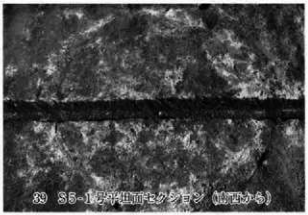
35. S22号畑全景（東北から）


36. S23号畑全景（東から）

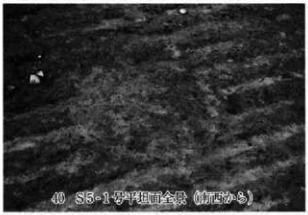
37 S23号住全景（南から）



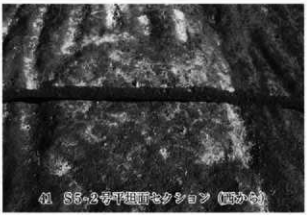
38 S24号住全景（北東から）



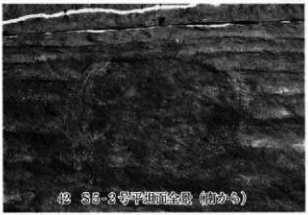
39 S5-1号平坦面セクション（南西から）



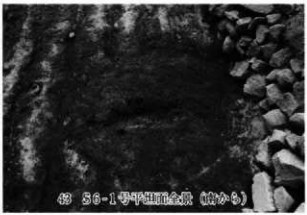
40 S5-1号平坦面全景（南西から）



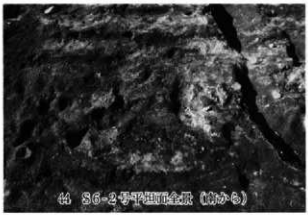
41 S5-2号平坦面セクション（南から）



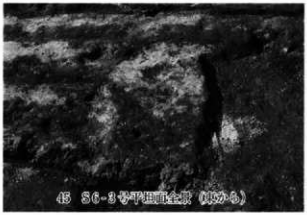
42 S5-2号平坦面全景（南から）



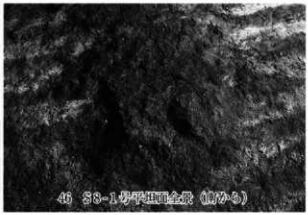
43 S6-1号平坦面全景（南から）



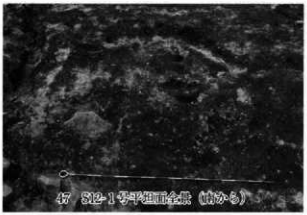
44 S6-2号平坦面全景（南から）



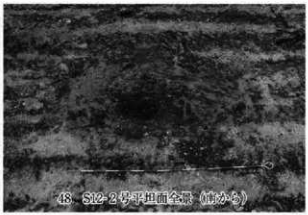
45 S6-3号平坦面全景（南から）



46 S8-1号平坦面全景（南から）

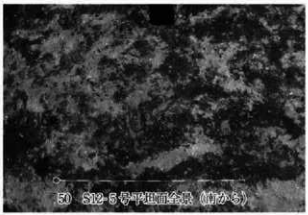


47 S12-1号平坦面全景（南から）

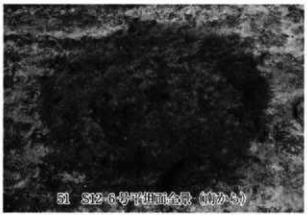


48 S12-2号平坦面全景（南から）

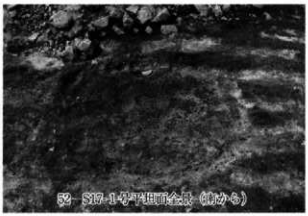
49 S12-3号平坦面全景（南から）



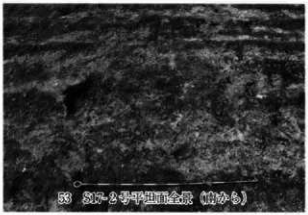
50 S12-5号平坦面全景（南から）



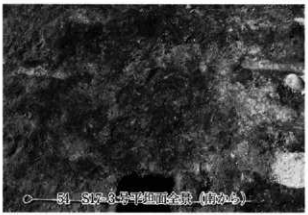
51 S12-6号平坦面全景（南から）



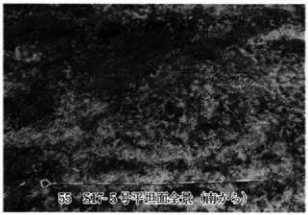
52 S17-1号平坦面全景（南から）



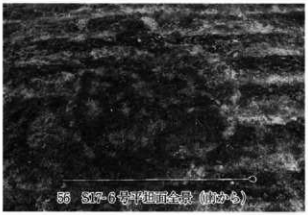
53 SK7-2号竪穴住居全景（南から）



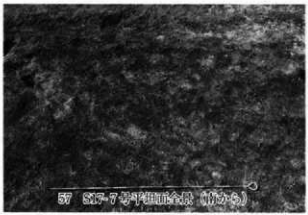
54 SK7-3号竪穴住居全景（南から）



55 SK7-5号竪穴住居全景（南から）



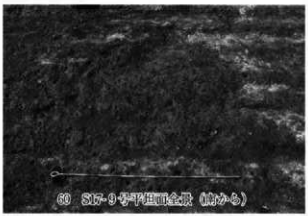
56 SK7-6号竪穴住居全景（南から）



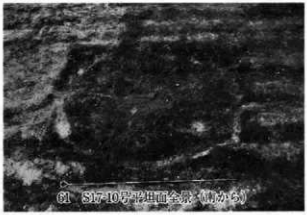
57 SK7-7号竪穴住居全景（南から）

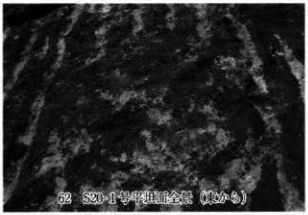
58 SK7-8号竪穴住居全景（南から）

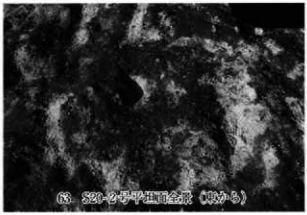
59 SK7-8号竪穴住居遺物出土状況（南から）



60 SK7-9号竪穴住居全景（南から）

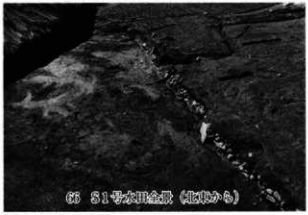

61 S17-10号平坦面全景（南から）


62 S20-1号平坦面全景（東から）


63 S20-2号平坦面全景（東から）

64 S20-3号平坦面全景（東から）

65 S1号水田全景（南から）


66 S1号水田全景（北東から）

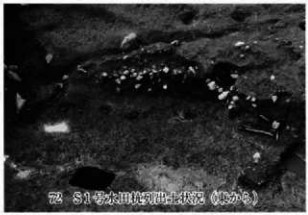
67 S1号水田腐化材出土状況（西から）

68 S1号水田畦畔腐材出土状況全景（東から）

69 S1号水田畦畔崩出状況（南東から）

70 S1号水田畦畔セクション（南から）

71 S1号水田畦畔崩出状況（南東から）



72 S1号水田杭列出土状況（東から）

73 S1号杭列 杭3・4・5セクション（南から）

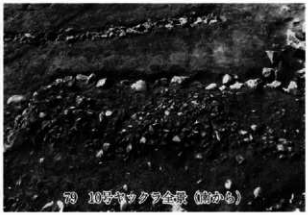
74 8号ヤックラ全景（南から）

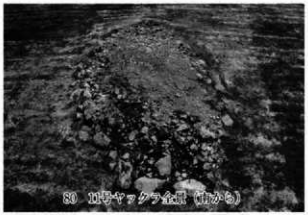
75 9号ヤックラセクション（西から）

76 9号ヤックラ全景（南から）

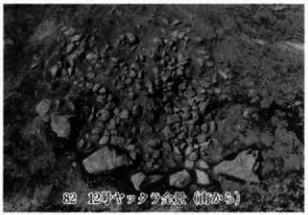
77 10号ヤックラ全景（西から）

78 10号ヤックラ全景（南から）


79 10号ヤックラ全景（南から）


80 11号ヤックラ全景（南から）

81 11号ヤックラ掘り込み全景（南から）


82 12号ヤックラ全景（南から）

83 12号ヤックラセクション（西から）

84 12号ヤックラ全景（南から）

85 12号ヤックラ掘り込み全景（南から）

86 13号ヤックラセクション（南から）

87 13号ヤックラ全景（西から）

88 14号ヤックラ部分（南から）

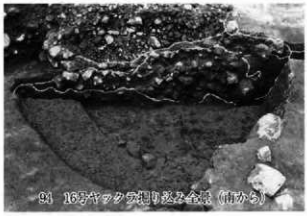
89 14号ヤックラ全景（西から）

90 15号ヤックラセクション（西から）

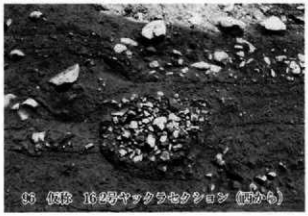
91 15号ヤックラ全景（北から）

92 16号ヤックラセクション（南から）

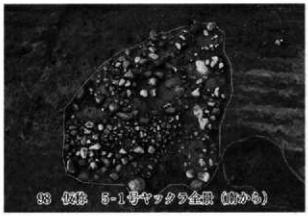
93 16号ヤックラ全景（南から）

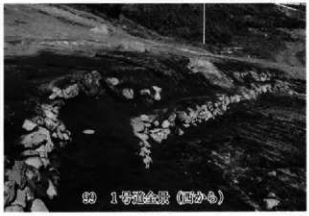

94 16号ヤックラ埋葬遺構全景（南から）

95 仮称 142号ヤックラセクション（南から）


96 仮称 162号ヤックラセクション（西から）

97 仮称 142号ヤックラ全景（南西から）


98 仮称 5-1号ヤックラ全景（南から）


99 1号墳全景（西から）

100　1号道全景（北から）

101　1号道全景（東から）

102　1号道全景（東から）

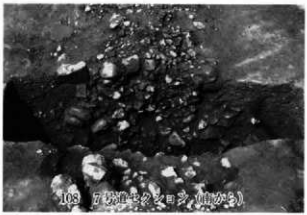
103　4号道全景（南西から）

104　5号道セクション（北から）

105　5号道全景（北から）

106　6号道セクションCライン（南から）

107　6号道全景（北から）



108　7号道セクション（南から）

109　7号道全景（南から）

110　8号道セクション（南から）

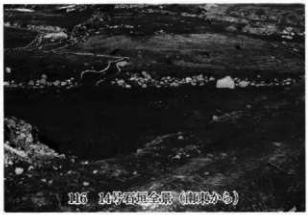
111　8号道全景（南から）

112　11号石垣全景（南から）

113　11号石垣裏込め検出状況（西から）

114　12・13号石垣セクション（西から）

115　12・13号石垣部分（南から）



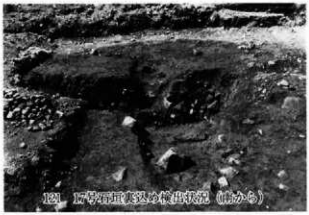
116　14号石垣全景（南東から）

117　15号石垣全景（南から）

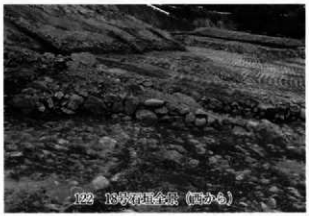
118　16号石垣セクション（南から）

119　16号石垣全景（南から）

120　17号石垣全景（西から）

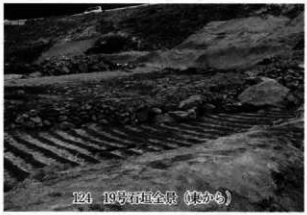


121　17号石垣裏込め横出状況（南から）



122　18号石垣全景（西から）

123　19号石垣セクション（南から）


124 19号石垣全景（東から）

125 20号石垣全景（南から）

126 21号石垣全景（西から）

127 22号石垣全景（東から）

128 23号石垣全景（東から）

129 24号石垣セクション（南から）

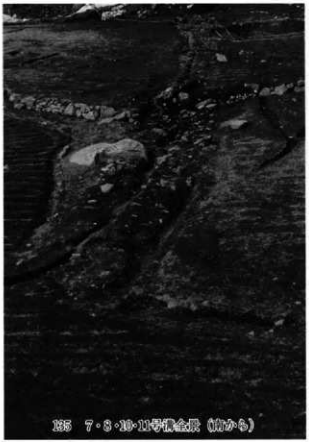
130 24号石垣全景（西から）

131 25号石垣セクション（西から）

122 仮称 S5-1号住居全景（南から）

123 仮称 S5-2号住居全景（南から）

124 仮称 S17号現代住居セクション（南から）

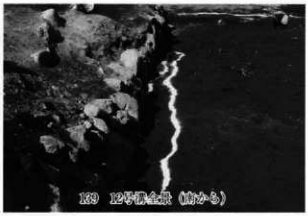


125 7・8・10・11号溝全景（南から）

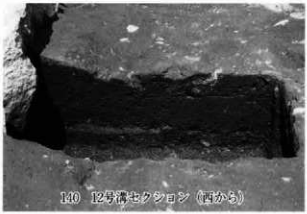
126 7・8号溝全景（北西から）

127 7・11号溝全景（南から）

138 9・10号溝全景（南から）



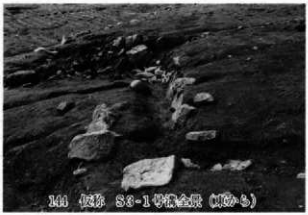
139 12号溝全景（南から）



140 12号溝セクション（西から）

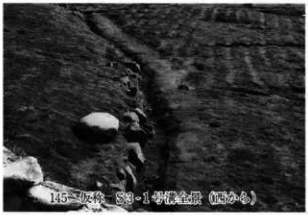
142 15号溝全景（南から）

141 14号溝全景（南から）



143 低谷 S3-1ゼ溝全景（東から）

143 仮称 S1-1号溝全景（南から）

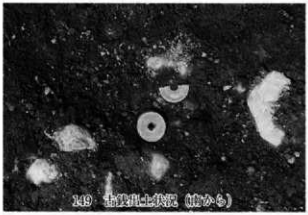


145 仮称 S3-1号溝全景（西から）

146 仮称 S4-3号溝全景（西から）

148 仮称 S3-1号溝全景（南から）

147 仮称 S4-3号溝全景（南から）

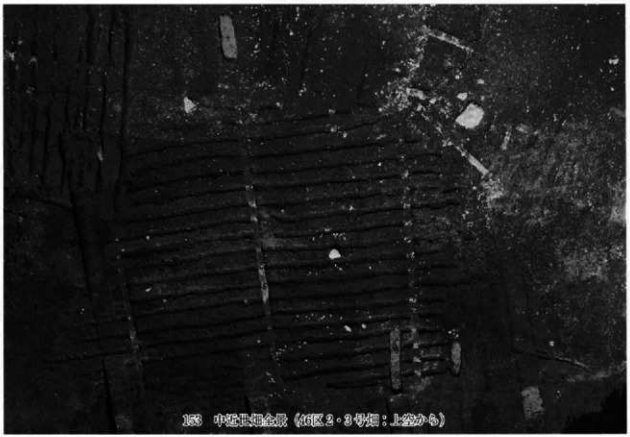


149 土器出土状況（南から）

169　発掘調査開始全景（上空から：中央は発掘調査事務所、右奥の岡三平田の観音堂の森）

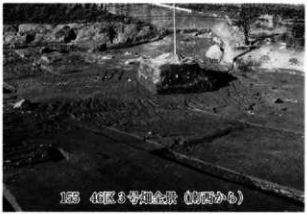
171　中荒田町全景（上空から：2・3回）

152　中堂住址全景（46区1・2号炉：上空から）

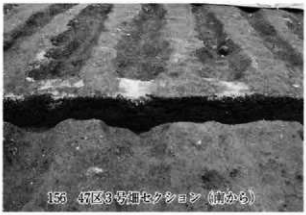


153　中堂住址全景（46区2・3号炉：上空から）

154 46区2号溝全景（北から）



155 46区3号溝全景（南西から）



156 47区3号溝セクション（南から）

157 47区3号溝全景（南から）

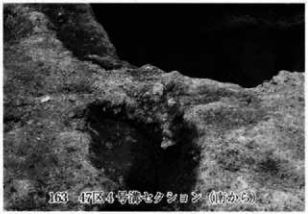
158 47区1号溝全景（南から）

159 47区2号溝セクション（南から）

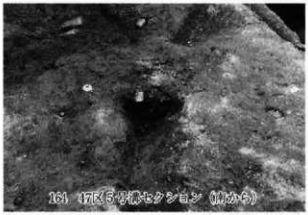
160 47区3号溝セクション（南から）

161　47区2号溝全景（南から）

162　47区3号溝全景（南から）

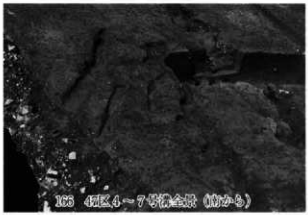


163　47区4号溝セクション（南から）

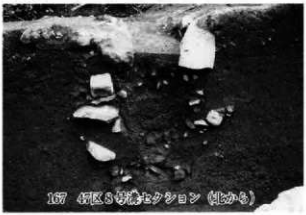


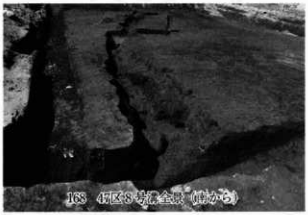
164　47区5号溝セクション（南から）

165　47区7号溝セクション（南から）



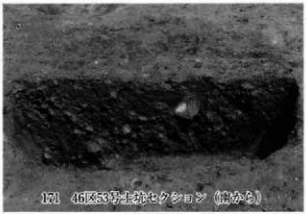
166　47区4～7号溝全景（南から）

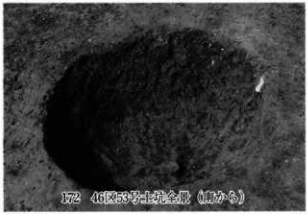

167　47区8号流セクション（北から）

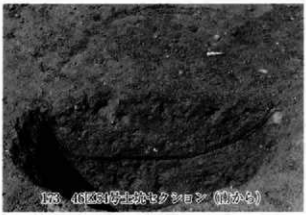

168　47区8号流全景（南から）

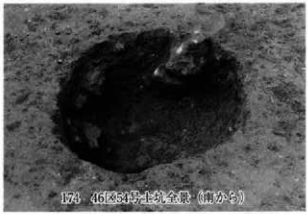
169　46区1号井戸セクション（東から）

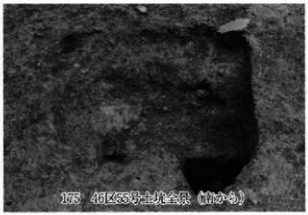
170　46区1号井戸全景（東から）

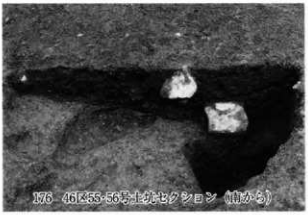

171　46区53号土坑セクション（南から）

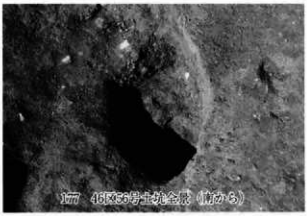

172　46区53号土坑全景（南から）

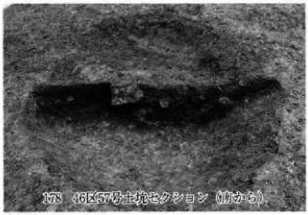

173　46区54号土坑セクション（南から）

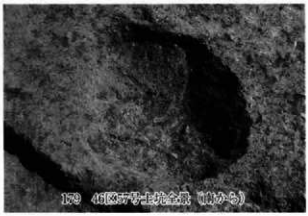

174　46区54号土坑全景（南から）


175 46区55号土坑全景（南から）

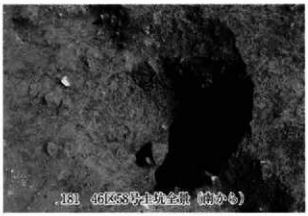

176 46区55・56号土坑セクション（南から）


177 46区56号土坑全景（南から）


178 46区57号土坑セクション（南から）

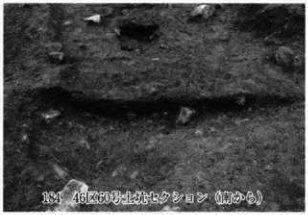

179 46区57号土坑全景（南から）

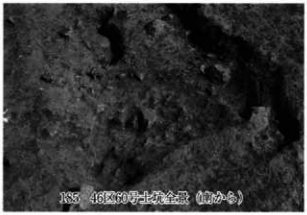
180 46区58号土坑セクション（南から）

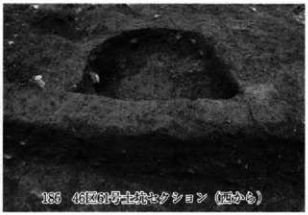

181 46区58号土坑全景（南から）

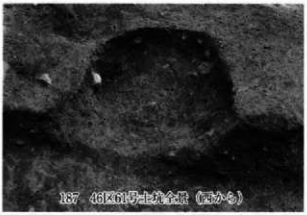
182 46区59号土坑セクション（南から）

183 46K59号土坑全景（南から）

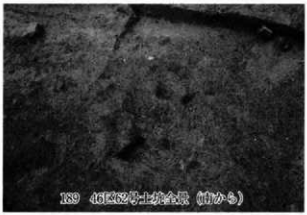

184 46K60号土坑セクション（南から）

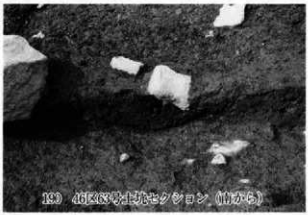

185 46K60号土坑全景（南から）

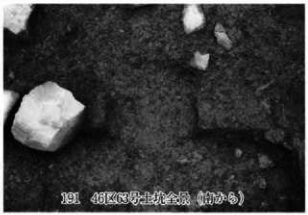

186 46K61号土坑セクション（西から）


187 46K61号土坑全景（西から）

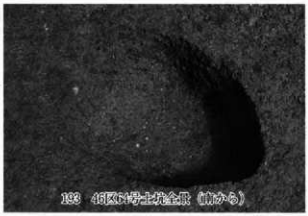
188 46K62号土坑セクション（南西から）


189 46K62号土坑全景（南から）

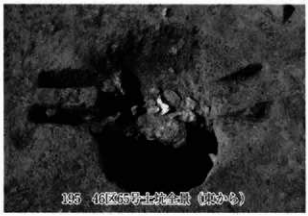

190 46K63号土坑セクション（南から）


191 46区65号土坑全景（南から）

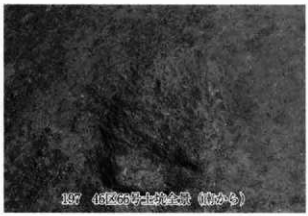
192 46区64号土坑セクション（南から）

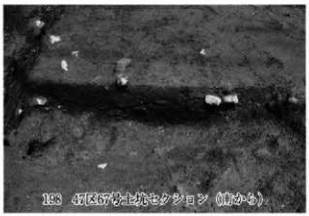

193 46区64号土坑全景（南から）

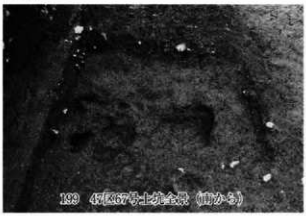
194 46区65号土坑セクション（東から）


195 46区65号土坑全景（南から）

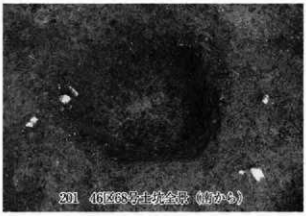
196 46区65号土坑セクション（南から）

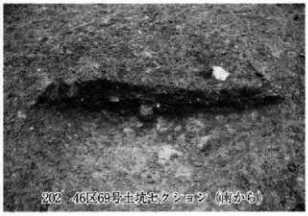

197 46区66号土坑全景（南から）


198 47区67号土坑セクション（南から）

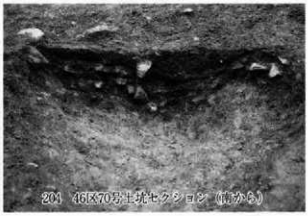

199　46区67号土坑全景（南から）

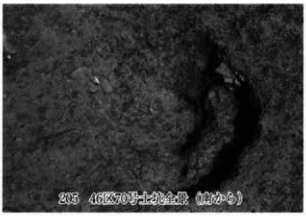
200　46区68号土坑セクション（南から）


201　46区68号土坑全景（南から）


202　46区69号土坑セクション（南から）

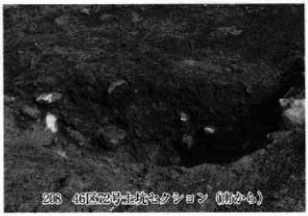
203　46区69号土坑全景（南から）

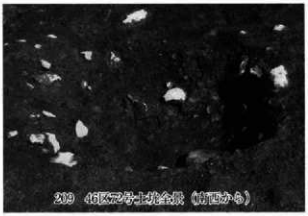

204　46区70号土坑セクション（南から）


205　46区70号土坑全景（南から）

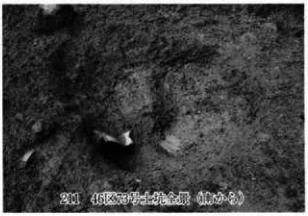
206　46区71号土坑セクション（南西から）

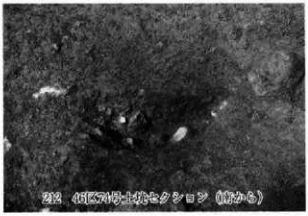
207 46区71号土坑全景（南から）


208 46区72号土坑セクション（南から）


209 46区72号土坑全景（南西から）

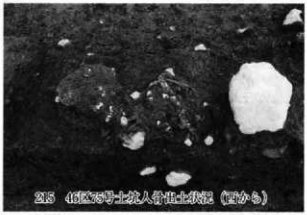
210 46区73号土坑セクション（東から）


211 46区73号土坑全景（南から）

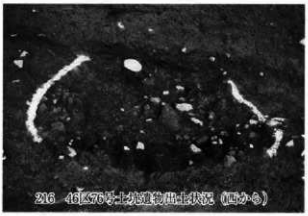

212 46区74号土坑セクション（南から）

213 46区74号土坑全景（南から）

214 46区75号土坑セクション（西から）



215　46区75号土坑人骨出土状況（西から）



216　46区76号土坑遺物出土状況（西から）

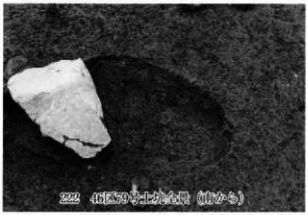
217　46区77号土坑セクション（南から）

218　46区77号土坑全景（南から）

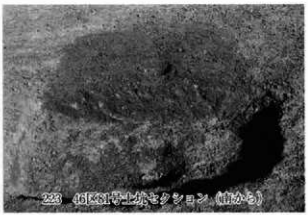
219　46区78号土坑セクション（南から）

220　46区78号土坑セクション（南から）

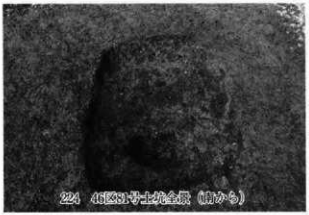
221　46区79号土坑セクション（南から）



222　46区79号土坑全景（南から）



223 46区81号土坑セクション（南から）



224 46区81号土坑全景（南から）

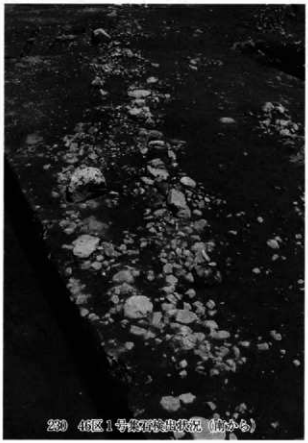
225 47区80号土坑セクション（東から）

226 47区80号土坑全景（東から）

227 48区1号土坑セクション（南から）

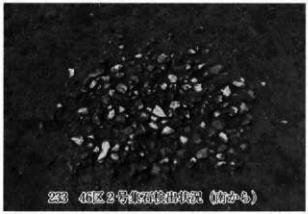
228 48区1号土坑全景（東から）

229 48区1号土坑全景（南から）

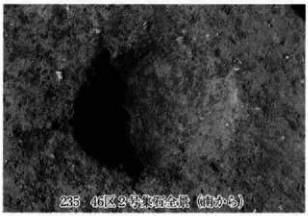

230　46区１号竪穴住居跡（南から）

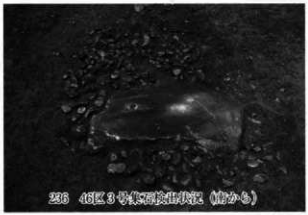
231　46区１号竪穴全景（北から）

232　46区１号竪穴セクション（南から）


233　46区２号竪穴住居跡（南から）

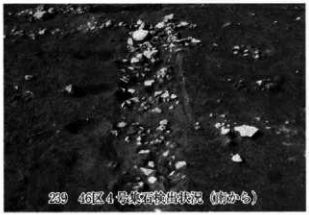
234　46区２号竪穴セクション（南から）


235　46区２号竪穴全景（南から）


236　46区3号墳周溝出現状況（南から）

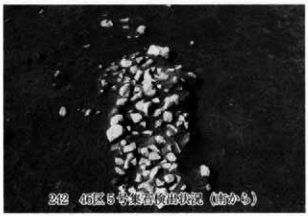
237　46区3号墳内セクション（西から）

238　46区3号墳全景（南から）

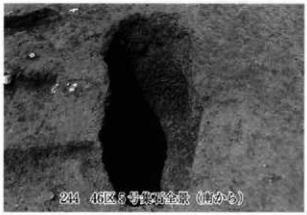

239　46区4号墳周溝出現状況（南から）

240　46区4号墳内セクション（南から）

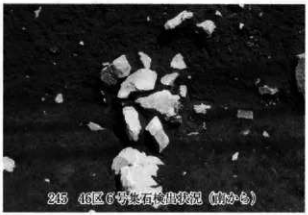
241　46区4号墳全景（南から）


242　46区5号墳周溝出現状況（南から）

243　46区5号墳内セクション（南から）

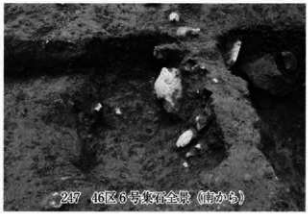


244　46区３号竪穴全景（南から）

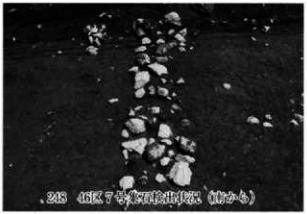


245　46区６号竪穴出土状況（南から）

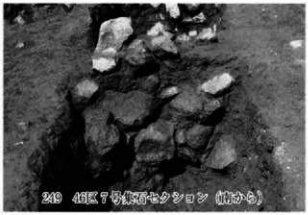
246　46区６号竪穴セクション（南から）



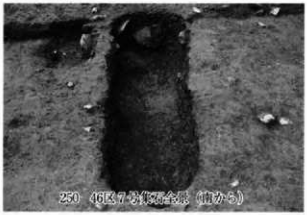
247　46区６号竪穴全景（南から）



248　46区７号竪穴遺物出土状況（南から）

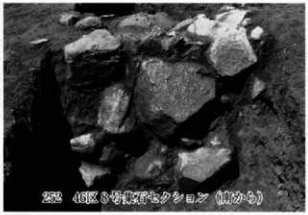


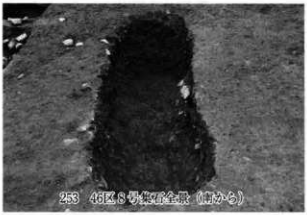
249　46区７号竪穴セクション（南から）

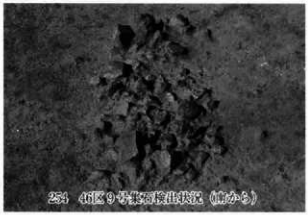


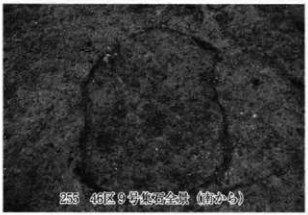
250　46区７号竪穴全景（南から）

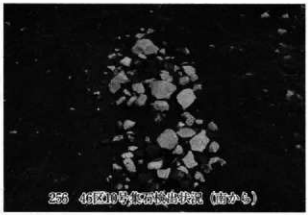
251　46区８号竪穴遺物出土状況（南から）

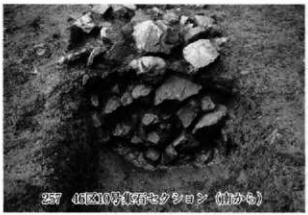

252 46区8号集石セクション（南から）


253 46区8号集石全景（南から）

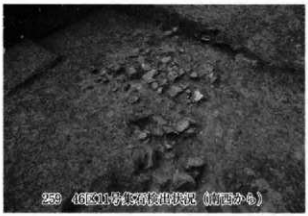

254 46区9号集石検出状況（南から）

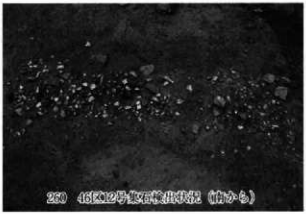

255 46区9号集石全景（南から）

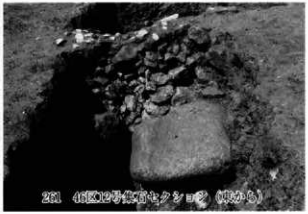

256 46区10号集石検出状況（南から）

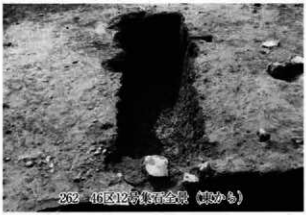

257 46区10号集石セクション（南から）

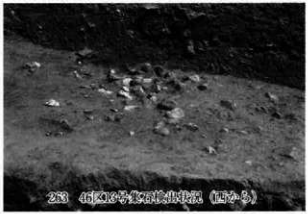
258 46区10号集石全景（南から）

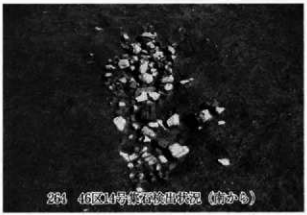

259 46区11号集石検出状況（南西から）


260 46KM12号家屋検出状況（南から）

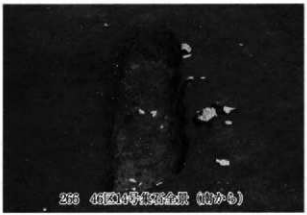

261 46KM12号家屋セクション（東から）

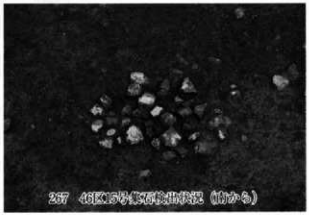

262 46KM12号家屋全景（東から）

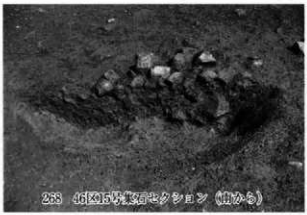

263 46KM16号家屋検出状況（西から）

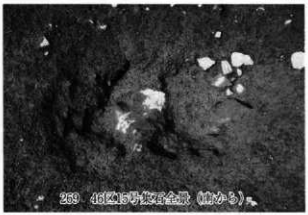

264 46KM14号家屋検出状況（南から）

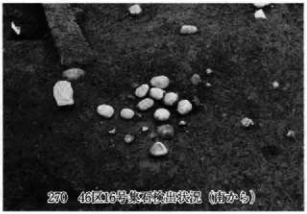
265 46KM14号家屋セクション（南から）

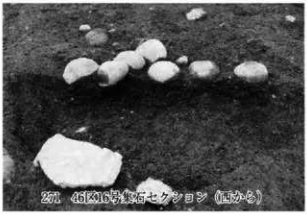

266 46KM14号家屋全景（南から）

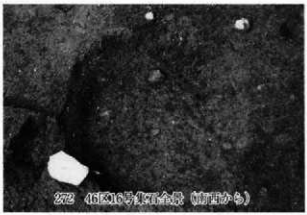

267 46KM15号家屋検出状況（南から）

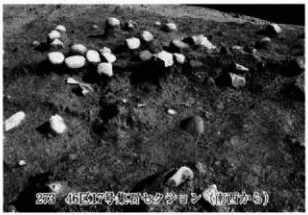

268 46区15号集石セクション（南から）

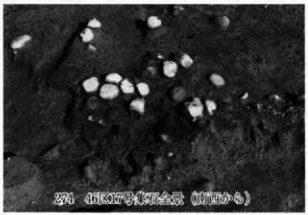

269 46区15号集石全景（南から）

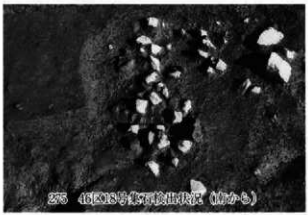

270 46区16号集石検出状況（南から）

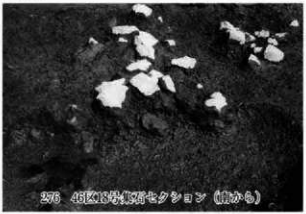

271 46区16号集石セクション（西から）


272 46区16号集石全景（南西から）

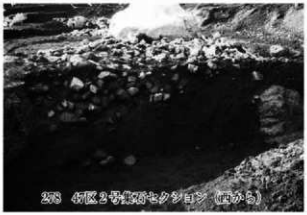

273 46区17号集石セクション（南西から）


274 46区17号集石全景（南西から）

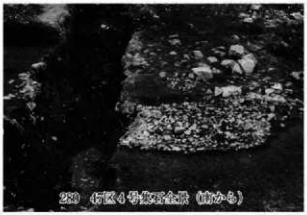

275 46区18号集石検出状況（南から）


276 46区13号集石セクション（南から）

277 47区2号集石検出状況（南から）


278 47区2号集石セクション（東から）

279 47区3号集石全景（南から）


280 47区4号集石全景（南から）

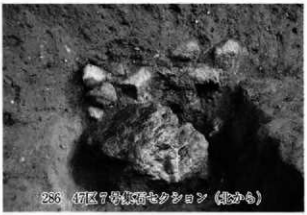
281 47区5号集石全景（南から）

282 47区5号集石セクション（西から）

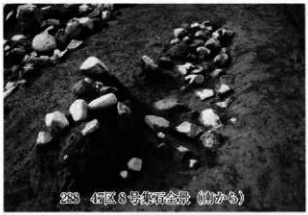
283 47区6号集石全景（南から）

284　47区6号集石セクション（西から）

285　47区7号集石検出状況（南から）

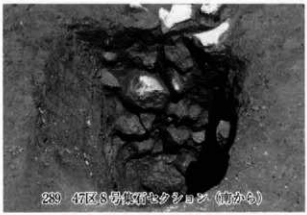


286　47区7号集石セクション（北から）

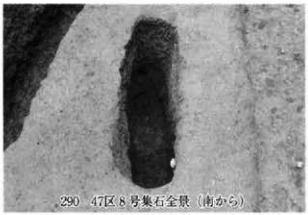


288　47区8号集石全景（南から）

287　47区7号集石全景（南から）



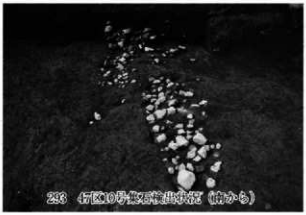
289　47区8号集石セクション（南から）

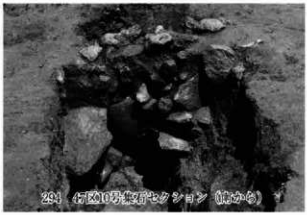


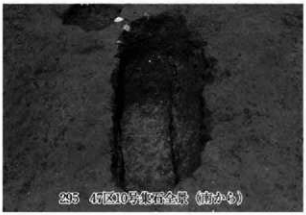
290　47区8号集石全景（南から）

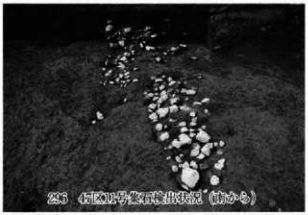
291 4号区9号竪穴掘出状況（南から）

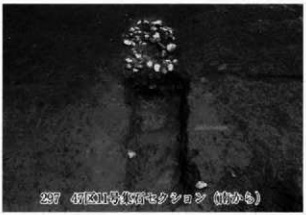
292 4号区9号竪穴セクション（南から）

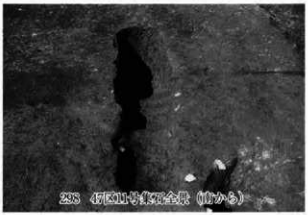

293 4号区10号竪穴掘出状況（南から）

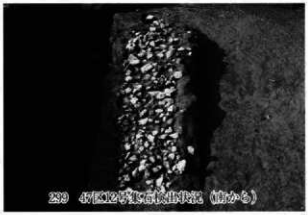

294 4号区10号竪穴セクション（南から）


295 4号区10号竪穴全景（南から）


296 4号区11号竪穴掘出状況（南から）


297 4号区11号竪穴セクション（南から）

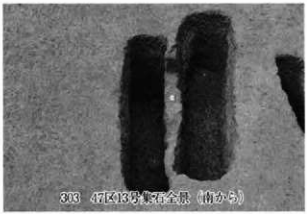

298 4号区11号竪穴全景（南から）


299 47区12号集石検出状況（南から）

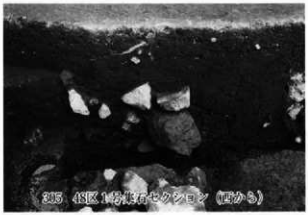
300 47区12号集石セクション（南から）

301 47区12号集石全景（南から）

302 47区13号集石セクション（南から）

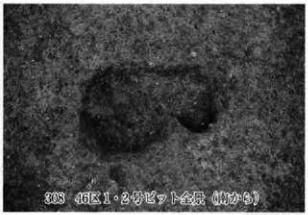

303 47区13号集石全景（南から）

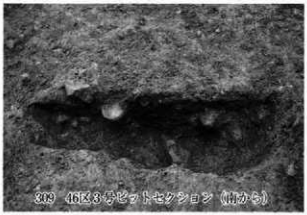
304 48区1号集石検出状況（北から）

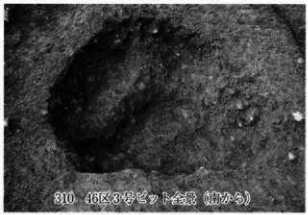

305 48区1号集石セクション（西から）

306 48区2号集石セクション（西から）

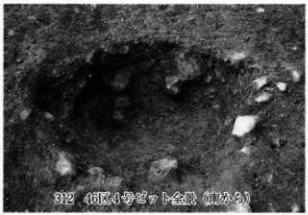
307 46区1・2号ピットセクション（南から）


308 46区1・2号ピット全景（南から）

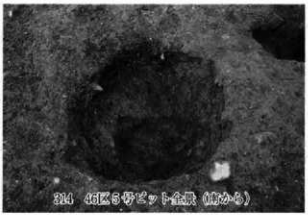

309 46区3号ピットセクション（南から）


310 46区3号ピット全景（南から）

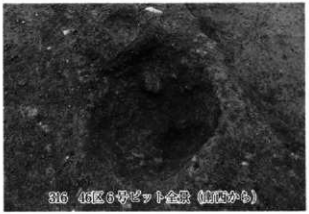
311 46区4号ピットセクション（南から）

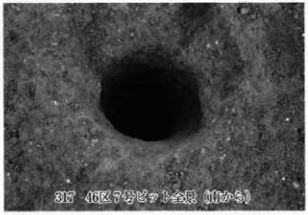

312 46区4号ピット全景（南から）

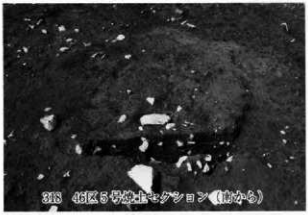
313 46区5号ピットセクション（南から）


314 46区5号ピット全景（南から）

315 46区6号ピットセクション（南西から）

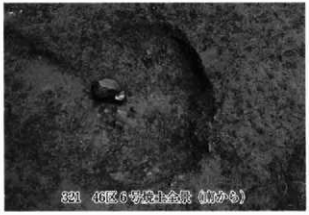

316 46区6号ピット全景（南西から）

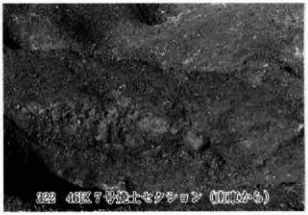

317 46区7号ピット全景（南から）


318 46区5号焼土セクション（南から）

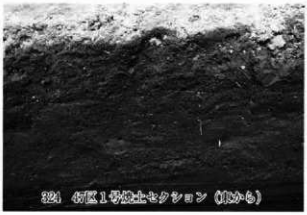
319 46区5号焼土全景（南から）

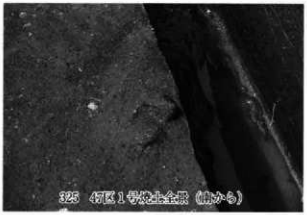
320 46区6号焼土（南から）

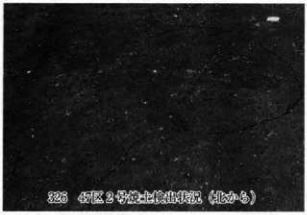

321 46区6号焼土全景（南から）

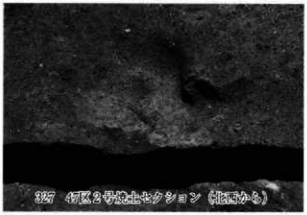

322 46区7号焼土セクション（南東から）

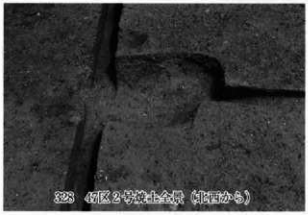
323 46区7号検土全景（南東から）


324 47区1号検土セクション（北から）

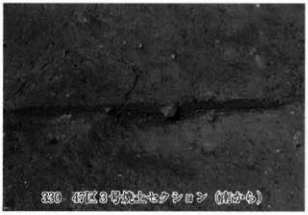

325 47区1号検土全景（南から）

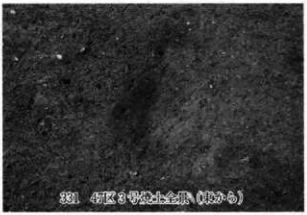

326 47区2号検土検出状況（北から）

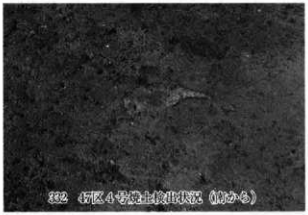

327 47区2号検土セクション（北西から）

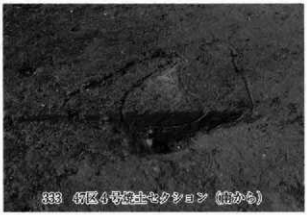

328 47区2号検土全景（北西から）

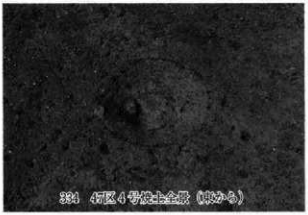
329 47区3号検土検出状況（南から）


330 47区3号検土セクション（南から）


331　47区3号竪穴全景（東から）

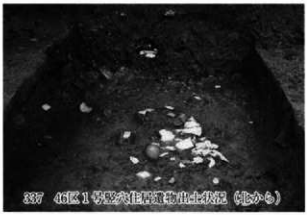

332　47区4号竪穴検出状況（南から）

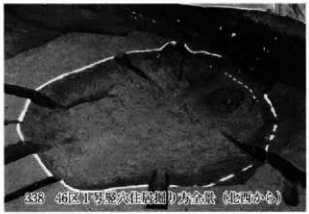

333　47区4号竪穴セクション（南から）


334　47区4号竪穴全景（東から）

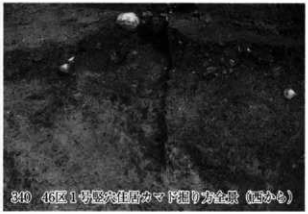
335　46区1号竪穴住居セクション（西から）

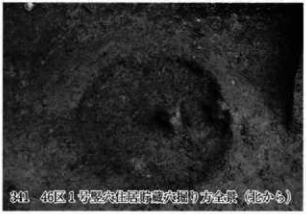
336　46区1号竪穴住居全景（北西から）


337　46区1号竪穴住居遺物出土状況（北から）

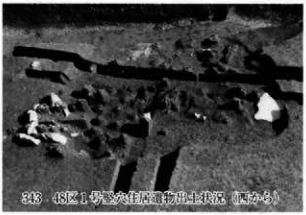

338　46区1号竪穴住居掘り方全景（北西から）

339　46K 1 号竪穴住居カマド全景（北西から）


340　46K 1 号竪穴住居カマド掘り方全景（北から）


341　46K 1 号竪穴住居貯蔵穴掘り方全景（北から）

342　48K 1 号竪穴住居セクション（南から）


343　48K 1 号竪穴住居遺物出土状況（西から）

344　48K 1 号竪穴住居全景（南から）

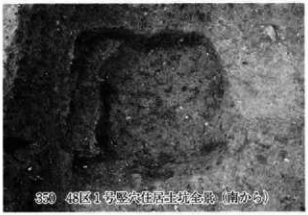
345　48K 1 号竪穴住居掘り方全景（南から）

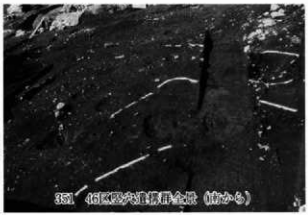
346　48K 1 号竪穴住居カマド全景（南から）

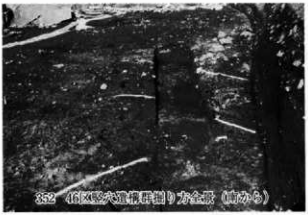
347　48区1号竪穴住居カマド全景（南から）

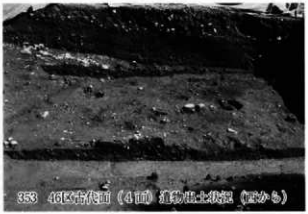
348　48区1号竪穴住居カマド掘りかた全景（南から）

349　48区1号竪穴住居土坑セクション（南から）


350　48区1号竪穴住居土坑全景（南から）


351　46区竪穴遺構群全景（南から）


352　46区竪穴遺構群掘りかた全景（南から）

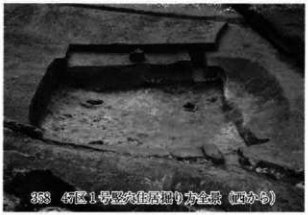

353　46区古代面（4面）遺物出土状況（東から）

354　46区古代面（4面）遺物出土状況（南から）

355 47区1号竪穴住居セクション（南から）

356 47区1号竪穴住居セクション（南から）

357 47区1号竪穴住居全景（西から）


358 47区1号竪穴住居掘り方全景（西から）

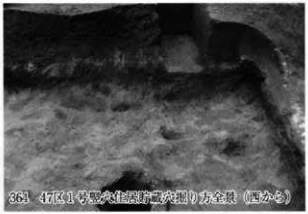
359 47区1号竪穴住居カマド全景（西から）

360 47区1号竪穴住居カマド遺物出土状況（西から）

361 47区1号竪穴住居カマド掘り方セクション（西から）

362 47区1号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状況（西から）

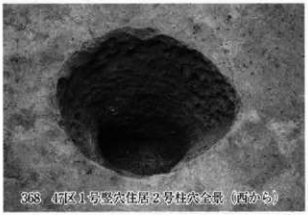
363　47区1号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状況（西から）


364　47区1号竪穴住居貯蔵穴掘り方全景（西から）

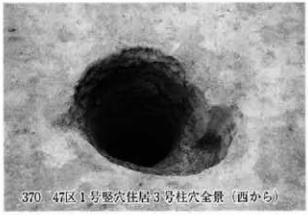
365　47区1号竪穴住居遺物出土状況（南東から）

366　47区1号竪穴住居1号柱穴セクション（西から）

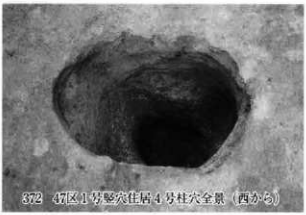
367　47区1号竪穴住居2号柱穴セクション（西から）


368　47区1号竪穴住居2号柱穴全景（南から）

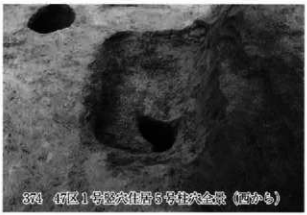
369　47区1号竪穴住居3号柱穴セクション（西から）

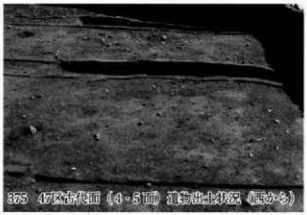

370　47区1号竪穴住居3号柱穴全景（西から）

371 47区1号竪穴住居4号柱穴セクション（西から）

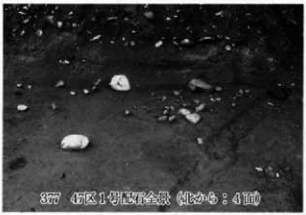

372 47区1号竪穴住居4号柱穴全景（西から）

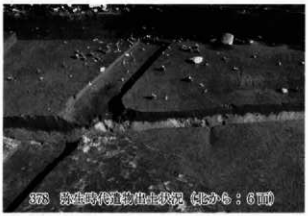
373 47区1号竪穴住居6号柱穴セクション（西から）


374 47区1号竪穴住居5号柱穴全景（西から）


375 47区古代面（4・5面）遺物出土状況（西から）

376 47区古代面（4・5面）遺物出土状況（東から）


377 47区4号溝全景（北から：4面）


378 弥生時代遺物出土状況（北から：6面）

379　天明泥流下辺調査風景（西から：S5-1号井戸近辺）

380　天明泥流下辺調査風景（西から：S5-1号井戸列西面）

381　中世人骨検証風景（鎌倉民による取り上げ写真撮作業）

382　中近世面調査風景（南東から：48区北側）

383　平安時代竪穴住居調査風景（南東から：48区1号）

384　古墳面（4・5面）調査風景（北東から：46区南側）

385　古墳時代竪穴住居調査風景（南東から：47区4号）

386　重機による厚板戻し作業風景（西から：46・47区）

1

2

3

4

5

6

7

8

9

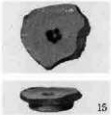
10

11

12

13

14


15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

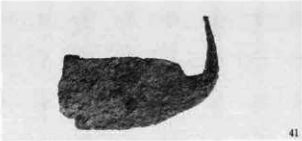
36

37

38

39

40


41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

P L .56

62

63

64

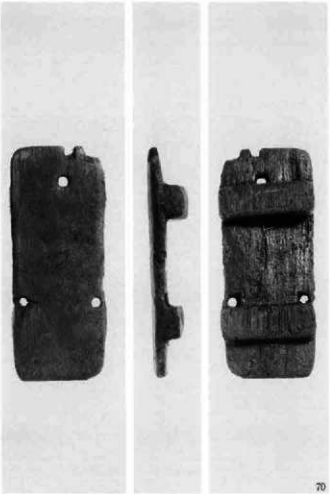
65

66

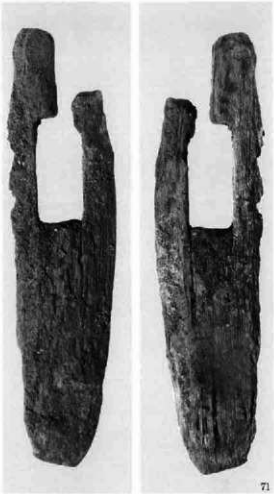
67

68

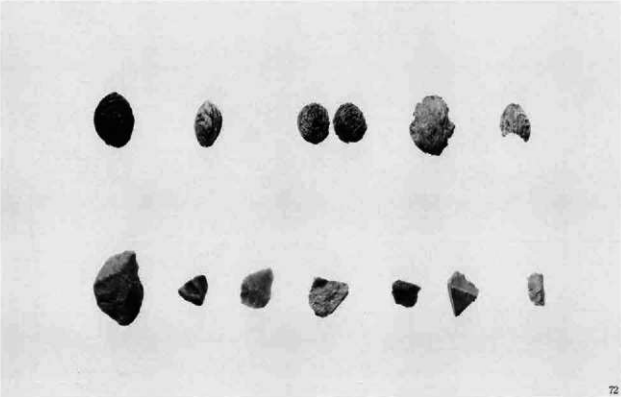
69



70



71



72

1

2

3

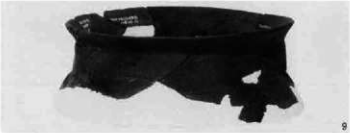
4

5

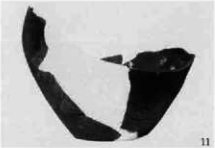
6

7

8

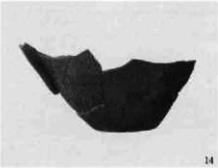

9

10


11

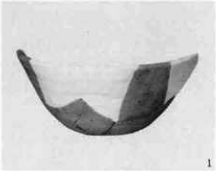
12

13


14

15

16


1

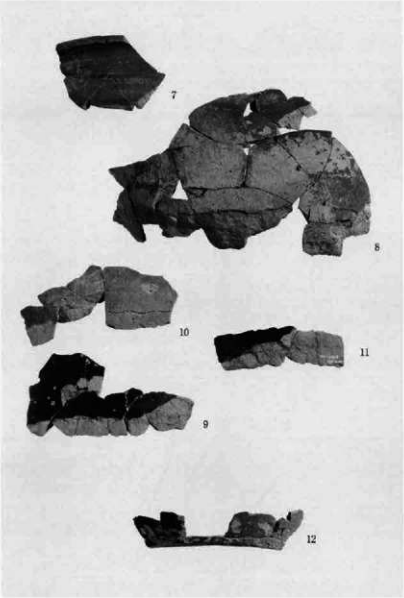
2

3

4

6

5


7

8

10

11

9

12

1

2

3

4

5

6

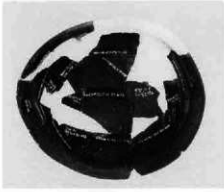
7

8

9

10

11


12

13

14

17

15

16

18

20

19

21

22

23

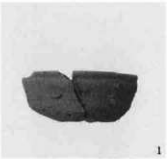
24

25

26

27~30

31


1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

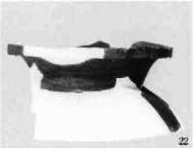
17

18

19

20

21


22

23

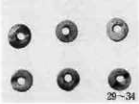
24

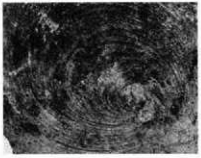
25

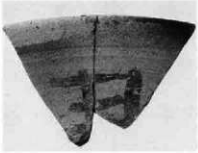
26

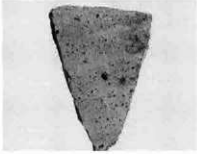
27

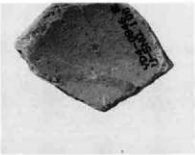
28


29~34









墨書・刻書土器

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

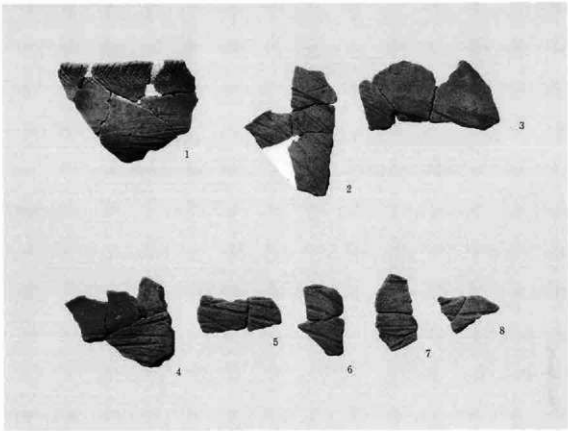
28

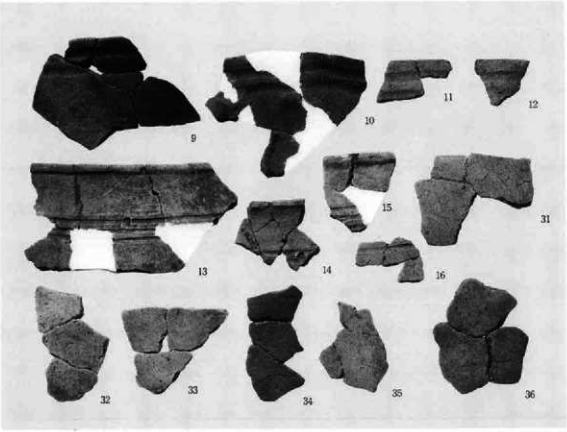
29

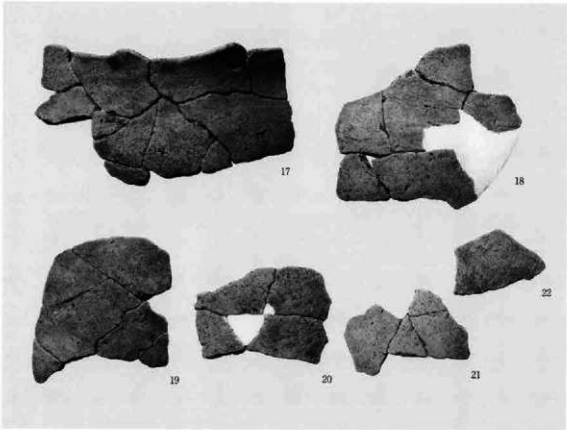
30

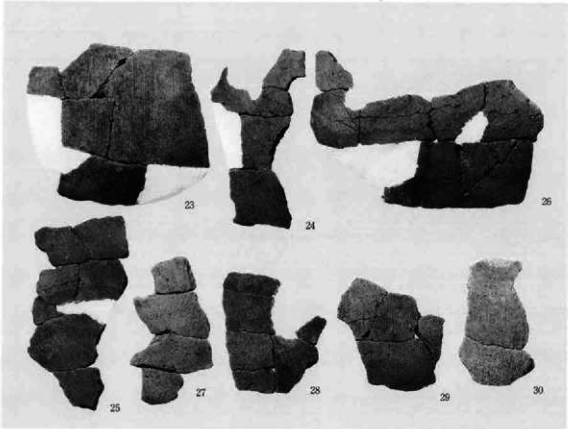
32

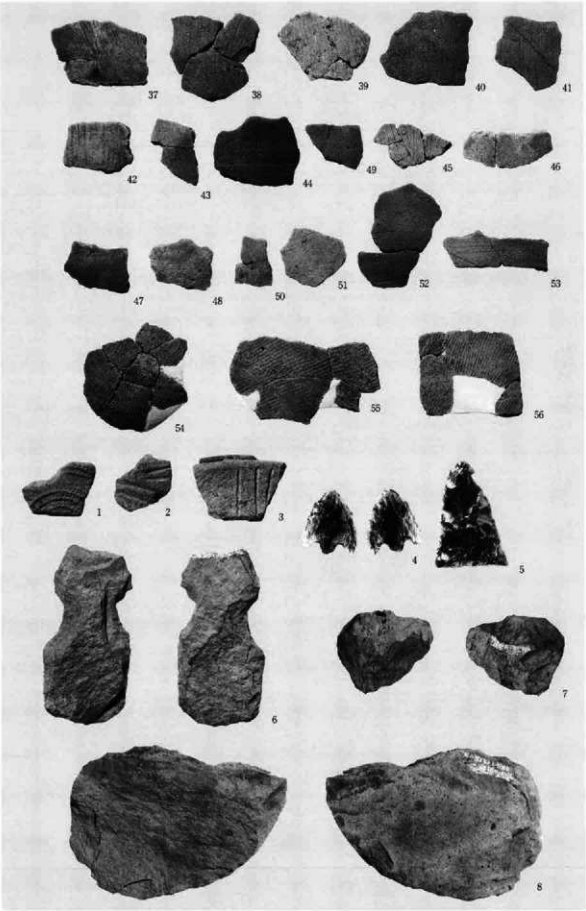
31


1
2
3
4
5
6
7
8


9
10
11
12
13
14
15
16
31
32
33
34
35
36


17
18
19
20
21
22


23
24
26
25
27
28
29
30


37
38
39
40
41
42
43
44
49
45
46
47
48
50
51
52
53
54
55
56
1
2
3
4
5
6
7
8

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告書第389集

下原遺跡Ⅱ

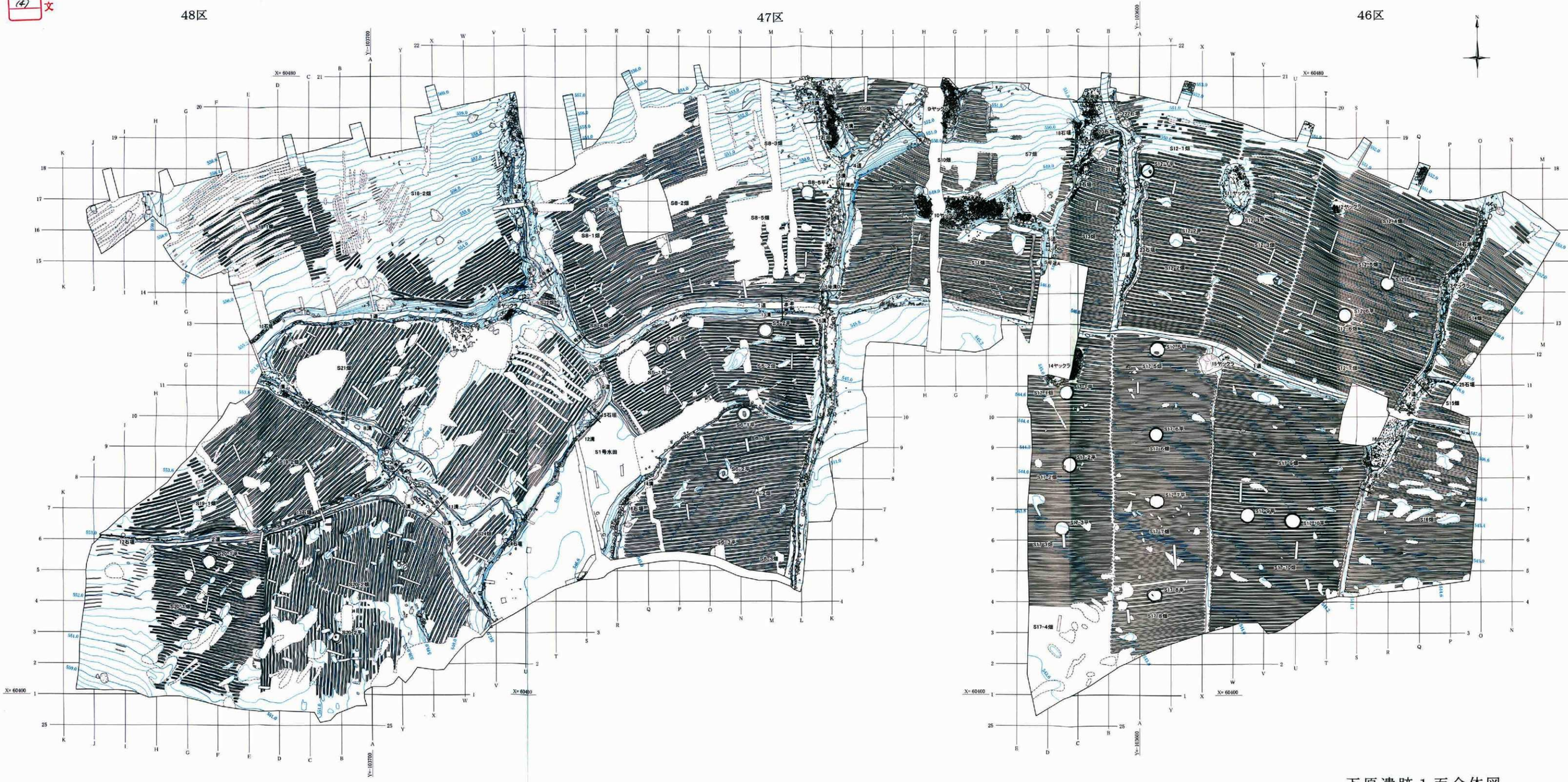
八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第12集

平成19年3月12日　印刷
平成19年3月16日　発行

発行／編集　財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511（代表）
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／上武印刷株式会社

01-380
12
(4)
群埋文

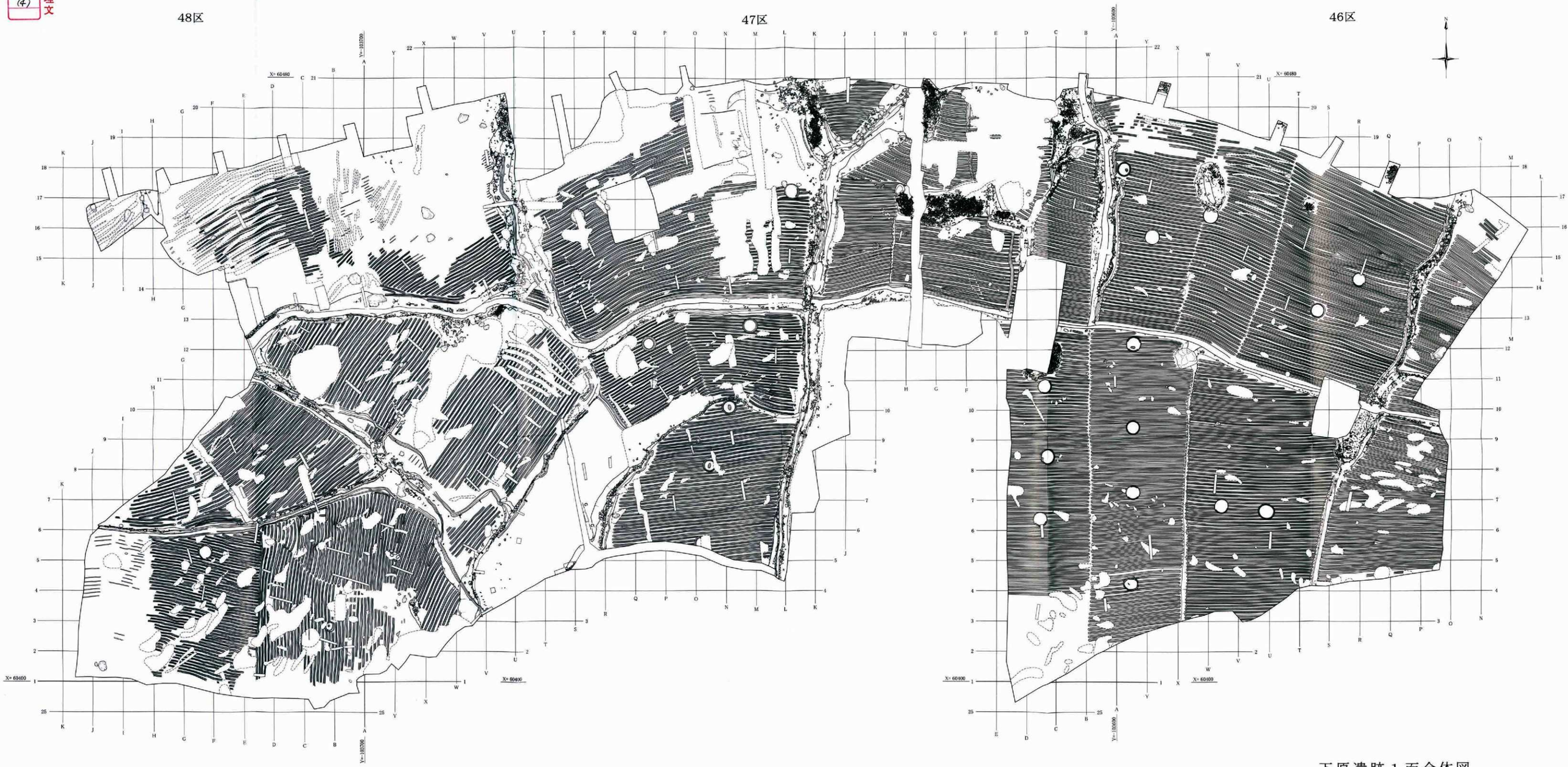


下原遺跡１面全体図

0　1:250　20m

第８図―①　天明三年（1783）検出遺構全体図（１面）［付図］

01-380
12
(4)
群埋文

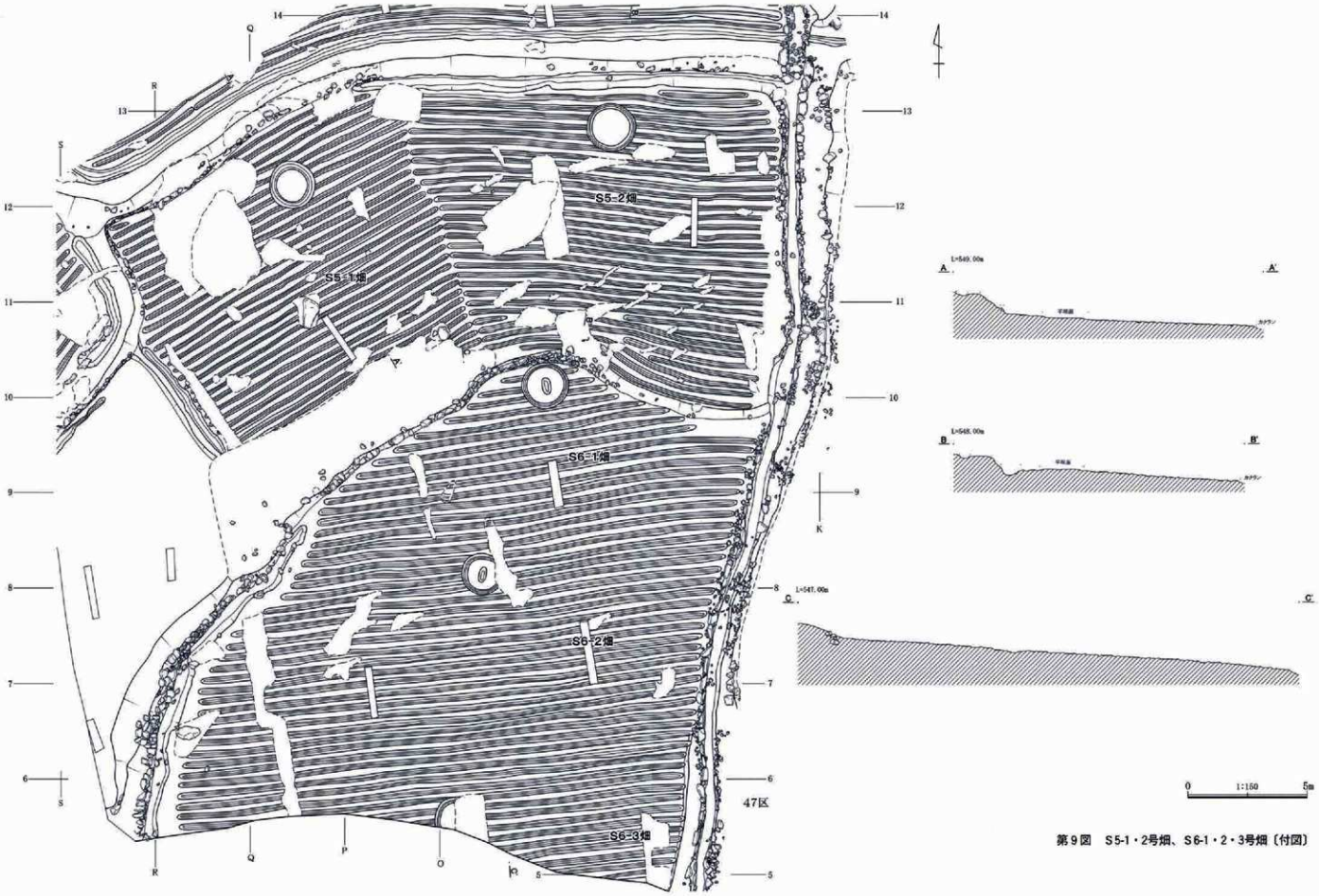


下原遺跡１面全体図

0　1:250　20m

第８図―②　天明三年（1783）検出遺構全体図（１面）（付図）

01-380
12
(4)
群埋文

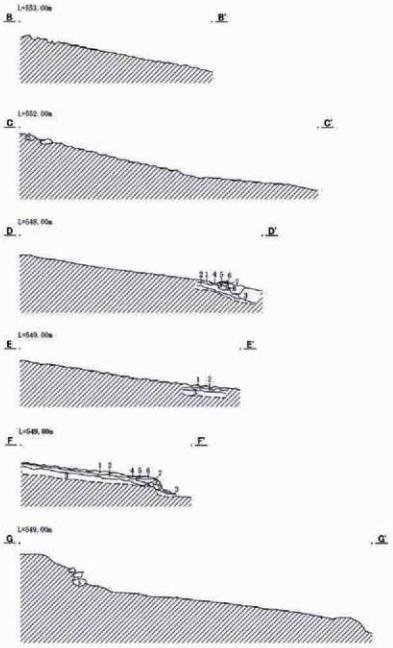


第9図　S5-1・2号畑、S6-1・2・3号畑（付図）

01-380
12
(4)
群
埋
文

S11号畑　D－D'　E－E'　F－F'

1　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径2mm礫、軽石、径2cm亜角礫含む。耕作土。
2　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径3cm礫含む、。鉄分沈着。径2mm砂、径2mm軽石含む。
3　暗褐色土(Hue7.5YR3/4)　径1～5cm亜角礫多く含む。径1mm砂含む。
4　黒褐色土(Hue10YR2/2)　畝堀設土。
5　黒褐色土(Hue10YR2/2)　しまる。径2cm礫含む。道硬化面。
6　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径5mm～2cm礫含む。
7　黒褐色土(Hue10YR3/2)　径2～10cm亜角礫多く含む。径2mm砂多く含む。しまりなし。
8　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径15cm亜角礫10%含む。しまる。



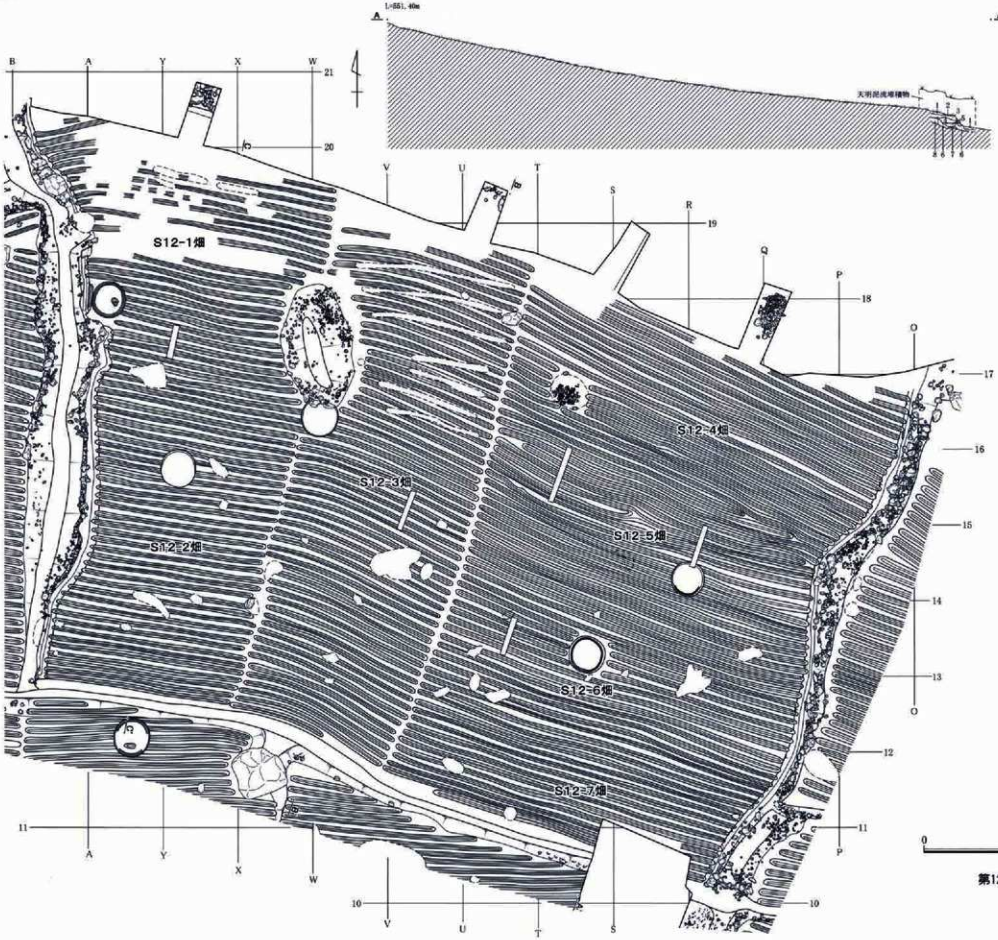
0　1:170　5m

第10図　S7号畑、S9号畑S10号畑、S11号畑、S13号畑（付図）

埋文
(4)

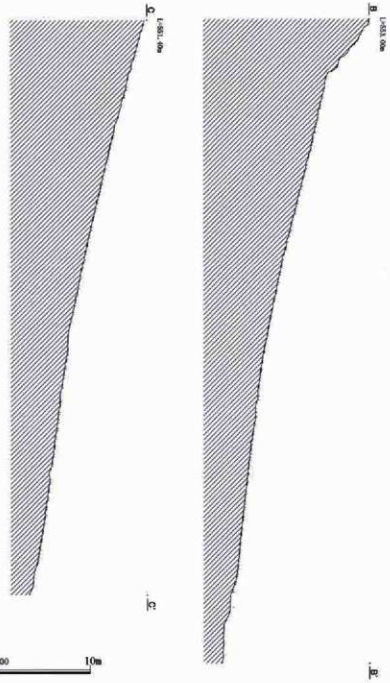
第11図　S8-1・2・3・4・5号畑〔付図〕

01-380
12
(4)
群埋文



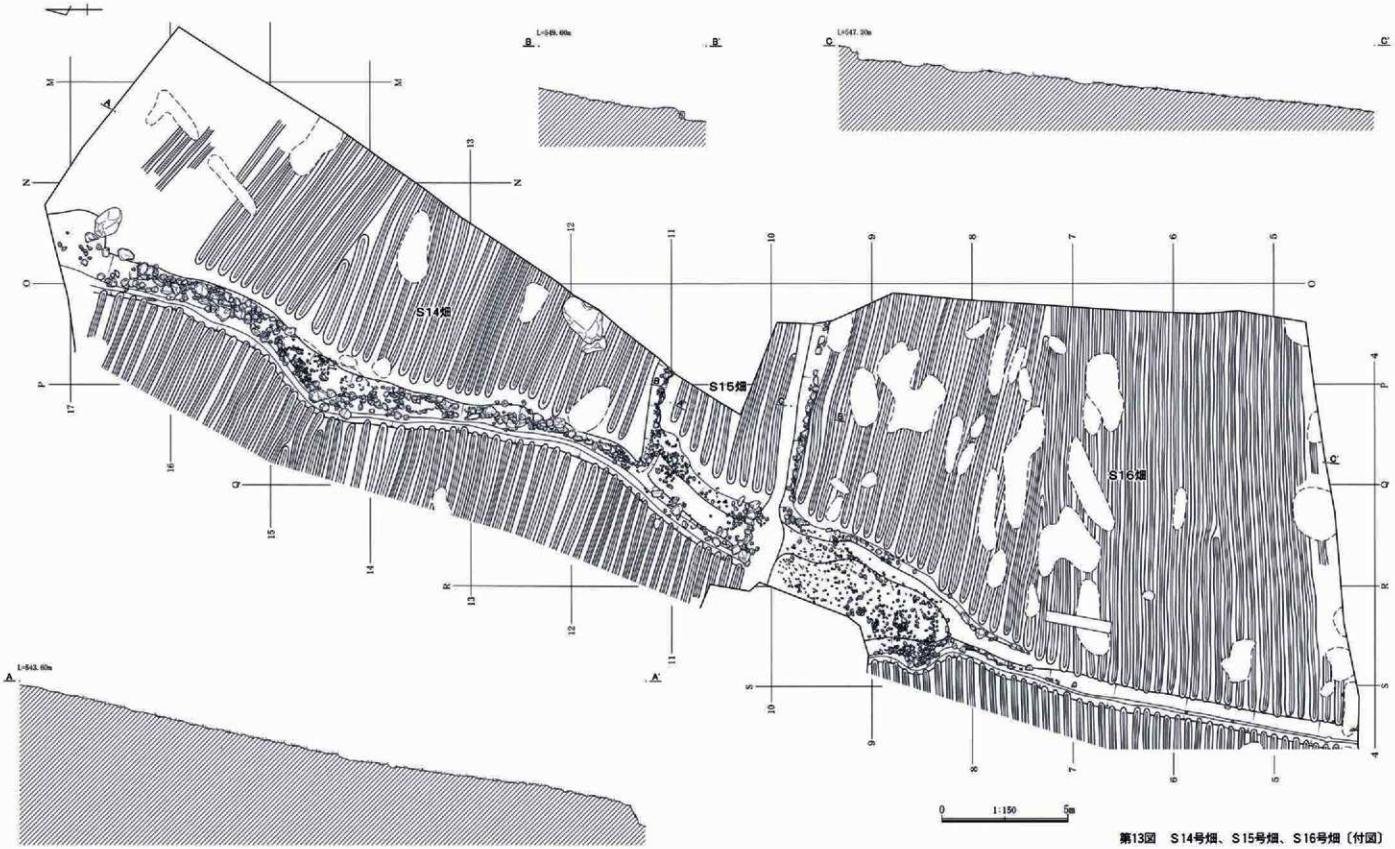
S12号畑　A－A'

1　黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質。砂と径1cm礫3％含む。天明耕作土。
2　黒褐色土(Hue10YR2/3)　しまる。径1cm礫3％含む。
3　黒褐色土(Hue10YR2/3)　礫径3cm3％。砂まじり。しまりなし。
4　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径3cm礫主体。集石。しまりなく空隙あり。
5　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径20cm亜角礫主体。間を土がうめる。しまりなし。
6　黒褐色土(Hue10YR2/3)　径1cm礫3％含む。しまりなし。3層に似る。畑造成の土か？
7　黒褐色土(Hue10YR2/3)　黄褐色砂多く含む。山崩れ層か。
8　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径2cm礫2％。



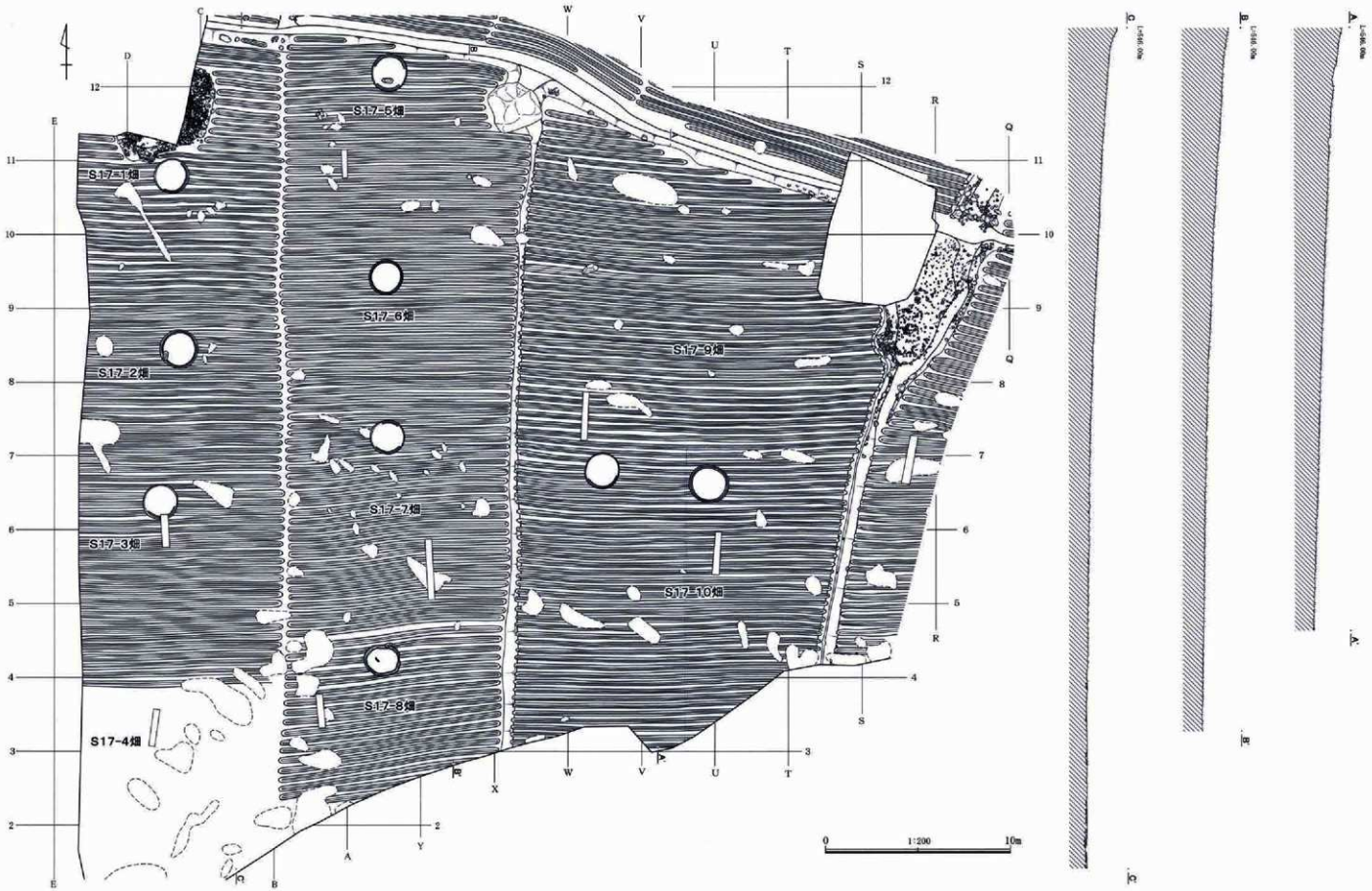
第12図　S12-1・2・3・4・5・6・7号畑〔付図〕

01-380
12
(4)
群埋文



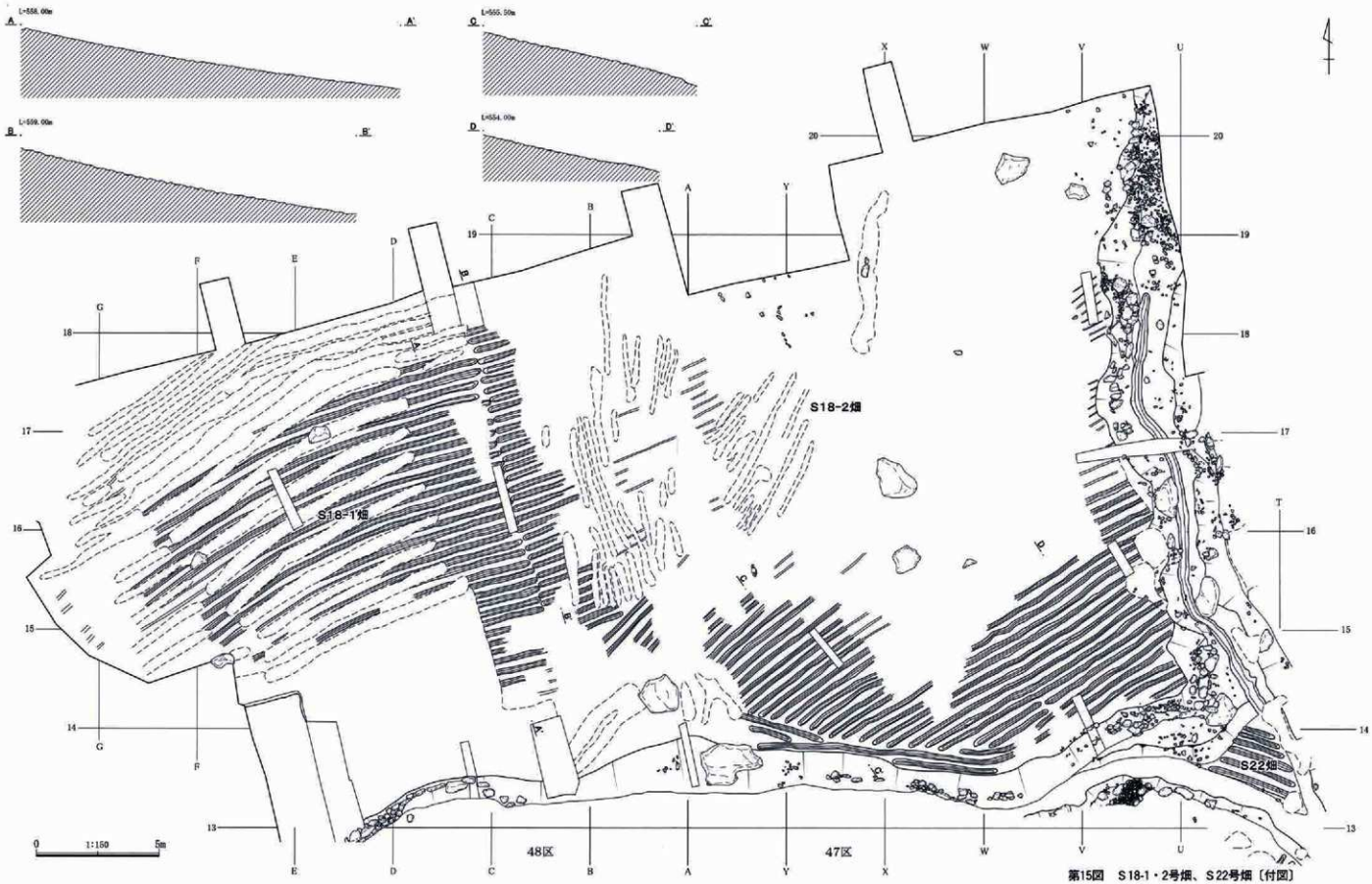
第13図　S14号畑、S15号畑、S16号畑（付図）

01-380
12
(4)
群埋文



第14図　S17-1・2・3・4・5・6・7・8・9・10号畑（付図）

01-380
12
(4)
群埋文



第15図　S18-1・2号畑、S22号畑〔付図〕

01-380
12
(4)
群埋文

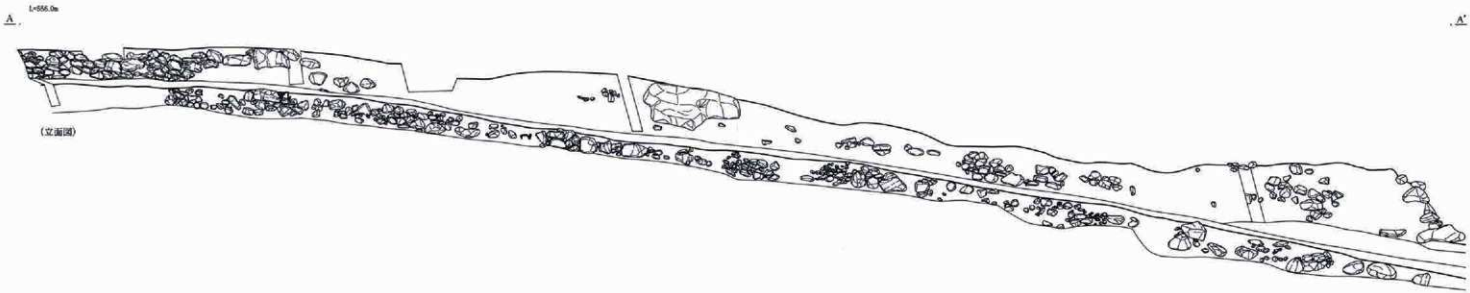
第16図　S19-1・2号畑、S20-1・2号畑〔付図〕

01-380
12
(4)
群埋文

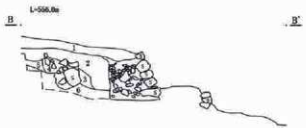
第17図　S21号畑、S23号畑、S24号畑（付図）

01-380
12
(4)
群埋文

(平面図)



(立面図)



11号石垣B－B'

1　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径2～5cm亜角礫1％含む。径2mm白色土粒、径5mm黄褐色土粒2％含む。炭化物粒径1cm1％含む。しまりなし。

2　黒褐色土(Hue10YR2/2)　径10cm亜角礫1％含む。径5mm黄褐色土粒1％含む。

3　黒褐色土(Hue10YR3/2)　砂礫土。径5cm礫3％含む。砂は粒子径2mmほどのあら砂。しまりなし。

4　黒色土(Hue10YR2/1)　集石。径15～35cm礫含む。白色土粒径2mm、黄褐色土粒径5mm3％含む。黄褐色(Hue10YR5/8)砂径2mm部分的に含む。

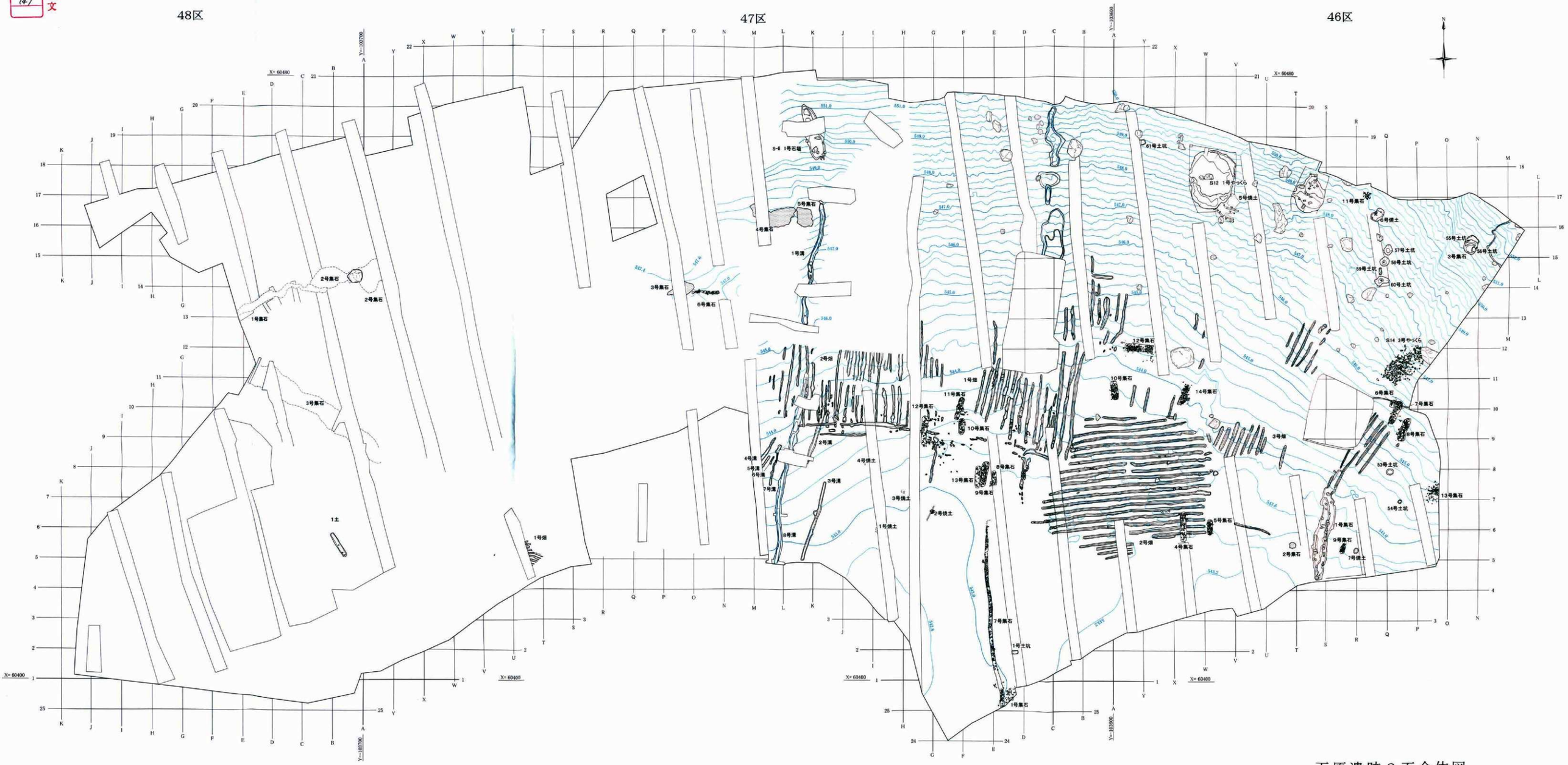
5　黒色土(Hue10YR2/1)　黄褐色土粒径7mm、白色土粒径2mm。径2cm礫を各々5％含む。

6　黒褐色土(Hue10YR3/1)　比較的灰色味強い。砂礫層。砂は径2mm、礫は径2cm～5cm10％含む。

0　1:100　2.5m

第29図　11号石垣〔付図〕

01-38-0
12
(4)
群埋文

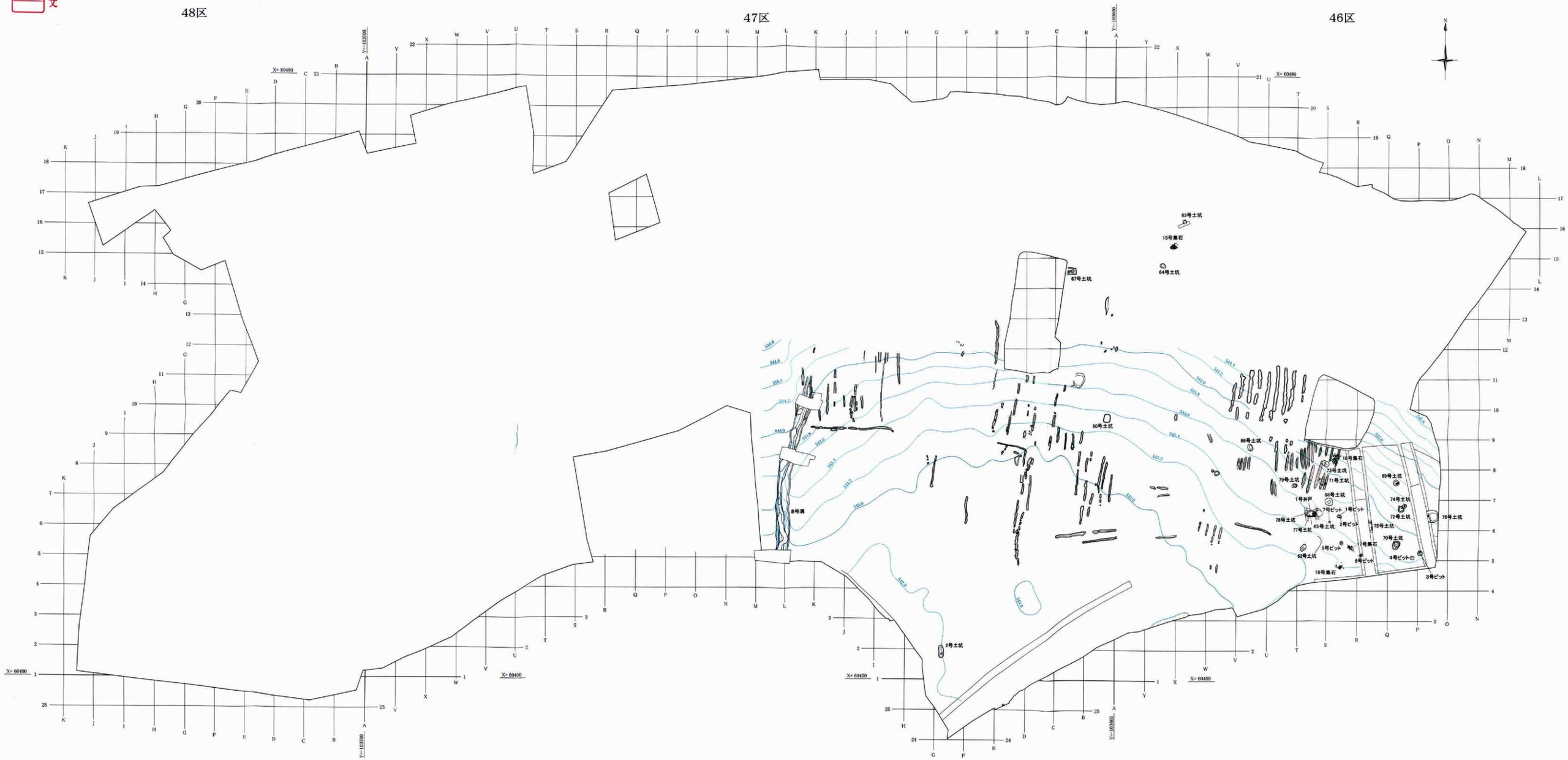


下原遺跡２面全体図

0　1:250　20m

第51図　中近世全体図（２面）〔付図〕

01-380
12
(4)
群埋文

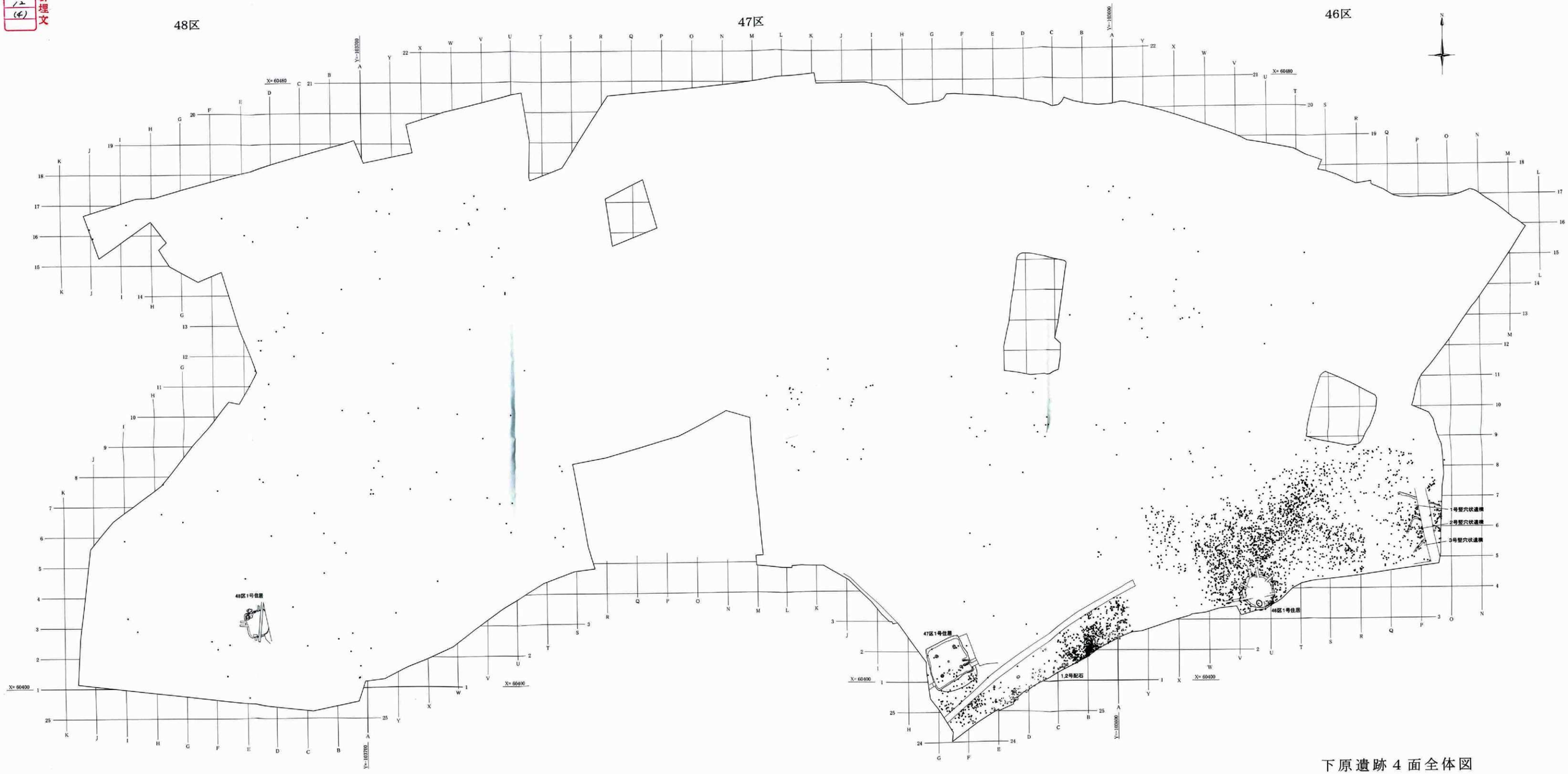


下原遺跡３面全体図

0 1:250 20m

第52図 中世全体図（３面）（付図）

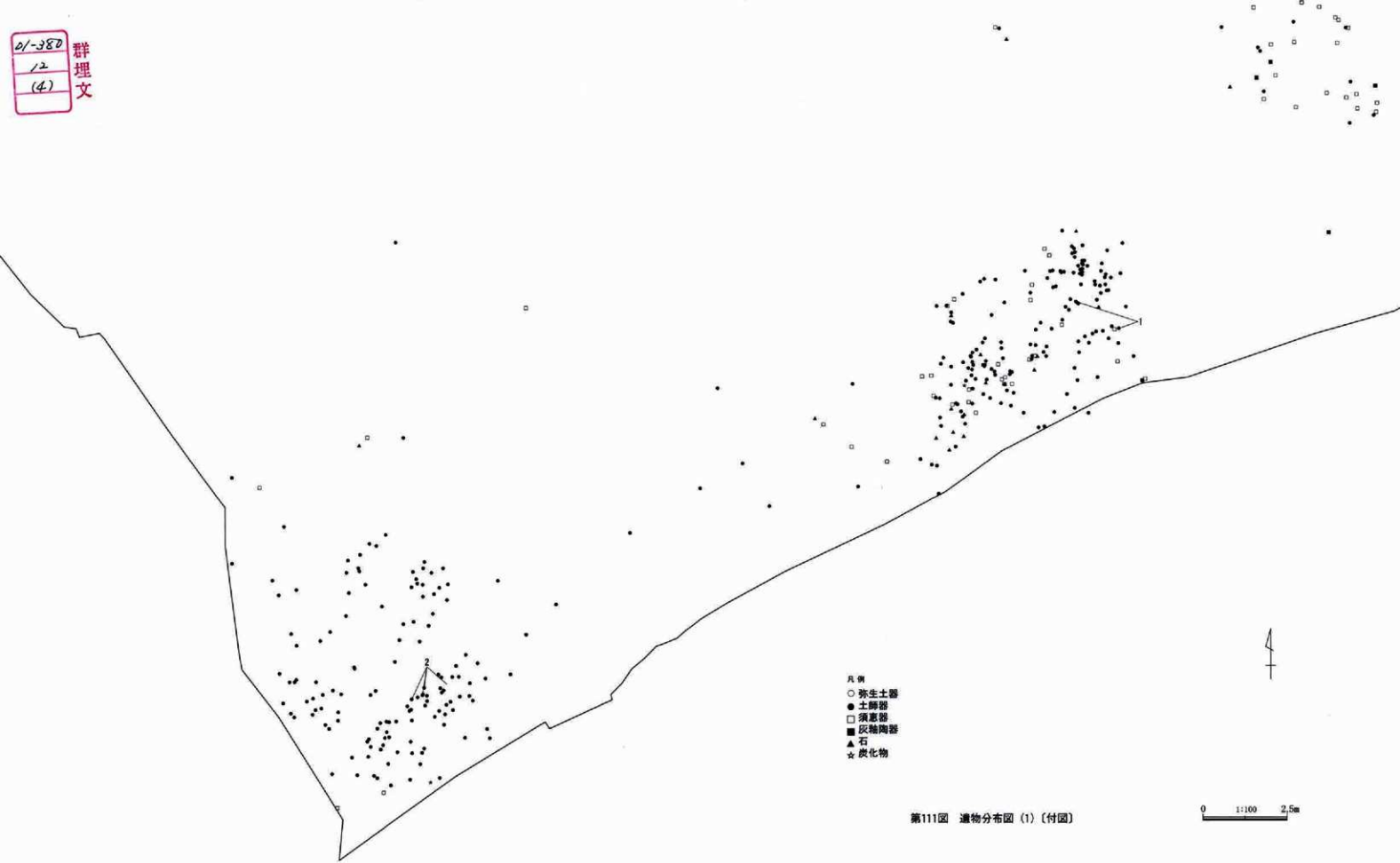
01-380
12
(4)
群埋文



下原遺跡４面全体図

第100図　平安・古墳・弥生時代遺構全体図（４面）〔付図〕

01-380
12
(4)
群埋文



第111図　遺物分布図（1）〔付図〕

01-380
12
(4)
群埋文

第112図　遺物分布図（2）〔付図〕